

ルーテルとなりびと
東日本大震災ルーテル教会救援
Japan Lutheran Emergency Relief (JLER)

2014年４月11日発行
〒162-0842　東京都新宿区市谷砂土原町１-１　日本福音ルーテル教会内
Tel: 03-3260-8631　Fax: 03-3260-8641　URL: http://jler.jp

東日本大震災ルーテル教会救援活動記録

JLERルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief







東日本大震災ルーテル教会救援

活動記録





JLERルーテル教会救援

日本福音ルーテル教会・日本ルーテル教団
近畿福音ルーテル教会・西日本福音ルーテル教会

【目　次】

東日本大震災三周年記念礼拝 …… 2
東日本大震災の概要 …… 3
活動方針（ミッション・ステートメント）・活動期間・組織図 …… 4
活動予算（会計報告） …… 5
活動マップ …… 6

第１章　活動記録編

活動年表 …… 7
活動期別（時系列）
　初期 …… 13
　緊急支援期 …… 16
　復旧・復興期 …… 22
　支援終結期 …… 35
活動分野別（プロジェクト別）
　支援活動
　　物資・資金支援 …… 39
　　ボランティア派遣 …… 41
　　仮設支援 …… 45
　　地域支援 …… 53
　　支援者支援 …… 59
　　生業支援 …… 61
　　コミュニティセンター再建支援 …… 63
　教育活動
　　防災・減災教育 …… 65
　報告活動
　　報告・記録・記憶 …… 69

メッセージ …… 71
南海トラフ巨大地震対策 …… 75

第２章　データ編

ニュースレター …… 81
「るうてる」特集 …… 97
「るうてる」現地からのレポート …… 105
現地活動月次報告 …… 115
主な支援内容一覧 …… 173
報道記録 …… 181

ライアーの音響く

英国演奏家　市民に安らぎ　石巻



ライアーの美しい音色を響かせたコンサート＝石巻市毅町会館

心の安らぐ場を―。弦楽器ライアーを携えて世界各国で演奏活動するジョン・ビリングさんのコンサートが7日、石巻市毅町会館であった。

ライアーは、たて琴の一種で古代ギリシャ時代から存在したとされる楽器。西欧を中心に普及。英国出身のビリングさんは作曲家としても活躍し、音楽療法にも携わる。

ビリングさんは東日本大震災を契機にライアー演奏家に呼び掛けて完成させたオリジナル曲、アイルランドの伝統曲などを巧みに弾き、伸びやかで流れるようなメロディーで聴衆を魅了した。

コンサートには、声楽家の林百香さんも出演した。

「石巻を拠点に活動するスワン国際救助犬の会（千葉県美代表）」が「女性を元気にするプロジェクト」の一環で開催。物資提供に当たる「ルーテル協会救援」が支援した。

石巻かほく2011年 8 月12日

集



ボランティア団体「ルーテル協会救援」（東京）が、石巻市河北地区の仮設住宅にある集会所で開いたお茶会。最初はぎこちなかった住民たちも、一緒に体操したり民謡を歌ったりするうちに、和やかな雰囲気になった。「今日は休まるね」「この前、温泉に行ってきたの」。いつの間にか会話が弾む。ボランティアの活動が被災者たちを結び付ける。

河北新報2012年 3 月11日

犠牲者に千羽鶴

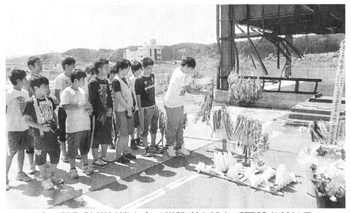
千葉県の中高生ら　南三陸と石巻訪問

千葉市若葉区の「旭ケ丘母子ホーム」の中学、高校生ら8人が24日、東日本大震災の津波で多くの犠牲者を出した南三陸町防災対策庁舎と石巻市立大川小学校を訪れ、千羽鶴を献じた。

ホームでボランティア活動を重ねている同ホーム職員の石井沙絵さん（29）が、町に住んでいた祖母を津波で亡くした。「震災の爪痕から何かを感じ取ってもらいたい」と被災地ツアーを企画した。「ルーテル支援センター」とともに協力。中高生らは同センターの野口勝彦牧師の案内で、壊滅した志津川地区や大川小校舎を巡った。

その後、大川小に近い石巻市間垣（旧河北町）にあった自宅で津波に遭った元中学校長、狩野金雄さん（83）から、同地区住民12人のうち78人が犠牲になり、家族6人を亡くした女性もいた、などの津波体験を、中高生は身じろぎもせずに聞いていた。

中学3年生、菅恒司君（14）は「手応えありすぎの旅だった。どう生きるかを考える糧にしたい」と話していた。【小原博人】



南三陸町防災対策庁舎で犠牲者を悼む千羽鶴を献じる「旭ケ丘母子ホーム」の中高校生ら＝南三陸町で

毎日新聞2013年 8 月25日

ルーテル教会救援
東日本大震災三周年記念礼拝

日時：2014 年 3 月 11 日（火）・午後 14 時 46 分～
会 場：日本福音ルーテル仙台教会
司式：藤井邦昭牧師　説教： 青田 勇牧師

1．黙祷

2．初めの歌　　教会讃美歌　172番

3．み名による祝福

4．キリエ（主よ）

5．特別の祈り

天の父よ。2011年３月11日の東日本大震災によって東北地方を中心に未曾有の被害がもたらされ、多大な犠牲者が出ました。また福島の原発事故による放射線被害により、多数の人々が不自由な避難生活を強いられ、今も尚帰還できずに苦しんでいます。どうぞ震災による遺族の方々の上に深い慰めと癒しをお与えください。また避難している人々の上に恵みと平安をお与えください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン

6．聖書の朗読　　マタイによる福音書　５：１～６

7．説教（要約）　「幸いなる人」

今度の震災で、多くの人が突然の災難と苦しみに襲われました。それは私たちの思いを超えた辛い苦しみの生活がその方々に強いられたものであります。

私たちにとって誰もが願うことは幸福です。しかし、生きている限り、私たちは望んでもいないのに、多くの苦しみと苦難に直面します。人生の長さに関係なく、この世に生きている限り、どこかで、何かによって貧しくなったり、苦難の中に陥ったり、人に言えない悲しみの日々を送ることもあります。

マタイ福音書５章１節から６節の「山上の垂訓」では「神からの幸い」が与えられていると私たちとに告げています。その状況の如何ではなく、それを超えてでもなお、神は、み言葉において「私たちは幸いである」と告げています。だからこそ、どんな時にも、どんな状況でも、神にすべての望みをかけて委ねることを、またどんなときにも神の幸いを受けて、神と隣人ために可能な限り奉仕することへと私たちはキリストにより遣わされるのです。

1521年５月にルターは、ラテン語の新約聖書をドイツ語訳に翻訳していますが、その序文で信仰と愛の関係について、こう書いています。

「信仰があれば、信仰者は自分にとまっていることはできず、自分を示し、よい行いによって立ち現れ、信仰を告白し、人々のまえでこのような福音を教え、あえて自分のいのちをもこれに賭ける。生きることも、行うことすべてを他の人々を助け、益となるために行う。自分が恵みの心を得るためにだけでなく、自分のからだ、財産、それに自分の名誉を賭けて他者のために生きるのである。それは、キリストが私のためにして下さったとおりである。」

キリストが十字架の死により、私たちために自らを捨て、私たちに愛と示してくださったことにより、私たちがキリストのために、宣教のみ業に加わり、その実現のために「社会に仕え、奉仕すること」の群れを教会として形成していくのです。JLER の働きも、３年間、この宣教の業に立脚したものでありました。

３年間の JLER の救援活動は今月で終了します。本日の記念礼拝は私たちにとっての「卒業」でもあります。「卒業」は単なる「終わり」でなく、新たなる始まりです。私たちそれぞれがキリスト共に新たなる宣教と奉仕への出発の時として、この記念礼拝を受け止めたいと思います。

8．祈祷

9．主の祈り

10．祝福

11．終りの歌　　教会讃美歌　357番





東日本大震災の概要

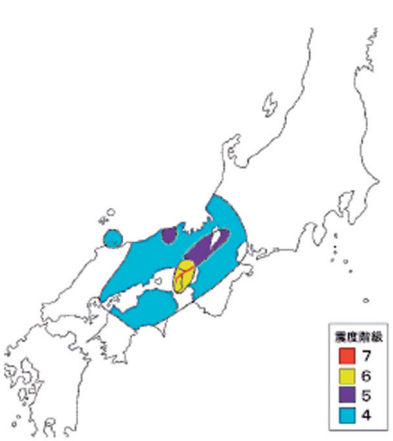
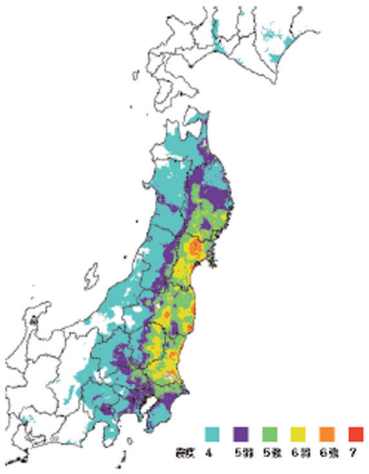
2011年（平成23年）３月11日14時46分、三陸沖でマグニチュード（M）9.0の地震が発生し、宮城県栗原市で震度７、宮城県、福島県、茨城県、栃木県の４県 34 市町で震度６強を観測したほか、東日本を中心に北海道から九州地方にかけての広い範囲で震度６弱～1 を観測した。また、この地震に伴い、福島県相馬で高さ 9.3ｍ以上、岩手県宮古で高さ 8.5ｍ以上の非常に高い津波を観測したほか、東北地方から関東地方北部の太平洋側を中心に、北海道から沖縄にかけての広い範囲で津波を観測した。この地震（余震を含む）により、死者15,885人、行方不明2,623人、全壊家屋127,305棟などの甚大な被害を生じた。

（2014年４月10日 現在、警察庁緊急災害警備本部）

気象庁はこの地震を「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（英語名：The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake）と命名し、政府はこの地震による震災の名称を「東日本大震災」とした。「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（M9.0）は、国内観測史上最大規模の地震となる。

【出典】気象庁:平成23年３月地震・火山月報（防災編）

阪神・淡路大震災と東日本大震災の比較

	阪神・淡路大震災	東日本大震災
発生日時	平成７年１月17日５：46	平成23年３月11日14：46
マグニチュード	7. 3	9. 0
地震型	直下型	海溝型
被災地	都市部中心	農林水産地域中心
震度６弱以上県数	１県（兵庫）	８県（宮城，福島，茨城，栃木，岩手，群馬，埼玉，千葉）
津波	数十 cm の津波の報告あり，被害なし	各地で大津波を観測（最大波 相馬9. 3m 以上，宮古8. 5m 以上，大船渡8. 0m 以上）
被害の特徴	建築物の倒壊。 長田区を中心に大規模火災が発生。	大津波により，沿岸部で甚大な被害が発生。 多数の地区が壊滅。
死者 行方不明者	死者6, 434名 行方不明者３名 （平成18年５月19日）	死者15, 885名 行方不明者2, 623名 （平成26年４月10日現在）
住家被害 （全壊）	104, 906	127, 305 （平成26年４月10日現在）
災害救助法の適用	25市町（２府県）	241市区町村（10都県） （※）長野県北部を震源とする地震で適用された４市町村（２県）を含む
震度分布図 （震度４以上を表示）		

（内閣府資料）

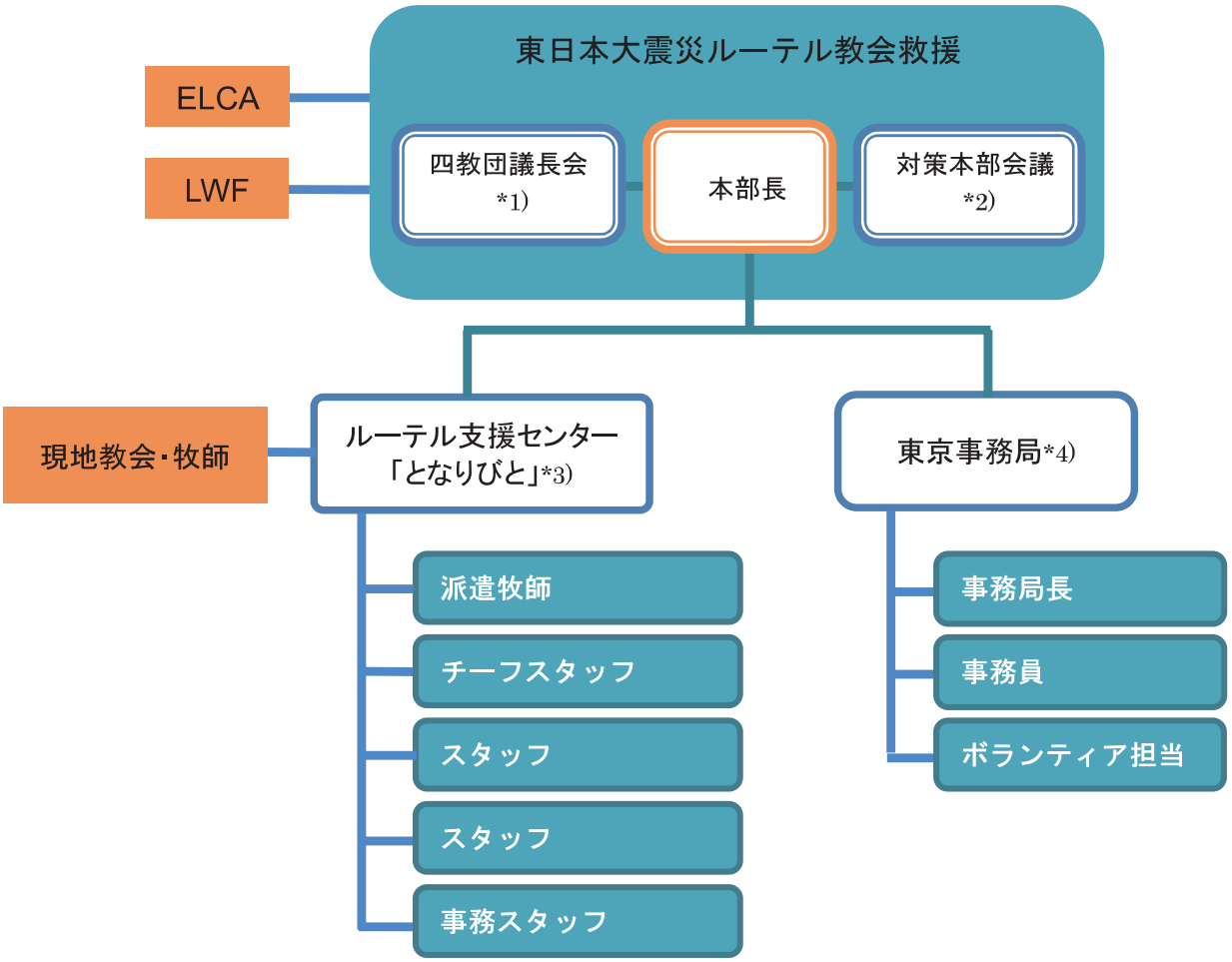
1. 活動基本方針（ミッション・ステートメント）

①「キリストにおける愛の奉仕」の業に基づき、東日本大震災で被害を受けた被災者の復旧・復興のために可能な限りの多角的な救援活動をルーテル四教団の共同事業として取り組む。
②霊的にも、心理的にも、身体的にも苦しんでいる被災された人々に深く関わり、その生命の声を聞き取り、「希望と喜び」の内に共に生きる道を見出すための必要な支援を行うことは神の憐れみの宣教そのものであり、これに参画する召しが神の民に呼び求められている。
③日本のルーテル教会の宣教力を結集した支援事業である「ルーテル教会救援」活動は、日本国内だけでなく、世界ルーテル連盟を中心に世界のルーテル教会・団体と強く結びつき、知恵と支援を得つつ、開かれた救援活動として可能な限り長期的に取り組む。

2. 活動期間

2011年３月～2014年３月

3. 組織図



*1）４ 教団とは、日本福音ルーテル教会、日本ルーテル教団、近畿福音ルーテル教会、西日本福音ルーテル教会のこと。
*2）対策本部会議は、各教団から２名と（日福）対策本部から４名、さらに準メンバーとして日本福音ルーテル社団、ルーテル学院大学から各１名で構成。
*3)日本福音ルーテル仙台教会に設置。
*4)日本福音ルーテル教会事務局(東京・市谷)に設置。

4. 活動予算（会計報告）

JLER 会計（2011年３月～2014年３月31日）

収　　入（円）	
海外教会・協会献金	
ELCA,（アメリカ）	47,475,968
CLWR（カナダ）	5,716,400
Diakonie Katastrophenhilfe of Germany（ドイツ）	131,515,484
NCA（ノルウェー）	5,903,827
Diakonie Katastrophenhilfe of Austria（オーストリア）	2,307,504
ブラウンシュバイク教区（ドイツ）	14,461,203
チェコ・ルーテル教会	1,536,379
ALWS（オーストラリア）	1,461,530
シャンテボランティア	10,000,000
その他	36,646,798
計	257,025,093
国　内　献　金	
日本福音ルーテル教会	38,330,737
日本ルーテル教団	15,500,000
近畿福音ルーテ教会	7,510,000
西日本福音ルーテル教会	2,400,000
その他	2,436,699
計	66,177,436
収　入　合　計	323,202,529

支　　出（円）	
食糧支援	22,886,745
食料品以外の援助物資・倉庫	31,599,022
物資支援関係　合計	54,485,767
生活改善支援	7,872,677
地域生活支援	3,729,329
精神ケア支援プログラム	4,539,944
前浜コミュニティセンター建設	79,147,508
石巻漁業倉庫支援（13浜）	8,571,500
石巻共同利用倉庫支援	25,980,150
生活復興支援（設備・建設）	2,552,770
地域復興活動経費	5,726,103
アジア学院支援	20,668,693
諸活動支援　合計	158,788,674
現地事務所活動関係費	15,936,211
ボランティア　合計	15,936,211
スタッフ人件費	50,576,488
住宅費	13,245,988
人件費・住居費　合計	63,822,476
広報活動	2,870,810
インターネット関係	304,411
報告書作成	1,796,280
国内外交通費	8,544,502
事務人件費	4,116,151
事務諸経費	10,111,826
間接経費　合計	27,743,980
防災教育・訓練	548,498
防災関係費　合計	548,498
会計監査	811,980
計	811,980
支　出　合　計	322,137,586
収　支　残　高	1,064,943

注：残金は、今後の災害に備えての資金として、日本福音ルーテル教会の「連帯献金」の口座にて保管する。

活動マップ



気仙沼市　前浜コミュニティセンター



登米市　手のひらに太陽の家



石巻市　仮設追波川河川団地



東松島市　走れ！仙石線



南相馬市　六角支援隊

【主な活動場所】

①東松島市
- 宮城県漁業協同組合宮戸西部支所
- 特定非営利活動法人
  のんびーりすみちゃんの家
- 仮設ひびき工業団地応急仮設住宅

②石巻市
- 石巻市災害ボランティアセンター
  (石巻専修大学)
- 宮城県漁業協同組合北上町十三浜支所
- 宮城県漁業協同組合石巻地区支所
- 仮設河北三反走団地
- 仮設三反走第２団地
- 仮設追波川河川団地
- 仮設追波川多目的団地
- 仮設飯野川校団地
- 仮設大森第１～４団地
- 仮設にっこりサンパーク団地
- 石巻市社会福祉協議会河北支所
- 石巻市社会福祉協議会北上支所

③気仙沼市
- 前浜コミュニティセンター
- 医療法人くさの実会
  老人保健施設リバーサイド春圃

④登米市
- 特定非営利活動法人さくらんぼくらぶ
- イオン南方店跡地応急仮設団地
- 手のひらに太陽の家

⑤南相馬市
- ビジネスホテル六角(六角支援隊)

【拠点センター】
⑥仙台教会

活動年表（2011年３月～2012年３月）

主な活動・支援先			年・月・期
支援活動	物資・資金支援	物資支援	食糧・食料品支援、その他支援
		資金支援	アジア学院、キャッシュ・フォー・ワーク
	ボランティア派遣	災害ボランティア派遣	石巻市災害ボランティアセンター、本地生活センター、キッチンボランティア
		介護ボランティア派遣	介護老人保健施設リバーサイド春圃、特別養護老人ホームおながわ
		ボランティア派遣	サロン活動、コンサート、花壇づくり、引越作業、草取り
	仮設支援	物資・生活支援	おすそわけプロジェクト、仮設住宅居室棚設置
		心理・福祉的支援	ルーテル学院大学協働支援活動
		生きがい支援	つるしびな製作、手作りグループ支援
		居場所支援	サロン活動
		自立支援	自治会支援
			支援会議
	地域支援	女性支援	前浜 KEPPAPE、にっこり手しごと村、スワン国際協力の会
		障害者・子ども支援	石巻身体障害者「歩む会」
			子ども養育支援の会、子育て支援アシスト・エフワン、東京YMCA石巻センター、表現教育研究所
		地域団体支援	石巻市社会福祉協議会河北支所、河北ボランティア友の会
			石巻市社会福祉協議会北上支所、大室南部神楽保存会、白浜自治会、にっこりホタル会、WE ARE ONE 北上、プロジェクトD、北上ウィナーズ
	支援者支援	医療法人・社会福祉法人・NPO 法人支援	光ケ丘保養園、リバーサイド春圃、さくらんぼクラブ、特養おながわ、すみちゃんの家、みやぎ宅老連絡会、日本社会福祉士会、手のひらに太陽の家
	生業支援	漁業支援	宮城県漁業協同組合十三浜支所・宮戸西部・石巻地区支所、気仙沼市本吉町前浜地域
	コミュニティセンター再建支援	前浜コミュニティセンター	気仙沼市本吉町前浜地域コミュニティセンター建設、ワークショップ、コミュニティ再生
教育活動	防災・減災教育	スタディツアー	
		防災講演会	
報告活動	報告・記録・記憶	現地見学会（復興ツアー）	
		報告会（2013年２月以前の随時実施分は除く）・支援品販売、「つるしびな」全国巡回展、活動記録	



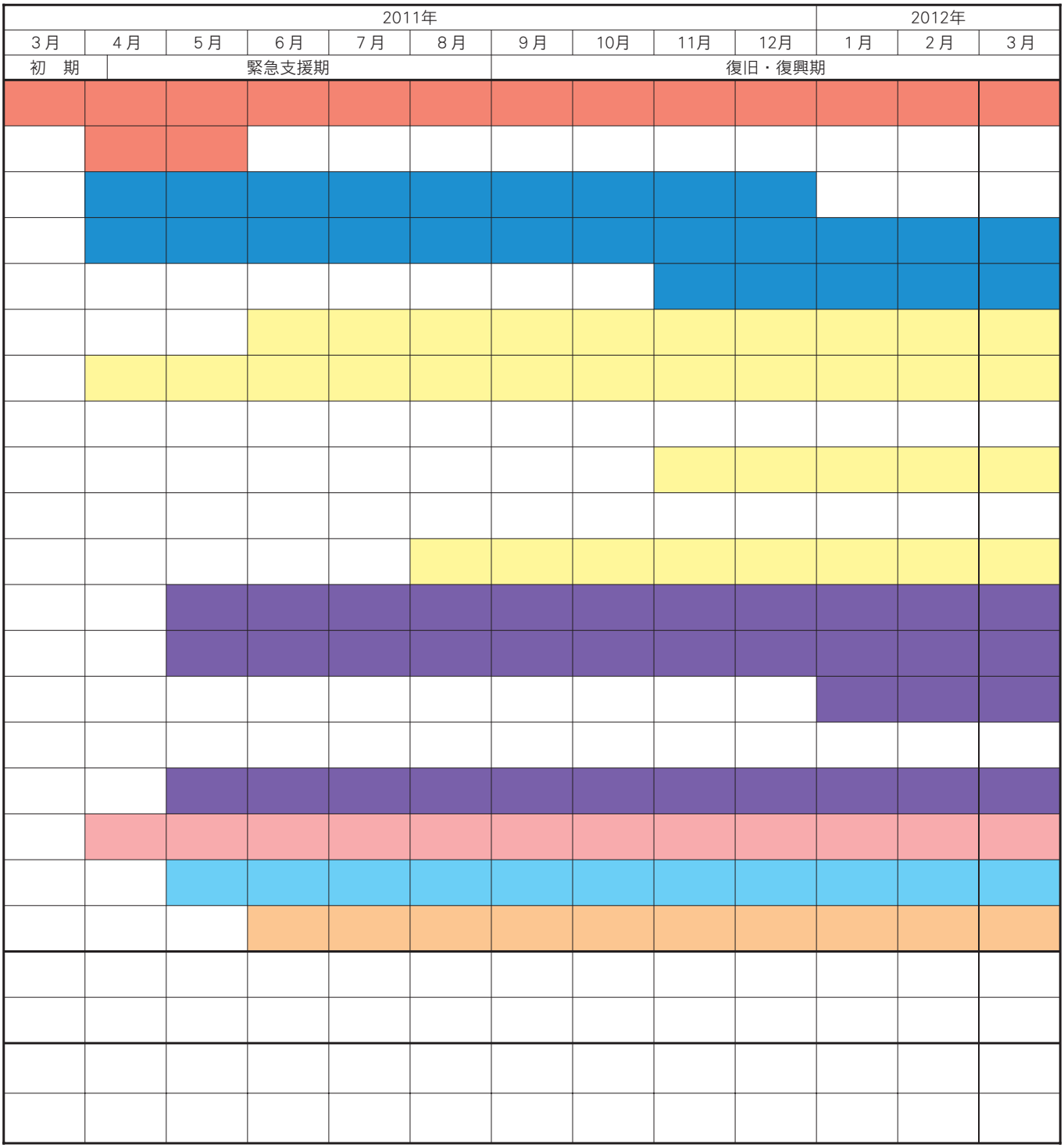
2011年３月26日教会員への物資支援



2011年４月21日調布市・味の素スタジアム
炊き出し（ルーテル学院大協働）



2011年５月12日
災害・キッチンボランティア





2011年４月26日気仙沼市・光ケ丘保養園
車両支援



2011年８月31日おすそわけプロジェクト
（香蘭女学校協働）



2012年１月21日石巻市・仮設住宅
お茶っこサロン

活動年表（2012年４月～2013年３月）

主な活動・支援先			年・月・期
支援活動	物資・資金支援	物資支援	食糧・食料品支援、その他支援
		資金支援	アジア学院、キャッシュ・フォー・ワーク
	ボランティア派遣	災害ボランティア派遣	石巻市災害ボランティアセンター、本地生活センター、キッチンボランティア
		介護ボランティア派遣	介護老人保健施設リバーサイド春圃、特別養護老人ホームおながわ
		ボランティア派遣	サロン活動、コンサート、花壇づくり、引越作業、草取り
	仮設支援	物資・生活支援	おすそわけプロジェクト、仮設住宅居室棚設置
		心理・福祉的支援	ルーテル学院大学協働支援活動
		生きがい支援	つるしびな製作、手作りグループ支援
		居場所支援	サロン活動
		自立支援	自治会支援
			支援会議
	地域支援	女性支援	前浜 KEPPAPE、にっこり手しごと村、スワン国際協力の会
		障害者・子ども支援	石巻身体障害者「歩む会」
			子ども養育支援の会、子育て支援アシスト・エフワン、東京YMCA石巻センター、表現教育研究所
		地域団体支援	石巻市社会福祉協議会河北支所、河北ボランティア友の会
			石巻市社会福祉協議会北上支所、大室南部神楽保存会、白浜自治会、にっこりホタル会、WE ARE ONE 北上、プロジェクトD、北上ウィナーズ
	支援者支援	医療法人・社会福祉法人・NPO 法人支援	光ケ丘保養園、リバーサイド春圃、さくらんぼクラブ、特養おながわ、すみちゃんの家、みやぎ宅老連絡会、日本社会福祉士会、手のひらに太陽の家
	生業支援	漁業支援	宮城県漁業協同組合十三浜支所・宮戸西部・石巻地区支所、気仙沼市本吉町前浜地域
	コミュニティセンター再建支援	前浜コミュニティセンター	気仙沼市本吉町前浜地域コミュニティセンター建設、ワークショップ、コミュニティ再生
教育活動	防災・減災教育	スタディツアー	
		防災講演会	
報告活動	報告・記録・記憶	現地見学会（復興ツアー）	
		報告会（2013年２月以前の実施分を除く）・支援品販売、「つるしびな」全国巡回展、活動記録	



2012年４月４日西日本福音ルーテル教会ボランティア


2012年５月９日お茶っこサロン（琴体験）



2012年７月28日物資支援
（福島県・南相馬市六角支援隊）

2012年									2013年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
復旧・復興期											



2012年11月28日クリスマスカード提供



2013年１月30日子ども支援
(子育て支援アシスト・YMCA 協働)



2013年３月29日スタディツアー
(聖望学園ハイスクール YMCA)

活動年表（2013年４月～2014年３月）

主な活動・支援先			年・月・期
支援活動	物資・資金支援	物資支援	食糧・食料品支援、その他支援
		資金支援	アジア学院、キャッシュ・フォー・ワーク
	ボランティア派遣	災害ボランティア派遣	石巻市災害ボランティアセンター、本地生活センター、キッチンボランティア
		介護ボランティア派遣	介護老人保健施設リバーサイド春圃、特別養護老人ホームおながわ
		ボランティア派遣	サロン活動、コンサート、花壇づくり、引越作業、草取り
	仮設支援	物資・生活支援	おすそわけプロジェクト、仮設住宅居室棚設置
		心理・福祉的支援	ルーテル学院大学協働支援活動
		生きがい支援	つるしびな製作、手づくりグループ支援
		居場所支援	サロン活動
		自立支援	自治会支援
			支援会議
	地域支援	女性支援	前浜 KEPPAPE、にっこり手しごと村、スワン国際協力の会
		障害者・子ども支援	石巻身体障害者「歩む会」
			子ども養育支援の会、子育て支援アシスト・エフワン、東京YMCA石巻センター、表現教育研究所
		地域団体支援	石巻市社会福祉協議会河北支所、河北ボランティア友の会
			石巻市社会福祉協議会北上支所、大室南部神楽保存会、白浜自治会、にっこりホタル会、WE ARE ONE 北上、プロジェクトD、北上ウィナーズ
	支援者支援	医療法人・社会福祉法人・NPO 法人支援	光ケ丘保養園、リバーサイド春圃、さくらんぼクラブ、特養おながわ、すみちゃんの家、みやぎ宅老連絡会、日本社会福祉士会、手のひらに太陽の家
	生業支援	漁業支援	宮城県漁業協同組合十三浜支所・宮戸西部・石巻地区支所
	コミュニティセンター再建支援	前浜コミュニティセンター	気仙沼市本吉町前浜地域コミュニティセンター建設、ワークショップ、コミュニティ再生
教育活動	防災・減災教育	スタディツアー	
		防災講演会	
報告活動	報告・記録・記憶	現地見学会	
		報告会（2013年12月以前の随時実施分は除く）・支援品販売、「つるしびな」全国巡回展、活動記録	



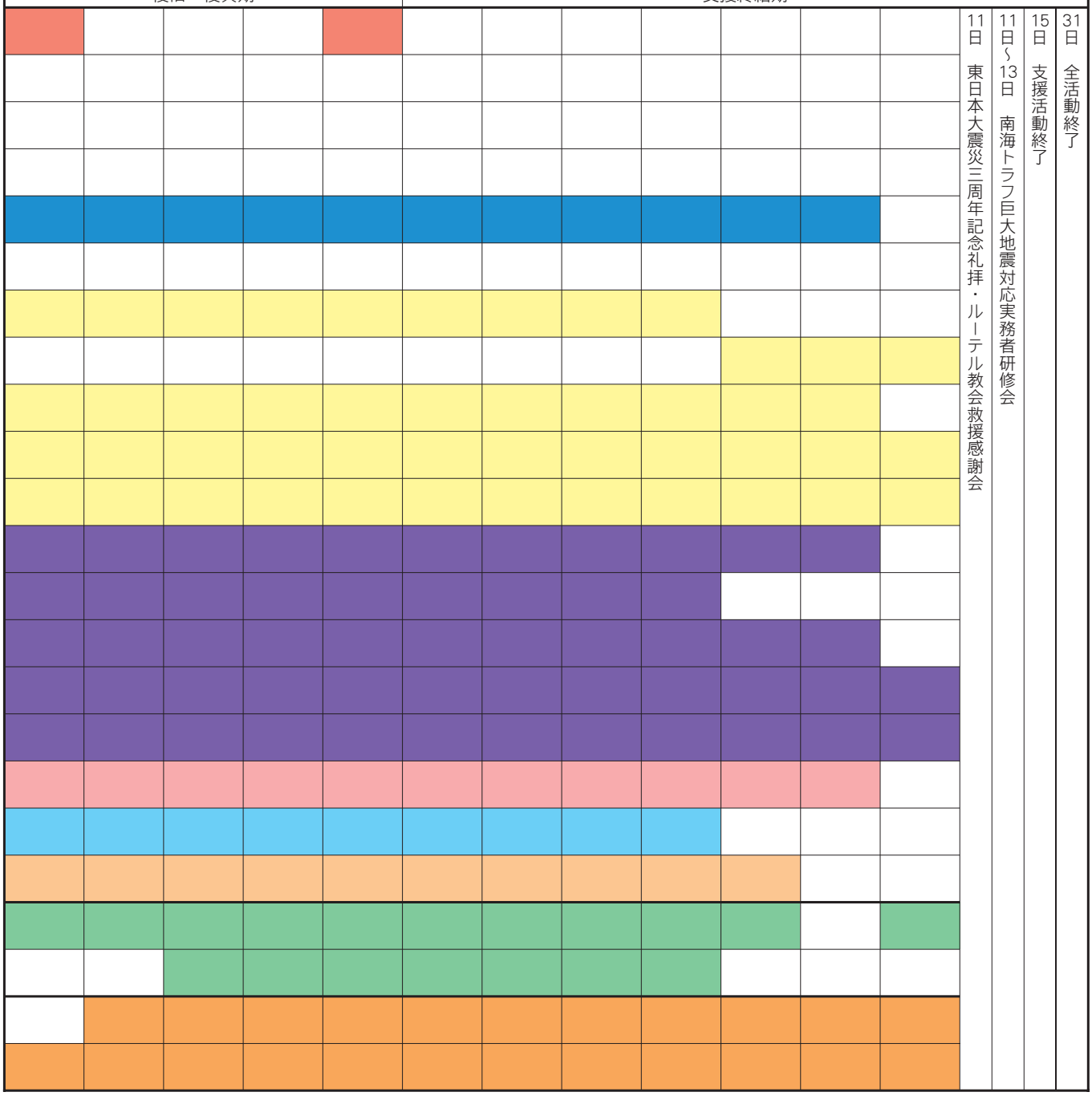
2013年６月２日「つるしびな」展示
（アメリカ・サウスカロライナ）



2013年７月６日現地見学会
（JELC 女性会連盟）



2013年８月24日大森団地夏祭り
（仮設支援・ルーテル学院大協働）





2013年12月21日コミュニティセンター
クリスマス会（JELA 協働）



2014年１月16日布草履販売支援
（仮設追波川河川団地）



2014年３月21日活動報告会（WJELC 総会）

初期の主な動き（2011年３月11日～４月11日）

３月11日（金）　14時46分18秒

●宮城県牡鹿半島の東南東130km、仙台市の東方70キロの太平洋の海底を震源とする東北地方太平洋沖地震発生。

12日（土）

【報告・お見舞い・祈り】JELC 総会議長

マレーシアで開催中の LWF アジア地域会議に出席しています。この度の地震は、丁度、発生時、休憩で私が部屋に帰っていた矢先、テレビ速報として知らされ、すぐに会議中の全員に、浅野先生を通して伝えました。この大地震は、すぐに緊急報告として深い痛みと驚きをもってシェアーされ、出席中の LWF 総会議長のユナン牧師、また、ユンゲ LWF 総書記から、日本の教会と教会員の人々への痛みと執りなしの祈りが捧げられました。また、夕礼拝では、特別の執りなしの祈りが担当者によって捧げられました。アジア地域の各国の監督や出席者から、日本の教会と、被災地域と被災者への慰めとお守りの祈りが伝えられました。

【報告・お見舞い・祈り】JELC 東教区長

現在、鶴ヶ谷教会の藤井邦昭先生とはまだ連絡が取れていないため、詳細な状況は掴めておりませんが、藤井先生と保育園の園児の皆さんは無事という一報が北海道特別教区の岡田薫教区長から入っています。今後とも情報が入り次第、シェアしてまいります。

13日（日）

【報告】JELC 東教区長現状報告

・先生と家族、保育園の園児は無事。
・仙台は停電から復旧したが、鶴ヶ谷はまだ電気・ガス・水道がすべて止まっている。
・一番困っているのは食べ物と水。電気もガスもないため加工できない。水がないためトイレなども困っている。
・携帯もつながらず、ガソリンも僅かであるため、教会員の消息も不明。

14日（月）

【報告】JELC 事務局

「東北関東大震災救援対策本部設置のお知らせ」

・３月14日、JELC は、青田勇副議長のもとに「JELC 東北関東大震災救援対策本部」を設置。本部長：青田勇（本教会副議長）委員：立野泰博（事務局長）、大柴穣治（東教区長）、杉本洋一（東教区副教区長）、安井宣生（東教区書記）、JELA に協力依頼予定。
・救援対策本部の目的は、被災地情報の収集、被災地との連絡確保、被災地への牧師の派遣、早急な支援の決定など、時期をみてボランティアの派遣等を実施。
・現地に本教会、東教区牧師を仙台へ派遣し、現地教会、牧師、信徒の方々の必要を聞き、救援活動を開始。
・引退教師に留守礼拝等の協力依頼。
・救援物資などの送付については改めて連絡。
・「東北関東大震災緊急救援募金」を直ちに「連帯献金」の中に設置。

15日（火）

【現地情報】

●藤井仙台、鶴ケ谷教会牧師

・14日夜、鶴ケ谷地区に「電気」が回復。インターネットが出来るようになりました。
・水道、ガスは復帰していません。避難所には行っておらず、牧師館で過ごしています。
・水道、ガスが復帰しない限り、飲料水、トイレの水、食べ物は不足します。
・車のガソリンがないので、動くのが難しいです。
・仙台教会、鶴ケ谷教会の建物には大きな被害なし。
・大変電話がつながりにくい状態が続いており、信徒全員の把握はできていないのですが、多分、大丈夫だろうと考えています。
・13日、仙台、鶴ケ谷で祈祷を中心とした礼拝に切り替えて、主日礼拝を守りました。
・保育園は三園ありますが、三園共、園児、職員には怪我はなく無事。但し、ライフラインの復帰なくしては 保育が困難（給食が出せない、トイレの水がない、）なため、お弁当持参なら午後３時まで預かる。そうでなければ給食を出せないので、午前中の保育をお願いするという対応をしています。

【報告】JELC 事務局

・東北関東大震災救援対策本部の総括に渡邉総会議長、本部長に青田総会副議長、海外担当に浅野世界宣教主事が就任。
・安井東教区書記を中心に、現地支援方法、支援物資輸送、集荷場所の調査中。
・海外教会、団体からの支援募金問い合わせに関しては、添付書類参照。
・事務局は平常業務。

【情報】Disaster Relief Fund 設置案内（英文）

16日（水）

【情報】「東北地方太平洋沖地震に関してのお願い」
（日本聖公会主教会議長首座主教）
「東北地方太平洋沖地震日本聖公会対策本部」の設置のお知らせ（日本聖公会管区事務所主事会総主事・司祭）

【JELC 議長書簡】「『東北関東大震災』をおぼえて」

３月17日（木）

【報告】JELC 事務局

・今回の原子力発電所事故に関連し、NCC 平和・核問題委員会の抗議文、声明文発表。
・第二回救援対策本部会議は、明日実施。
・本日午後に、20日の主日礼拝での特別の祈りを送付。
・海外救援募金が到着。

【現地情報】藤井仙台・鶴ケ谷教会牧師

・固定電話は昨日の16日に回復して、使えるようになりました。
・携帯電話は相変わらず繋がりにくい状態にありま

す。携帯のメール、パソコンのメールは、大丈夫です。
・飲料水とトイレの水は、かろうじて確保できそうですが、いまだ水道、ガスの復旧の見通しは立っていません。
・米（水が不足気味なので、無洗米が良い）などの他、食べ物は不足気味です。インスタント食品などがあれば助かります。電気が通っているので、炊飯器、ポットが使えます。
・ガスがないので、風呂には入れません。
・一番困っているのは、車のガソリンです。
・交通状況は、高速道路（東北自動車道）は救援物資運搬車専用となり、一般車両は通れません。しかし、国道４号線、その他の一般道は車で通れます。仙台市内の交通は大丈夫です。

【情報】LWF Information（LWI）

“Fear of Nuclear Threat Grips Japanese Fending off Tsunami and Quake Ravages”

「地震と津波の後の日本人を核の恐怖が」を世界中のルーテル教会にニュースとして配信。

【情報】チャイルドジャパン

チャイルド・ファンド・ジャパン事務局長からルーテル学院大学との協働事業への協力依頼。

18日（金）

【報告】JELC 事務局

・本日、救援対策本部会議実施。
・首都圏情報
計画停電、大停電の情報の混乱から多少のパニック状況。物の買占め、ガソリン不足。
原子力発電所事故による放射線漏れ情報（風評も含め）による外国人の避難・脱出。
交通機関等の混乱・不安はあるが、全体的には落ち着いて行動。
・事務局は平常業務。
・海外支援金の到着。

19日（土）

【祈り】救援対策本部「特別の祈り～東北関東大震災被災者を覚えて」

【情報】東北関東大震災被災者救援募金

【情報】NPO 法人セカンドハーベストジャパンの物資募集

【情報】ルーサーリーグ（JELC 東教区青年会）総会における祈り会開催案内

【募集】救援物資募集

・需要が最も大きい４品目（米、缶詰、カップラーメン・インスタントラーメン、レトルト食品）を募集。



20日（日）

【募集】救援物資集収期間（22日～４月２日）の確認

【報告】救援対策本部

・杉山牧師（引退教師）ご家族の消息。
・現地訪問準備開始。
・仙台教会・鶴ヶ谷教会の教会員へのお見舞い物資
・バイクと自転車の調達。
・緊急支援物資の購入と運搬（米３トン、インスタントラーメン１万食、味噌、バナナ30万円分）。
・るうてる法人会連合にも呼びかけ、総力を結集しての支援活動推進。

21日（月）

【報告】救援対策本部

・JELC 東教区総会報告。
・「となりびと」ブログ案内。
・主日の祈りは、復活祭まで各教区が順番に作成し、毎週配信。

22日（火）

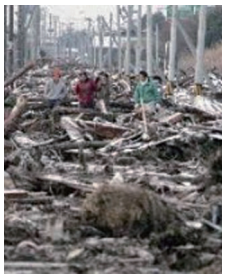
【報告】救援対策本部

・緊急救援募金。
・市川学長（ルーテル学院大学）と協議。
・日本聖公会東北教区・加藤主教（仙台教会）と協議。
・日本ルーテル同胞教団、仙台事務局への電話連絡。

23日（水）

【報告】救援対策本部

・第１回救援物資運搬：チャイルド・ファンド・ジャパンの緊急物資送付先確定。
・全国の教会からの物資はトラックにまとまり次第、運搬。
・第２回救援物資運搬：救援対策本部で購入手配した物資の緊急物資送付先確定（４ｔトラック３台分）。
・社会福祉法人希望園（JELC）救援物資運搬。



24日（木）

【報告】先遣隊活動：24日

・旭ケ丘母子ホームから提供のワゴンにより、パックご飯、カップ麺、インスタントみそ汁、水、カセットコンロ、原付バイク（カブ）、自転車：２台を運搬。





【情報】救援物資輸送プロジェクト会議：25日

・各団体の救援事業の紹介、物資輸送のニーズについて。
・NCC、JELA、（株）イオン、誠実運輸倉庫会社、佐川急便参加。

【KELC 総会宣言】「東北関東大震災被災者の方々を覚えての祈りの総会宣言」

【情報】ルーテル学院大学・神学校の動き

チャイルド・ファンド・ジャパンとの協働による「子どもたちの心を癒す－立ち直りをサポートする手引き－」（仮称）の作成開始

25日（金）

【報告】先遣隊活動：25日



・活動開始。
・日本聖公会、仙台キリスト教会、多賀城市民文化センター、仙台教会訪問。

26日（土）

【報告】四ルーテル議長会：24日

・組織名を「東北関東大震災ルーテル救援」とし、JELC 救援対策本部の活動と連動し、英語の名称は JAPAN LUTHERAN EMERGENCY RELIEF 略称：JLER とすることを確認。
・JLER は JELC、NRK、KELC、WJELC、JELA で構成する。協賛団体としてルーテル学院、九州ルーテル学院、九州学院、聖望学院、浦和ルーテル学院、JELC「るうてる法人会連合」加盟社会福祉法人に、協力団体として「わかちあいプロジェクト」「共に生きる」などにも呼びかけ。
・新規の募金専用口座を設置する。
・広報は JELC ホームページの「ルーテルとなりびと」を各教会教団のホームページにリンクする。

【報告】先遣隊活動：26日



・ガソリン不足情報。
・名取市災害救援本部、名取市ボランティアセンター、名取市役所民生課訪問。

27日（日）

【報告】先遣隊活動：27日

・JELC 仙台教会・鶴ヶ谷教会礼拝参加。
・仙台 YWCA センター、仙台 YMCA、塩竈カトリック教会、塩竈ボランティアセンター、日本基督教団東北教区センター・エマオ訪問。

28日（月）

【報告】気仙沼市への物資輸送



・28日、10時に東京を出発したトラックは、18時30分に気仙沼に到着。
・米 2 t、インスタント食品などを宝鏡寺に届け、「シャンティ国際ボランティア会」が配布。

29日（火）

【報告】石巻市への物資輸送

・東北道は一般車両も通行可能だが、応急的措置を施して使用している状況。荷物を積載している状況では、スピードが出せない。宮城県内は50km規制の区間が多い。
・石巻への最短ルートとなる仙台東部道路が災害通行止めのため、仙台北部道路経由で三陸道へ。三陸道は松島以降については緊急車両のみ通行可。

【報告】先遣隊活動：29日

・仙台 YMCA と共に七ヶ浜町ボランティアセンターの働きに参加。
・仙台 YMCA 総主事と今後について協議。

30日（水）

【報告】先遣隊活動：30日

・日本聖公会東北教区（加藤主教）、日本基督教団（災害救援センター・エマオ）、宮城県社会福祉協議会（救援対策本部）訪問。
・先遣隊帰京。

31日（木）

【報告】JLER 対策本部会議：31日

・LWF：マタイ氏（LWF アドバイザー）、JELC、NRK、KELC、JELA、ルーテル学院大学、JELC 東教区常議員、マスコミ関係者出席。
・四ルーテル議長会、JLER 設置。
・支援物資輸送説明・情報交換。
・トラック輸送（緊急支援物資）報告。
・現地調査派遣隊報告。
・募金入金状況報告。
・トラック輸送（緊急支援物資）のセカンドアクション。
・ボランティア派遣プログラム。
・全体予算の作成。
・LWF 及び ACT への支援金申請。



4月2日（土）

【報告】ルーテル学院・神学校の働き

・「災害後の悲嘆（グリーフ）の理解と対応」の翻訳。
・グリーフセルフケアに関する名刺サイズカード作成協議。
・復興支援チームの結成。
・全教職員研修会の実施。

3日（日）

【情報】４日、「ルーテル支援センター（ボランティア）」（仮称）設置準備会実施

4日（月）

【募集】JLER 専従スタッフ３名募集

・JELC 仙台教会内に設置する「となりびと」でのボランティアのコーディネート担当。
・日本聖公会東北教区災害救援本部での聖公会協働事業担当。
・宮城県内の社協災害ボランティアセンター担当。

5日（火）

【報告】救援物資輸送報告：４日

・気仙沼市役所。
・東北広域震災 NGO センター・日本ボランティアセンター山形（石巻市）。
・多賀城市役所。
・NPO 法人うつくしま、NPO ネットワーク・シャプラニール（いわき市）。
・シャンティ国際ボランティア（伊達市）。

【報告】聖公会協働事業：4日
・午前：物資の仕分け/仙台キリスト教会
・午後：郡山教会移動、物資搬入、仕分け、個数チェック。

6日(水)

【報告】KELC 訪問団
・七ヶ浜町、多賀城市文化センター、多賀城市ボランティアセンター、東北学院大学、仙台市若林地区、仙台 YMCA、聖公会、JELC 仙台教会訪問。

7日(木)

【要請】るうてる法人連合会（JELC）ボランティア派遣要請
・期間：２週間、１ヶ月、２ヶ月、３ヶ月、６ヶ月のいずれか。
・派遣先：宮城県内市町村（未定）、災害ボランティアセンター。

【募集】震災救援ボランティア

9日(土)

【報告】KELC 訪問団
「被災地訪問記録
南三陸町・歌津
2011年４月７日」



10日(日)

【情報】11日、「となりびと」開設



11日(月)

【報告】四ルーテル議長会：11日
・「東日本大震災」に正式名称を変更。
・専従スタッフの雇用承認。
・活動体制の明確化。
・予算の承認。
・ボランティア登録。

【報告】JLER 対策本部会議（拡大）：11日
・支援センターの活動計画報告：ボランティア派遣、聖公会との共同計画。
・被災地における難民支援活動の計画：JELA。
・心のケア、学生ボランティア募集と派遣、専門家による支援、募金、チャリティ、入学生への配慮：ルーテル学院。

【情報】ルーテル学院大学・チャイルド・ファンド・ジャパン
・『被災後の子どものこころのケアの手引き』発行。

緊急支援期の主な動き(2011年４月12日～30日)

4月12日(月)

【報告】となりびと活動報告：11日
マシュー／８：30エマオにてボランティア参加、21：00帰宅　小泉／８：15 鈴木と共に聖公会にて救援物資の整理、14：00頃食料品を積み込み亘理町避難所（佐藤記念体育館）に出発、17：00頃作業終了聖公会着、18：00ロジスティクス担当の佐藤、センターに到着、宿泊先である聖公会ナザレの家へ、佐藤とミーティングをかねて夕食、21：00センターへ帰着

13日(火)

【報告】となりびと活動報告：12日
マシュー／８：30エマオ集合、七郷にてドロかき、佐藤／９：00長島・小泉と面談、倉庫・運搬関係者と打ち合わせ　鈴木／東北学院大学ボランティア活動　佐藤光／11：00長島の車で多賀城 VC へ、ドロかき　市川／20：30仙台教会着　小泉／11：00長島の車で多賀城 VC へ、ドロかき16：30WRCP 世界宗教者平和会議スタッフ来訪

14日(水)

【報告】となりびと活動報告：13日
・遠藤、佐藤、市川、鈴木、立野で、石巻を訪問
石巻カトリック教会（カリタスジャパン）、石巻社協支援センター
今後の支援活動の拠点をつくるために石巻を訪問、どの団体も拠点をみつけるのに苦戦。
石巻専修大学の校庭にテントを張って住居の確保。
・石巻社協・渋谷氏、県社協・佐藤氏と協議
ルーテルの活動に、一つの働きをまかせていただけることになった。

15日(木)

【報告】となりびと活動報告：15日
スタッフ１名／県社協へその後・石巻　スタッフ１名／配送調査調整・石巻　ボランティア２名／多賀城市 VC 派遣・ドロかき他　ボランティア１名／エマオ派遣七郷・ドロかき他　立野／ルーテル支援センター清掃、センター機能整え、聖公会訪問　加藤主教と協議　19時ミーティング参加ルーテル活動を紹介し共働について協議。



16日(金)

【募集】ルーテル学院炊き出し
調布市の「味の素スタジアム」にはまだ100名の避難生活をされている方々がいます。ルーテル学院復興支援チームが調布市社会福祉協議会



と話し合い、炊き出しを受け持つこととなりました。教会の皆さんと力を合わせることができれば幸いです。

【情報】となりびとボランティア

「となりびと」のボランティアについて、ひとつの方向を定めました。宮城県社会福祉協議会との協力、石巻市社会福祉協議会からの依頼を受けて、石巻市内において被災された方々への聞取り調査や石巻市ボランティアセンターでの働き、ワークを行います。

17日(土)

【情報】となりびとスタッフ

石巻VCの活動は土日が非常に忙しい（平日でも700人、土日は1500人のボランティア受付)。

【報告】となりびと活動報告17日

多賀城市大代１丁目にある個人宅の清掃を目的として活動。参加人数は９人で、ボランティアセンターで借りたものは角スコップ、鍬、一輪車、土嚢袋。ヘドロは一ヶ月たっているため、固まり地面となじんでしまっていた、掘り起こすのがかなり困難。

19日(日)

【情報】災害派遣等従事車両証明書

高速道路利用の場合、「災害派遣等従事車両証明書」の提出（通行１回につき１枚。往復２枚必要）により、高速道路通行料金が免除されます（2011年９月までの予定)。

20日(月)

【情報】センター長交代

小泉嗣牧師（JELC東教区）が任期を終え帰京します。本日から５月２日（月）まで、立野牧師（JELC事務局長）が対策本部より派遣され現地にまいります。

25日(金)

【報告】となりびと活動報告：25日

釘ふみ、ガラス等によりボランティアの怪我が増えてきたと社会福祉協議会ミーティング。テント村が荒らされる被害も続出。ボランティアのマナーが問われている。ゴミ等も問題。

26日(土)

【報告】となりびと活動報告：26日

石巻VCボランティア　989名登録受付、GWは1,000～2,000名。専修大学が５月22日に始まる。それまでにボランティアは移動。テント移動も４月28日までに。気仙沼市にある光ヶ丘保養園に、軽自動車３台をレンタル支援。

27日(日)

【報告】WJELC牧師

初めて泥かきボランティアに参加しました。民家が密集する地域で２階まで津波が押し寄せたようで、ほとんどの家がヘドロが入り込んでいました。ヘドロの匂いと海の匂いと、家にあった玄米が腐り尋常じゃない異臭を放っていました。雨具を着ての作業は重労働でした。隣の民家では自衛隊がやってきて作業中に遺体を発見したようです。手付かずの民家が多数あり、人はいくらあっても足りません。予想以上の悪環境の中での作業は肉体的、精神的にきつく、ある程度覚悟が必要です。

28日(月)

【報告】となりびと活動報告：28日

770名のボランティアが活動を実施。のべ26,000人がボランティアに参加。ゴールデンウィーク中の新規受付は中止。

【情報】支援センター環境整備

支援センターの環境を整えました。礼拝堂にパーテッションをおき、男女のスペースを確保。畳だけでなく、マットレスも届き、環境がよくなりました。銭湯も、コンビニ、スーパーも近くにあります。センターではEMOBILが設置してあり、ネットにもつながり、メールもOKです。ノートパソコンもあります。

29日(火)

【報告】となりびと活動報告：29日

ゴールデンウィーク初日は1,200名が作業に参加。現在、石巻には1,557名が避難所生活。避難所は113箇所に整理統合。泥だし作業中にもご遺体が発見されるなど、作業は精神的にもきつい。明日は最高の人手が予想され、石巻ルーテルテントには男６名女２名が宿泊。



30日(水)

【情報】KELC機関紙「まじわり」号外発行

KELC機関紙「まじわり」号外が発行されました。祈り、平安、希望をテーマに東日本大震災被災地訪問全記録です。

【報告】Ｊ遺体

４月28日午後５時30分より、大田区の臨海斎場で石巻で被災した16名の遺体火葬受入れが行われました。ゴールデンウイークの連休中は、ほぼ毎日夕方から被災者の遺体を受け入れるそうです。

【情報】交通状況

東北新幹線の全線復旧により、仙台まで新幹線で入ることが出来るようになっています。仙台駅からJR仙山線で、支援センターのあるルーテル仙台教会の最寄り駅である「東照宮」まで電車でおいでいただけるようになりました。

緊急支援期の主な動き（2011年５月１日～31日）

５月１日（日）

【報告】看板設置
「となりびと」の看板を設置しました。

３日（火）

【募集】畳プロジェクト
７日、東松島市の小野市民センターにある避難所に畳80枚を届けるボランティアを募集します。

【情報】センター長交代
３日より13日まで小勝牧師（JELC 西教区）がセンター長に就任します。

【情報】ルーテル救援ジャケット
２日、ルーテル救援ジャケットがセンターに届きました。

【報告】「となりびと」活動報告：３日
1,100名を超えるボランティアが参加。多久和チーム（WJELC）は被災地訪問。

５日（木）

【報告】「となりびと」活動報告：４日
心のケア、傾聴ボランティアが必要と外から聞こえてきます。しかし、避難所では断られているのが現実です。

10日（火）

【情報】雑巾プロジェクト
現在、JELC 女性会連盟の協力で、雑巾1,000枚プロジェクトが進行中です。

【報告】リバーサイド春圃支援
車、PC、プリンタの支援物資が必要とのニードを聞き調整中。長期的には介護職のボランティアを派遣してほしいとの要請あり。

【報告】シャローム石巻支援
精神障がいグループ「シャローム石巻」から精神系の専門家派遣の依頼を受けました。

11日（水）

【報告】南三陸町志津川旧荒砥小学校避難所支援
パルシックの依頼で洗濯機と乾燥機を旧荒砥小学校避難所に支援搬入しました。

【報告】石巻の女性を元気にしよう！プロジェクト
石巻市住吉町の被災者に包丁＆まな板セットと化粧水セット（コスメセット）を手渡しました。

12日（木）

【報告】東松島市東名地区消防団支援
11日、腕カバー付手袋を支援しました。

【報告】東松島市小野市民センター避難所支援
スリッパ・長靴等を支援。

【報告】東松島市関の内地区センター避難所支援
５日に届けた乾燥機使用状況を調査しました。

【報告】キルト支援
14日に ELCA から届いた手造りキルトを日本基督教団石巻栄光教会に届けました。

【情報】センター長交代
14日より20日まで後藤（由）牧師（JELC 九州教区）がセンター長として就任します。

19日（木）

【報告】四ルーテル議長会・JLER 対策本部会議開催
19日、四ルーテル議長会・JLER 救援対策本部会議が開催され、被災地の中で「信頼」を得ることが大切で、しばらくそれを地道に続けていくことが確認された。

【報告】東松島市浅井地区センター避難所支援
18日、野菜を届けました。

【報告】雑巾プロジェクト
19日、全国から集まった雑巾、約1,500枚を小野市民センターに届けました。５月末まで受付ています。

【情報】センター長交代
21日より27日まで立野牧師（JELC 事務局長）がセンター長として就任します。

20日（金）

【報告】「となりびと」活動報告：20日
684名のボランティアが参加。

23日（月）

【報告】女川町避難所支援
23日、バナナを届けました。

24日（火）

【報告】わかめプロジェクト
漁協北上町十三浜支所保存のわかめ200パックが JELC 全国女性会の協力により完売しました。

【報告】「となりびと」活動報告：24日
東松島市室浜地区センターに洗濯機、乾燥機等の物資をお渡しました。

【報告】鳴瀬第二中学校男子バレーボール部支援
24日、ジャージとシューズを支援しました。

26日（木）

【情報】センター長交代
26日より６月２日まで伊藤牧師（JELC 引退）がセンター長として就任します。

【報告】キャッシュフォーワーク
200万円の支援をしているキャッシュフォーワークの気仙沼市の視察に CWS と一緒に行きました。

28日（土）

【来訪】NRK 議長一行
26日、粂井議長一行が訪問しました。

【情報】Twitter 開設
Twitter（ツイッター）を開設しました。

29日（日）

【報告】日本聖公会新拠点設置
26日、聖公会の新拠点が設置され、救援活動を「いしょに歩こう！プロジェクト」と名称を決められました。また新拠点には「となりびと」デスクを設置し、情報交換、支援活動の提案をいただきました。

【訪問】フィンランド・ルーテル福音協会（SLEY）
29日、フフティネン宣教局長、アジア担当夫妻が訪問しました。

30日（月）

【報告】中古自転車支援
埼玉大学学生サークル寄贈の中古自転車48台のうち23台は30日に気仙沼市大島のおおしまハーティケアセンターに、残りは石巻市避難所でフリーマーケットをしている方に届ける予定です。

緊急支援期の主な動き（2011年６月１日～30日）

６月２日（木）

【情報】センター長交代

２日より11日まで光延牧師（JELC 西教区）がセンター長として就任します。

３日（金）

【情報】センター長（牧師）募集終了

「となりびと」を担当する牧師募集を終了します。

５日（日）

【視察】ELCA アジア担当

３日、石田 ELCAアジア担当が来訪しました。

６日（月）

【報告】美容師ボランティア

６日、気仙沼市のリバーサイド春圃にKELC 桔梗が丘教会員美容師ボランティアを派遣しました。

７日（火）

【報告】大工ボランティア

気仙沼市本吉町清涼院避難所に JELC シオン教会員の大工ボランティアを派遣しました。

８日（水）

【情報】センター長交代

12日から立野牧師（JELC 事務局長）がセンター長として就任します。また、伊藤牧師（JELC 引退）をアシスタントとして長期派遣します。

10日（金）

【報告】石巻 VC 受付ボランティア

９日、石巻 VC 受付ボランティアに参加しました。ゴールデンウィークを境に、ボランティアの数が減り、現在は毎日400名程になっています。

【報告】応援メッセージカードプロジェクト

現在、JELC 女性会連盟と「応援メッセージカードプロジェクト」を展開中です。

【募集】JELC 東教区牧師派遣支援プログラム

JELC 東教区教会の牧師を一般ボランティアとして派遣するプログラムを始めました。

【募集】キッチンボランティア

「となりびと」キッチンボランティアを募集します。

【報告】漁協宮戸西部支所支援

宮戸西部支所再建の手助けのための掃除ボランティアを計画し、支援物資としてノートパソコン１台を届けました。

【募集】ボランティア・バスパック



20～22日、東松島の海苔加工工場の清掃を行うボランティアを募集します。

【報告】橋浦小学校支援

石巻市十三浜の橋浦小学校へ雑巾を届けました。

【報告】石巻の女性を元気にしよう！プロジェクト

「スワン」と協働して「石巻の女性を元気にしよう！プロジェクト」を立ち上げました。

12日（日）

【報告】となりびとのいのり



東日本大震災から３ヶ月の11日、東京では「となりびとのいのり」という集会が開かれました。

13日（月）

【報告】避難所訪問

河北の避難所を訪問。子どもたちの心のケアのためにカウンセラーを派遣し、現状把握を開始しました。

【視察】ルーテル学院大学学長

市川学長とスタッフで石巻市・東松島市を訪問、現状及び今後の支援方法などを調査。

16日（木）

【報告】リバーサイド春圃支援

15日、パソコン２台を支援しました。現在、長期派遣で JELC 飯田教会員がヘルパーとしてボランティアに入っています。

【報告】第１回支援ボランティアチーム協議会開催

15日、前浜で、この地区に関わる諸団体が一同に集まり、今後の復興の在り方について話し合われました。

【報告】在宅支援

15日、気仙沼・常楽の在宅避難者に物資を配達しているスマイル館に、支援物資を届けました。

18日（土）

【報告】仮設住宅支援

16日、バナナを届けました。

【報告】100日慰霊祭

18日、震災後100日を迎え、となりびとのボランティアは、すみちゃんの家の慰霊祭に出席しました。

21日（火）

【報告】ケアカード配布



ルーテル学院大学からのケアカードを、東松島市宮戸島地区に届けました。

23日（木）

【募集】「おすそわけ」プロジェクト

避難所から仮設住宅・自宅に移動する中で、行政からの支援物資などの配布がなくなり、困られています。そこで支援物資の提供を全国の教会に呼び掛け、仮設住宅でのフリーマーケットや被災者を訪問し、配布します。

25日（土）

【報告】河北総合センター（ビッグバン）避難所支援

JELC 牧師２名、ボランティア１名を派遣し、被災者訪問や子どもと遊んだり等の寄り添い活動をしています。

28日（火）

【報告】漁協宮戸西部支所の女性を元気にするパソコン教室

毎週金曜日に宮戸西部支所で開催します。

【視察】チャーチエイド・ノルウェー代表一行

ノルウェー代表、CWS（チャーチワールドサービス）とアメリカから小児精神科医が被災地を訪問しました。

緊急支援期の主な動き(2011年7月1日～31日)

7月1日(金)

【報告】石巻市雄勝町明神避難所支援

避難所に支援物資をお届けしました。

2日(土)

【報告】第2回ボランティアバスパック

今回の目的は、石巻市鮎川地区仮設住宅に花苗をプランターに植えこみ配ること。フリーマーケットを通して被災者のみなさんと交流すること。子どもたちと遊ぶことです。



4日(月)

【報告】石巻の女性を元気にするプロジェクト

石巻市在住の裏千家の先生の協力により、お茶会に被災された女性を招待しました。

6日(水)

【報告】ボランティア100名派遣プラン

WJELCは、Support the Tohoku　ボランティア100名派遣プランを実施中です。

7日(木)

【報告】報告会

JELC九州教区事務所(博多教会)において福岡地区宣教委員会が行われ、立野派遣牧師が活動報告を行いました。

【報告】福島・南相馬市鹿島区仮設住宅支援

JELRでは毎週20万円程度の食糧支援をみちのく応援隊を通じ南相馬市鹿島区仮設住宅にしています。



【報告】宣教フォーラム

2日、JELC東教区第18回宣教フォーラムで震災被災者と被災地を覚え「祈りと支援金」をJLERに奉献。

【報告】気仙沼支援

6日、初めて気仙沼市にボランティアを派遣しました。前浜に移築予定のプレハブの基礎杭になる松の木を伐採して運ぶという作業をしました。また、リバーサイド春圃への介護ボランティア派遣は、るうてるホームから東京老人ホームへと交代しました。

【情報】ボランティア状況

石巻VC受付ボランティアは継続中です。7月に入ってボランティア数がかなり減ってきています。7日は団体もいれて600名ほどだったそうです。



9日(土)

【報告】サッカーボール支援

ドイツから、仮設住宅で暮らす子ども達へとサッカーボールが届けられました。

10日(日)

【報告】第3回ボランティアバスパック

今回は漁協宮戸西部支所の応援隊です。海苔工場清掃、畳搬入、公民館清掃です。日本聖公会の神学生も活動に参加します。



14日(木)

【報告】本地生活センター

石巻市北上町橋浦の本地生活センターを地元のご好意により、13日より宿泊所としてお借りすることができました。伊藤JELC引退牧師がこれから常駐し、センター運営と仮設住宅の家庭訪問をする予定です。

【報告】農業支援

石巻市北上町橋浦で、自然農の田んぼや畑のお手伝いをしています。

【報告】「いっしょに歩こう！となりびと」オフィス完成

14日、聖公会オフィスへの事務所一部移転作業は完了しました。今後スタッフが出勤し、仙台教会から事務作業、スタッフミーティング等の働きが移転します。



17日(日)

【報告】大谷大漁唄い込みコンサート in 山形県最上町

17日、山形で大谷大漁唄い込みコンサートが行なわれました。この地区に暮らす方々のアイデンティティーに深く刻み込まれている大漁唄い込みですが、その機材や衣装、太鼓等もすべて津波に飲み込まれ

てしまいました。JLER はこの地区での地域再生支援を続けます。

23日（土）

【情報】報告会

首都圏（30日：JELC 三鷹教会、31日：JELC 千葉教会）にて、現地スタッフによる報告会を開催します。

26日（火）

【報告】物資支援

25日、宮城県登米市のさくらんぼくらぶにて「ルーテルバザー」を行い、これまでに届けられた食器、衣服、生活用品をバザー形式で配布しました。

【報告】橋浦保育所支援

25日、橋浦保育園に NRK の信徒を派遣し、子どもたちと一緒にゴーヤや花苗を植え、園庭の草取りをしました。

【報告】石巻市雄勝町明神支援

26日、石巻市雄勝町の避難所に漁師の浜清掃用衣料運搬用に、スーツケースを届けました。

【報告】クーラー設置

「となりびと」に、JELC 浜名教会員の協力と支援によりクーラーを設置しました。

27日（水）

【報告】「おすそわけ」プロジェクト

26日、全国の皆さんから届けられた「おすそわけ」を持って、河北の仮設住宅を訪問しました。人気１位はインスタントコーヒー、２位は調味料、３位は小麦粉、４位はソーメンでした。

28日（木）

【視察】LWF アジア局長夫妻

LWF W.チャン夫妻が来訪し、東松島市、石巻市、北上本地、十三浜を訪問しました。

【情報】遺体捜索

田畑で、警察が遺体捜索をしていました。市街地での捜索から、田畑への捜索と範囲は広げられています。

【報告】漁協北上町十三浜支所支援

プレハブの事務所に JELC 浜名教会員の支援によりクーラーを設置しました。

30日（土）

【報告】介護士派遣プロジェクト

リバーサイド春圃にルーテル教会関連施設の介護士をボランティア派遣してきました。静岡のディアコニア、大阪のるうてるホーム、東京の東京老人ホーム、教会員の介護士、合わせて８人のリレーです。

緊急支援期の主な動き（2011年８月１日～31日）

８月１日（月）

【報告】台湾ルーテル教会ボランティア

台湾ルーテル教会から12名のボランティアが、「となりびと」にやってきました。明日は被災地訪問をし、本地に向かいます。３日からは石巻ＶＣで泥かき作業をする予定です。



4日（木）

【視察】LCMS

LCMSから二回目の訪問団が、被災地視察を行いました。

7日（日）

【報告】ライアーコンサートツアー

６・７日、世界的なライアー奏者ジョン・ビリング氏によるライアツアーを仮設住宅等で行いました。

9日（火）

【情報】短期ボランティア募集再開

９月以降のボランティアについて、短期ボランティアの受け入れを一旦停止していましたが、災害ボランティアセンターが継続されることとなりましたので、短期ボランティアの受け入れも継続することとなりました。

10日（水）

【報告】清掃ボランティア

９日、十三浜・大指漁港のわかめ工場・自宅の清掃作業を行いました。



【報告】食事ボランティア

９日、前浜の清涼院避難所で NRK 杉並聖真ルーテル教会北川牧師によるカレーづくりボランティアを行いました。

【報告】プレハブ移転

前浜でのプレハブ移転はおおむね完了しました。

11日（木）

【報告】瓦礫撤去ボランティア

10日、北上の田んぼで瓦礫撤去をしました。

【報告】草取りボランティア

11日、北上の橋浦保育所の園庭草取り作業をしました。

12日（金）

【報告】石巻市北上高齢者生活福祉センター支援

12日、ディサービスセンター「はまぎく」で、ゲートボール場の側溝泥だし、周辺の草取り作業を行いました。



13日（土）

【報告】平磯復興祭準備

13日、前浜の平磯復興祭りの準備を行いました。

16日(火)

【報告】北上ボランティア・コーディネート

北上のボランティア・コーディネート担当者が12日で活動終了することになり、「となりびと」が引き継ぐことになりました。京成バスボランティアの受け入れをしていきます。

20日(土)

【報告】「おすそわけ」プロジェクト

JELC 女性会連盟役員と河北の仮設住宅で４回目の「おすそわけプロジェクト」を行いました。



22日(月)

【報告】物資支援

22日、登米市のさくらんぼくらぶでバザーを行いました。アジア学院の協力もあり、服、食器などを届けました。

23日(火)

【報告】聖公会との協働

ルーテル倉庫を聖公会の物資保管場所として提供しました。

25日(木)

【報告】苗箱洗いボランティア

北上の本地で、苗箱洗いの作業をしました。

【報告】子ども支援

京都からの人形劇を北上の橋浦・相川・吉浜保育所で園児たちと観劇しました。

28日(日)

【報告】漁協宮戸西部支所支援

26・27日、津波で水浸しになった重要書類の乾燥作業を行いました。

【情報】気仙沼カードプロジェクト

前浜の女性とクリスマスカードを作って販売する予定です。

30日(火)

【報告】聖公会との協働

30日、香蘭女学校のボランティアが北上の相川保育所で草取り、窓ガラスの清掃、網戸清掃を行いました。



31日(水)

【報告】「おすそわけ」プロジェクト

31日、「おすそわけ」プロジェクトを行いました。

復旧・復興期の主な動き(2011年９月１日～12月31日)

９月１日(木)

【報告】道路づくりボランティア

１日、北上・十三浜の個人宅道路造り作業を行いました。

5日(月)

【視察】アジア学院農村研修

アジア学院の海外留学生が、農村研修旅行の一環で訪問しました。

【募集】カードプロジェクト

カード作りで使用する端切れ（特に和柄）が不足しています。今回はクリスマスカードを作成し、教会の皆さんに販売します。

7日(水)

【報告】神学校・ルーテル学院大学ボランティア

６日、石巻 VC を通して、住吉町の泥出し、庭の清掃をルーテル神学校の神学生、ルーテル学院生隊が行いました。

【報告】子ども支援

全国の小学校や団体から送られてきた「絵本」を北上の相川保育所に運びました。

【報告】「おすそわけ」プロジェクト

河川団地での４回目の「おすそわけプロジェクト」を行いました。支援物資の内容も日々変化しています。

10日(土)

【報告】すみちゃんの家支援

10日、東松島市小野地区の老人施設「はまなすの里」へ草刈り作業に行きました。

11日(日)

【報告】９.11 特別礼拝

震災から半年を迎えた11日、JELC 仙台教会で「東日本大震災を心にとめ、死者への追悼、被災者への慰め、被災地の再生を求める礼拝」を行いました。

12日(月)

【報告】現地活動報告会

震災発生から半年となる11日、JELC市ヶ谷ルーテルセンターにおいて、本部長の青田牧師、現地の佐藤・遠藤スタッフによる現地活動報告会が行いました。

14日(水)

【報告】瓦礫撤去ボランティア

12日、石巻 VC を通じて牡鹿半島大原浜の山あいの沢での瓦礫撤去作業を行いました。



【報告】瓦洗いボランティア

13日、 北上橋浦の熊谷産業のスレート瓦洗い作業をしました。

【報告】「おすそわけ」プロジェクト
14日、相川団地、大指団地へ物資セットの配布をしました。

15日(木)

【報告】いきいきサロン
15日、本地生活センターで開催された「いきいきサロン」に参加しました。

【報告】「おすそわけ」プロジェクト
15日、にっこり団地で「おすそわけプロジェクト」を行いました。今回のおすそわけには、石巻市社協も参加しました。

16日(金)

【情報】派遣牧師活動終了
16日(金)をもって、立野（JELC事務局長）・伊藤（JELC引退）牧師は派遣牧師の任を終了します。

【情報】「思い出洗い隊」プロジェクト
これからJELC女性会連盟の協力で東松島のグループホーム「すみちゃんの家」の写真をきれいにする「思い出洗い隊」プロジェクトが始まります。

17日(土)

【報告】物資支援
17日はひびき工業団地で子どもたちへのサッカーボール、子ども・大人の冬物衣料のおすそわけを、また、同仮設住宅とその近隣の仮設住宅にオレンジジュース等を配布する段取り行いました。
各戸への配布は、仮設住宅の各自治会で行います。

20日(土)

【報告】スワン支援
18日、スワンと共同で第三回女性のための心の癒し時間イベントのお花教室を開催いたしました。また、スワンの資金作りの一環として「被災地の花」ポストカードを作成し、販売を始めることになりました。

22日(木)

【報告】バザー準備
21日、24日に仮設住宅でバザーが開催される 気仙沼市前浜地区でバザー用の衣類の仕分け作業を行いました。

26日(月)

【報告】お茶っこ会
24日は、天ヶ沢住宅でのお茶っこ会に参加しました。今回のお茶っこ会は地元の20代の女性の発案JLERを含む複数の支援団体の支援で開催しました。

【情報】ミサンガプロジェクト
北上町のトンボ玉作りサークル北上トンボ玉倶楽部が、北上町の女性の仕事作り、生きがい作りの一環として、仮設住宅の集会所やお茶っこ会等でミサンガ作りを行います。そのミサンガの販売支援を行います。

28日(水)

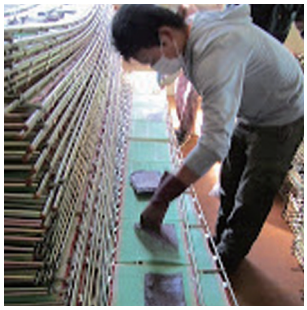
【報告】物資支援
28日、北上町の3保育所とデイサービスセンターの「はまぎく」を訪問し、サッカーボールや物資をお届けしました。

10月1日(土)

【報告】ミサンガ講習会
1日、にっこり団地で始まったミサンガ講習会に参加しました。この講習会の材料費はJLERが支援しています。

2日(日)

【報告】漁協宮戸西部支所支援
1日、宮戸西部支所で、津波で動かなくなった海苔製造機械の中に、震災以後ずっと入りっぱなしになっていた海苔を取り出し、それを1枚1枚剥いでいくという作業を行いました。



4日(火)

【情報】販売支援
にっこり団地集会所等で製作したミサンガ作り販売を開始いたしました。1つ500円での販売です。

【報告】漁協宮戸西部支所支援
3日、宮戸西部支所の依頼で海苔の養殖のためのロープを切る作業をしました。

8日(土)

【報告】とんぼ玉倶楽部支援
8日、とんぼ玉倶楽部の震災後、初めての活動が行われました。

11日(火)

【報告】スワンとの協働
10日、スワンと協働で、今リメイク・キャンドルワークショップを行いました。

27日(火)

【報告】バザー
22日、みやぎ宅老連絡会の紹介で、障がい者の生活支援をしている「サポートセンターころんぶす」で、全国から送られてきた食器や食料品、衣料品などを配布しました。

【報告】物資倉庫整理
26日、仙台市内に借りている佐川急便の倉庫で物資の整理作業を行いました。

28日(水)

【報告】宅老連絡会との協働
今月から宅老連絡会を通して、被災した福祉施設や仙台市内の民間借り上げ住宅の被災者にもおすそわけをお届けしています。

【報告】派遣牧師・支援活動コーディネーター任命
JLERは伊藤牧師(JELC引退)を10月29日から2012年3月31日まで派遣牧師として、立野牧師（JELC事務局長）をルーテル支援活動コーディネーターとして任命しました。

11月2日(水)

【報告】キリスト教支援団体連絡会議
日本キリスト教団石巻山城町教会にて開催されまし

た東北ヘルプの主催のキリスト教支援団体連絡会議に出席しました。

3日(木)

【報告】ボランティア団体連絡会

3日、気仙沼市本吉地区で開催されたボランティア団体連絡会に出席しました。

10日(木)

【報告】ピースボートとの協働

10日、ピースボートが毎週発行している仮設住宅情報新聞を北上町の仮設住宅3カ所に配布しました。

12日(土)

【情報】「おすそわけプロジェクト」終了

物資支援から心のケアへと支援活動が移行していくことに伴い、11月末をもって、おすそわけプロジェクトを終了します。

13日(日)

【報告】コンサート

12日、ひびき工業団では、SLEY（フィンランド・ルーテル福音協会）チームによるミニコンサートが行われました。

16日(水)

【報告】漁協北上町十三浜支所支援

箱メガネ用の板材を届けました。

17日(木)

【報告】さくらんぼ支援

16日、7月から支援をしている登米市のさくらんぼくらぶ（通所介護所）におむつや、石けんなど、施設で使われる消耗品をワゴン車2台で届けました。

19日(金)

【報告】デイサービスセンターおながわ支援

14日より女川町にあるデイサービスセンターおながわへボランティアさんの派遣を開始いたしました。



12月4日(日)

【報告】北上絆感謝祭支援

3日、北上町で、チーム暁主催で行われた『北上絆感謝祭』の支援を行いました。

5日(月)

【報告】物資支援

4日、北上町大須の在宅被災者への毛布配布を行いました。

6日(火)

【報告】六角支援隊との協働

6日、福島県南相馬市の仮設住宅に物資配布を行いました。地元のボランティアグループ・六角支援隊のとの協働作業です。

11日(日)

【情報】活動報告会

JELC東教区では、震災発生から9ヶ月の節目となる11日に活動報告会を行います。

17日(土)

【報告】お茶っこサロン

11月下旬より、河北･北上の仮設住宅の集会所で、定期的なお茶会を開催しています。

19日(月)

【報告】石巻サッカー協会



17日、石巻サッカー協会にサッカーボールとタオルを届けました。

20日(火)

【報告】クリスマス・ハープコンサート

19日、ルーテル学院大学からハーピストがハープ演奏に訪れ、北上の相川保育園、デイケアセンター「はまぎく」、多目的団地の3ヶ所でコンサートが行われました。

28日(水)

【報告】前浜コミュニティーセンター建設支援覚書締結

21日、本部長、前浜地区現地スタッフ、対策本部経理担当と共に、気仙沼市本吉地区の仮設で、前浜地区振興会長、建築委員長と会合を持ち、前浜コミュニティーセンター（振興会会館）建設支援覚書に関する協議をし、22日付で覚書を交わしました。さらに気仙沼市本吉総合支所を訪ね、支所長並びに市議会議員などとも協議の時を持ち、地元の人々の今までの企画・計画を尊重して、会館の具体的実現をについて直接、市に要望しました。

復旧・復興期の主な動き（2012年１月１日～４月30日）

１月15日（日）

【報告】お茶っこサロン

13日、河川団地で民謡、ストレッチ体操等によりお茶っこサロンを行いました。

21日（土）

【報告】お茶っこサロン

20日、河川団地でストレッチ体操と映画『オールウェイズ・三丁目の夕日』鑑賞によりお茶っこサロンを行いました。

26日（木）

【報告】表現教育研究所との協働

25日、北上の相川保育所で表現教育研究所によるわらべうたとアートインAshibinaによるお芝居の上演会が行われました。



27日（金）

【報告】女性の手しごとプロジェクト

北上の女性の手しごとプロジェクトが、毎週月曜日に仮設住宅の集会所を使って作業ができることになり、その初回が23日に行われました。

【報告】花プロジェクト

25日、スワンを中心に、石巻市内の個人宅でお茶会が開催され、石巻に花を植える「花プロジェクト」が立ち上がることになりました。

30日（月）

【情報】ELCA 長期ボランティア

ELCA 復活教会から、青年が長期ボランティアにやってきました。

31日（火）

【報告】お茶っこサロン

31日、多目的団地でストレッチ体操や映画『男はつらいよ』等によりお茶っこサロンを開催しました。

２月１日（水）

【情報】しも子さんのカレンダー

被災した地域の人々を癒し励ます、被災者制作のカレンダーの販売支援を行っています。

３日（金）

【報告】現地対策会議

１日、現地対策会議が JELC 仙台教会において行われ、主に、４月以降のスタッフ体制について協議されました。

６日（月）

【視察】キリスト教保育所園長

関西の園長２名が園の管理者としての防災の学びと子どもの心のケアなどを学ぶことを目的に、北上３保育所を訪問しました。

８日（水）

【来客】スウェーデン人夫妻

７日、三反走団地でのお茶っこサロンにスウェーデンからの夫妻が参加しました。

９日（木）

【報告】お茶っこサロン

８日、河川団地でのお茶っこサロンに初めて男性（92歳）が参加しました。

11日（土）

【報告】お茶っこサロン

９日、飯野川校団地で初めてのお茶っこサロンを開催しました。

15日（水）

【視察】ルーテル学院大学学長

ルーテル学院大学長が来訪し、石巻市社協等を訪問、仮設支援についての調査、協議を行いました。

16日（木）

【報告】お茶っこサロン

15日、にっこり団地でパネルシアターによりお茶っこサロンを開催しました。

17日（金）

【報告】物資整理・すみちゃんの家支援

仙台市内の佐川急便倉庫の物資整理を行い、すみちゃんの家へ必要な物資を届けました。

18日（土）

【報告】介護ボランティア派遣

16日から女川町の特別養護老人ホームおながわへの介護ボランティア派遣を再開しました。

21日（火）

【来客】ELCA 復活教会日本語部

20日、ELCA 復活教会日本語部牧師と信徒が来訪しました。

【報告】新聞スクラップ作業

20日、今後の資料として活用するため現地の新聞のスクラップ作業を行いました。

23日（木）

【募集】第４回ボランティアバスパック

２月29日～３月１日、「再会」と「お茶っこ」をテーマに第４回ボランティアバスパックを行います。

24日（金）

【情報】チェンバロ・チャリティーコンサート

NRK 杉並聖真ルーテル教会主催によるチェンバロ・チャリティーコンサートが３月２日に南方住宅、３月４日に JELC 仙台教会、３月６日に NRK 福島いずみルーテル教会で行われます。

25日（土）

【報告会】「となりびと」活動報告会

25日、JELC 浜松教会で行われた JELC 東海教区女性会総会の中で活動報告を行いました。

28日（火）

【募集】祈りのカードプロジェクト

現在、３月１日にむけ、JELC・JELC 女性会連盟と共に「祈りのカード」を届けるプロジェクトを行っています。

29日(水)

【報告】お茶っこサロン

28日、多目的団地でJELC仙台教会員の琴の演奏による「ひなまつりサロン」を開催しました。



3月4日(日)

【報告】講演会支援

3日、東松島市コミュニティーセンターで行われた講演会の支援を行いました。

8日(木)

【報告】お茶っこサロン

7日、にっこり団地でお茶っこサロンを開催しました。今日は、4月から協働でお茶っこサロンを展開するために「パルシック」「リオグランテ」「ピースボート」のスタッフが見学に来ておられました。「ピースボート」とは14日に合同でお茶っこサロンを行うことになりました。

11日(日)

【報告】イベント支援

10日、津波によって破壊された仙石線をよみがえらせようという「走れ！仙石線」のイベント支援を行いました。

14日(水)

【報告】「歩む会」支援

13日、車いすダンスサークル「歩む会」を訪問し、今後の支援について相談しました。



15日(木)

【報告】ピースボートとの協働

14日、にっこり団地でピースボート(主催)との協働により木製プランターを設置しました。

16日(金)

【報告】物資整理と福島支援

15日、仙台市内の佐川急便倉庫の物資整理をしました。この倉庫は震災の年の3月から支援物資保管のために1区画を借りています。今回、福島から物資の要望がまだあることを知り、支援することにしました。

23日(金)

【報告】漁協宮戸西部支所支援

22日、事務作業支援を行いました。

29日(木)

【報告】支援コンサート

アメリカ・ウィッドビー島のトリニティ・ルーテル教会にて、支援コンサートが行われました。

31日(土)

【報告】派遣牧師交代

4月1日より伊藤牧師(JELC引退)に代わり、野口牧師(JELC)が派遣牧師に就任します。

4月6日(金)

【報告】コミュニティーセンター再建支援

1日、前浜で建築用の地元木材の伐採作業が地域の人々によって行われました。

【報告】お茶っこサロン

4・5日、ノルウェーと神戸からの阪神淡路大震災後の仮設での支援経験をもつボランティアの参加により三反走団地・飯野川校団地でお茶っこサロンを行いました。

11日(水)

【報告】お茶っこサロン

11日、三反走団地でアメリカ・オハイオ州からやってきた親子と共に、お茶っこサロンを行いました。

12日(木)

【報告】JLER対策本部会議

12日、対策本部会議が、JELC市ケ谷センター別館で行われました。JLERを構成する四ルーテル教会の代表が集まり、4月からの新しい体制と今後の活動方針・内容について確認しました。

4月18日(水)

【報告】北上地区情報交換会

17日、北上で支援活動を行っている二団体との情報交換会を行いました。

【報告】漁協宮戸西部支所支援

18日、事務支援を行いました。

21日(土)

【報告】キリスト教系ボランティア団体情報交換会

20日、石巻エリアで支援活動を行っているキリスト教系ボランティア団体活動報告と情報交換会が日本キリスト教団石巻山城町教会で行われました。

24日(火)

【報告】お茶っこサロン

23日、フィンランドからのボランティアを迎え、河川団地でお茶っこサロンを行いました。

25日(水)

【報告】お茶っこサロン

25日、三反走団地でJELC仙台教会員による手話教室とDVD鑑賞によりお茶っこサロンを行いました。

28日(土)

【募集】お茶っこサロン用お菓子

現在、「となりびと」では、河北・北上の五ケ所の仮設住宅集会所で、定期的にお茶っこサロンを開催しています。そのお茶っこでのお菓子の提供教会を募集します。

30日(月)

【来客】ブラジル宣教師

29日、宣教師夫妻が信徒と共に被災地を訪問しました。



復旧・復興期の主な動き（2012年５月１日～８月31日）

５月３日（木）

【報告】支援品販売
２・３日、JELC 定期総会で支援品販売を行いました。

４日（金）

【報告】わかめ封入作業ボランティア
３・４日、漁協北上町十三浜支所でわかめ封入作業ボランティアを行いました。

９日（水）

【報告】お茶っこサロン
８日、河川団地で大人の塗り絵によるお茶っこサロンを行いました。

【報告】お茶っこサロン
９日、にっこり団地で琴の演奏と体験によるお茶っこサロンを行いました。

11日（金）

【視察】ドイツの教会員
９日、ドイツの教会員が現地調査のため来訪しました。



16日（水）

【報告】漁協宮戸西部支所支援
15日、ルーテル学院大学学生ボランティアがパソコンの入力作業等を行いました。

【報告】お茶っこサロン
15日、河川団地で JELC 仙台教会員の楽しい手話教室によってお茶っこサロンを行いました。

23日（水）

【報告】支援品販売
KELC 桔梗が丘教会のバザーで支援品販売が行われました。

24日（木）

【報告】お茶っこサロン
22日、飯野川校団地と河川団地で健康体操によりお茶っこサロンを行いました。

25日（金）

【報告】草取りボランティア
23日、北上の特別養護老人ホームきたかみで施設の周りの草取りを行いました。

６月２日（土）

【視察】ELCA
５月30・31日、世界宣教局アジア太平洋州部長が、「となりびと」の支援活動の現状確認のため訪問しました。

７日（木）

【報告】お茶っこサロン
５日、河川団地で DVD（おしん）鑑賞によるお茶っこサロンを行いました。

11日（月）

【報告】お茶っこサロン
７日、飯野川校団地で NRK 札幌中央ルーテル教会員によるマッサージと DVD（おしん）鑑賞によってお茶っこサロンを行いました。

14日（木）

【報告】鼻笛コンサート
12日、午前は多目的団地で、午後はリバーサイド春圃で鼻笛コンサートを行いました。

21日（木）

【報告】ルーテル学院大学
付属包括的臨床死生学研究所との協働
17日、すみちゃんの家で、介護者のための研修会を開催しました。



【来客】JELC 津田沼教会
21日、津田沼教会員が、船橋市夏見母子ホームの子どもたちが作った折鶴のポスターと共に被災地を訪問しました。

【報告】花プロジェクト
23日、石巻市内の被災地で、被災地の心の癒しのために、被災者と共に花畑を作るプロジェクトをスワンの主催で行いました。

30日（土）

【報告】仮設サロン支援連絡会
28日、仮設サロン支援連絡会が行われました。

７月３日（火）

【情報】ウィッドビー・ジャパン・ベネフィット
アメリカのウィッドビー島で震災の支援活動をしているグループが、ブログで「となりびと」を紹介してくれました。

４日（水）

【視察】ルーテル学院大学学長
２日、ルーテル学院大学学長市川学長と共に、石巻市の災害復興支援関係機関の関係者に、現在の復興状況及び今後の支援内容等についての聞き取り調査を行いました。

【報告】お茶っこサロン
３日、飯野川校団地で、KELC 東垂水教会牧師夫妻の狂言風お芝居と DVD（おしん）鑑賞によるお茶っこサロンを行いました。

６日（金）

【報告】「つるしびな」プロジェクト準備
５日、河北ボランティア友の会会員宅で、仮設住宅での「つるしびな」製作準備講習会が行われました。

【情報】ボランティアニーズの状況

「となりびと」では、一人でも多くのボランティアの受け入れを考えていますが、現地でのボランティアニーズは、被災直後に比べ非常に減っているのが現状です。

10日(火)

【報告】お茶っこサロン

10日、にっこり団地で JELC なごや希望教会員によるキルト体験でお茶っこサロンを行いました。

【報告】キルト鍋敷き配布

10日、JELC 名古屋地区製作のキルトのなべ敷きを、KELC 牧師の協力によりにっこり団地で配布しました。

14日(土)

【報告】ベンチプロジェクト

14日、大森第３団地で団地の周りで使うベンチを住民と一緒に作りました。



【来客】JELC 教区長会

11日、JELC 教区長会一行が「となりびと」を訪問しました。

18日(水)

【報告】物資整理

NRK 戸塚ルーテル教会員と最後の物資整理作業を行いました。

22日(日)

【報告】花プロジェクト

８月21日、スワン主催の花プロジェクトを石巻市内で行いました。

【募集】夏祭り用花火

８月12日に東松島市の仮設住宅で行われる夏祭の子ども用の花火を募集します。

26日(木)

【情報】南相馬の現状

26日、福島県南相馬市の支援先、六角支援隊の案内で、最近まで立ち入り禁止区域であった福島原発20km圏内を訪問しました。街の中心は人影もまばらで、建物を解体する重機だけがやけに目立っていました。また、海岸線は未だ手つかずのところも多く、被災した車や船や鉄道が夏草に覆われていました。

８月３日(金)

【報告】歩む会支援

７月31日、８月１日の２日間、開催された「川開き祭り」パレードに参加する歩む会の車いすダンス支援を行いました。

【報告】「つるしびな」プロジェクト

２日から河北ボランティア友の会指導による「つるしびなプロジェクト」が三反走団地で始まりました。

11日(土)

【報告】ボランティア体験

８日、聖望学園ハイスクール YMCA メンバーが河川団地でのお茶っこサロンで歌と押し花づくりのボランティアを行いました。また、横浜英和小学校の子どもたちが心をこめて作ったリボンレイを配布しました。

13日(月)

【報告】ベンチプロジェクト

10日、大森第４団地で二回目のベンチづくりプロジェクトを行いました。

【報告】ハンドベル・コンサート

12日、ルーテル学院高校ハンドベル部が、鶴ケ谷教会の主日礼拝の中でハンドベルによる讃美を、大森第３団地でハンドベル・コンサートを開催しました。

22日(水)

【報告】報告会

20日、JELC 豊中教会、22日、JELC 法人会連合全体研修会で報告会を行いました。

【募集】女性スタッフ

現在、仮設サロン支援等のための女性専従スタッフを募集しています。

23日(木)

【報告】仮設住宅夏祭り準備

23日、JELC 仙台教会にて、ルーテル学院大学学生ボランティア、KELC ボランティア、JELC 仙台教会員などで仮設住宅での夏祭りの準備を行いました。



【報告】仮設住宅夏祭り支援

25日、大森団地夏祭り支援を行いました。

29日(水)

【報告】支援品販売

25日、鶴ケ谷希望園40周年記念バザーにて支援品販売を行いました。

30日(木)

【報告】「つるしびな」プロジェクト

河北ボランティア友の会との「つるしびな」プロジェクトが、29日、河川団地でスタートしました。

31日(金)

【報告】コミュニティセンター再建支援

30・31日、建築用材木の乾燥作業が、登米市の製材所で地域の人と共に行われました。

復旧・復興期の主な動き(2012年９月１日～12月31日)

９月４日(火)

【来客】JELC 牧師

３・４日、JELC 東京教会と JELC 甲府・諏訪教会の牧師が被災地を訪問しました。

６日(木)

【報告】YMCA との協働

５日の多目的団地でのお茶っこサロンは、神戸女学院 YMCA メンバーとのジョイントお茶っこサロンとなりました。

７日(金)

【報告】コミュニティセンター再建支援

７日、木材加工作業を登米市で行いました。

11日(火)

【祈り】震災から１年半

11日で東日本大震災が発生してから一年半。警察庁の10日現在のまとめで、死者15,870人、行方不明者2,814人、避難生活者約34万人です。どうぞ、これからも引き続き被災地を覚えてお祈りください。

15日(土)

【報告】漁協石巻地区支所支援

13日、石巻地区の九つの浜の代表者が集まる運営員会に出席し、今後の支援活動の内容に関する説明会を行いました。

19日(水)

【報告】コミュニティセンター再建支援

建設用地の造成工事が始まりました。

23日(日)

【報告】報告会・支援品販売

聖望学園 YMCA メンバーが高校の文化祭でボランティア報告及び支援品販売を行いました。

26日(水)

【報告】宅老連絡会支援

25日、石巻市河南地区の仮設住宅談話室でお茶っこサロンを開催した宅老連絡会の支援を行いました。

27日(木)

【報告】表現教育研究所との協働

25日、多目的団地でのお茶っこサロンは表現教育研究所の連携団体、山の音楽舎による「お茶っこうたっこ」を行いました。

【報告】表現教育研究所との協働

26日、河川団地でのお茶っこサロンは、表現教育研究所の連携団体、太鼓と芝居のたまっ子座による和太鼓公演を行いました。

28日(金)

【報告】お茶っこサロン

26日、NRK 札幌中央ルーテル教会で用意した巾着・エプロン・ミニバッグ・エコバックなどのキットを用いてにっこり団地でお茶っこサロンを行いました。

29日(土)

【報告】製材ボランティア



25日～28日、JELC 池袋教会員がコミュニティセンター再建のための製材ボランティアを行いました。

【報告】リバーサイド春圃支援

28日、表現教育研究所の連携団体、太鼓と芝居のたまっ子座と山の音楽舎により、リバーサイド春圃で太鼓とわらべ歌のプログラム支援を行いました。

10月２日(火)

【募集】「つるしびな」プロジェクト

このプロジェクトに関して、次の三点を募集します。

1．仮設住宅集会所で行われる「つるしびな」製作に一緒に参加するボランティア。
2．「つるしびな」製作に必要な材料。
3．「つるしびな」製作に提供する茶菓子の募集。

４日(木)

【報告】お茶っこサロン

３日、大森第２団地で、はじめてのお茶っこサロンをDVD(おしん)鑑賞会により開催しました。

17日(水)

【報告】宅老連絡会支援

16日、宅老連絡会が仮設赤羽根団地で開催したお茶っこサロンの支援を行いました。

19日(金)

【報告】「つるしびな」プロジェクト



19日、東京からのボランティアを迎え、飯野川校団地で「つるしびな」製作を行いました。

24日(水)

【報告】支援品販売

JELC 東京池袋教会バザーで支援品販売が行われました。

30日(火)

【報告】漁協石巻地区支所支援

27日、漁具倉庫兼共同作業所建設予定地の一つである田代島を訪問しました。

【情報】石巻市健康・生活復興フォーラム

29日、石巻専修大学で石巻市長をはじめ行政やNPO・NGO など震災支援活動を行っている団体が一堂に会してフォーラムが開催されました。

11月４日(日)

【防災・減災教育】被災地訪問

１・２日、JELC 二日市教会員が防災・減災教育の一環として東松島市から石巻市、南三陸町の被災地を訪問しました。

６日(火)

【報告】報告会・支援品販売

３・４日、ルーテル学院大学愛祭で、ボランティア

活動報告会及び支援品販売が行われました。

8日(木)

【報告】仙台 YMCA 訪問

5日、地元の様々な NGO・NPO・ボランティア団体との協働支援活動のため、仙台 YMCA を訪問しました。

【報告】集会所改善

7日、にっこり団地集会所の台所改善を行いました。

9日(金)

【報告】JELC 東教区バスボランティアパック

8・9日、JELC 東教区バスボランティアパックが実施されました。

11日(日)

【報告】第2回走れ仙石線

JR 仙石線の不通区間にある東松島市の東名(とうな)駅周辺で一日も早い仙石線全通を願い、地域イベント「第二回『走れ仙石線』」が開催され、支援を行いました。



13日(火)

【報告】花プロジェクト

10日、石巻市内の花壇にスワンと地域住民が、花を植えました。

20日(火)

【情報】コミュニティセンター再建支援

建設委員会ブログが開設されました。

29日(木)

【報告】報告会・支援品販売

23日、JELC 松本教会にて、甲信地区「信徒の集い」が行われ、その中で活動報告及び支援品販売を行いました。

【報告】物資支援

27日、東京から届いた布団を、すみちゃんの家に届けました。

【報告】子ども支援

28日、今後の被災児支援に必要な物資をアシストに提供しました。

12月3日(月)

【報告】石巻市社協福祉フォーラム

1日、石巻専修大学で行われ、これまでの社協の東日本大震災への取り組みと今後の展望等について協議、提案されました。

8日(土)

【報告】クリスマス・ハープコンサート

4日、ルーテル学院大学・NRK・LCMS の協働により、クリスマス・ハープコンサートが相川保育所、ディサービスセンターはまぎく、多目的団地で行われました。

【視察】LCMS

4・5日、震災支援の視察のため LCMS 牧師が北上・河北で行われたハープコンサートと前浜コミニュティセンターを訪問しました。

【視察】JELC 東教区女性会

5・6日、JELC 東教区女性会メンバーが被災地を訪問しました。

【情報】津波警報

7日、最大震度5弱の地震が発生し、宮城県沿岸部には津波警報が発令されました。

【報告】コミュニティーセンター再建支援

8日、登米市の製材所で建築資材の運び出しを行いました。

14日(金)

【報告】コミュニティセンター再建支援

13日、地鎮祭が執り行われました。また、今回のコミュニティセンター建設支援団体であるルーテル教会救援と公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の担当者立ち会いの下、建設委員会と建設業者の間で、契約書を取り交わしました。

20日(木)

【情報】東日本大震災を記憶するための いくつかの映画と写真展

15日、仙台市の「せんだいメディアテーク」で、特別上映・展示「東日本大震災を記憶するためのいくつかの映画と写真展」が開催されました。

21日(金)

【報告】炊き出し

19日、福島県南相馬市の小池第3住宅で NRK 杉並聖真ルーテル教会・大宮シオンルーテル教会の支援と六角支援隊の協力によりカレーの炊き出しを行いました。



【情報】福島第一原発20KM 圏内警戒区域内

六角支援隊の案内で、福島第一原発20KM 圏内警戒区域内を訪問しました。20KM 圏内は、震災が経過した1年9ケ月たった今も、人が住むことができない夜間出入禁止区域となっています。

【報告】「つるしびな」プロジェクト

20日、今年最後の「つしびな」製作を飯野川校団地で行いました。

【報告】クリスマスプレゼント

20・21日と支援先からクリスマスプレゼントが届きました。また、全国から仮設住民のためのクリスマスやお正月グッズも届いています。

25日(火)

【報告】ひびき工業団地支援

22日、KELC 鈴鹿教会から提供された自治会主催のクリスマス会用クリスマスプレゼントを届けました。

【報告】コミュニティセンター再建支援

9月に始まった造成工事が11月に完了し、各種申請関係も終わり、19日から本体工事が始まりました。

復旧・復興期の主な動き（2013年１月１日～４月30日）

１月11日（金）

【情報】コミュニティセンター再建支援
再建の様子が13日午後３時15分～４時30分、ＮＨＫ総合の「復興サポート“地域の心”をつなぎたい～岩手・釜石市～」で紹介されます。

【報告】「つるしびな」プロジェクト
10日、三反走団地で、今年、最初の「つるしびな」製作が始まりました。

16日（水）

【報告】お茶っこサロン
15日、多目的団地でDVD（おしん）鑑賞会とパソコン教室希望調査によるお茶っこサロンを行いました。



18日（金）

【報告】子ども支援
17日、河川団地において、石巻市内で子ども支援をしている二団体の担当者と被災地での子どもたちの状況と今後の支援内容等についての情報交換会を行いました。

19日（金）

【報告】コミュニティセンター再建支援
18日、基礎となる生コンクリートを流し込む作業が行われました。

20日（日）

【情報】機関紙掲載
「つるしびな」プロジェクトが石巻市社協機関紙に掲載されました。

24日（木）

【情報】お茶っこサロン
22日、WJELC牧師と信徒の阿波踊り実演と体験によるお茶っこサロンを大森第４団地で行いました。

31日（木）

【報告】お茶っこサロン
NRK札幌中央ルーテル教会員により、29日は多目的団地でリフレクソロジー、30日はにっこり団地で手芸によるお茶っこサロンを行いました。

【報告】子ども支援
30日、アシストの今後の支援のため、YMCAスタッフらと共に、実際のプログラム体験と今後についての話し合いをしました。

【報告】「つるしびな」プロジェクト
31日、教会ボランティアに加え、YMCAメンバーも加わり、「つるしびな」製作に取り組みました。

２月８日（金）

【報告】防災・減災教育
５・６日、JELC湯河原・小田原教会牧師と共に、石巻市内最大被災地である門脇、南浜地区と大川小学校等を訪問しました。

【報告】「つるしびな」プロジェクト
７日、三反走団地でエマオ石巻スタッフとJELC湯河原・小田原教会牧師も加わった「つるしびな」製作を行いました。

11日（火）

【報告】ボランティア体験
10日から２週間の予定で、ドイツ人ボランティアが来仙しました。

15日（金）

【報告】ボランティア体験
13日、ドイツ人ボランティアが多目的団地で行われたアシストの被災児支援プログラムに参加しました。

【報告】「つるしびな」プロジェクト
14日、河川団地での最後の「つるしびな」製作を行いました。

17日（日）

【報告】ボランティア体験
15日、ドイツ人ボランティアは石巻市にあるファミリーホーム「子どもの家きむら」を訪問しました。

【報告】ボランティア体験
16日、ドイツ人ボランティアは前浜コミュニティセンター建設地で作業所の壁はりワークショップに参加しました。

20日（水）

【報告】「つるしびな」プロジェクト
18日、地元公民館で「つるしびな」の最終仕上げ作業が行われました。

【報告】ボランティア体験
18日、ドイツ人ボランティアは、YMCAの大学生ボランティアと一緒に石巻市内の学童保育所で、ボランティア体験をしました。



23日（土）

【報告】ボランティア体験
20日、ドイツ人ボランティアは、仙台市泉区内の児童センターでボランティア体験をしました。

26日（火）

【報告】漁協石巻地区支所支援
石巻市の半島部で予定している漁具倉庫再建支援の建設工事が始まりました。

３月１日（金）

【報告】コミュニティセンター再建支援
24日から外壁となる杉板を焼くワークショップが始まりました。

２日（土）

【報告】「つるしびな」プロジェクト
１日、３仮設住宅住民、河北ボランティア友の会メンバー、石巻市社協河北支所職員、ルーテル教会関係者、約50人が一堂に集い、「つるしびな」完成感謝交流会を三反走団地で行いました。

３日（日）

【報告】「つるしびな」プロジェクト
２日、「大川ふるさと祭り」が、河北総合センター「ビッグバン」で開催され、会場入口ロビーに「つ

るしびな」が展示されました。また、この展示の見学会を行いました。

5日(火)

【報告】「つるしびな」プロジェクト

4日、「つるしびな」贈呈式を三反走・飯野川校・河川団地で行いました。また、贈呈式の前には、感謝食事会が行われました。

10日(日)

【情報】地元紙掲載

先日、三反走団地で開催しました「つるしびな」完成感謝交流会の様子が石巻日日新聞に掲載されました。

12日(火)

【情報】記念礼拝・報告会・「つるしびな」全国巡回展

11日、JELC東京教会にて、「東日本大震災より二年を数えて『礼拝と報告会』」が開催され記念礼拝・報告会・「つるしびな」展示を行いました。

16日(土)

【報告】スタディツアー

今回の震災体験を元に、近い将来、予想される南海トラフ巨大地震等に備えた防災・減災教育プログラムを本格的に開始します。14日から、その第一弾としてルーテル学院大学が三泊四日予定でこのプログラムに参加しました。

【報告】報告会

16日、ルーテル学院東北地区同窓会で活動報告を行いました。

23日(土)

【報告】報告会・「つるしびな」全国巡回展・支援品販売

20日、JELC東教区定期総会で、活動報告と「つるしびな」展示、支援品販売を行いました。

【報告】東日本大震災支援全国ネットワーク会議

21日、東日本大震災支援全国ネットワーク会議が「3年目の支援について考える」というテーマにより石巻専修大学で開催されました。

27日(水)

【報告】お茶っこサロン

26日、大森第2団地で、久しぶりのお茶っこサロンを行いました。

30日(土)

【報告】スタディツアー

27日から30日まで聖望学園YMCAスタディツアーが行われました。



4月6日(土)

【視察】LCMS

5日、LCMS及びNRK一行が視察のため来仙しました。

8日(月)

【報告】シンポジウム「みやぎボイス」

7日、北上で支援活動を行っている団体等のシンポジウム「みやぎボイス」が仙台市内で開催され、その中でJLERが北上で行ってきた支援活動についての報告を行いました。

12日(金)

【報告】お茶っこサロン

11日、多目的団地で久しぶりの「おしん」鑑賞会によるお茶っこサロンを行いました。

15日(月)

【報告】コミュニティセンター再建支援

13日、5月3日に行われる上棟式の打ち合わせが、建設現場で行われました。

17日(水)

【報告】ライアーコンサート

17～19日、気仙沼市、登米市、石巻市、東松島市、利府町の支援先等でライアーコンサートが開催されました。

22日(月)

【報告】ピヨピヨコーラス隊コンサート

18・19日、ピヨピヨコーラス隊(平均年齢75才)のコンサートが大森第4団地と南方住宅で行われました。



23日(火)

【報告】神楽衣装縫製ボランティア

2012年の年末から始めた神楽衣装縫製ボランティアが無事完了しました。

27日(土)

【報告】コミュニティセンター再建支援

基礎工事が終了し、今週から建て方作業が始まりました。

【報告】講演会・報告会・「つるしびな」全国巡回展

24日、ルーテル学院大学でクヌーテン講演会が開催され、報告会及び「つるしびな」展示が行われました。

【報告】四ルーテル議長会及びJLER対策本部会議

25日、四ルーテル議長会及びJLER対策本部会議が行われ、活動最終年度に向け、方針などが確認されました。

30日(火)

【報告】「つるしびな」全国巡回展

20日、JLER挙母教会で「つるしびな」展示が行なわれました。

復旧・復興期の主な動き（2013年５月１日～８月31日）

５月２日（木）

【報告】「つるしびな」全国巡回展

４月29・30日、NRK 伝道フォーラム全国大会で「つるしびな」展示が行われました。

６日（木）

【報告】報告会

聖望学園高校 YMCA メンバーが４月22日(月)～24日(水)、聖望学園中学・ 高校での礼拝の中で報告会を行いました。

７日（火）

【報告】コミュニティセンター再建支援

３日、上棟式が行われました。

【報告】大室南部神楽復活公演

４日、JLER が支援した北上の漁業倉庫で大室南部神楽復活公演がありました。

11日（土）

【報告】「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

４日、JELC 東教区50周年記念大会で「つるしびな」展示と JELC 東教区女性会による支援品販売が行われました。

【報告】お茶っこサロン

８～10日、NRK 札幌中央ルーテル教会員によるお茶っこサロンが多目的・にっこり・飯野川校団地で行われました。飯野川校団地ではカウンセリング学会と協働で行いました。



13日（月）

【報告】支援品販売

三重県の KELC 桔梗が丘ルーテル教会バザーで支援品販売が行われました。

21日（火）

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展

18日、NRK 北海道地区「女性の集い」で、報告会と「つるしびな」展示が行われました。

23日（木）

【報告】お茶っこサロン

６日、仮設雄勝森林団地で言語聴覚士によるお茶っこサロンを行いました。

【報告】「つるしびな」全国巡回展

20・21日、WJELC 牧師会で「つるしびな」展示が行われました。

30日（木）

【報告】お茶っこサロン

30日、大森第２団地で言語聴覚士による「頭と口の健康体操」と DVD（おしん）鑑賞会によるお茶っこサロンを行いました。

６月１日（土）

【報告】お花プロジェクト

１日、東松島市内でスワンと共に、被災者の方の土地を借りて、被災地をお花畑に変えるプロジェクトを行いました。

３日（月）

【報告】コミュニティセンター再建支援

現在、住民ワークショップで焼いた杉板を張り巡らす外壁工事が進んでいます。

８日（土）

【報告】リバーサイド春圃支援

４・５日、リバーサイド春圃での引っ越しを、スタッフとボランティアで行いました。



10日（月）

【報告】「つるしびな」全国巡回展

２～４日、アメリカ・サウスカロライナで開催された2013年サウスカロライナ・ルーテル教会総会の会場にて「つるしびな」展示が行われました。

13日（木）

【報告】お茶っこサロン

11～13日、河川・多目的・大森第２団地で DVD（おしん）鑑賞によるお茶っこサロンを行いました。

18日（火）

【報告】「つるしびな」全国巡回展

16日、JELC 博多教会で「つるしびな」展示が行われました。

21日（金）

【報告】六角支援隊訪問

18日、六角支援隊を訪問し、福島県南相馬市及び建設支援を行ったビニールハウスの利用状況等を確認しました。

25日（火）

【報告】リバーサイド春圃支援

19・20日、リバーサイド春圃での引っ越しを行いました。

26日（水）

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

22日、JELC 九州教区女性会修養会で報告会、「つるしびな」展示、支援品販売が行われました。

29日（土）

【報告】社協北上支所支援

26日、石巻市社協北上支所で花壇づくりを行いました。

７月１日（月）

【報告】スタディツアー

６月28・29日、文教大学スタディツアーを行いました。

２日（火）

【報告】コミュニティセンター再建支援

６月29日、ワークショップと建設委員会が開催されました。

４日（木）

【報告】防災・減災教育、「つるしびな」全国巡回展

６月30日、NRK 鵠沼めぐみルーテル教会で、防災講演会と「つるしびな」展示が行われました。

8日(月)

【報告】現地見学会

5～7日、第1回JELC女性会連盟・東教区女性会メンバーによる現地見学会(復興ツアー)を行いました。

11日(木)

【報告】手のひらに太陽の家支援

10日、福島の親子のための森林ディキャンプ送迎バス費用支援を行った森林ディキャンプを見学しました。

16日(火)

【報告】スタディツアー

13日、第1回定例スタディツアーを東松島市・石巻市で開催しました。

18日(木)

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

14・15日、JELC南九州群修養会（宮崎・鹿児島・阿久根教会）で、報告会、つるしびな展示、支援品販売を行いました。

20日(土)

【報告】コミュニティセンター再建支援

20日、足場が取れ、外観はほぼ完成しています。

24日(水)

【報告】宅老連絡会との協働

24日、宅老連絡会との協働による第1回介護職員のための古武術介護講座を石巻市で行いました。



28日(日)

【来客】シンガポール・ビショップ

23日、KELC総会議長・牧師と共にシンガポール・ビショップが「となりびと」を訪問しました。

【報告】議長会・対策本部会議

26日、四ルーテル議長会、JLER対策本部会議が行われ、活動終結方法についての協議が行われました。

29日(月)

【報告】コミュニティセンター再建支援

27日、縁側床張りワークショップが行われました。

31日(水)

【報告】スタディツアー

28～30日、聖望学園YMCAスタディツアーが行われました。

8月1日(水)

【報告】歩む会支援

31日、石巻川開き祭りアクアパレードに車イスダンスで出演した歩む会の支援を行いました。

9日(金)

【報告】子ども支援

2日、大森第三団地で行われた、アシスト主催の子ども支援プログラムの支援を行いました。

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

4日、JELC熊本教会にて、報告会及び「つるしびな」展示、支援品販売を行いました。

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展

5日、JELC九州教区中高生キャンプで、報告会、「つるしびな」展示を行いました。

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展

6日、JELC幼稚園・保育園連合研修会で報告会、「つるしびな」展示を行いました。

【報告】仮設支援会議

8日、石巻市で仮設支援会議が行われました。被災地支援の主体が外部団体から地元団体へと交代する時期に被災地は入っています。

15日(木)

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

11日、WJELC吉野川教会、東徳島教会で報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売を行いました。

【報告】「つるしびな」全国巡回展

15・16日、カトリック/ルーテル国際会議で「つるしびな」展示が行われました。

24日(土)

【報告】自治会支援

22・23日、ルーテル学院大学学生ボランティアとKELC鈴鹿教会員と共に、大森団地夏祭りの準備を行いました。



25日(日)

【報告】自治会支援

24日、ルーテル学院大学学生ボランティアと共に大森団地夏祭りの支援を行いました。

28日(水)

【報告】スタディツアー

24日、旭ヶ丘母子ホーム中高生スタディツアーを行いました。

29日(木)

【報告】宅老連絡会との協働

22日、宮城県大河原町で、宅老連絡会と協働による第2回古武術介護講座を開催しました。

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

28日、「るうてる法人連合会総会」で報告会、「つるしびな」展示、支援品販売を行いました。

30日(金)

【報告】漁協石巻地区支所支援

27～28日、牡鹿半島で完成した共同漁具倉庫の引き渡し式を行いました。

支援終結期の主な動き（2013年９月１日～12月31日）

９月１日（日）

【報告】宅老連絡会との協働

８月30日、宅老連絡会と共催で「対人援助職のためのサポート講座」を東松島市で開催しました。

16日（月）

【報告】コミュニティセンター再建支援

15日、落成式が行われました。

17日（火）

【情報】コミュニティセンター再建支援

15・16日、地元紙『河北新報』と仙台放送で落成式の様子が報道されました。

23日（月）

【視察】JELC 事務局長

２日、JELC 事務局長が、前浜コミュニティセンターを訪問されました。

【報告】現地見学会

６・７日、第２回 JELC 女性会連盟主催の現地見学会（復興ツアー）を行いました。

【報告】現地見学会

９～11日、大阪の JELC 豊中教会の現地見学会（復興ツアー）が行われました。

25日（水）

【報告】宅老連絡会との協働

20日、宅老連絡会との共催で「第３回古武術介護講座」を宮城県の内陸で開催しました。

【報告】スタディツアー

21～23日、第２回定例スタディツアーを開催しました。

29日（日）

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

22・23日、JELC 西教区女性会修養会・西教区50周年記念大会で報告会、「つるしびな」展示、支援品販売を行いました。

【報告】防災講演会

28日、神戸ルーテル聖書学院で防災講演会を開催しました。

【報告】講演会

28日、仙台市内で講演会「震災後の心のケアと宗教者の役割」が開催されました。

10月２日（水）

【報告】お茶っこサロン

９月14日、NRK 札幌中央ルーテル教会員による手芸によりにっこり団地でお茶っこサロンを行いました。

【報告】自治会支援

９月25日、大森第３団地でパソコン教室を行いました。

【報告】お茶っこサロン

９月27日、多目的団地で DVD（おしん）鑑賞会によるお茶っこサロンを行いました。

４日（金）

【報告】「つるしびな」全国巡回展

14日、JELC 東海教区伝道セミナー（JELC みのり教会）、21日、NRK 旭川パウロルーテル教会講演会、28日、WJELC 防災講演会（神戸ルーテル聖書学院）、29日、WJELC 西須磨教会、NRK 札幌中央ルーテル教会で「つるしびな」展示を行いました。

７日（月）

【報告】「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

５日、JELC 東教区女性会会長会で報告会、「つるしびな」展示及び支援品販売を行いました。

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

６日、JELC 津田沼教会で、報告会、「つるしびな」展示及び支援品販売を行いました。

【報告】「つるしびな」全国巡回展

12日、JELC 東海教区女性会で「つるしびな」展示が行われました。

20日（日）

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

12日、JELC 札幌教会札幌北礼拝堂で報告会と支援品販売を行いました。

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売

13日、JELC 札幌教会札幌礼拝堂教会学校で報告会を、JELC 札幌教会札幌礼拝堂で報告会と「つるしびな」展示、支援品販売を行いました。

【報告】報告会

14日、JELC 北海道地区一日神学校で「つるしびな」展示、支援品販売を行いました。

22日（火）

【報告】防災講演会

19日、WJELC 米子教会で防災講演会を開催しました。

23日（水）

【報告】宅老連絡会との協働

23日、宅老連絡会との共催により、仙台市宮城野区市民センターで「対人援助職のためのサポート講座」を開催しました。

25日（水）

【報告】布ぞうり講習会

６日、大森第3団地で「布ぞうり講習会」を開催しました。

【報告】「つるしびな」全国巡回展

19・20日、JELC 帯広教会帯広・池田・釧路礼拝堂にて「つるしびな」展示が行われました。

【報告】手芸クラブ支援

22日、大森第３団地で大森コスモス会が大阪のるうてるホームから提案された「ふうせんかづらのおさる作り」を行いました。

【報告】自治会支援

23日、大森第３団地で BHN テレコム支援協議会との協働によりパソコン教室を行いました。

【情報】伝える学校

19日、仙台市市民活動サポートセンターで、今回の震災の記録をどのように伝えるかをテーマに「伝える学校」が開催されました。

【報告】現地見学会

22～24日、NRK 現地見学会を行いました。

30日（水）

【報告】スタディツアー

30日、第３回定例スタディツアーを福島県南相馬

市で開催しました。

11月2日(土)

【報告】現地見学会
10月29日～31日、JELC甘木教会現地見学会（復興ツアー）を行いました。

5日(火)

【報告】「つるしびな」全国巡回展
10月26・27日、JELC函館教会で「つるしびな」展示が行われました。

7日(木)

【報告】スタディツアー
2日～4日、第4回定例スタディツアーを名取市・石巻市で行いました。

9日(土)

【報告】若者支援
11日、にっこり団地と石巻若者サポートステーションで、創作コラージュ講座を行いました。

20日(水)

【報告】スワン支援
19日、石巻のスワンと協働で石巻市の鹿妻地区にある鹿妻南コミュニティハウスの庭にチューリップの球根を植えました。

21日(木)

【報告】現地見学会
8・9日、第3回JELC女性会連盟現地見学会(復興ツアー)を行いました。

【報告】お茶っこサロン
20日、多目的団地でDVD(おしん)鑑賞会とKELC泉北ルーテル教会員の体と頭の体操教室によりお茶っこサロンを行いました。

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売
18～20日、JELC全国教師会において報告会、「つるしびな」展示、支援品販売を行いました。

23日(土)

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売
22日、谷の百合幼稚園で報告会、「つるしびな」展示、支援品販売を行いました。

25日(月)

【報告】報告会、「つるしびな」全国巡回展、支援品販売
24日、JELC広島地区報告会、「つるしびな」展示、支援品販売を行いました。

【報告】女性支援
24日、石巻市の鹿妻南コミュニティハウスで被災した女性向けの創作コラージュ講座を開催しました。

【報告】「つるしびな」全国巡回展
25日、ルーテル保育所で「つるしびな」展示が行われました。

26日(火)

【報告】「つるしびな」全国巡回展
23日、NRK新潟地区一日神学校にて、「つるしびな」展示が行われました。

30日(土)

【報告】防災講演会
29日、特別養護老人ホームディアコニアで防災講演会を開催しました。

12月1日(日)

【報告】漁協石巻地区支所支援
11月28日、ドイツの支援で、漁協石巻地区支所の10ヶ所の浜に寄贈する漁具共同倉庫のうち、残っていた最後の2棟が完成しました。

【報告】東日本大震災支援全国ネットワーク会議
11月29日、岩沼市で東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)会議が行われました。

2日(月)

【報告】「つるしびな」全国巡回展
11月29日、特別養護老人ホームディアコニアにて行われた防災講演会で、1日、JELC静岡教会で、「つるしびな」展示が行われました。

4日(水)

【報告】石巻市社協支援
11月28日から、仮設支援を行っている石巻市社協所属の訪問支援員対象のカラーセラピー講習会を、来年2月まで合計5回、石巻市社協河北支所会議室で始めました。

5日(木)

【来客】JELC熊本教会牧師
3日、JELC熊本教会牧師が被災地を訪問されました。

7日(土)

【報告】スタディツアー
6日、第5回定例スタディツアーを気仙沼市で開催しました。

9日(月)

【報告】防災講演会
8日、JELC東京教会で防災講演会を開催しました。

12日(木)

【報告】ルーテル学院大学との協働
10日、3年目となりましたルーテル学院大学主催「クリスマス・ハープコンサート」が相川保育所、デイサービスセンターはまぎく、多目的団地で開催されました。

16日(月)

【報告】宅老連絡会との協働
10日、宅老連絡会と共催で「対人援助職のためのサポート講座」を岩沼市で開催しました。

20日(金)

【報告】すみちゃんの家支援
20日、すみちゃんの家で関西のボランティアグループが歌のコンサートを行いました。

22日(日)

【報告】コミュニティセンター再建支援
21日、JELAの青年たちが前浜コミュニティセンター（東日本大震災復興記念前浜マリンセンター）を訪れ、地元の女性グループ「ゆる～く」の人たちと一緒にクリスマス会を開催しました。

25日(水)

【報告】クリスマスプレゼント
17～21日、仮設団地や地域の社協、ボランティア団体に、全国の教会からのクリスマスプレゼントを配布しました。

支援終結期の主な動き（2014年１月１日～３月31日）

１月14日（火）

【報告】スタディーツアー

11～13日、第６回（最終）スタディツアーを南相馬市、仙台市、名取市、東松島市、石巻市で行いました。



15日（水）

【報告】女性支援

13日、被災した女性のためのケア講座を、石巻の鹿妻コミュニティハウスで開催しました。

16日（木）

【報告】お茶っこサロン

16日、今年はじめての河川団地でのお茶っこサロンを、DVD（おしん）鑑賞会により行いました。

【情報】支援品販売

今月から、各教団を通じて、仮設住宅で製作している布草履などの支援品販売が始まっています。

17日（金）

【情報】集団移転団地造成工事

石巻市河北地区で、集団移転団地の造成工事が始まりました。

【報告】仮設支援連絡会

16日、石巻市内の社会福祉協議会会議室で定例の仮設支援連絡会が行われました。毎月、石巻市内で支援活動を行っている NPO や行政、社会福祉協議会関係者が出席し、情報交換等を行っています。

18日（土）

【報告】リバーサイド春圃支援

16日、古武術介護講座を気仙沼のリバーサイド春圃で開催しました。

22日（水）

【報告】お茶っこサロン

21日、三反走団地で、JELC 仙台教会関係者によりフラワーアレンジメントと花の歌と DVD（おしん）鑑賞会によりお茶っこサロンを行いました。

23日（木）

【報告】子ども虐待防止セミナー

石巻で「子ども虐待防止セミナー」が開催されました。

27日（月）

【報告】前浜コミュニティセンター支援

25日、前浜コミュニティセンター（東日本大震災復興記念前浜マリンセンター）で、チェンバロコンサートを開催しました。

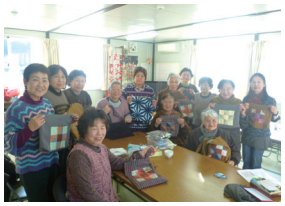
２月２日（日）

【報告】カラーセラピー講座

１月23日、石巻市社会福祉協議会河北支所にて、３回目のカラーセラピー講座を行いました。

【報告】おちゃっこサロン

１月28・29日、にっこり団地と河川団地で札幌から定期的にボランティアに来られる NRK 札幌中央ルーテル教会員によりお茶っこサロンが行われました。



3日（月）

【情報】地域福祉フォーラム

１日、「震災からの地域の再生コミュニティのあり方を考える」をテーマに、ルーテル学院大学学長を迎えて、地域福祉フォーラムが石巻市遊楽館（かなんホール）で開催されました。

9日（日）

【視察】LCMS

７日、LCMS から災害支援担当の牧師３名が来仙されました。

【情報】復興大学公開講座

８日、吹雪の中、昨年も開催された復興大学公開講座が JR 仙台駅前で開催されました。

【情報】大雪

９日、仙台市内は78年ぶり大雪となり積雪35cm、石巻市内は91年ぶりの37cm の積雪を記録しました。

13日（木）

【報告】パソコン教室

アシストが支援している仮設住居者を対象としたパソコン教室を、２月４日と12日の２回開催しました。

15日（土）

【報告】カラーセラピー講座

13日、石巻社協河北支所で、訪問支援員対象のカラーセラピー講座の三回目を行いました。

25日（火）

【報告】女性のためのケア講座

23日、第３回目の女性のためのケア講座を開催しました。

３月１日（土）

【報告】お茶っこサロン

一昨年より石巻市河北地区の仮設住宅で行っていたお茶っこサロン「おしん」鑑賞会も２月ですべて終了しました。



【報告】現地見学会

２月24日から26日にかけて、福岡・静岡・東京・仙台から、被災地見学に４人の方がやって来られました。

【報告】カラーセラピー講座

昨年11月から、仮設住宅の支援を行っている地元、社協所属の訪問支援員、地域福祉コーディネーター、地域福祉アドバイザーの方を対象として行っ



ていたカラーセラピー講座が、２月27日に終了しました。

２日(日)

【報告】「つるしびな」贈呈式

２月27日、昨年の３月11日を目指し、仮設住宅入居者と地域ボランティア団体との協働で製作した「つるしびな」を石巻市社協河北支所に贈呈しました。



９日(日)

【報告】現地見学会

６日、JELC 仙台・鶴ヶ谷教会員を対象に、現地見学会（南三陸・気仙沼）を開催しました。

11日(火)

【祈り】東日本大震災三周年記念礼拝

今日で震災から三年を迎えました。未だに2,633人（10日現在）が行方不明となっています。その日を覚えて、JELC 仙台教会では記念礼拝が守られました。一日でも早く、ご家族のもとに帰ることができますようお祈りいたします。

12日(水)

【報告】JLER 感謝会

11日、東日本大震災三周年記念礼拝後に、JELC 仙台教会にて JLER 感謝会が開催されました。JLER を構成するルーテル四教団の代表をはじめ、JLER を支えたメンバーが一同に会し、これまでの三年間の JLER の働きについて神さまに感謝し、そして、お互いの働きに感謝しました。

14日(金)

【報告】南海トラフ巨大地震対応実務者研修会

11日から13日まで、近い将来発生すると言われている南海トラフ大震災に対応するための実務研修会が、JLER の支援先等で行いました。

17日(月)

【報告】文化活動支援

北上町十三浜の白浜地区から支援依頼があり、地域の文化活動支援ということで、獅子頭・油単を支援しました。16日、その引き渡し式を行いました。

22日(土)

【報告】議長会及び対策本部会議

14日、最後となる JLER 議長会及び対策本部会議が JELC 市ヶ谷センターで開催されました。

【報告】感謝報告会

20日か21日にかけて JA ゼンゼン中央教育センター（岡山市）で開催された西日本福音ルーテル教会第53回定期総会において、これまでの３年間の活動を振り返りながら JLER 感謝報告会を行いました。

24日(月)

【報告】スタディーツアー

20日から23日まで聖望学園ハイスクール YMCA のスタディーツアーを行いました。

≪凡例≫

１．掲載日付
「となりびと」ブログへの掲載日を基準としています。掲載内容は要約又は一部です。

２．敬称略

３．教会関係略称
【救援対策本部会議】東北関東大震災救援対策本部/東日本大震災救援対策本部【JLER】東北関東大震災ルーテル教会救援/東日本大震災ルーテル教会救援　【JELC】日本福音ルーテル教会　【NRK】日本ルーテル教団【KELC】近畿福音ルーテル教会【WJELC】西日本ルーテル教会【JELA】日本福音ルーテル社団【LWF】世界ルーテル連盟【LCMS】ルーテル教会ミズーリ・シノッド

４．仮設住宅略称（各市町村名称）
〈気仙沼市本吉町〉【天ヶ沢住宅】仮設天ヶ沢住宅〈登米市〉【南方住宅】イオン南方店跡地応急仮設住宅
〈石巻市北上町〉【にっこり団地】仮設にっこりサンパーク団地【相川団地】仮設相川運動公園団地【大指団地】仮設大指団地〈石巻市河北地区〉【三反走団地】仮設河北三反走団地【三反走第２団地】仮設三反走第２団地【河川団地】仮設追波川河川団地【多目的団地】仮設追波川多目的団地【飯野川校団地】仮設飯野川校団地【大森第１団地】仮設大森第１団地【大森第２団地】仮設大森第２団地【大森第３団地】仮設大森第３団地【大森第４団地】仮設大森第４団地〈東松島市〉【ひびき工業団地】仮設ひびき工業団地応急仮設住宅

５．地域・団体略称
【北上】石巻市北上町【河北】石巻市河北地区【前浜】気仙沼市本吉町前浜地区
【石巻 VC】石巻市災害ボランティアセンター【漁協】宮城県漁業協同組合　【社協】　社会福祉協議会【YMCA】公益財団法人東京 YMCA 石巻センター（石巻市）【アシスト】特定非営利活動法人子育て支援アシスト・エフワン(仙台市)【リバーサイド春圃】医療法人くさの実会老人保健施設リバーサイド春圃（気仙沼市）【すみちゃんの家】特定非営利活動法人のんびーりすみちゃんの家(東松島市)【宅老連絡会】特定非営利活動法人みやぎ宅老連絡会（仙台市）【歩む会】石巻身体障害者「歩む会」（石巻市）【スワン】スワン国際協力の会

物資・資金支援



物資支援

期　間　2011年３月～2013年８月

場　所　岩手県、宮城県、福島県の各所

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

津波によってあらゆるものが流された被災地には、文字通り何もない状態が生まれた。水や食べ物など生きるために最低限必要なものから衣服、避難所生活で必要なスリッパなど多様なものが必要になった。尚、対象や時期によってニーズは変化していった。

◇支　　援◇

水・食料品、日用品等の支援及び支援物資の運搬代の支援を行った。

◇結　　果◇

避難所ごとや在宅避難者など小さなニーズに応えた支援は喜ばれた。特に被災者から直接必要な物を教えてもらい、それを用意するというスタイルが効果的だった。

課　　題

ニーズの発生と物品を調達できるまでの時間差によって、調達した物資が不要になることもあった。また大量の物資支援が、地元の卸・小売業者の復興の妨げになるのではという議論もあった。被災地の状況を常時把握し、更新しながら、その時々の状況に合わせた対応が必要であった。



南三陸町対策本部へ



在宅被災者へ包丁・まな板セットを届ける

▶ 支援内容

JELR の救援物資を送る活動は、現地スタッフを派遣する４月11日までは、既に現地入りしていた各種 NGO/NPO の依頼に応える形で行っていた。具体的には JPF（ジャパン・プラットフォーム）に加盟している国際協力 NGO からの支援依頼を受けて JLER で食料品や生活用品を東京で調達し、それを４ｔトラックなどで指定された場所まで運んだ。その際の物品の購入代金と輸送費は JLER が負担した。また同時に松木牧師（JELC）の関係で仙台に倉庫を３月中に確保。倉庫の賃貸料が高騰する前に確保できたのは大きかった。

４月11日に現地スタッフを派遣してからは、現地スタッフが避難所や地元の人からニーズを聞き取り、仙台市内などの再開していた各種小売店等で必要な物を調達し各所に提供するなど、少量多品種の物資支援に切り替わっていた。

一方で福島県南相馬市への支援も４月から開始。スタッフの知人が南相馬に支援物資を持って行ったところ南相馬ではあらゆる店が閉鎖して水や食料も買えない状況にあるとのことで、地元からの要望に応える形で食料や生活用品を届けるようになる。南相馬については、放射能の問題があったため、店が少しずつ開きはじめて以降も１年にわたって野菜を提供し続けた。



資金支援
アジア学院

期　間　2011年4月

場　所　栃木県那須塩原市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

地震によって食堂が倒壊。その他の建物も被害を受けた。

◇支　　援◇

建物の再建費用の一部として2000万円の支援を行った。

◇結　　果◇

再建に向けた動きの最初の一歩になった。

課　題

そもそもつながりのある団体だったため支援は円滑に決まったが、そうでない団体等から依頼があった時の対応基準はある程度決める必要があったかもしれない。



完成したアジア学院の食堂

▶ 支援内容

資金支援をしたアジア学院（学校法人：栃木県那須塩原市）は、地震により食堂だった建物が倒壊。その他の建物も被害を受け、その再建費用を必要としていた。ルーテル教会の複数の牧師や教会は、震災前からアジア学院を支える活動にかかわっていたこともあり、また、それまでの事業の実績から信用があったため支援はすぐに決まった。JLER が支援を決めた後、その他のキリスト教教会や関連団体からも支援が決まり、2014年３月現在、食堂を含めその他の建物の再建も決まり、再建工事が進んでいる。



資金支援
キャッシュ・フォー・ワーク

期　間　2011年5月

場　所　宮城県気仙沼市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

被災者支援のための活動を始めてはいたが、活動資金の不足のため先の見通しが立っていなかった。

◇支　　援◇

活動資金として200万円の支援を行った。

◇結　　果◇

当面の事業費が確保できたことで、一旦、活動の見通しがつき、その後の継続的な活動の安定化につながった。

課　題

震災初期の資金支援だったため、互いに事務処理が後日となり、支援に関する契約書の取り交わしが後手となった。
次回以降はある程度の書類の準備が必要だろう。



キャッシュフォーワークで泥かき作業する被災者

▶ 支援内容

キャッシュ・フォー・ワーク（Cash for Work：被災者を雇用し、ガレキの片づけなどに従事してもらい、その働いた時間に応じて賃金を払う被災者支援の方法。以下、CFW）事業のための資金を、事業主体である国際ボランティアセンター山形（IVY）に提供した。

IVY は CFW を気仙沼市と石巻市で立ち上げようとしており、2011年４月初めの時点では、十分な資金が集まっておらず先行き不透明だったが、JLER が資金（200万円）を提供したことで、当面の事業費が確保でき活動が安定した。この事業は間もなくテレビや新聞、雑誌にしばしば大きく取り上げられることになり、それをきっかけに各種団体等から資金が集まるようになる。結果的に1年にわたって事業が展開された。

ボランティア派遣



災害ボランティア派遣

期　間　2011年４月～2011年12月
場　所　主に宮城県石巻市、東松島市、気仙沼市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

大震災の特に津波被害によって、被災地はあらゆることにおいて人不足となり、個人宅の泥かき作業をはじめ、膨大な人手を必要としていた。

◇支　　援◇

泥かきボランティアや災害ボランティアセンターの受付業務のための人員など、被災地で必要としているところにボランティアを派遣した。

◇結　　果◇

石巻市災害ボランティアセンターをはじめ長期にわたる JLER ならではのボランティア派遣は、非常に感謝された。



避難所へ畳搬入ボランティア



2011年４月22日石巻市社協
災害ボランティアセンター受付

課　　題

課題の１つは、ボランティア作業の記録が残っていない事。もう１つは、ボランティアに関わる保険の事である。今回は、これだけの災害なので何かあった場合は、こうした活動でもボランティア保険が適用される見込みであったが、あくまでも見込みであった。次の災害の時は、この点も注意する必要がある。

▶ 支援内容

今回のボランティア派遣の枠組みは、次のような形であった。ボランティア募集は基本的に教会内だけで行い、ボランティア希望者は各教会を通してボランティア参加の申込書を JLER 本部に送る。ボランティア希望者は仙台教会までは自力で行き、仙台教会に宿泊しながら、スタッフらが車を運転して現場まで行く。

ボランティア作業は、石巻市災害ボランティアセンターに登録してセンターの指示に従う形で行う場合と、JLER に個別に依頼があったものの２パターンがあった。前者はほとんどが泥かき・瓦礫片付けだが、後者はそれら以外に避難所への畳の搬入、事業所の草取りや食器洗いなど様々であった。

2011年４～５月は基本的に、石巻市災害ボランティアセンターに登録し、指示された現場で作業する形をとっていたが、６月頃から東松島市の介護事業所「のんび～り　すみちゃんの家」の片づけに入るようになった。その後、８月くらいからは石巻市北上町の田畑の瓦礫拾い等の作業に移っていった。石巻市北上町では本地地区にある本地生活センターを地区の人からお借りして、そこでボランティアは寝泊まりしながら活動をした。

一方で、ボランティアの食事を作ったり、センター（仙台教会）の清掃等をするボランティアも募集し、力仕事ができない女性の人たちも裏方として支えてくれた。



介護ボランティア派遣

期　間　2011年４月～2012年５月
場　所　宮城県気仙沼市、女川町

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

被災地の介護事業所の中には、建物被害や人的被害が甚大であっても、事業を継続するために、また高齢者を守るために、職員が休むことなく、高齢者のお世話をしていた。特に震災後は人手不足となった施設もあり、職員の負担を少しでも軽減できるような人的な支援を必要としていた。

◇支　　援◇

気仙沼市と女川町にある介護施設に介護ボランティアを派遣した。

◇結　　果◇

17名の介護ボランティアを派遣し、職員の方たちの負担軽減につながった。

課　　題

課題の１つは、介護ボランティアの保険についてである。派遣されたボランティアが不作為であっても何かを壊してしまったり、また、対応中の利用者の人が事故にあったりしたときにどう対応するかは、派遣元と受入先が事前に話しあっておく必要がある。



リバーサイド春圃でも介護ボランティア（飯田教会）

▶ 体験者の声

JELC 飯田教会　市川　佐代子

当時、尋常ではない状況が報道される中、被災地の方たちの何か手助けができないかとの思いで壊滅状態にあった老人施設でのボランティアに参加。職員の方たちは自分たちの生活も不安定な中、何とかお年寄りを守っていきたいという強い信念の下、幾つもの過酷な避難所を転々としながら、又、終止符のない余震に見舞われながらも続けておられた仕事への熱意を痛感しました。

気仙沼市のリバーサイド春圃への介護ボランティアの派遣は、JELC 関連の３つの施設（特養ディアコニア、るうてるホーム、東京老人ホーム）の協力により実現した。

介護老人保健施設リバーサイド春圃　介護ボランティア一覧

派　遣　期　間	介護ボランティア・プロフィール
2011年５月12日～５月23日	特養ディアコニア（静岡）　職員
2011年５月23日～６月30日	(JELC) 飯田教会員（長期ボラ、ヘルパー経験者）
2011年６月30日～７月６日	(社福) るうてるホーム（大阪）　職員
2011年７月６日～７月13日	(社福) 東京老人ホーム（東京）　職員　１人目
2011年７月13日～７月20日	(社福) 東京老人ホーム（東京）　職員　２人目
2011年７月20日～７月27日	(社福) 東京老人ホーム（東京）　職員　３人目
2011年７月27日～７月31日	(社福) 東京老人ホーム（東京）　職員　４人目

特別養護老人ホームおながわ　介護ボランティア一覧

派　遣　期　間	介護ボランティア・プロフィール
2011年11月14日～１月19日	(NRK) 札幌中央ルーテル教会　１名
2011年11月14日～１月26日	(JELC)施設元職員（熊本）　１名
2011年11月25日～12月３日	(NRK) 旭川聖パウロルーテル教会　１名
2011年12月２日～12月25日	(JELC) 大阪教会　１名
2012年１月18日～１月24日	(WJELC) カナン教会　１名
2012年１月23日～１月24日	(WJELC) 八鹿教会　１名
2012年２月16日～３月31日	(JELC) 飯田教会（長期ボラ、ヘルパー）　１名
2012年５月８日～５月９日	(WJELC) ３教会　３名

ボランティア派遣



ボランティア派遣

期　間　2011年11月～2014年２月

場　所　宮城県石巻市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

震災当初のボランティアニーズは、瓦礫撤去や泥かきなどの肉体的な災害ボランティア中心であったが、時間が経過するにつれ、仮設住宅集会所でのサロン活動やコンサート、花壇づくりなど精神的なボランティアニーズが高まっていた。

◇支　　援◇

1．仮設住宅集会所におけるお茶っこサロン等へのボランティア派遣。
2．被災地の仮設住宅集会所や福祉施設等でのコンサート活動のためのボランティア派遣。
3．被災地での環境整備（花壇づくり・草取り・引越作業等）活動のためのボランティア派遣。

◇結　　果◇

被災地で必要とされている精神的支援となるボランティアを派遣することができた。

課　　題

教会関係施設、特に学校・幼稚園・保育所などとの連携が十分とれず、結果として、専門家や若年層のボランティアを十分に派遣することができなかった。

▶ 体験者の声

日本ルーテル教団札幌中央ルーテル教会　桑井　登士子

仮設にっこりサンパーク団地手芸ボランティア最終日。早くから机を並べ暖房を入れて待っていてくれた仮設の皆さん。震災後翌年の春から出会い、始まったこのお茶っこサロンも７回目でした。こんなに続くとは思ってもいませんでした。教会員の強力なサポートと仮設の皆さんの熱意があったからこそ、続けてこられました。この２年間毎月１回お茶っこ準備会を開いてきました。生地や材料の提供から始まり、印つけ、布の裁断、説明書作り等々、最後に袋に入れて手芸キット完成。「被災地に行けないけれど、こうやってお手伝いできるのがうれしい」と支えてくれた教会員のメンバー。キットを使って脇目もふらず、手仕事に没頭する仮設の皆さん。始めは簡単なものでしたが、だんだんパッチワークやキルティングをしたポーチや手提げも作れるようになり、大喜び。「今度はいつ来るの？」この絆を大切にして、これからも手芸キットをお届けしたいと願っています。　“被災地を忘れない”



2012年６月21日手話（仮設にっこりサンパーク団地）



2012年６月23日花畑づくり（石巻市内）

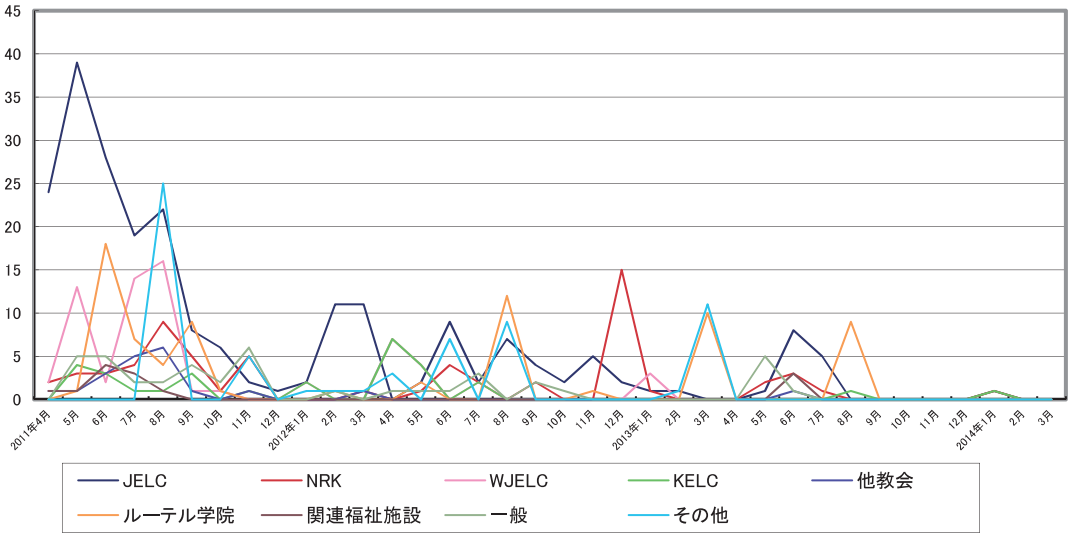


2012年８月12日ハンドベルコンサート（仮設大森第３団地）



2013年６月４日引越作業
（介護老人保健施設リバーサイド春圃）

ボランティア派遣数（月別グラフ／災害ボランティア派遣を含める）のべ人数



	2011年									2012年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
JELC	24	39	28	19	22	8	6	2	1	2	11	11	0	2	9	2	7	4	2	5	2
NRK	2	3	3	4	9	5	1	5	0	0	0	1	0	1	4	2	0	2	0	0	15
WJELC	2	13	2	14	16	1	1	0	0	2	0	0	7	4	0	2	0	0	0	0	0
KELC	0	4	3	1	1	3	0	1	0	2	0	0	7	4	0	2	0	0	0	0	0
他教会	1	1	3	5	6	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ルーテル学院	0	1	18	7	4	9	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	12	0	0	1	0
関連福祉施設	1	1	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般	0	5	5	2	2	4	2	6	0	0	1	0	1	1	1	3	0	2	1	0	0
その他	0	0	0	0	25	0	0	5	0	1	1	1	3	0	7	0	9	0	0	0	0
月別計	30	67	66	55	86	31	11	20	1	7	14	14	18	14	21	11	28	8	3	6	17

	2013年												2014年			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	カテゴリ別計
JELC	1	1	0	0	1	8	5	0	0	0	0	0	1	0	0	223
NRK	1	0	0	0	2	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	65
WJELC	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67
KELC	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	30
他教会	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
ルーテル学院	0	0	10	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	75
関連福祉施設	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
一般	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42
その他	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
月別計	5	2	21	0	8	16	6	10	0	0	0	0	3	0	0	599

仮設支援



物資・生活支援

期　間　2011年６月～2013年３月
場　所　宮城県石巻市、東松島市、女川町、気仙沼市、福島県南相馬市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

避難所から仮設住宅に移った人々は、津波で流され何も持たない状態から一気にあらゆるものが必要となった。また、仮設住宅の住環境は十分ではなく、過ごしやすくするための工夫も必要だった。

◇支　　援◇

教会に呼びかけ生活物資を集め仮設住宅入居者に提供するおすそわけプロジェクトをはじめ、仮設住宅内に置く花の提供、その他、炊き出しや希望する仮設住宅入居者の部屋に棚を設置する支援を行った。

◇結　　果◇

仮設住宅入居時に発生する様々な経済的負担と精神的な不安をいくらかは低減できた。

課　　題

生活用品等の配布はもっぱら平日昼間に行ったため、その時間帯に家にいる人には配れたが、そうでない人には配れず、仮設住宅入居者間で不平等感が生じることがあった。そうした被災者の間に不平等感が生じないやり方をしなければいけない。また、小規模仮設住宅にあまり目が届いていなかった。



仮設住宅に生活物資を届けるボランティア

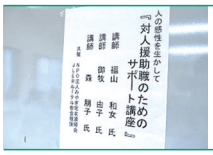
▶ 支援内容

仮設住宅に入居すると行政的には自立したとみなされる。しかし、今回のように生活に必要なすべてを失った場合には、家賃がかからないとは言え、特に入居初期には多大な経済的負担が発生する。そのため日本赤十字社は、世界の赤十字に集まった寄付金を元に、各世帯に家電６点セット（洗濯機、冷蔵庫、テレビ、炊飯器、電子レンジ、電気ポット）を配布した。また大規模な予算がある団体は、ある範囲の仮設住宅各戸に布団や箸や茶わんなどの生活必需品を提供したりした。被災者の間には、避難所から出ると支援を受けられなくなるとの不安があったため、こうした支援は新しい環境にゆるやかに移行するための支えになった面もある。また JLER が一団地で行った仮設住宅の住み心地を良くするための棚取り付け支援は、生活上の利便性の向上の他に狭い部屋にうんざりしていた被災者の心理的な負担を軽減することにもつながった。

一方で、大規模仮設住宅と小規模仮設住宅、プレハブ仮設住宅とみなし仮設住宅の間では、物資の届き方に大きな差があり、それが被災者の間で不平等感を生じさせた。一団体が対応できる範囲は限られてはいるが、現地の情報を細かく拾いながら活動する必要はある。

支援した主な仮設住宅団地

市町村名	仮設住宅名	支援内容
気仙沼市	天ヶ沢住宅	居室への棚の設置（棚の材料代、取り付け人件費）
石 巻 市	にっこりサンパーク団地	食料・生活用品（おすそわけ）、集会所で使う座布団、集会所台所の棚の設置
	相川団地	食料・生活用品（おすそわけ）
	大指団地	食料・生活用品（おすそわけ）
	飯野川校団地	食料・生活用品（おすそわけ）
	追波川河川団地	食料・生活用品（おすそわけ）
	追波川多目的団地	食料・生活用品（おすそわけ）
	河北三反走団地・三反走第二団地	食料・生活用品（おすそわけ）
	大森団地（第１～４）	食料・生活用品（おすそわけ）、ベンチ
東松島市	ひびき工業団地応急仮設住宅	花苗、プランター、土、雑巾、服等
女 川 町	女川第一小仮設住宅	花苗、プランター、土、食料品等
南相馬市	小池第三応急仮設住宅ほか	毛布、衣料品、食料・生活用品（おすそわけ）、カレーの炊き出し（2012年12月）、仮設入居者のためのビニールハウス支援



心理・福祉的支援
（ルーテル学院大学協働支援活動）

期　間　2011年４月～2013年12月
場　所　宮城県石巻市、東松島市、仙台市、岩沼市、岩手県大船渡市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

被災した人々の中には心理・福祉的な専門的なケアを必要としている人がいた。

◇支　　援◇

被災者のための各種講座を開催し、またそうした講座の開催費用の支援を行った。

◇結　　果◇

10回以上の講座を開催し、被災した人々の精神的な負担をいくばくかは軽減することができた。

課　　題

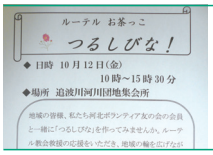
専門家も様々忙しく、特に初期の現地のニーズに即応するような取組があまりできなかった。



対人援助職のためのサポート講座＠東松島市

日　　時	活動名	対象・内容
2011年６月	「震災後のセルフケアカード」配布活動	精神的ケアを目的としたケアカードの印刷費用と配布を支援。
2011年７月５日	専門家による相談対応	JLER が仲介し、石巻の避難所や被災した精神障碍者当事者グループなどを訪問、相談対応。ルーテル学院大学の前田ケイ名誉教授、増野肇教授が対応。
2011年８月27日	「べてるの家に学ぶしゃろーむ石巻」支援	石巻市の精神障碍者当事者グループ「べてるの家に学ぶしゃろーむ石巻」で前田ケイルーテル学院大学名誉教授による講座（SST）を開催。
2011年８月30日	「死別体験・トラウマに対処する方法」＠仙台	NPO「Kids hurt too」主催のワークショップ開催費用をルーテル学院大学の仲介で支援。
2011年12月19日	第１回クリスマス・ハープコンサート	ルーテル学院大学主催で、心のケアを目的としたクリスマス・ハープコンサートを石巻市北上町の相川保育所、デイサービスセンターはまぎく、仮設追波川多目的団地で開催。
2012年６月17日	「介護職のための研修会」＠東松島市	東松島市の介護事業所「すみちゃんの家」で介護職員のための研修会をルーテル学院大学院付属包括的臨床死生学研究所の協力で開催。
2012年12月４日	第２回クリスマス・ハープコンサート	ルーテル学院大学主催で、心のケアを目的としたクリスマス・ハープコンサートを石巻市北上町の相川保育所、デイサービスセンターはまぎく、　仮設追波川多目的団地で開催。
2013年６月10日	ルーテル学院大臨床心理相談センターによる研修会	ルーテル学院大学臨床心理相談センターによる大船渡保育園の保護者・保育士の個別面談と保育士への研修実施費用を支援。
2013年８月22日	ルーテル学院大臨床心理相談センターによる研修会	ルーテル学院大学臨床心理相談センターによる大船渡保育園の保護者・保育士の個別面談と保育士への研修実施費用を支援。
2013年８月30日	「対人援助職のためのサポート講座」＠東松島市	ルーテル学院大学院付属包括的臨床死生学研究所の福山和女教授らの協力で、みやぎ宅老連絡会の会員事業所の介護職を対象に講座を開催。
2013年10月２日	ルーテル学院大臨床心理相談センターによる研修会	ルーテル学院大臨床心理相談センターによる大船渡保育園の保護者・保育士の個別面談と保育士への研修実施費用を支援。
2013年10月19日	「対人援助職のためのサポート講座」＠仙台市	ルーテル学院大学院付属包括的臨床死生学研究所の福山和女教授らの協力で、みやぎ宅老連絡会の会員事業所の介護職を対象に講座を開催。
2013年12月９日	第３回クリスマス・ハープコンサート開催	ルーテル学院大学主催で、心のケアを目的としたクリスマ・スハープコンサートを石巻市北上町の相川保育所、デイサービスセンターはまぎく、仮設追波川多目的団地で開催。
2013年12月10日	「対人援助職のためのサポート講座」＠岩沼市	ルーテル学院大学院付属包括的臨床死生学研究所の福山和女教授らの協力で、みやぎ宅老連絡会の会員事業所の介護職を対象に講座を開催。

仮設支援



生きがい支援（「つるしびな」製作）

期　間 2012年6月～2013年3月

場　所 宮城県石巻市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

震災によって引き裂かれた被災地の人々の絆の再生と生きがいづくりが求められていた。

◇支　　援◇

河北ボラティア友の会（石巻市河北地区）からの支援要請に応え、場所・人材・材料費等の支援を実施。

◇結　　果◇

延べ1,000人を越える様々な人々がこのプロジェクトに関わり、約2,000個のつるしびな（つるし飾り）が完成。その後、３ケ所の仮設住宅集会所に展示。また、全国からのボランティアの参加と教会からの材料提供等により新たな絆を生み出すことができた。

課　　題

プロジェクト遂行に際し、特定ボランティアへの負担が大きくなり、支援終了後の自立プログラムの立ち上げが困難な結果となった。

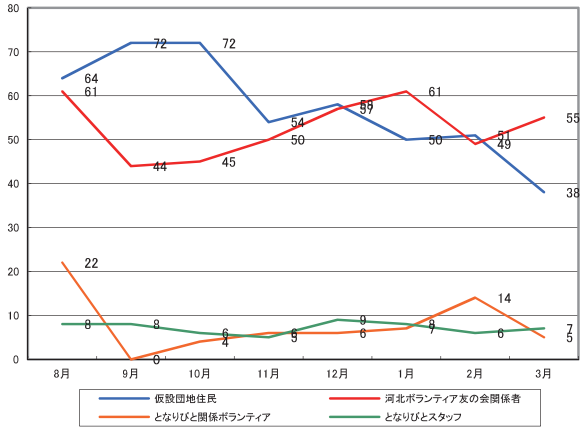
▶ 体験者の声

河北ボランティア友の会　菅原　昌子

あの震災で自宅を流失し、親戚や隣人の多くを亡くし、悲しみと失意で悶々とした日々を送っていました。「明けない夜はない」とか「やまない雨がないように時が癒さない悲しみはない」などと友人や知人に慰められてはいましたが、どうしても後ろの向きの気持ちから抜ききれずにいました。そんな時にルーテル教会救援の支援により仮設で「つるしびな」製作をする事を知り、以前から「やってみたい」と思っていた気持もあって喜んで参加しました。それからは仮設に行けば、ボランティアの仲間には逢えるし、地域の人達とも逢えるしで、結果的にはボランティアのつもりが、逆に自分自身が仮設の人達以上に癒されていました。全国からルーテル教会救援に送って頂いたお菓子をご馳走になりお茶をいただきながらの「ひな作り」とおしゃべりがとても楽しみになり、回を重ねる毎に、知らず知らずのうちに心が穏やかになり、睡眠薬に頼らずに睡眠がとれるようになりました。今は個人で「つるしびな」作りを楽しみ、皆さんに差し上げてます。機会を与えて下さったルーテル教会の皆様とボランティアの皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

プロジェクト参加者数（月別）のべ人数

	仮設住民	友の会	ボランティア	スタッフ	計
2012年8月	64	61	22	8	155
9月	72	44	0	8	124
10月	72	45	4	6	127
11月	54	50	6	5	115
12月	58	57	6	9	130
2013年1月	50	61	7	8	126
2月	51	49	14	6	120
3月	38	55	5	7	105
計（男）	22	0	23	54	99
計（女）	437	422	41	3	903
合計	459	422	64	57	1002





2012年７月５日「つるしびな」製作準備会（河北ボランティア友の会員宅）



2013年３月４日「つるしびな」贈呈式（仮設追波川河川団地）



2012年８月28日昼食（仮設飯野川校団地）



2013年３月２日「つるしびな」展示会（河北総合センタービックバン）



2012年10月５日「つるしびな」製作（仮設河北三反走団地）



2013年3月１日「つるしびな」完成感謝交流会（仮設河北三反走団地）



2012年11月１日「つるしびな」製作（仮設河北三反走団地）



2013年２月18日「つるしびな」製作最終作業（鶴家公民館）

仮設支援



居場所支援（サロン活動）

期　間　2011年11月～2014年２月

場　所　宮城県石巻市河北地区仮設住宅集会所
（河北三反走・追波川河川・飯野川校・大森団地）
宮城県石巻市北上町仮設住宅集会所
（にっこりサンパーク団地）

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

集会所を活用し、不自由な仮設住宅の生活から一時的に解放されるプログラムや仮設住宅で何もすることがない住民や孤立防止のための居場所が必要とされていた。

◇支　　援◇

1．仮設住宅での不自由な生活によるストレスの解放を目的としたサロン活動の実施。
2．居場所づくりや孤立防止を目的としたサロン活動の実施。

◇結　　果◇

定期的なサロン活動の実施により、延べ約2200人の参加者（「つるしびな」製作参加者含む）にストレスの解放の場や居場所の提供を行うことができた。また、全国からのボランティア参加と、教会等からの茶菓子提供により新たな絆を生みだすことができた。

課　　題

男性参加者が非常に少なく、男性向けサロン活動が必要であったが、実施できなかった。

▶ 体験者の声

仮設追波川河川団地　武山　久仁男

日頃は私共、仮設住民の為、お心づくし深く感謝を申し上げます。

仮設住まいに日を送っている私達は、表面上は明るい応対につとめている様に見せていますが、一人ひとり皆が悲しい過去を背負って生きているのです。あれ以来三年も経っているのに正月を迎えても門松も注連縄も飾らない、いえ飾る気にもならないのです。

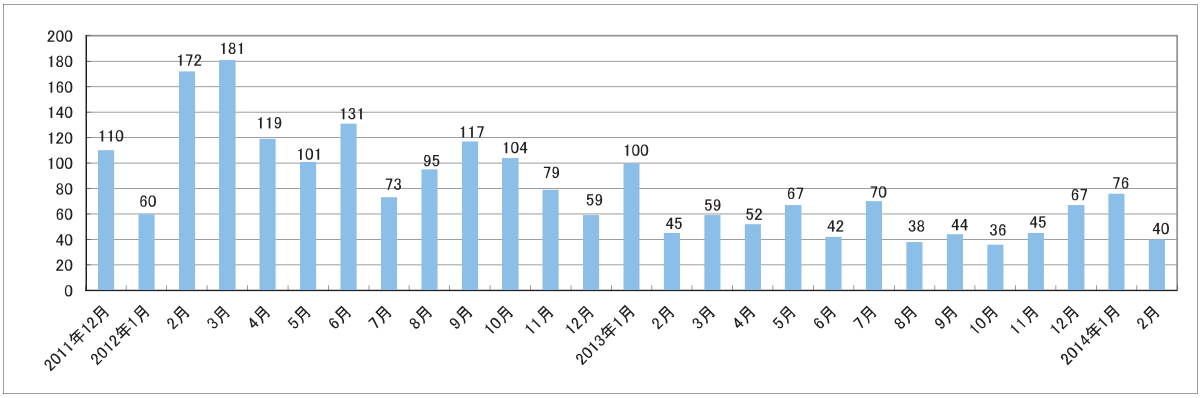
そのような私達に対して日々ご多忙の処を何遍となく足をお運びになり、暖かいお心を授けてくださいました。

田舎者の私達のことにて様々な御礼の言葉も差し上げられる事もなく、誠に恐縮千万であります。誰ひとりとして感謝しない人は居りません。

次はいつ頃来て下さるのか、みんなで鶴首お待ちしていたのです。お話によれば３月を以て打ち切りとか、残念でなりません。

今迄多数のスタッフの皆々様より暖かいご支援を賜りました事深く感謝申し上げ御礼のご挨拶といたします。

サロン活動参加者数（月別グラフ）のべ人数、合計参加者数 2182人





2012年７月３日狂言風お芝居（仮設飯野川校団地）



2012年７月10日キルト体験（仮設にっこりサンパーク団地）



2012年９月５日歌とダンス（仮設追波川多目的団地）
＜東京 YMCA 石巻センターとの協働＞



2012年９月26日太鼓と篠笛（仮設追波川河川団地）
＜表現教育研究所との協働＞



2012年12月４日クリスマスハープコンサート
（仮設追波川多目的団地）
＜ルーテル学院大学・子育て支援アシスト・エフワンとの協働＞



2013年１月22日阿波踊り（仮設大森第３団地）



2014年１月21日フラワーアレンジメント（仮設河北三反走団地）



2014年１月30日折り紙（仮設追波川河川団地）

仮設支援



自立支援
（自治会支援／ベンチ・夏祭り・手芸・パソコン）

期　間　2012年６月～2014年３月
場　所　主に宮城県石巻市河北地区の仮設住宅団地

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

仮設住宅では、自治会は形成されたものの、自治会独自の予算がないことが多く、また、仮設入居者から徴収することもできず、さらに自治会の中心メンバーには高齢者が多いことから、何かしようと企画しても、自治会単体ではなかなか実行するのが難しい状況であった。

◇支　　援◇

自治会で企画したイベントの開催支援や仮設住宅の住環境の改善などの支援を行った。

◇結　　果◇

自治会主催の夏祭りについては、他団体との協働支援を行い、2012年と2013年の２回、開催できた。その他ベンチの製作・設置なども住民の方々と一緒に行うことができた。

課　　題

自治会が形成された仮設住宅団地については、支援がしやすいのだが、自治会がない団地についてはアプローチするのが難しく、結局、支援することはできなかった。



仮設大森団地でのベンチ作り



仮設大森団地パソコン教室

▶ 支援内容

石巻市河北地区にある仮設大森団地は、第1～4団地まである約450世帯の仮設住宅団地で、そのうち自治会ができたのは住民が多い第３団地と第4団地だけであった。大森団地には、市内各地から入居者が集まっていることもあり、社会福祉協議会の仮設大森団地担当の方から相談があり、2012年６月から自治会の支援をすることになった。

具体的には仮設住宅団地の敷地が広いことから途中で休む場所がないということで、団地内の各箇所に設置するベンチづくりの支援から始まった。ベンチはキット化された材料を JLER で購入し、組み立ては住民のみなさんと行った。また、自治会が企画した夏祭りについては、チラシの印刷や露店の出店、会場設営や片付けの手伝いなど、ルーテル学院大学の学生ボランティアも参加して全面的に開催の手伝いをした。

2013年には、自治会便りを作るために自治会役員、加えて一般の住民向けのパソコン教室も行うようになった。パソコン教室には毎回５～８人程度の人が参加した。パソコンの電源を入れるところから始まり、文書作りや年賀状作りを行った。参加者はだんだんと固定化されていったが、固定化されたメンバーがほぼ毎回参加し、回を重ねるほどに上手になっていった。参加者からもパソコン教室の時間が楽しみだと言うような声もあった。

また、自治会役員メンバーのうち、女性たちが始めた手芸のサークルについても、女性スタッフが出向き、会の運営方法や材料提供などのサポートを行った。



自立支援
（支援会議）

期　間　2011年８月～2014年３月
場　所　宮城県仙台市・石巻市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇
被災地では多数の NGO・NPO・ボランティア団体、行政等が仮設支援のための情報共有の場を求めていた。

◇支　　援◇
定期的に開催される各種支援会議等に積極的に参加した。

◇結　　果◇
仮設住宅の状況や NGO・NPO・ボランティア団体・行政等の仮設支援活動に関する情報を得ることができ、必要に応じて連携した活動を行った。

課　　題

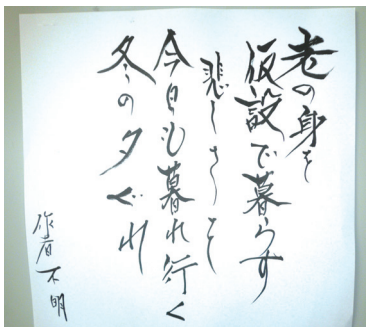
実際の仮設支援地域（石巻市河北地区、北上地区）での情報共有の場（連絡会・会議等）を構築することができなかった。

連絡会・会議名	主　　催	会　　場	内　　容
仮設サロン支援連絡会	石巻災害復興支援協議会 みらいサポート石巻※	石巻災害復興支援協議会	仮設サロン支援活動情報の共有
仮設支援連絡会		旧明友館	仮設支援情報の共有
仙台エリア・キリスト教系 ボランティア団体活動報告＆ 情報交換会	東北ヘルプ	日本聖公会東日本大震災被 災者支援・仙台オフィス	支援活動情報の共有
石巻エリア・キリスト教系 ボランティア団体 活動報告＆情報交換会	東北ヘルプ	日本基督教団 石巻山城町教会	支援活動情報の共有

※2012年11月22日より名称変更

【参考：支援仮設住宅概況】2014年３月１日現在

地区	団地名	着工戸数	入居戸数	入居人数
河北	仮設飯野川校団地	74	71	193
	仮設河北三反走団地	90	88	206
	仮設三反走第２団地	39	36	93
	仮設追波川河川団地	91	87	217
	仮設追波川多目的団地	103	97	252
	仮設大森第１団地	24	22	31
	仮設大森第２団地	60	47	108
	仮設大森第３団地	216	193	323
	仮設大森第４団地	150	133	268
北上	仮設にっこりサンパーク団地	178	171	458
計		1025	945	2149



仮設にっこりサンパーク団地
集会所内の掲示物

地域支援



女性支援

期　間　2011年５月～2014年２月

場　所　宮城県気仙沼市、石巻市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

自ら被災しながらも、被災した女性たちのために何かをしたいと考え、動き出した女性たちが、被災地にはいた。
しかし、仕事をしながら、そうした活動を行うには、考えていることを実行するための物的な支援や経済的な支援を必要としていた。

◇支　　援◇

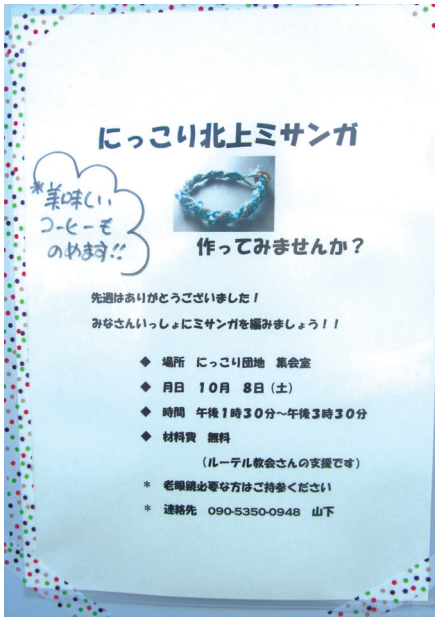
活動に必要な材料を提供し、活動費用の支援を行った。また、事務作業等を手伝うといった人的な支援も行った。

◇結　　果◇

自ら被災しながらも同じ地域の人々を支えたいという地元キーパーソンの支えになれたと考えている。

課　題

往々にしてキーパーソンには、負担が集中してしまうため、余力があれば組織の運営等にも第三者としてかかるような取組も場合によっては必要だったかもしれない。



にっこりミサンガ作りチラシ

団体名	団体概要	支援内容
前浜 KEPPAPPE（気仙沼市）	震災前、手作り品を未知の駅頭で販売していた女性３人が震災後にもう一度手仕事をやろうと立ち上げたグループ。きっかけは JELC 藤が丘教会から届いたメッセージカードだった。それを見てこうした物を作りたいと活動を始める。	①活動初期には、カード作りに必要な材料を提供（お店が再開しておらず入手できなかったため）。 ②それらの材料を使ったクリスマスカードなどの販売品を教会等に紹介。
にっこり手しごと村（石巻市北上町）	石巻社会福祉協議会北上支所の職員が、仮設にっこりサンパーク団地に入居している女性の生きがいづくりとして手仕事の取組を開始。販売用の手作り品も作り始めたのがきっかけで団体を立ち上げる。	①手仕事に必要な材料（糸、布、Ｔシャツなど）を提供。 ②ミサンガなどの手作りの販売品を教会等に紹介。
スワン国際協力の会（石巻市）	震災前から石巻で活動していた国際交流団体。震災後は、まちに色を取り戻すための花壇づくりや被災した女性のための支援活動に取り組む。	①女性のための癒し講座（お茶会等）の開催費用の支援。 ②花苗等の支援。 ③花壇づくり作業の手伝いボランティア。

▶ 体験者の声

KEPPAPPE　畠山　友美子

ルーテル教会救援の方々には、たくさんの方に私たち KEPPAPPE をご紹介して頂きましたが、私たちだけでなく周りの方々をも繋ぐことができました。決して震災のおかげとは言えませんが、悪いことだけではなく、その中で支え合うということで、とても良い環境をつくることができ、皆さまには感謝しています。ありがとうございました。

▶ 体験者の声

にっこり手仕事むら　山下　久恵

ルーテル教会救援の皆さんとのご縁は、震災前から北上公民館のサークル活動で仲間のみんなと楽しんでいた北上とんぼ玉倶楽部の再開を支援して頂いたことがきっかけでした。津波で機材や材料すべてが流され．．．．まあ家から車からみな失ってしまった今、トンボ玉どころの騒ぎではありませんでしたが、倶楽部の仲間が「ずっと続けたいんだよね」と言っていて、心が動きました。そして何より、北上総合支所で働いていて、津波で亡くなった仲間の事が忘れられなくて、彼女がヘンプにトンボ玉を編みこんでいたことも思い出されました。何かを作っていると、手を動かしていると、なんだか夢中で時が過ぎて行く。今の辛い心も一時忘れる！そんな私たちの活動を三年という長期間にわたって支援して頂きありがとうございました m(__)m。私たちの再生はこれから始まります！ルーテルの皆さんに頂いた優しさやたくさんの知恵を、しっかり役立ててさらに活動を続けていきます！ありがとうございました m(__)m。



被災した女性のためのケア講座



スワン国際協力の会の方たちとの花壇づくり



KEPPAPPE のクリスマスカード

地域支援



障害者支援

期　間　2011年５月～2013年12月

場　所　宮城県石巻市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

障害を持つ家族や障害当事者グループでは、さまざまな支援を必要としていた。

◇支　　援◇

見守り等のボランティアの派遣、専門家の紹介、物資支援、販売支援などを行った。

◇結　　果◇

小さな支援だが、必要とされたニーズはその時々に満たすことができた。

課　　題

その時々の個別対応だけに終始し、継続的な支援にできなかった面もあった。



歩む会集合写真＠川開きパレード

▶ 支援内容

2011年５月には、石巻市在住者の紹介で知的障害を持つ家族（１～２家族）のサポートを行った。具体的には当時一般の避難所にいたことから福祉的な配慮がされる避難所を探し、紹介したり、必要な物資の提供や車を流されていたことから買い物の送迎や買い物中の子どもの見守りなど、その時々の生活サポートを行った。

また、同様に石巻市在住者の紹介で精神障害当事者グループ「べてるの家に学ぶシャローム いしのまき」と知り合い、そのグループのメンバーにも必要な物資を提供するとともに、津波の入ったメンバーの自宅や事業所の泥かき作業も行った。加えて当事者とその家族のためのケアのために、ルーテル学院大学の教授らを紹介し、SST 講習会などを行った。

一方、別の支援団体の紹介で石巻身体障害者「歩む会」会長と知り合い、物資の支援や川開き祭りのパレードに出演するための手伝い（衣装の手配、当日の記録等）などを行い、また、同会が活動費を捻出するために手作りしていた「幸せくるみ」（姫ぐるみのストラップ）などを教会等に紹介し、バザー等で販売してもらうなどの活動運営の支援も行った。

▶ 体験者の声「ルーテル教会救援に感謝して」

石巻身体障害者「歩む会」会長　及川　幸男

2012年３月にルーテル教会救援の佐藤さんとお会いして早いもので今日で２年になります。ここの仮設住宅は７世帯で物資はほとんど来ていませんでしたが、ルーテル教会救援さんがいち早く物資を持ってきてくれたのが初めてでした。

私がスタッフの佐藤さんに歩む会で困って活動もままにならないことをお話するとぜひ協力させて下さいと、ハート形のクルミのストラップ「幸せくるみ」や箸置きなどを全国の教会の集まりや文化祭などで販売して頂き、会の運営も助かりました。

また、仮設住宅にはルーテル学院大や聖望学園高校のみなさん、ライアコンサートなど全国各地の方々が来てくださり、いろいろお世話になり感謝申し上げる次第です。今後もお世話になったことを忘れず、頑張っていきます。本当にありがとうございました。



子ども支援

期　間　2012年１月～2014年２月

場　所　宮城県仙台市・石巻市・登米市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

被災地における子ども支援が必要とされていた。

◇支　　援◇

1．被災地内外の子ども支援団体への情報提供、プログラムコーディネートを行った。
2．被災地の子ども支援団体への人材・プログラム・物資提供を行った。

◇結　　果◇

被災地における子ども支援を必要とされる場所への人材・プログラム・物資提供を行うことができた。

課　　題

被災地内外の子ども支援団体間の連携体制を構築することができなかった。

団体名	ニーズ	支援内容
NPO 法人みやぎ 子ども養育支援の会	①環境上養護を要する子どものための施設の備品等を必要としていた。 ②地域の子ども支援プログラムの提供団体を必要としていた。	①施設に必要な備品類の提供を行った。 ②支援プログラム提供団体の紹介を行った。
NPO 法人子育て支援 アシスト・エフワン	①仮設住宅での子ども支援プログラム実施のための資金、物資、人材を必要としていた。	①プログラム提供団体等の紹介を行った ②プログラム実施に必要な物資提供を行った。 ③助成金申請書類等の作成支援を行った。
公益財団法人 東京 YMCA 石巻センター	①子ども支援プログラムの提供の場を必要としていた。	①プログラム提供の場のコーディネートを行った。 ②仮設住宅での協働プログラムを行った。 ③各種情報提供を行った。
NPO 法人 表現教育研究所	①子ども支援プログラムの提供の場を必要としていた。	①プログラム提供の場のコーディネートを行った。 ②仮設住宅での協働プログラムを行った。 ③各種情報提供を行った。



YMCA による子ども支援の場のコーディネート



子ども養育支援の会への備品提供

地域支援



地域団体支援
（石巻市河北地区）

期　間　2012年６月～2014年３月

場　所　宮城県石巻市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

震災により地域コミュニティが分断され、その再生とそれを担う人材・団体が必要とされていた。

◇支　　援◇

地域コミュニティ再生に必要な場、人材、物資、資金、プログラムの提供を行った。

◇結　　果◇

地域コミュニティ再生のきっかけづくりを行うことができた。

課　　題

地域再生の自主的な継続プログラムやそれを担う人材・団体育成を行うところまでには至らなかった。

団体名	ニーズ	支援内容
石巻市 社会福祉協議会 河北支所	①訪問支援員の支援疲れを解消するプログラムが必要とされていた。 ②仮設住宅支援として新たな働きをするための支援が必要とされていた。	①訪問支援員対象のカラーセラピー講座（全５回）を行った。 ②仮設住宅集会所において協働でサロン活動を行った。 ③物資提供を行った。
河北ボランティア友の会	①地域コミュニティ再生のための仮設住宅集会所での「つるしびな」製作の場とその人材、物資、資金が必要とされていた。	①仮設住宅集会所での「つるしびな」製作の場とその人材、物資、資金提供を行った。 ②地域における交流の場の提供を行った。



2013年11月～2014年２月訪問支援員カラーセラピー講座
（石巻市社会福祉協議会河北支所）



2014年２月27日つるしびな贈呈式
（石巻市社会福祉協議会河北支所）



地域団体支援
（石巻市北上町地域）

期　間　2011年５月～2014年３月
場　所　宮城県石巻市

プロジェクト概要

◇ニ　ー　ズ◇

震災の被害により道具がなくなったり、人手不足になったりして活動を再開しようにもできないような状況があった。

◇支　　援◇

要請があれば人手（ボランティア）を出したり、必要な人材を紹介したり、また必要な道具等の購入支援を行った。

◇結　　果◇

その時々に必要とされることに対応し、活動の再開に貢献できた。

課　　題

地域の中でも支援が多く集まるグループとそうでないところが生まれたりするので、その点は注意しながら進めたつもりだが、地域の様々なグループのニーズに平等には応えられていなかったのではと考えている。



2013年５月となりびとボラが縫った袴を使った神楽復活祭



ユニフォーム等を支援した北上ウィナーズ

震災によってもともと地域で活動していた団体も活動が止まってしまった。そうした活動を再開できるようにするため、以下のような活動を行った。

団体名	ニーズ	支援内容
石巻市社会福祉協議会 北上支所 【2011年６月～2013年12月】	震災で職員の業務が増え、事業所周辺の草の手入れなどが行き届かなくなっていた。	①泥かき・草取りボランティアの派遣。 ②イベント（ハープコンサート等）提供。 ③靴箱等の提供。
大室南部神楽保存会 【2012年11月～2013年５月】	地域の神楽保存会の活動を再開しようと地元の人々が動き出したが、予定していた衣装の縫製担当の人が、転居等してしまい衣装の製作が途中で止まっていた。	①大室地区の神楽復活のために必要な神楽衣装の縫製作業を支援。教会員などが袴11着を縫いあげ、提供。
白浜自治会（旧契約会） 【2013年９月～2014年３月】	集落が全て流された地区。皆が集まる機会になればと獅子舞の復活を考えたが、集団移転工事も始まっていない状況では、自力での再開は難しい状況だった。	①白浜地区で流失した獅子舞の道具（獅子頭・油単）の支援。
にっこりホタル会 【2011年５月～2013年３月】	会員が被災してしまい、ホタル会で行っていた活動ができなくなったため、イベント等で人手を必要としていた。	①ホタル会の活動のためのボランティア派遣。
WE ARE ONE 北上 【2013年８月】	震災後、北上町の女性が立ち上げた団体。夏に子どもたちをキャンプに連れて行くための費用を必要としていた。	①北上町とキャンプ地（栗原市）の間のバスチャーター代を支援。
プロジェクトD 【2012年３月】	被災した子どもたちは遊ぶ場もなくなり、親子で出かける余裕がなくなっていた。	①北上町の子どもを持つ親からの希望を受けて、京成バスと共同でディズニーランドツアーを企画。 ②その交通費の一部を支給。
北上ウィナーズ 【2011年12月】	津波でユニフォームなどあらゆる道具を流失していた。	①試合用のユニフォームやボールなどを支援

支援者支援



医療法人・社会福祉法人・NPO 法人支援

期　間　2011年４月～2014年２月
場　所　宮城県気仙沼市、登米市、石巻市、東松島市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

震災の被害があった介護事業所等は、事業の再開を目指すにあたって設備等の再建費用を必要としていた。また、厳しい経営状況と職員も被災したことから職員向けのケアが必要となっていた。

◇支　　援◇

自動車（レンタカー等）や備品等物資の支援、ボランティアの派遣、講座の開催支援を実施。

◇結　　果◇

事業の再建のための費用負担の低減や職員などへの負担の軽減につながった。

課　題

特に介護職のためのケア講座は、今後も継続が必要であると考えるが、継続するための支援の枠組みを用意できずに活動を終了することとなった。また、最初から福祉的な支援に特化して取り組むのも良かったかもしれない。



すみちゃんの家の写真洗浄作業



東松島市すみちゃんの家での大工ボランティア



リバーサイド春圃での散髪ボランティア



古武術介護講座＠岩沼



被災した光ヶ丘保養園



手のひらに太陽の家外観

▶ 支援内容

JLER の支援活動の１つの柱として、初期から福祉的な支援をしていくことは組織内で合意されていた。気仙沼の２か所の施設の支援は、本部メンバーが宮城県庁の担当課を訪問したことからつながり、他の箇所は支援団体や現地の人の紹介でつながることになった。支援を必要としていた福祉施設や福祉系の NPO は無数にあったが、JLER が支援したのは上記のような偶然のつながりがあったものに限られた。

介護事業所等の職員らは、自ら被災しながらも高齢者などを支えねばならず、特に震災１年目は休む間もなく働いている人が多かった。そうした時にもっとも必要とされたのは介護ボランティアなど人的な支援だった。その後も職員のストレスが高まったりするなど、そのケアが必要とされていたため、ルーテル学院大学などと協力してケア講座も開催した。

いくつかの施設や NPO とは長く関係が続き、その時々で当てにされる存在として、右の表に書ききれない細々とした支援もしている。特に東松島市の「のんび～り　すみちゃんの家」には瓦礫の片づけなど多くのボランティアが関わった。

支援対象	被害状況	支援のきっかけ	支援内容
医療法人くさの実会 光ヶ丘保養園 （精神科・神経科：気仙沼市）	建物１階部分は天井まで浸水。職員らの車50台以上が流される。	宮城県庁障害福祉課からの依頼。	①レンタカー３台を４カ月間支援（2011年４月26日～８月25日）。 ②配膳車１台を支援。
医療法人くさの実会 リバーサイド春圃 （介護老人保健施設：気仙沼市）	建物全壊。利用者59名死亡。	光ヶ丘保養園からの紹介。	①自動車購入費用支援（100万円）。 ②PC、プリンター等備品の支援。 ③ボランティア派遣（介護、散髪、引っ越し作業）。 ④利用者のための食料の支援。 ⑤サロン用イベントの提供支援（鼻笛、太鼓演奏会など）。 ⑥職員対象の古武術介護講座を開催。
NPO 法人さくらんぼくらぶ （介護事業所：登米市）	地震により事業所の基礎に亀裂が入る。半壊。	NPO 法人杜の伝言板　ゆるるの紹介。	①仮設事業所用エアコンの支援。 ②登米市に避難している人への物資支援。 さくらんぼくらぶのイオン南方店跡地応急仮設住宅支援活動の支援（イベント開催、サロンプログラムの提供、リフレッシュ遠足のための交通費助成）。
社会福祉法人永楽会 特別養護老人ホーム おながわ （特別養護老人ホーム：女川町）	床上浸水と被害は軽かったが、震災後、利用者が増え職員の負担が高まっていた。	別の支援団体の紹介。	①介護ボランティアを派遣。
NPO 法人 のんび～りすみちゃんの家 （介護事業所：東松島市）	グループホームなど３棟が１階部分の天井近くまで浸水。半壊。	NPO 法人杜の伝言板　ゆるるの紹介。	①ボランティア派遣（泥かき、瓦礫拾い、食器洗い、花壇づくり等）。 ②物資（食料、布団等）支援。 ③津波で汚れた写真の洗浄（全国の教会協力による）。 ④イベント「走れ！仙石線」開催支援。 ⑤職員のためのケア講座開催。
NPO 法人みやぎ宅老連絡会 及びその会員事業所 （仙台市）	会員事業所が被災。	すみちゃんの家の紹介。	①会員事業所への物資支援。 ②2013年度に「対人援助職のためのサポート講座」を３か所（東松島市、仙台市、岩沼市）で開催。 ③2013年度に「介護職のための古武術介護講座」を３か所（石巻市、大河原町、大崎市）で開催。
社団法人 日本社会福祉士会 （石巻市）	震災後、全国から専門職を組織し、避難所支援に従事。	ルーテル学院大学の紹介。	①支援活動を行うための交通手段として、レンタカー３台を４か月間（2011年５月21日～９月21日）支援。
手のひらに太陽の家 （NPO 法人日本の森バイオマスネットワーク運営 ：登米市）	震災後に建てられた施設で、福島の子どもたちの保養のために使われている。	支援団体間の ML。	①物資支援（タオル等）。 ②福島からの子どもたちの保養のための交通費（バスチャーター代）を支援。 ③職員のためのパソコン教室を開催。

生業支援



漁業支援

期　間　2011年５月～2013年12月

場　所　宮城県石巻市、東松島市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

東日本大震災では三陸沿岸に点在する多くの漁業集落が壊滅的な被害を受けた。浜の人々は自宅だけでなく、船や漁具、漁業用の機械や倉庫などあらゆるものを失った。もう一度、同じ地域で再建するには、特に仕事を再開するために必要な道具等をそろえることが求められていた。

◇支　　援◇

共同利用倉庫、漁業用機械、事務業務サポート派遣等を実施

◇結　　果◇

復旧・復興の過程で漁業者にかかる負担のいくばくかを軽減できた。

課　　題

限られた財源しかないため、一部の漁村しか支援できないのだが、支援する地域としない／できない地域の線引きをどう考えるかは、常に注意しなければいけないことだろう。地域差が出来るだけ出ないように、他団体の動き等も把握しながら活動を進める必要がある。

また、倉庫等の支援は、基本的に共同利用するもののみを支援対象とし、そうした趣旨で相手方にも理解してもらっていたが、実際に倉庫ができると一部の人が頻繁に利用し、別の人たちはなかなか使えないという状況が発生した。こうした利用状況を改善するための介入などはしなかったが、こうしたことが起こりうることは、今後、事前に想定しておく必要はあるだろう。

▶ 支援内容

JLER では、たまたま被災地で出会った人の紹介で石巻市の２か所と東松島市の１か所の漁業協同組合と、コミュニティセンター再建支援も行った気仙沼市本吉町前浜地域の漁業者の支援を行った。それぞれの地域での活動内容は右の表の通りである。

尚、石巻市北上町十三浜と東松島市宮戸については、教会等で購入してもらえるよう生産物（十三浜のわかめや昆布、宮戸の海苔）の紹介も行った。この取り組みは、被災地外の人たちが被災地の復興に少しでも関わることができるようにするための１つの方法としての意味もあった。



宮戸西部支所の海苔加工所掃除バスボラ



北上町十三浜支所わかめ発送作業ボランティア

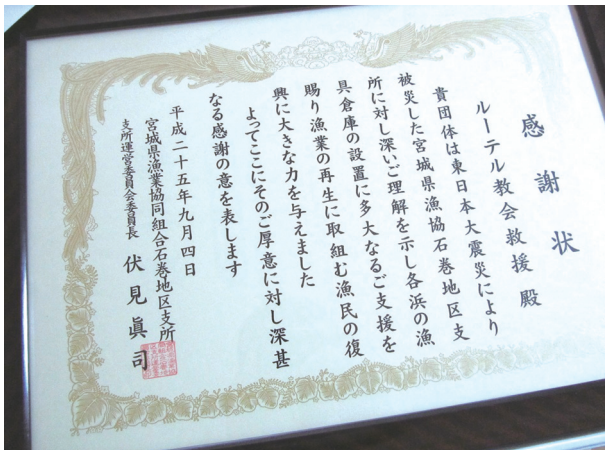
支援対象	被害状況	支援のきっかけ	支援内容
宮城県漁業協同組合 北上町十三浜支所 （石巻市北上町十三浜）	地域の建物の９割以上が津波で全・半壊等。265名が死亡・行方不明。	石巻市民の紹介。	①共同利用テント倉庫の建設費のうち漁業者負担分を支援。※１ ②拠点倉庫・作業所の建設費のうち漁業者負担分を支援。 ③アワビ漁のための箱メガネ製作に必要な杉板材を支援。
宮城県漁業協同組合 石巻地区支所管内の 10か所の浜（石巻市）※２	それぞれの浜の漁業施設は、ほぼ壊滅。	石巻市民の紹介。	①共同利用漁具倉庫・作業所（シャッター式プレハブ倉庫）を10か所の浜に各１棟を建設。
宮城県漁業協同組合 宮戸西部支所 （東松島市宮戸）	宮戸島の４つの浜のうち３つの浜は壊滅。残りの１つの浜は浸水被害。	東松島市東名のすみちゃんの家の紹介。	①漁船清掃用の高圧洗浄機の支援。 ②海苔加工所の掃除ボランティア（バスボラ２回）。 ③浸水した重要書類の乾燥作業ボランティア。 ④漁協事務所２階の畳等の入れ替え作業ボランティア。 ⑤事務作業ボランティア。 ⑥漁業者向けパソコン教室開催。
気仙沼市本吉町前浜地域	前浜漁港にあった船などが流失。	コミュニティセンター再建支援のつながり。	①漁業者が自分の船を修繕するために必要な材料（ガラスクロスほか）を支援。

※１．石巻市北上町十三浜でのテント倉庫の再建支援は、NPO 法人 PARCIC が国際人道支援組織ジャパン・プラットフォーム（JPF）のファンドに申請するかたちで進めていたが、ファンドの規定で建設費用の６分の１は漁業者が負担することになった。しかし、漁業者は、この他にも復興に向けて自宅の再建等の莫大な経済的負担がこれから発生するため、そうした６分の１でも支援してもらえるとありがたいのだがという相談があり、支援することになった。

※２．石巻市の宮城県漁業協同組合石巻地区支所管内の10か所の浜とは次の10ケ所である。沢田、佐須浜、小竹浜、折浜、桃浦、侍浜、荻浜、仁斗田（田代島）、大泊（田代島）。この10ケ所に建設した倉庫の費用は、全額ドイツルーテル教会の災害支援組織 DKH（Diakonie Katastrophen Hilfe）からの支援金に依った。



石巻地区支所管内の10か所に建設した共同利用漁具倉庫


感謝状

ルーテル教会救援殿

貴団体は東日本大震災により被災した宮城県漁協石巻地区支所に対し深いご理解を示し各浜の漁具倉庫の設置に多大なるご支援を賜り漁業の再生に取組む漁民の復興に大きな力を与えました

よってここにそのご厚意に対し深甚なる感謝の意を表します

平成二十五年九月四日

宮城県漁業協同組合石巻地区支所
支所運営委員会委員長　伏見眞司

石巻地区支所から頂いた感謝状

コミュニティセンター再建支援



前浜コミュニティセンター

期　間　2011年６月～2014年１月

場　所　宮城県気仙沼市本吉町前浜地域

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

震災によってそれまで使っていたコミュニティセンターが流失。みんなが集まり話し合う場所がなくなっていた。前浜地域では震災前からコミュニティ活動が活発で、年間50回以上もコミュニティセンターを使って活動をしていた。地域の復興にはコミュニティセンターが必要だという地元の人からの希望に応えるかたちでコミュニティセンターの再建支援を行った。

◇支　　援◇

コミュニティセンター再建のための費用の支援、再建プロセスの支援（会議録作成、ワークショップ準備・実施の手伝い等）、再建後のイベント提供など。

◇結　　果◇

コミュニティセンターの再建の動きは、2011年10月から本格的に始まり、2013年９月13日に落成式を行い、再建された。本設での再建としては、このセンターが気仙沼市内で一番早い再建事例となった（仮設ではいくつか有）。再建された後は、地域の各種行事等で頻繁に利用されている。

課　　題

コミュニティセンターの再建は、当初の予定からすれば大幅に時間がかかることになった。行政との調整や業者の選定、各種の法的手続きなどの通常の手続きに加え、震災後の建設需要の高まりに伴う材料不足や人手不足なども重なったためだ。今回は、活動期間が３年であったため、その期間内に完成できたが、もし活動期間がもっと短かったら完成までたどり着かなかったかもしれない。



コミュニティセンター外観



テラス床張りワークショップ



津波で流失したセンター跡

コミュニティセンターの建設費表（最終）

no.	項目	支援金額
1	ルーテル教会救援 / ドイツ DKH	64,000,000
2	シャンティ国際ボランティア会	10,000,000
3	NRK / LC-MS	5,000,000
4	予算総額	79,000,000
5	実際にかかった建設費	77,844,096
6	差額（＝4-5）⇒備品購入に充てる	1,155,904

▶ 支援内容

JLER がコミュニティセンター再建の支援の用意があることを正式に前浜地域振興会に伝えたのは、2011年７月７日の振興会役員会でのこと。それから振興会で地域にセンター再建に関するアンケートをとったところ、まだ仮設住宅もできていない状態では賛成できないという意見もあり、仮設住宅が完成する８月末までセンター再建に関する具体的な動きは保留となった。その後、９月に再度アンケートをとったところ、建設に賛成する声が９割を超えたため、10月に地元住民19人からなる建設委員会を設立。その頃、シャンティ国際ボランティア会（以下、SVA）も再建に関わることを決定した。続いて復興住宅の支援をしようと気仙沼を訪れていた一般社団法人天然住宅/㈱アンビエックスが、SVA の紹介で建設委員会を見学したのをきっかけに支援を表明。支援を決めた理由は、住民参加型で再建を進めようとしている点に共感したということだった。

この時点ではどのような建物にするのか、予算は足りるのかなど、はっきりしていなかった。建設委員会で震災の経験を踏まえてどのような建物にするのかが話し合われていった。その後、建物のかたちが見えてきたが土地と建物を考えるとその時点での予算規模では足りない状況だった。この状況が変わったのは、ドイツ DKH から依頼され来日したルーテル世界連盟（LWF）のローランド・シュロット氏の訪問だった。2012年６月に前浜を視察し、現地の状況を知ったシュロット氏はドイツ DKH と交渉し、追加支援が決定。これでようやく資金の目処がたった。

2012年７月には気仙沼市に建設用地代金を寄付し、気仙沼市が建設用地の所有者から土地を購入。同年８月には建設予定地で埋蔵文化財の調査が行われ、無事何も発掘されなかったことで月末より造成工事が始まった。並行して建設に向けたワークショップが始まった。同年12月13日に地鎮祭をし、同日建設業者と契約を締結。同月末より基礎工事が始まった。

住民はその間、材料置き場等になる作業所の建設や外壁となる焼き杉板づくり作業をワークショップで実施。2013年５月３日には上棟式を開催。地域の人々や支援関係者など200名を超える人々が無事の上棟を祝った。その後もタイトなスケジュールの中、建設業者が頑張り、７月末には完了検査を終え、８月に備品の搬入等を行い、９月15日に落成式を行った。最終的に60近い支援者／団体がかかわった。



2013年９月15日落成式集合写真

防災・減災教育



スタディツアー

期　間　2013年３月～2014年３月

場　所　宮城県沿岸部・福島県南相馬市

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

支援活動３年目を迎え、被災地以外では震災関連の報道が減り、一部から「もう忘れられ始めている」という声も聞こえてきた。そこで、被災地の現状と「となりびと」の活動の現場を特に教会の方々に知って頂き、被災地で見聞きしたことを各地で伝えてもらい、次への備えとしてもらうためスタディツアーを企画・実施することになった。

◇結　　果◇

100名近くの人が、被災者から直接震災の経験と教訓を学んだ。

課　題

スタディツアーの日程の設定が難しかった。平日開催と連休開催、また１日だけのツアーと２泊３日のツアーを交互に組み合わせたが、なかなか参加者が集まらない回もあった。周知方法についてももっと伝わるような取り組みが必要だったかもしれない。



第３回定例スタディツアー＠南相馬



聖望学園スタディツアー＠南三陸



ルーテル学院大スタディツアー＠石巻

▶ 支援内容

スタディツアーは、JLER が定期的に企画・実施する定例のスタディツアーと主に学校などから依頼があって行うスタディツアーの２種類を行った。ボランティアには来られないけれども被災地のことを知りたいという動機での参加者も多かった。

実施日	名　　前	訪問場所	参加者数
2013年３月14日～17日	ルーテル学院大学	東松島市「すみちゃんの家」、石巻市社協ささえあい総括センター（石巻市）、石巻身体障害者歩む会会長宅。	学生９名、 チャプレン１名
2013年３月27日～30日	聖望学園高校	東松島市宮戸、石巻市十三浜、石巻市仮設団地お茶っこ、石巻身体障害者歩む会会長宅	生徒９名、教員１名 チャプレン１名
2013年６月28日～29日	文教大学	石巻市（話：千葉直美氏、狩野金雄氏）	学生７名、教員１名
2013年７月12日～13日	第１回定例	東松島市「すみちゃんの家」、石巻市市街地（案内：斉藤正一・みや子夫妻）、石巻市蛤浜（カフェはまぐり堂）	６名 （J本郷４名、N大宮・N札幌中央各１名）
2013年７月28日～31日	聖望学園高校	石巻市仮設団地でお茶っこ、石巻市十三浜、南三陸町（案内：中高生語り部グループ「まずもって」）	生徒６名、教員１名 チャプレン１名
2013年８月19日～22日	聖望学園高校	石巻市仮設団地でお茶っこ、南三陸町（案内：中高生語り部グループ「まずもって」）	生徒５名、教員１名 チャプレン１名
2013年８月24日	旭ヶ丘母子ホーム	南三陸町防災庁舎・大川小学校見学 石巻市仮設住宅訪問（話：狩野金雄氏）	生徒８名、職員２名 大学生ボランティア３名
2013年９月21日～23日	第２回定例	石巻市コミュニティカフェ「いやしろっち」、気仙沼市本吉町前浜（案内：畠山友美子氏）	７～11名 （J鶴ヶ谷４名、J大分・J鹿児島・K津・J日吉各１名、J玉名関係２名、J大分関係１名）
2013年10月29日	第３回定例	南相馬市（案内：六角支援隊）	８名 （J甘木4名、N旭川・J三鷹・W吉野川・J神水各１名）
2013年11月2日～４日	第４回定例	名取市（案内：閖上の記憶ガイド）・石巻市（案内：斉藤正一・みや子夫妻、佐藤清吾氏）、女川町	５名 （W青谷２名、J名古屋・N新潟・J熊本各１名）
2013年12月６日	第５回定例	気仙沼市本吉町前浜（案内：畠山友美子氏）、気仙市鹿折地区等（案内：気仙沼コンベンションセンター語り部）	６名 （W青谷、W加古川、J長野、J本郷、J鶴ヶ谷、東京老人ホーム関係各１名）
2014年１月11日～13日	第６回定例	南相馬市（六角支援隊）、仙台市（落合氏）・名取市（閖上の記憶ガイド）、石巻市（狩野金雄氏）	６名 （J松本２名、J鶴ヶ谷２名、石巻関係２名）
2014年３月20日～23日	聖望学園高校	仙台市荒浜、名取市閖上、大川小学校、南三陸町、前浜マリンセンター、陸前高田、石巻市（NPO お茶っこケアよってがいん・カフェはまぐり堂・北上町十三浜）	生徒４名、教員１名

※文教大は NRK の教会員勤め先のゼミ生を連れてくる形で開催。

防災・減災教育



防災講演会

期　間　2013年６月～2013年12月

場　所　全国各地の教会など

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

支援活動３年目に防災・減災教育を活動の１つの柱として加えた。東日本大震災後、それまでの各種の災害の想定が見直され、2012年には政府は南海トラフ巨大地震の新たな被害想定等を発表。そうした中で次の大災害に備えるため、今回の震災の経験から広く学ぶことが必要と考え、希望する教会・関係施設等で防災講演会を開催することになった。

◇支　　援◇

講演会開催のための段取り（講師選出・講師との打合せ等）、講師料・交通費等の開催費用の支援。（会場は希望の教会等が用意する）

◇結　　果◇

関東以西の太平洋沿岸部の５か所の教会・施設で防災講演会を開催。教会員のみならずその地域の人々も津波などについて学ぶことができた。

課　　題

結果的に防災講演会は３か所の教会と２か所の施設で行った。可能であればルーテル教会関連学校でも開催できれば良かったが、そのための周知や段取りが不十分だったかもしれない。


鵠沼めぐみルーテル教会
春の講演会

今、東北に学ぶ　「防災・減災」

ー 宮城県での支援を続ける「ルーテルとなりびと」の活動をとおして ー

宮城県東松島市で
被災された方々から
直接お話しを聞きます。

・震災の日のこと
・避難所・仮設住宅での暮らしと問題点
・震災を経験して伝えたいこと、伝えたい教訓

ルーテル支援センターとなりびと

ルーテル教会の支援活動での体験談も含め、これらのお話しを聞くことで、震災から2年が経った今、改めて、私たちが気に留めるべきこと、するべきことを地域の皆様と一緒に考えたいと思います。

どなたでも参加いただけます。（無料）

日時：6月30日（日）14:00 ー 15:30

場所：鵠沼めぐみルーテル教会　礼拝堂
〒251-0038 藤沢市鵠沼松が岡1-1-6
（江ノ電鵠沼駅下車徒歩2分）
Tel（Fax） 0466-50-2400

＊1 ルーテルとなりびと ：主に宮城県における支援活動を展開。2011年4月よりボランティア派遣、支援物資輸送、ボランティアセンタースタッフ派遣、仮設支援やコミュニティ復興支援などを行っている。

防災講演会＠鵠沼教会チラシ・カラー版



防災講演会＠鵠沼めぐみルーテル教会



防災講演会＠特別養護老人ホームディアコニア

開催日	開催場所	講　　師	講演内容	参加者数
６月30日	鵠沼めぐみルーテル教会（NRK）	鈴木せつ子・行雄夫妻、尾形すみ子・正明夫妻（東松島市宮戸）	それぞれの方の被災体験と避難所での生活、今回の津波を体験しての教訓等について。	約30名
９月28日	神戸ルーテル聖書学院（WJELC）	佐藤清吾氏（宮城県漁業共同組合十三浜支所運営委員長）	ご本人の震災の経験と地域のこれまでの復旧過程、住宅再建など現在抱えている問題などについて。	約20名
10月19日	米子福音ルーテル教会（WJELC）	木村玲欧氏（兵庫県立大学環境人間学部准教授）	防災の心理学をテーマに、災害時の人間心理や必要な備え等について。	約20名
11月29日	特別養護老人ホーム「ディアコニア」（JELC）	吉田真一郎氏（介護老人保健施設リバーサイド春圃統括主任）	介護施設の津波被害と被災後から今までの歩み、また福祉施設として必要な次への備えについて。	約15名
12月８日	東京教会（JELC）	猪苗代盛光氏（介護老人保健施設リバーサイド春圃常務・元施設長）	公共施設の防災をテーマに、リバーサイド春圃の体験と今回の体験からの教訓等について。	約30名



防災講演会＠神戸ルーテル聖書学院



防災講演会＠米子福音ルーテル教会

報告・記録・記憶



現地見学会（復興ツアー）

期　間　2013年５月～2014年３月
場　所　宮城県沿岸部

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

震災三年目を迎え、被災地では、復旧・復興の状況を現地で確かめ、観光等の訪問による経済的支援を求めはじめていた。

◇結　　果◇

50名近くの人に、実際の支援先等を訪問する機会と被災地の現状を知り、被災地以外へ震災の現状を伝える場を提供することができた。また、仮設商店街での買い物等により被災地の経済的支援を行うこともできた。

課　　題

教会以外の周知方法が十分ではなく、特に教会関係施設の参加者を得ることができなかった。
また、申込手続きをボランティ申込と同様にしたため、手続きに混乱が生じた。

現地見学会実施概要

No	実　施　日	教会・団体名	参加者数
1	５月７日～10日	N 札幌中央ルーテル	信徒２名
2	６月６日	J 広島	信徒１名
3	７月５日～７日	J 第１回女性会連盟	信徒５名（雪ケ谷・新霊山・三鷹・都南・市ヶ谷）
4	９月６日～７日	J 第２回女性会連盟	信徒５名（札幌３名、八王子２名）
5	９月９日～11日	J 豊中	牧師１名、信徒５名
6	10月22日～24日	NRK	信徒12名（竹の塚ルーテル１名、札幌中央ルーテル８名、飯能ルーテル１名、鵠沼ルーテル１名、白根ルーテルキリスト１名）
7	10月29日～31日	J 甘木	信徒４名
8	11月８日～９日	J 第３回女性会連盟	信徒６名（清水１名、博多２名、小鹿２名、名古屋めぐみ１名）
9	２月24日	J 箱崎・小石川	牧師１名、信徒１名、信徒関係者１名
10	３月６日	J 仙台・鶴ケ谷	牧師２名、信徒３名（仙台２名、鶴ケ谷１名）
11	３月８日	J 仙台・鶴ケ谷	牧師２名、信徒５名（仙台２名、鶴ケ谷３名）

※No. 1 ～ 8 ：2013年　No. 9 ～11：2014年

▶ 訪問先の声「多くの人々との交流で絆を深める！」

仮設河北三反走団地　狩野　金雄

東日本大震災発生から間もなく三年。忘れられないあの悲惨な津波の過去を想い出す。その間、ルーテル教会関係者の皆様との関わり、今後の生きる力、元気の源を与えられ今がある。ある時は北海道から九州方面まで遠路河北の地方までおいで頂き、事前或いは事後に、奇跡的に津波から命拾いをした当時の状況について未熟な話題を提供し、皆様方から貴重なご意見、質問を通して考察、現地の訪問により一段と報道内容の理解を深められた事と存じます。

私達夫婦も「人間どんな状況にあろうと、住民や多くの人と交流し、年を重ねても前向きに存分に生きる事の大切さを改めて実感し、後々まで若い世代に風化せず伝えていく」義務がある事を学びました多くの方々からご支援、激励を通信でいただき感謝しております。生ある限りこれまでの体験を有効に活用しながらいつか『花は咲く』ことを期待しつつ頑張ります。皆様のご多幸をお祈り致します。



報告会・支援品販売・「つるしびな」全国巡回展

期　間　2013年３月～2014年３月

場　所　全国各地の教会・関係施設等

プロジェクト概要

◇ニ ー ズ◇

震災３年目に入り、被災地以外では震災の記憶が風化しつつある中、被災地では「忘れられたくない」という思いがあった。また、南海トラフ大震災への対応の必要に迫られていた。

◇結　　果◇

全国での報告会、支援品販売、つるしびな展示によって、被災地の現状を知り、また、被災地のことを思い起こす機会となった。特に、メッセージノート(つるしびなの感想等)により、被災地の方へも「忘れられていない」というメッセージを伝えることができた。そして、活動記録の発行により、今後の災害、特に南海トラフ大震災への備えを行うことができた。

課　題

報告会等の会場が教会中心で、教会関係施設、特に幼稚園、学校での開催が少なかった。

報告会・支援品販売・「つるしびな」全国巡回展実施概要

No	日　時	プログラム	報告会	支援品	巡回展
1	３月11日	J 東教区震災二周年記念礼拝と報告会	○	○	○
2	３月20日	J 東教区総会	○	○	○
3	４月13日	J 西教区女性会会長会			○
4	４月20日	J 東海教区女性会会長会			○
5	４月24日	クヌーテン講演会	○		○
6	４月25日	ルーテル教会救援対策本部会議			○
7	４月29日	N 伝道フォーラム			○
8	５月４日	J 東教区50周年記念大会		○	○
9	５月13日	LCM 会議（フィンランド）			○
10	５月15日	LCM 会議（アメリカ）			○
11	５月18日	N 北海道女性の集い			○
12	５月20・21日	W 教師会			○
13	６月３・４日	サウスカロライナ・ルーテル教会総会			○
14	６月８日	W 阪神地区女性会			○
15	６月16日	J 博多教会「つるしびな」全国巡回展			○
16	６月17～21日	J 箱崎教会「つるしびな」全国巡回展			
17	６月22日	J 九州教区女性会修養会	○	○	○
18	６月23日	J 二日市教会報告会	○		○
19	６月30日	N 鵠沼教会防災講演会	○		○
20	７月14・15日	J 南九州群修養会	○	○	○
21	７月16～19日	J 宮崎教会「つるしびな」全国巡回展		○	○
22	８月４日	J 熊本教会報告会	○	○	○
23	８月５日	J 九州教区中高生キャンプ	○		○
24	８月６日	J ルーテル幼稚園・保育園連合研修会	○		○
25	８月11日	W 徳島市地区報告会	○	○	○
26	８月15・16日	カトリック・ルーテル国際対話委員会			○
27	８月27・28日	J るうてる法人会連合総会	○	○	○
28	９月14日	J 東海教区伝道セミナへ			○
29	９月21日	N 旭川聖パウロルーテル教会報告会	○		○
30	９月22・23日	J 西教区女性会修養会 ・50周年記念大会		○	○
31	９月28日	W 防災講演会	○		○
32	９月29日	W 西須磨教会「つるしびな」 全国巡回展			○
33	９月29日	N 札幌中央ルーテル教会「つるしびな」 全国巡回展			○
34	10月３～11日	J めばえ幼稚園「つるしびな」 全国巡回展			○
35	10月５日	J 東教区女性会会長会	○	○	○
36	10月６日	J 津田沼教会報告会	○	○	○
37	10月12日	J 東海教区女性会の集い			○
38	10月12日	J 札幌教会札幌北礼拝堂報告会	○	○	
39	10月13日	J 札幌教会札幌礼拝堂報告会	○	○	○
40	10月14日	J 北海道教区一日神学校		○	○
41	10月14日	N 北海道地区総会			○
42	10月19・20日	J 帯広教会帯広・池田・釧路礼拝堂 「つるしびな」全国巡回展			○
43	10月26・27日	J 函館教会「つるしびな」全国巡回展			○
44	11月18～20日	J 全国教師会	○	○	○
45	11月22日	J 谷の百合幼稚園報告会	○	○	○
46	11月23日	N 新潟地区一日神学校			○
47	11月24日	J 広島地区報告会	○	○	○
48	11月25日	J ルーテル保育所「つるしびな」 全国巡回展			○
49	11月29日	J 特別養護老人ホームディアコニア 防災講演会	○		○
50	12月１日	J 静岡教会「つるしびな」全国巡回展			○
51	３月21日	W 教会定期総会	○		

※No. 1 ～50：2013年　No.51：2014年
※2013年２月以前の随時実施分を除く

「東日本大震災ルーテル教会救援」（JLER）の歩み

東日本大震災救援対策本部長　青　田　　勇



東日本大震災の発生以来、年月は3年が経過しましたが、被災地では愛する人を失い、いまだに将来の生活のめどが立たず、苦しみと悲しみの中にあって、心の痛みはいまだ癒えていない多くの人々がいることを覚え、それらの人々に神の癒し、キリストの愛と慰めが特に注がれることを心より祈ります。

東日本大震災の救援・支援活動のために、日本福音ルーテル教会（JELC）は3月14日、JELC東教区の協力を得つつ救援対策本部をJELC市谷事務局に設置し、各個教会・関係施設に救援・支援物資のアピールと支援募金を呼びかけました。

その後、ルター派の海外教会・団体からの多額の支援に応え、日本のルーテル4教団及び関連施設（社団・大学等）の協力・協同の業を構築していくために、「東日本大震災ルーテル教会救援」（英語表記“Japan Lutheran Emergency Relief”）をルーテル4教団の議長の下に設置しました。

そして、宮城県を中心に可能な限り、多角的な救援・支援活動を本格的に展開するために、最初の専従スタッフ2名（佐藤文敬氏、遠藤優子氏）を現地に派遣し、現地活動の拠点として「ルーテル支援センターとなりびと」をJELC仙台教会に設置しました。

また、世界からの多額の支援に適切に応えるために、アメリカ福音ルーテル教会（ELCA）のアジア担当・石田順孝氏、世界ルーテル連盟（LWF）のアジア・人道支援担当のシュロット氏（Roland KilianSchlott、Program Officer Asia & Humanitarian Affairs）からの助言を受けつつ、国際救援活動の特別アドバイザーとして、マタイ氏(K.G.Mathaikutty、Disaster Management Specialist）をLWFより3ケ月間、派遣していただきました。

特に、マタイ氏には国際基準に沿ったルーテル教会救援の活動方法やその評価方法等についてのアドバイスを受け、事業・監査報告書等の作成や支援態勢作りにも寄与していただきました。

3年間のJLERの救援・支援活動の基本指針となった「JLERミッション・ステートメント」は以下の通りです。

①「キリストにおける愛の奉仕」の業に基づき、東日本大震災で被害を受けた被災者の復旧・復興のために可能な限りの多角的な救援活動をルーテル4教団の共同事業として取り組む。

②霊的にも、心理的にも、身体的にも苦しんでいる被災された人々に深く関わり、その生命の声を聞き取り、「希望と喜び」の内に共に生きる道を見出すための必要な支援を行うことは神の憐れみの宣教そのものであり、これに参画する召しが神の民に呼び求められており、その声に応える。

③日本のルーテル教会の宣教力を結集した支援事業である「ルーテル教会救援」活動は、日本国内だけでなく、世界ルーテル連盟を中心に世界のルーテル教会・団体と強く結びつき、知恵と支援を得つつ、開かれた救援活動として可能な限り長期的に取り組む。

このミッション・ステートメントの下、3年間、神の恵みと導きにより、JLERの支援活動が被災地域の人々の将来に向けての新たなる希望の道を開くための一助となったことをキリストにおいて信じるものです。

それと共に、この支援活動を日々支えくださった、救援対策本部の四教団議長、委員、全国の牧師、現地スタッフの方々、数多くのボランティアの方々、ルーテル諸教会・施設、信徒の方々、教会関係者、それに世界の教会・団体の方々に心より感謝いたします。

東日本大震災ルーテル教会救援
派遣牧師　野　口　勝　彦

東日本大震災から３年が経過しました。そして、その救援と支援のために組織された東日本大震災ルーテル教会救援も2014年３月31日をもって、その働きを終えました。

震災当日、活動拠点としてルーテル支援センター「となりびと」が置かれている仙台から約1,500km離れた福岡で観たテレビから流れでるあの津波の映像が、今も鮮明な記憶として私の頭から離れることはありません。そして、その年の５月、被災地にボランティアとしてはじめて足を踏み入れた時の衝撃も、私は忘れることができません。

2012年４月から派遣牧師として働きを与えられたこの被災地での時間は、私にとって２年とは思えないほど、とても長い時間でした。それは、被災者の方々にとっても同じであったかもしれません。ルーテル教会救援が主に活動した宮城県のガレキは、この３月ですべての処理が終わりました。また、復興公営住宅などへの入居も始まっています。被災地は表面的には復旧から復興への道を確実に歩みはじめているようにもみえます。しかし、その一方で、福島第一原子力発電所の周りの街は、今も、震災の日、そのままの状態となっているのが現実です。

ルーテル教会救援は、この３年間、世界中の皆さまのお祈りとお支えにより、神さまから与えられた働きを果たすことに努めてきました。

その働きを終えるに当たり、あらためて皆様に心からお礼を申し上げると同時に、一日でも早い被災地復興への祈りを引き続きお願いできればと思います。



東日本大震災ルーテル教会救援
チーフスタッフ　佐　藤　文　敬

震災から３年を迎えた今も40万人近い人々が仮設暮らしを強いられ、また行方不明の方も2000人以上いらっしゃいます。早く通常の暮らしができることを願ってはいますが、おそらく半数近くの方が少なくともあと２～３年は仮設暮らしを続けることになりそうなのが、現実です。

縁があって東日本大震災ルーテル教会救援のスタッフとなり、市谷の本部に初めて行ったのが2011年４月３日。それからいくらかの準備をし、仙台入りしたのが４月11日でした。

以来３年近くにわたって、現地で物資支援やコミュニティセンターの再建支援など様々な支援活動に携わってきましたが、いずれの活動も多くの方々の支えがあって実現したものでした。ボランティアに来て下さった方々、全国各地で雑巾プロジェクトや写真洗浄作業、被災地物品の販売支援などに参加して下さった方々など、全国そして世界中の教会のみなさんの支えがなければ３年間続くことはなかったかもしれません。

さらには日本聖公会「いっしょに歩こう！プロジェクト」やシャンティ国際ボランティア会をはじめとした様々な団体のみなさんとの協働も大きな支えになりました。そしてなにより、みずから被災しながらも、私たちを信頼し、様々な現地のニーズを紹介してくれた石巻や気仙沼、東松島などのみなさんの協力なしでは、私たちの活動は成立しなかったでしょう。こうして支えて下さった皆さんに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。復興にはまだまだ時間がかかりますが、被災地の人々ができるだけ早くに日常が取り戻せることを強く願っています。



日本福音ルーテル教会
総会議長　立　山　忠　浩



「ルーテルとなりびと」の３年間の活動には実にたくさんの方々の支援があり、祈りがありました。スタッフとしてご奉仕いただいた方々、ボランティア活動に足繁く通って下さった方々、現地の支援活動には直接関われなかったとしても、募金や現地の産物を購入することなどを通して協力いただいた方々。お一人おひとりのお名前を挙げることはできませんが、心よりお礼申し上げます。

活動は2014年３月をもって終了となりましたが、言うまでもなく被災地の方々の苦悩は依然として終わっていません。少しでも継続できるものや新たな支援活動を、祈りを重ねながら、皆さまの知恵と力をお借りしながら行えればと願っています。

たくさんの収穫も得ることもできました。国内の四つのルーテル教会が協力し合う協働・共同の奉仕の実績を積み上げたこと。直接的な伝道はしませんでしたが、奉仕（ディアコニア）による宣教を実践できたことは、幅広い宣教の可能性を拓きました。限られた被災地での支援活動でしたが、３年間の働きに感謝して下さった方々がたくさんいらしたことなどでした。素直に喜び、神様に感謝したいと思います。

最後になりましたが、活動拠点を提供下さった仙台教会の皆さまに、実にたくさんの支援を下さった海外のパートナーシップ教会の皆さまに、心から感謝申し上げます。

日本ルーテル教団
議　長　粂　井　　豊



忘れることのできない東日本大震災から、３年を迎えます。人によってはあっという間の３年と思われる方もいれば、日々の時間を過ごす重さをいまだに抱え、苦しみの中にあって長い３年と感じていらっしゃる方たちも居られることと思います。いまだ、そのような苦しみの中に居られる方々が多くおられることを知りながらも、この支援活動を終えることになりました。

私たちは、震災被害に遭われた方々との関わりの中で、人の苦しみは、単にさまざまな物を失うという物理的な打撃を与えられただけではなく、それ以上に肉親や、多くの友を失った悲しみや、何故自分だけが生き残ったのだろうと思わざるを得ないような精神的な苦痛や悲しみがあることも知りました。それらの人々に対しどうしようもできない痛みを感じながらも、私たちは、イエスさまが「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の１人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」というみ言葉に即されて、この３年間、被災者のために少しでも手助けになればと仕えて来ました。そして、私たちも多くのことを学ぶ機会が与えられました。感謝したいと思います。

直接的な支援は、この３年で終わりましたが、私たちと交わりをし、“ルーテルさんと”呼んでくださるようになった人々が、いまだに苦しみの中にある仲間たちと共に、新たな歩みへ向かっていけるように祈り続けます。それと同時に、私たちのなしえる範囲での被災者との歩みを続けていきたいと思います。

近畿福音ルーテル教会
総会議長　末　岡　成　夫



主の御名を崇めつつ、東日本大震災で犠牲になられた皆様に心より哀悼の意を表します。また被災され、今もなお悲しみと苦しみの中に懸命に歩んでおられる皆様の上に主の慰めと平安がありますようにお祈り申し上げます。

震災の約三週間後、現地での状況を目の前にした時、呆然としました。情報が錯綜し、現地の正確な状況把握も困難な時が続いた中で、各ルーテル教会が互いに連絡を取り合うことから活動が開始しました。当時の日本福音ルーテル教会の渡邉純幸議長と青田勇副議長が中心となってくださり国内及び海外からの温かい支援に励まされる中、日本ルーテル教団の粂井豊議長、西日本福音ルーテル教会の佃博文議長、近畿福音ルーテル教会からは私と杣ノ下照光副議長で臨時議長会を度々開催し祈りを一つにして「ルーテル教会救援」としての、救援活動を協力して行うことが決定されました。この時に確認された事は、それぞれの教団教会の独自性の尊重と可能な限りの協力体制作り、慰めと平安を優先事項とし、自己実現を避けつつ直接的な伝道活動は避けるという事でした。また「支援する側と支援される側」というある種の上下関係が発生しないことにも、慎重に留意していたと思います。誰のため、何を目標とし、何を最終的目的とするのか、活動を行いながらも何度も何度も方向性を話しあう中で、様々な「揺らぎ」を経験しながらも、共に活動を行うことができたのは、ただ主の御恵みだと言えるでしょう。またお祈りとお支えを下さいました皆様に心から感謝いたします。悲しみと苦しみの中にあるお一人お一人が主からの平安と慰めと希望に満たされますようにこれからも祈り続けます。

西日本福音ルーテル教会
総会議長　松　村　秀　樹



ハレルヤ。主の御名を崇めます。

2011年３月11日、深い悲しみの中で、私たちにも何か出ることはないかと、もがきつつ祈り続けてまいりました。そのような中で、東日本大震災ルーテル教会救援（JLER）の歩みを通して、様々な働きをさせていただいたことを、心から感謝します。西日本福音ルーテル教会からも多くの兄弟姉妹がJLERを通してボランティアに参加させていただきました。

聖書のみ言葉です。「『だれが、…隣人になったと思いますか。』彼は言った。『その人にあわれみをかけてやった人です。』するとイエスは言われた。『あなたも行って同じようにしなさい。』」隣人になることの難しさを覚えながらも、JLERの働きを通して、多くの方との交わりをいただき、多くの神様の御わざを体験させていただきました。JLERのこれまでの歩みが、これから先の日本に、良い影響を与えることを信じ、続けて祈らせていただきます。

この働きを閉じるにあたり、この冊子が良い記録として残り、用いられていくことでしょう。おそらくこれからも、様々な危機を私たちは経験していきます。この度の経験を忘れずに、隣人として生きること、また、隣人となってくださる方と生きることを、これからも忠実になさせていただきたいと願います。まだまだ、継続する働きのためにも続けて祈らせていただきます。

南海トラフ巨大地震 災害予想マップ

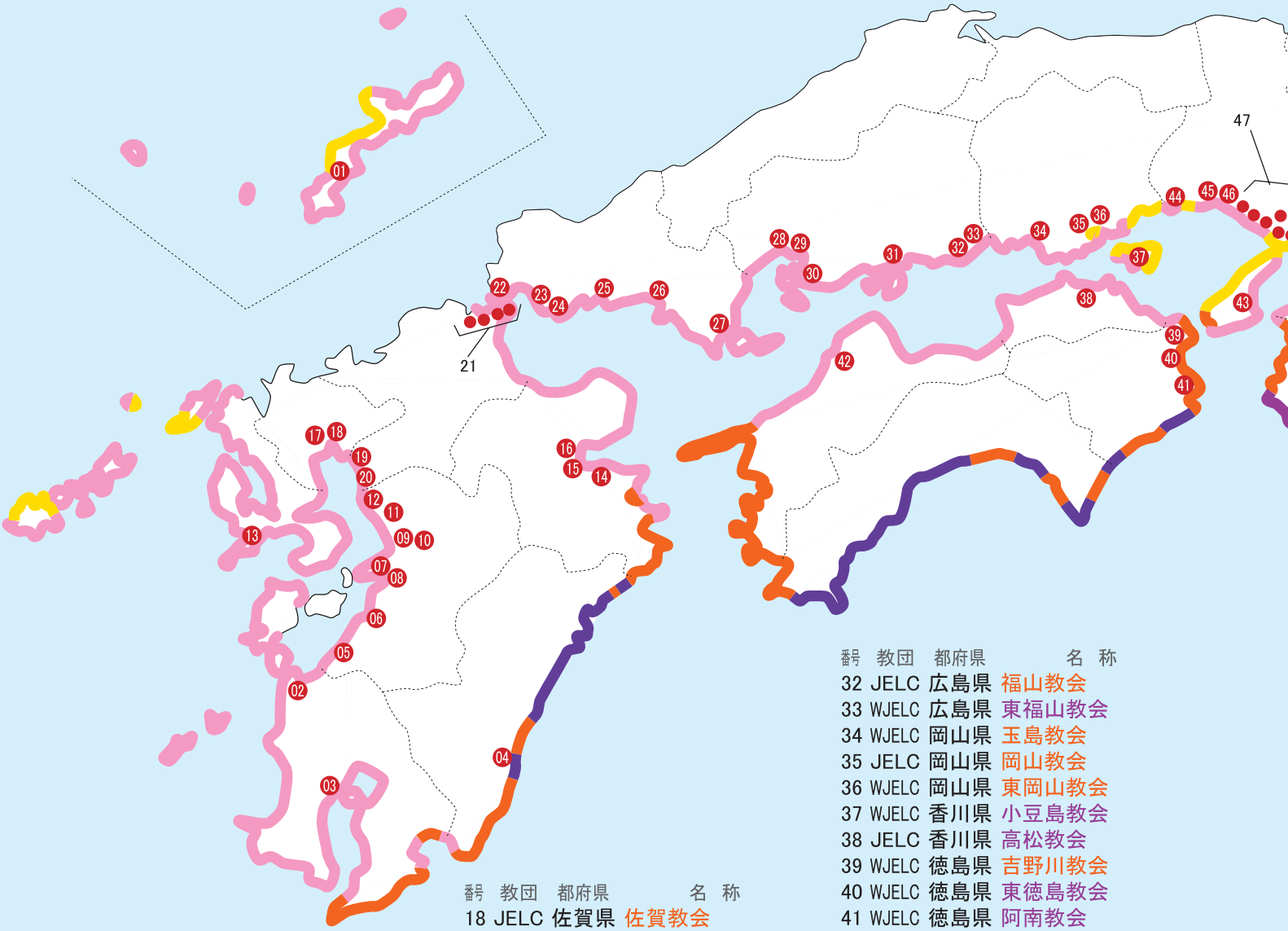
以下の地図は内閣府発表(2012)の被害想定にJLER関連教会等の所在か所を記したものです。沿岸から10km内の教会・施設を数えると150ほどありました。

ケース:紀伊半島沖震源

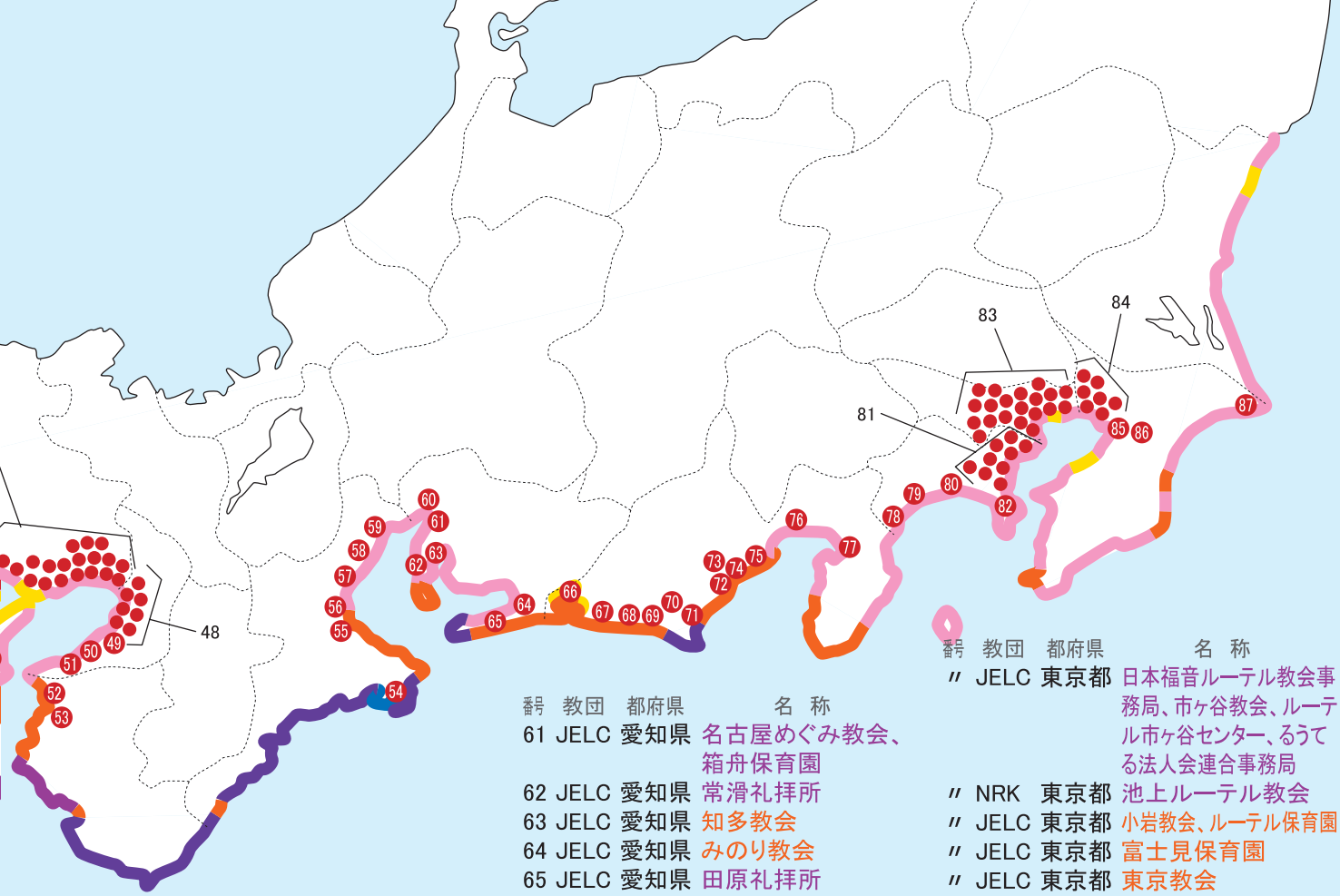
◆浸水域における浸水深(m)
- 20m超
- 10～20m以下
- 5～10m以下
- 2～5m以下
- 1～2m以下

◆本文名称の色付け
- 紫色:海岸線または河口から約5Km未満
- 橙色:海岸線または河口から約10Km未満

出典:内閣府 南海トラフの巨大地震モデル検討会(平成24年8月発表)、各教団HP

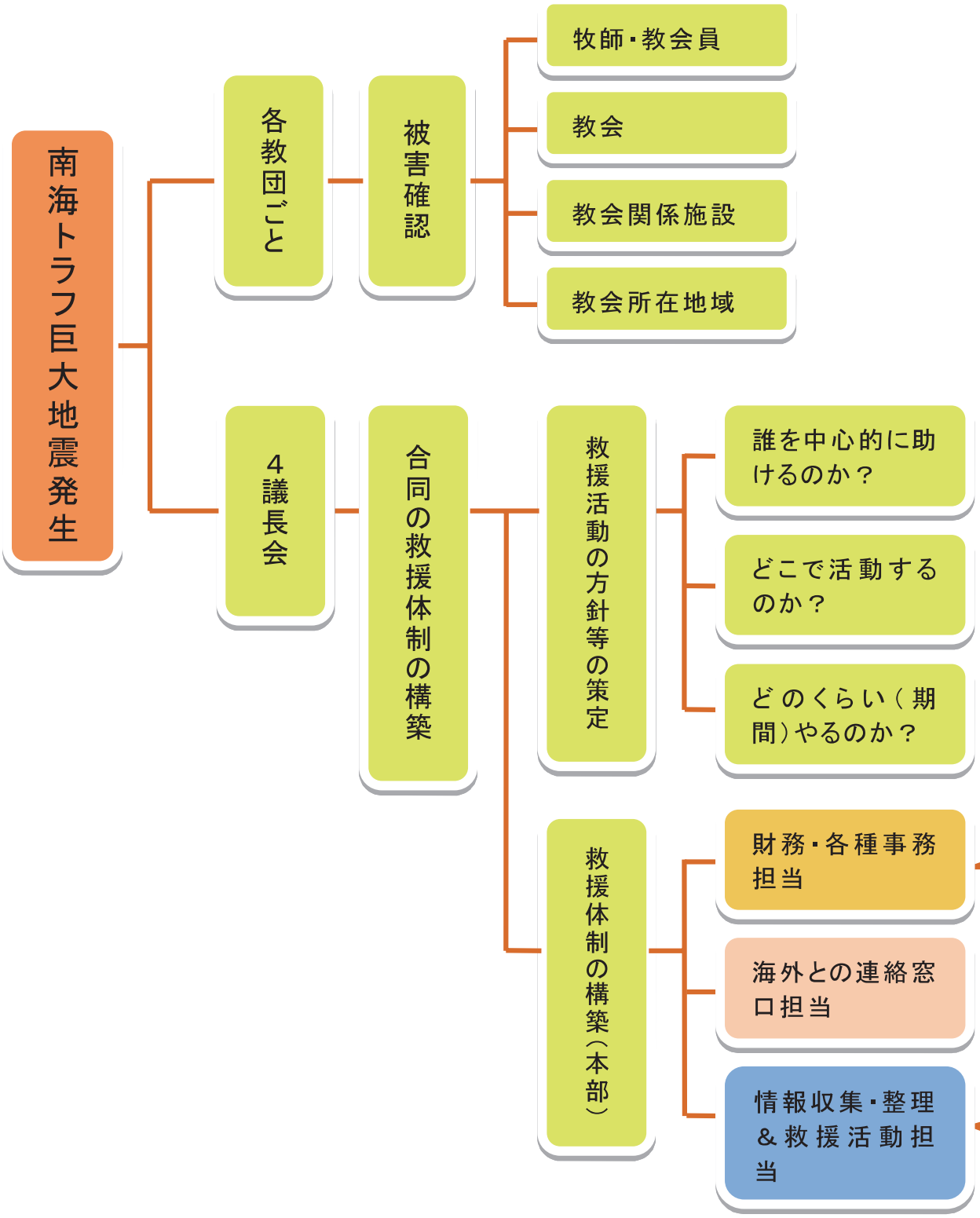


番号	教団	都府県	名称
01	NRK	沖縄県	沖縄ルーテル教会
02	JELC	鹿児島県	阿久根教会
03	JELC	鹿児島県	鹿児島教会
04	JELC	宮崎県	宮崎教会
05	JELC	熊本県	水俣教会、さわらび幼稚園
06	JELC	熊本県	八代教会
07	JELC	熊本県	宇土教会
08	JELC	熊本県	松橋教会
09	JELC	熊本県	白羊保育園
10	JELC	熊本県	熊本教会
11	JELC	熊本県	玉名教会、玉名ルーテル幼稚園
12	JELC	熊本県	荒尾教会、シオン園保育所、シオン園
13	JELC	長崎県	長崎教会
14	JELC	大分県	大分教会
15	JELC	大分県	別府教会
16	JELC	大分県	社会福祉法人別府平和園
17	JELC	佐賀県	牛津集会所、牛津幼稚園
18	JELC	佐賀県	佐賀教会
19	JELC	福岡県	柳川集会所
20	JELC	福岡県	大牟田教会
21	JELC	福岡県	ひかり工芸舎
〃	JELC	福岡県	小倉教会
〃	JELC	福岡県	門司教会、門司幼稚園、社会福祉法人光の子会、光の子学園、たにまち光舎
〃	JELC	福岡県	八幡教会
22	JELC	山口県	下関教会
23	JELC	山口県	厚狭教会
24	JELC	山口県	宇部教会
25	JELC	山口県	防府礼拝所
26	JELC	山口県	徳山礼拝所
27	JELC	山口県	シオン教会
28	JELC	広島県	広島教会、ルーテル保育所、ルーテル 平和大通りビル
29	JELC	広島県	谷の百合幼稚園
30	JELC	広島県	呉礼拝所
31	JELC	広島県	三原教会
32	JELC	広島県	福山教会
33	WJELC	広島県	東福山教会
34	WJELC	岡山県	玉島教会
35	JELC	岡山県	岡山教会
36	WJELC	岡山県	東岡山教会
37	WJELC	香川県	小豆島教会
38	JELC	香川県	高松教会
39	WJELC	徳島県	吉野川教会
40	WJELC	徳島県	東徳島教会
41	WJELC	徳島県	阿南教会
42	JELC	愛媛県	松山教会
43	WJELC	兵庫県	淡路教会
44	WJELC	兵庫県	赤穂教会
45	WJELC	兵庫県	姫路教会
46	WJELC	兵庫県	姫路東教会
47	WJELC	兵庫県	伊丹教会
〃	WJELC	兵庫県	加古川教会
〃	WJELC	兵庫県	西須磨教会
〃	WJELC	兵庫県	青谷教会
〃	WJELC	兵庫県	西日本福音ルーテル教会事務局、神戸ルーテル聖書学院、青葉園、「心に光を」メディア・センター
〃	WJELC	兵庫県	六甲アイランド教会
〃	WJELC	兵庫県	HAT神戸教会
〃	WJELC	兵庫県	西宮南教会
〃	WJELC	兵庫県	北夙川教会
〃	WJELC	兵庫県	西明石教会
〃	WJELC	兵庫県	高丘教会
〃	WJELC	兵庫県	二見教会
〃	KELC	兵庫県	名谷ルーテル教会



番号	教団	都府県	名称
〃	KELC	兵庫県	六甲ルーテル教会
〃	KELC	兵庫県	東垂水ルーテル教会
〃	JELC	兵庫県	神戸教会
〃	JELC	兵庫県	神戸東教会
〃	JELC	兵庫県	西宮教会
〃	その他	兵庫県	神戸ルーテル神学校
〃	WJELC	兵庫県	北鈴蘭台教会
〃	WJELC	兵庫県	西神教会
〃	KELC	兵庫県	武庫之荘ルーテル教会
〃	KELC	兵庫県	宝塚ルーテル教会
48	KELC	大阪府	近畿福音ルーテル教会事務局、港ルーテル教会
〃	KELC	大阪府	帝塚山ルーテル教会
〃	KELC	大阪府	南大阪ルーテル教会
〃	JELC	大阪府	釜ヶ崎ディアコニア喜望の家
〃	JELC	大阪府	大阪教会、ホテル・ザ・ルーテル
〃	JELC	大阪府	天王寺教会、真生幼稚園
〃	WJELC	大阪府	北大阪教会
49	KELC	大阪府	泉北ルーテル教会
50	KELC	大阪府	泉佐野ルーテル教会、泉佐野ルーテル保育園
51	KELC	大阪府	南海ルーテル教会
52	KELC	和歌山県	和歌山ルーテル教会
53	KELC	和歌山県	海南ルーテル教会
54	KELC	三重県	志摩キリスト教会
55	KELC	三重県	松阪ルーテル教会
56	KELC	三重県	津ルーテル教会、ルーテル二葉幼稚園
57	KELC	三重県	河芸ルーテル教会
58	KELC	三重県	鈴鹿ルーテル教会
59	KELC	三重県	四日市ルーテル教会
60	JELC	愛知県	なごや希望教会、名古屋ルーテル幼稚園
61	JELC	愛知県	名古屋めぐみ教会、箱舟保育園
62	JELC	愛知県	常滑礼拝所
63	JELC	愛知県	知多教会
64	JELC	愛知県	みのり教会
65	JELC	愛知県	田原礼拝所
66	JELC	静岡県	浜名教会
67	JELC	静岡県	浜松教会
68	JELC	静岡県	社会福祉法人デンマーク牧場福祉会、特別養護老人ホームディアコニア、児童養護施設まきばの家、精神診療所こひつじ診療所
69	JELC	静岡県	新霊山教会、自立援助ホームこどもの家
70	JELC	静岡県	栄光教会
71	JELC	静岡県	焼津礼拝堂
72	JELC	静岡県	静岡教会
73	JELC	静岡県	小鹿教会
74	JELC	静岡県	ひかり礼拝所
75	JELC	静岡県	清水教会
76	JELC	静岡県	富士教会
77	JELC	静岡県	沼津教会
78	JELC	神奈川県	湯河原教会
79	JELC	神奈川県	小田原教会
80	NRK	神奈川県	鵠沼めぐみルーテル教会、鵠沼めぐみルーテル幼稚園
81	JELC	神奈川県	横浜教会
〃	JELC	神奈川県	聖母愛児園
〃	NRK	神奈川県	横浜泉ルーテル教会
〃	NRK	神奈川県	大船ルーテル教会、大船ルーテル保育園
〃	NRK	神奈川県	いいじまルーテル保育園
〃	NRK	神奈川県	とつかルーテル保育園
〃	NRK	神奈川県	戸塚ルーテル教会、戸塚ルーテル教会附属幼稚園
〃	NRK	神奈川県	川崎元木町キリスト教会
〃	JELC	神奈川県	日吉教会
82	JELC	神奈川県	横須賀教会
83	JELC	東京都	日本福音ルーテル社団(JELA)
〃	JELC	東京都	大森教会、大森ルーテル幼稚園
〃	JELC	東京都	日本福音ルーテル教会事務局、市ヶ谷教会、ルーテル市ヶ谷センター、るうてる法人会連合事務局
〃	NRK	東京都	池上ルーテル教会
〃	JELC	東京都	小岩教会、ルーテル保育園
〃	JELC	東京都	富士見保育園
〃	JELC	東京都	東京教会
〃	JELC	東京都	都南教会
〃	JELC	東京都	蒲田教会、蒲田ルーテル幼稚園
〃	JELC	東京都	田園調布教会、田園調布ルーテル幼稚園
〃	JELC	東京都	雪ヶ谷教会、雪ヶ谷ルーテル幼稚園
〃	JELC	東京都	大岡山教会、大岡山幼稚園
〃	JELC	東京都	小石川教会、文京カテリーナ
〃	JELC	東京都	本郷教会、本郷学生センター
〃	JELC	東京都	両国子育てひろば
〃	JELC	東京都	聖パウロ教会、社会福祉法人ベタニヤホーム、母子生活支援施設ベタニヤホーム、菊川保育園
〃	JELC	東京都	文花子育てひろば
〃	JELC	東京都	こひつじ保育園
〃	NRK	東京都	六本木ルーテル教会
〃	NRK	東京都	教団事務局、東京ルーテルセンター教会、日本いのちの電話連盟事務局
84	JELC	千葉県	津田沼教会
〃	JELC	千葉県	船橋市夏見母子ホーム
〃	JELC	千葉県	国府台保育園、社会福祉法人千葉ベタニヤホーム、国府台母子ホーム
〃	JELC	千葉県	市川教会
〃	JELC	千葉県	市川市立母子生活支援施設曽谷寮
〃	WJELC	千葉県	新田教会
〃	NRK	千葉県	船橋ルーテル教会
85	JELC	千葉県	千葉教会
86	JELC	千葉県	旭ヶ丘保育園、旭ケ丘母子ホーム
87	JELC	千葉県	銚子集会所

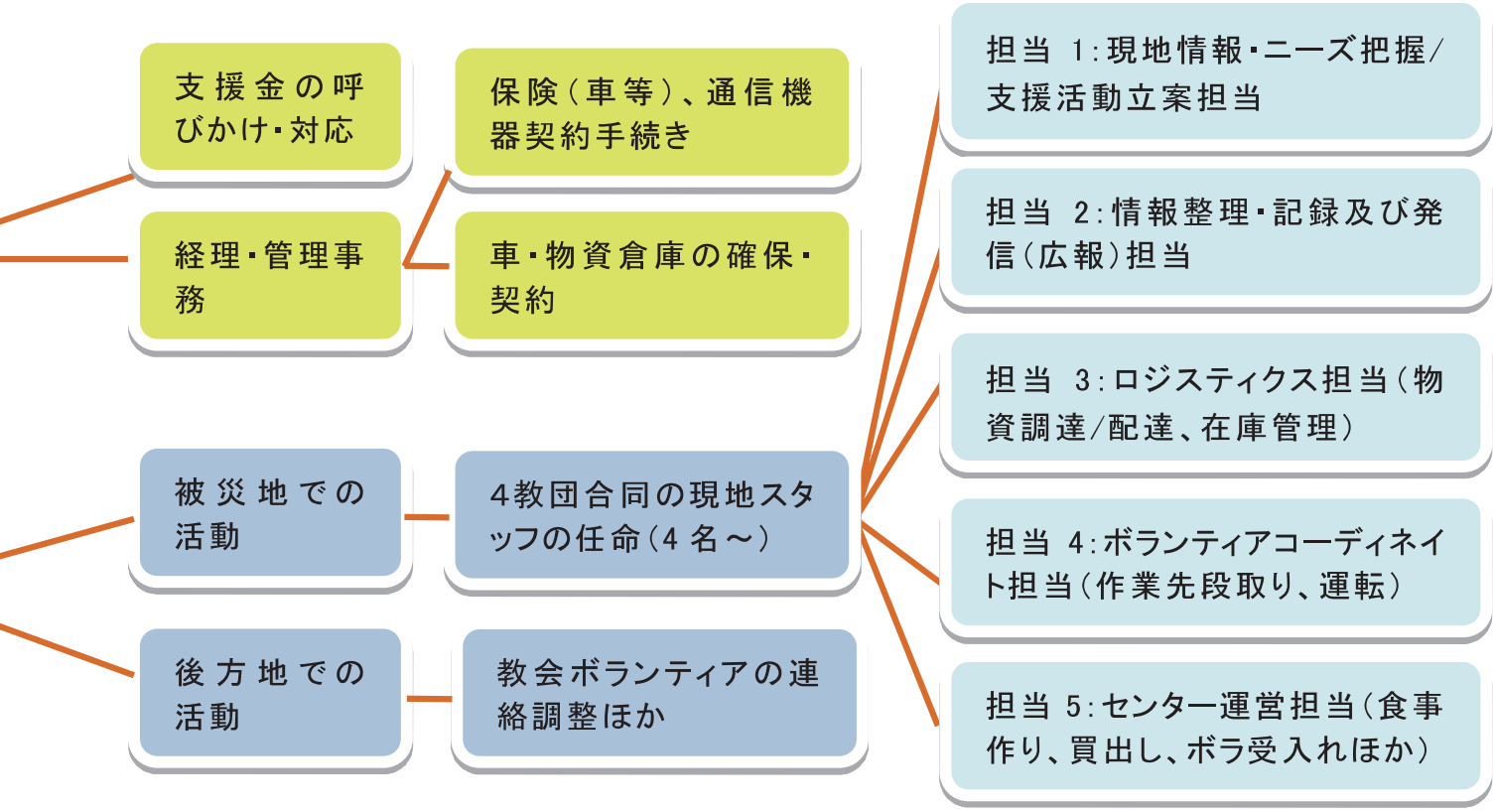
南海トラフ巨大地震対応
ルーテル教会の救援活動展開のイメージ



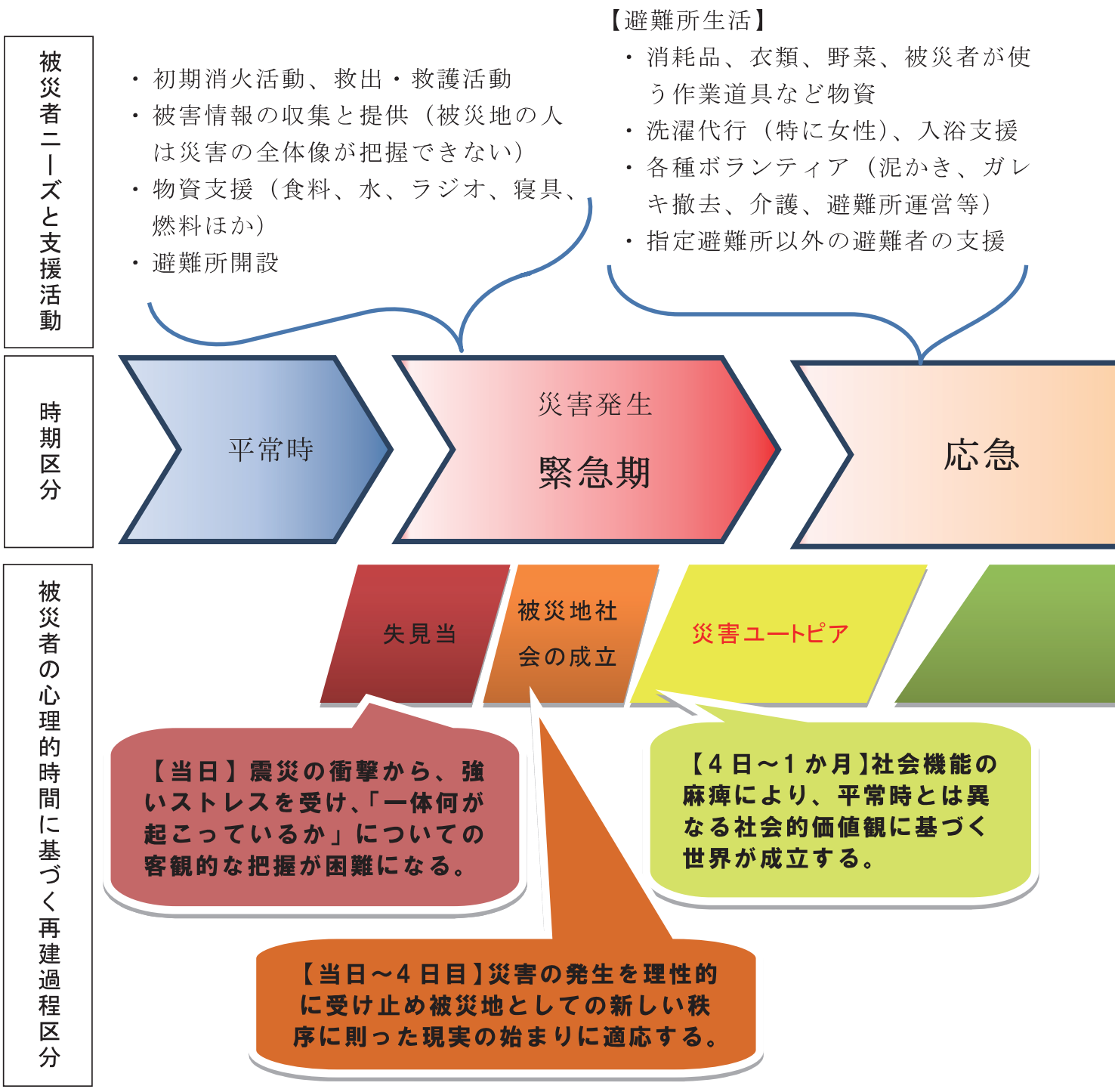
向こう30年間で70%程度の確率で発生すると見込まれている南海トラフ沿いの地震は、想定上の最悪のケースでも震度７の地震が太平洋沿いの多くの地域を襲い、早い場所では10分程度で10mを超す津波が押し寄せるとされている。前頁の地図でわかるように、ルーテル教会も多くの教会・施設が多かれ少なかれ被災することが見込まれる。

何よりもまず備えをきっちりする必要があるが、災害発生時の動き方のイメージを図示したのが以下である。

広範囲な被害を想定すれば、支援活動は困難を極めることが想像されるので、事前の物的な備えのみならず複数のケースをシミュレーションし、災害発生時の対応の仕方について少なくともイメージだけでも作っておく必要があるだろう。



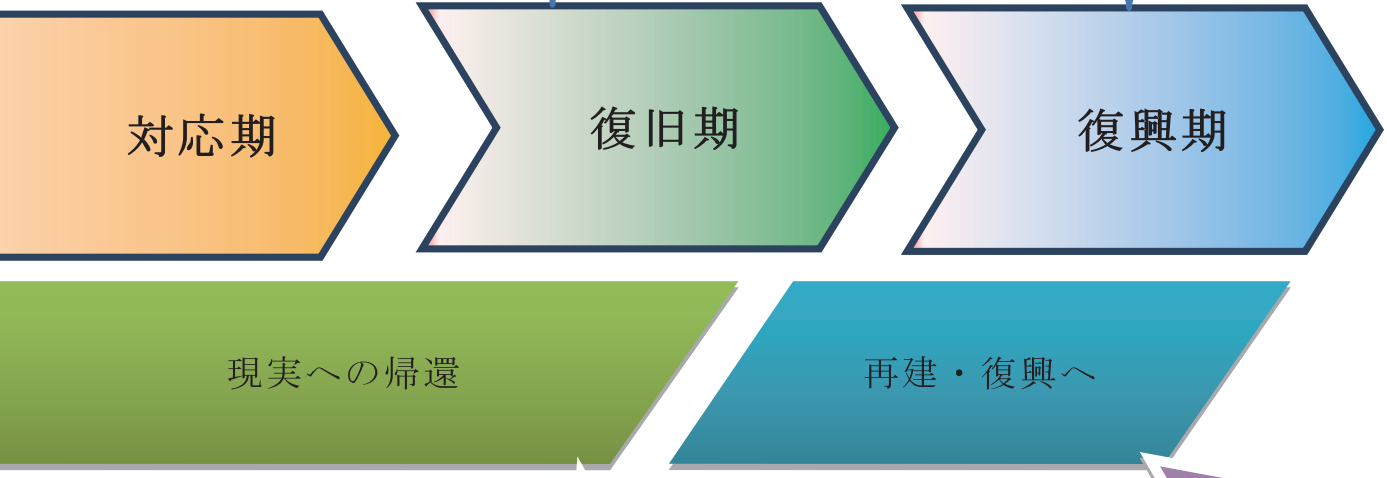
南海トラフ巨大地震対応
時期別の救援活動の展開イメージ



東日本大震災の経験を踏まえ、次の大震災の時にも必要となる活動を被災者の状況の変化に対応する形で図示したのが以下のチャートである。復興過程の全体像をイメージしながら活動することが肝要。

【仮設住宅への入居】
- 「何もやることがない」ことへの対応、心のケア
- 避難所からの引っ越し支援、生活用品等の物資支援、住環境改善支援
- 仮設住宅でのコミュニティ形成支援（自治会設立、お茶会、イベント等）
- 集会所等の拠点施設の再建支援

【仮設住宅から復興住宅へ】
- 地域行事や地域活動、地元団体などの活動再開支援
- 地元の支援者（福祉職、NPO ほか）の支援
- 多様な心のケアの提供
- 復興まちづくりの支援
- 各種事務仕事支援（申請書ほか）



現実への帰還

再建・復興へ

【1か月～13か月】社会インフラ等のシステムが復旧することで、被災地社会が終息に向かい、人々が生活の再建に向け動き出す。

【13か月～】住まいの再建が進み、仕事なども安定するなど、社会システムが再構築され「もう被災者/被災地ではない」と感じ、新たな社会を目指す時期

東日本大震災「ルーテル教会救援」(JLER)
ニュースレター 第1号 Newsletter, No. I

発行: JLER救援対策本部 June 19, 2011

Japan Lutheran Emergency Relief(JLER)

C/o Japan Evangelical Lutheran Church
1-1 Ichigaya Sadohara-cho, Shinjuku-ku,Tokyo, 162-0842 Japan Tel. +81-3-3260-8631 Fax. +81-3-3260-8641

ルーテル教会四議長声明「ルーテル教会救援」活動

ルーテル教会四議長会 代表 渡邉 純幸

去る３月11日の午後、東北地方太平洋沖の地震と大津波による大惨事、いわゆる「東日本大震災」により、未曽有の犠牲者（５月15日現在、死者15,057人以上、行方不明者9,100人以上）が出ました。

この大災害により、亡くなられた方々を慈しみの神の御手にお委ねしますとともに、愛する家族、家、その他多くのかけがえのない大切なものを失い、傷ついて、悲しみの内にある方々の上に神の憐れみと慰めが豊かに注がれますことを、そして、復興に向けての生きる力が与えられますことを心よりお祈りいたします。更に、地元のみならず全国を不安に陥れている東京電力福島原子力発電所の事故による危険が一日も早く克服され、いのちの安全が一刻も早く回復されることを祈らないではいられません。 また、この度の東日本大震災に接して、自然に対する人間の無力さを感じるとともに、人間の歩んで来た道を再度思い起こすとき、突然の大震災に、人は何が出来るのかと問い返すしかない私たちです。しかし、神を信じる私たちにとって、神さまは必ず共にいて支えて下さることを信じていますから、諦めることなく、この被災者の痛み試練を共に担い、歩みたいと思います。

今、この大震災に対して、いち早くLWFのご支援を受けて、下記のとおり、世界中のルーテル教会から多額の献金が「ルーテル教会救援」(JAPAN LUTHERAN EMERGENCY RELIEF)活動のために寄せられています。私たちの背後には、世界中のキリスト者、ルーテル教会の一人ひとりのお祈りがあることを思い起こし、それらの祈りと支援に勇気づけられて、主と共に困難な道を勇気と希望を持って歩みます。祈りの輪と支援の輪を広げて、３月に４教団で結成した「ルーテル教会救援」活動の下に、被災された多くの人々への可能な限りの多角的な救援活動を共に展開していきます。

支援して下さったルーテル教会の国々：

アメリカ、ドイツ、フィンランド、ブラジル、オーストリア、ノルウエー、タイ、韓国、台湾、香港、フィリピン、シンガポール、カナダ、アイスランドなど

2011年５月19日

四議長会：
日本福音ルーテル教会議長 渡邉純幸
日本ルーテル教団議長 粂井 豊
近畿福音ルーテル教会議長 末岡成夫
西日本福音ルーテル教会議長 佃 博文



JLER 4議長会

Statement from the Four Lutheran presidents on the activities for the Lutheran Emergency Relief

Rev. Sumiyuki Watanabe
Representative of the Four Japan Lutheran Leaders Conference
19th May 2011

On the afternoon of March 11th, the so called "East Japan Earthquake" followed by the unprecedentedly massive tsunami struck the coast of Tohoku district causing 15,057 people killed and 9,100 still missing as of 19th of May.

Our deepest prayers for those who lost their lives call upon God's mercy so that they are embraced in the creator's bosom. We also continue to pray for those who lost their families, loved ones, houses and all other invaluable belongings struggling with the sense of loss that God lift them up in His mercy and comfort. The lingering threat of Fukushima power plant remains in our prayer as well even after three months until the day when the crisis comes to an end and we rejoice the recovery of secured lives.

We experienced vulnerability of human beings in the face of nature with this disaster. The history man has paved until today now looks very small before the power of nature revealed in this disaster. However, knowing God is always sustaining us, we will keep walking together as we have been with the affected people in pain.

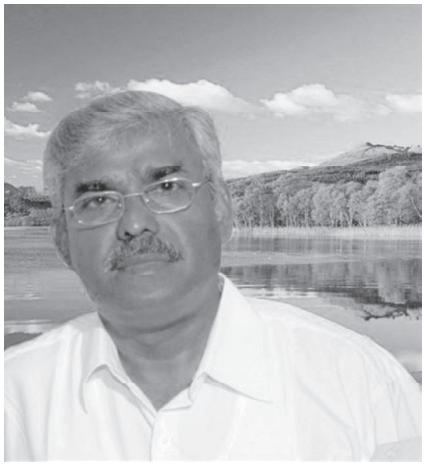
Tremendous amount of donation has been coming from the Lutheran Churches in the world as listed below with support of the Lutheran World Federation to the account of Japan Lutheran Emergency Relief. It reminds us that we have been together with each individual Lutheran members and Christians all over the world. It is a very encouraging sign of hope that keeps us standing and walking forward on the troubled road with our Lord. The four Lutheran Churches will engage ourselves in various activities as needed under the banner of JLER launched in May while extending the chain of prayer and support as best as we can.

Lutheran support so far received from countries of:
United States, Germany , Finland, Brazil, Australia, Thailand, South Korea, Taiwan, Hong Kong, Singapore, Canada, Iceland, Norway ,Philippines.

The Four Japan Lutheran Leaders Conference consists of presidents of
Japan Evangelical Lutheran Church (JELC), Sumiyuki Watanabe
Japan Lutheran Church (NRK), Yutaka Kumei
Kinki Evangelical Lutheran Church (KELC), Shigeo Sueoka
West Japan Evangelical Lutheran Church (WJELC), Hirofumi Tsukuda

Message

K G Mathaikutty



Disasters have been taking place since time immemorial and will continue to exist. However, there has been a progressive and changing trend in the disaster management approaches.
Disasters of various kinds leave their mark in the Psyche – a wound that never really heals fully. At the same time it has been learning experience for the world and opportunity to have new insights for positive changes in human thinking. Disaster management involves preparing, supporting, and rebuilding the society affected by disasters. It also would mean going beyond these to prevent the event itself and/or its impact. Experiencing and even witnessing a traumatic event often leaves its impact on the individuals. This understanding guides the efforts to provide psychosocial care and mental health services for the victims of disaster.

Individually and collectively, we have our role to play in any such events no matter where in this world it occurs. The clear evidence of this has been the way in which the people and churches throughout the world and Lutherans in particular have been responding through Japan Lutheran Emergency Relief (JLER) to the disaster affected communities, for early recovery to normal life. The spontaneous response mechanism initiated by the Lutheran Churches together with an ecumenical spirit, reflected the ideology of compassion inherited from Jesus Christ. While undertaking this initiative in a responsible and transparent manner, the JLER is aware of its accountabilities to its horizontal and vertical stake holders.



[Mr. Mathaikutty, a Disaster Management Specialist from India having 33 years of LWF/WS work experience is seconded by The Lutheran World Federation as Emergency Adviser to Japan Lutheran Emergency Relief]

災害は、太古の昔から発生していますが、災害管理のアプローチは進歩と変化を遂げてきました。
災害の大きさによっては完全に治すことのできない精神的障害も与えるような様々な痛手を残します。それと同時に、災害は世界にとっての学びの機会と人間の思考に前向きな変化をもたらすだけでなく、新たな洞察を与えることにもなります。災害管理は災害を受けた社会にとっての新たなる備え、支援、それに復興計画を含むものです。これは災害そのものとその影響を防ぐためのものであります。個人的な体験とそれによる外的障害は各個人に影響を与えるものです。このことを理解することは災害の犠牲者のための心理社会的ケアと精神保健サービスを提供するための手引となります。

個人的にも、また集団的にも、世界において災害が発生した場合には、その場所がどこであっても、何かしらの役割を私たちは負わされています。災害を受けた地域において、すべての人が早期に日常生活を回復するために、世界の人々や教会、それと特にルター派の教会と共に行われている日本での「ルーテル救援活動」（JLER）の救援活動は、そのための一つの明確な事例となります。エキュメニカルの精神に基づき、ルーテル教会によって開始された自発的な働きは、イエス・キリストから伝えられている共感の理念によるものです。責任と透明性のある方法だけでなく、JLERは水平的および垂直的方向性を持った管理者としての説明責任があることも認識しなければなりません。

(著者K G Mathaikutty氏はLWF/ WSでの33年間の経験を持つ、インド人の災害管理の専門家。日本での「ルーテル救援活動」ために緊急のアドバイザーとしてLWFから派遣されました。)

主要プログラムの概要
Major Programs

救援対策本部長　　青田　勇
Rev. Isamu Aota
Executive Director of Japan Lutheran Emergency Relief

３月１１日に発生した東日本大震災の支援活動のために、日本福音ルーテル教会は３月１４日、本教会に救援対策本部を設置し、各個教会・関係施設に救援支援物資のアピールと支援募金を呼びかけました。その後、海外教会からの支援に応え、日本におけるルーテル教会及び関連施設（社団・大学等）の協力・協同をはかるためにも、「東日本大震災ルーテル教会救援」（英語表記 "Japan Lutheran Emergency Relief"）をルーテル４教団の議長の下に３月２４日に設置し、宮城県を中心に被災された多くの人々への可能な限りの多角的な救援活動を展開することとなりました。

それと、地震発生後、ELCA のアジア担当・石田順孝氏の適切なサゼッションと共に、LWF のアジア・人道支援担当のシュロット氏 (Roland Kilian Schlott、Program Officer Asia & Humanitarian Affairs) からの申し出を受け、国際的な救援活動支援の特別アドバイザーとして、マタイ氏 (K..G. Mathaikutty、Disaster Management Specialist) が３月２８日から６月１６日までインドより来日し、国際基準に沿ったルーテル教会の災害援助方法、その普及の実施しのための態勢作り、さらに国際的基準に沿った第一次予算に基づくルター派の海外教会・団体への資金援助のアピール文書作成、三ヶ月レポート作成に協力して頂きました。

救援活動は予算的には９ヶ月を想定して計画されています。三ヶ月間の主な救援活動はトラック輸送の手段の構築を経て、日本の諸ＮＧＯ、地方公共機関及び社会福祉協議会と連携しつつ、食糧等の緊急救援物資支援、日常生活物資支援を大々的に展開しつつ、エキュメニカル施設であるアジア学院再建への支援、それに仙台教会の支援センターを拠点としてのボランティア派遣プログラム等を展開してきています。

長期化が予想される救援活動においては、地元地域社会との合意と理解が必要です。そのことを前提にしつつ、関連施設との連携と協力を視野に入れたルーテル教会としての宣教・教育・奉仕の特色を生かした社会福祉プロジェクトを今後、展開していきたいと考えています。

Japan Evangelical Lutheran Church set up the office for the relief response on March 14 for the support activities of the Tohoku-Pacific Ocean Earthquake, which occurred on March 11. We made an appeal to provide relief supplies and launched a fund raising program to the JELC congregations and institutions. After that, in response to the response from the churches overseas, the joint meeting of all Japan Lutheran presidents established "Japan Lutheran Emergency Relief (JLER)" on March 24. It was launched for the possible multifaceted relief activities to the people affected by disasters mainly in Miyagi Prefecture.

After the earthquake, we received an appropriate suggestion by Rev.Yoshitaka Ishida,(ELCA Asian Secretary) and a proposal of Mr. Roland Kilian Schlott (LWF,Program Officer Asia & Humanitarian Affairs), who kindly suggested that Mr. K.G Mathaikutty would come to Japan as the Disaster Management Specialist from India from March 28 until June 16. He helped us to form the plan of disaster assistance of Lutheran churches according to the international standard, making the widespread implementation of relief preparations, as well as created the documentation of financial aid appeal to Lutheran church groups overseas based on the primary budget which was complied under the international standards and made a three months report.

The budget of relief activities is targeted for the forthcoming 9 months. Major relief activities for the first three months were assistance for urgent relief supplies support such as the food and everyday life supplies on a large scale, after construction of the system of transportation by trucks, in cooperation with various Japanese NGO, Social Welfare Council and public agencies. We decided to support rebuilding the Asia Rural Institute as the ecumenical Institute. Also, we will develop the program of sending volunteers as bases of support center of the Sendai Lutheran Church.

Long-term relief activities are expected so understanding and agreement with local communities is necessary. Based on that, we will develop the future social welfare projects, which is as a characteristic of the Lutheran Church, 'missionary, education and service' with the view to cooperation and coordination with related facilities.



支援物資　胴付き長靴 (Relief supplies　Waterproof Long boots) 東松原市 (Higashimatsubara)

物資支援について

物資支援プロジェクト担当 聖パウロ教会・松木傑牧師
Food Relief program Coordinator
Rev. Suguru Matsuki , St. Peter Lutheran Church


支援物資開始の時の祈り(Prayer before the start of relief supplies)

東教区常議員を中心に設立された救援対策本部の３月１８日の会議に招かれ、３年間で１億円の計画案を提案いたしました。そのとき物資の支援の予算は、およそ５００万円と決め、何を購入するか話し合い、米　５０００ｋｇ、インスタントラーメン（うどん）１万食、缶詰めなどを購入し、トラックで被災地に送ることをきめました。翌、１８日、フェアトレードの関係で長年の知り合いであるスーパマーケット・イオンの方を通して発注しました。また、全国の教会に呼び掛けて、３月２８日と４月１１日トラックで被災地に送るために、米、ラーメン、缶詰めなどを寄付していただくように呼びかけました。

次の課題は、皆さまからの支援物資と購入した物資をどこに届けるかということです。普通は、県や市に届けますが、１９９２年にソマリアの救援活動に参加して、当時の LWF のナイロビ事務所が取りくんでいた支援の仕方を思い出し、他の NGO を通して支援することを考えました。

そこで「物資輸送プロジェクト」をジャパン・プラットホームと国際協力 NGO センター、それに日本キリスト教協議会の３団体に呼び掛けて、３月２２日に市ヶ谷で説明会を開きました。その時点では、海外からの多額の献金が約束されていましたので、予算が続く限り、求められるものは何でも購入し、道があるところにはどこにでも運ぶという、ことを原則としました。被災地に物資を運ぶ免許を取得している運送業者、物資を保管する業者との協力関係もできていました。

その結果、シャンテ国際ボランティア会（気仙沼市）、ICA 文化事業協会（亘理郡）、パレスチナこどもキャンペーン（岩手県大槌町）、国際ボランティアセンター山形（石巻市）などすでに被災地に拠点をおいて活動している NGO との関係を築くことができ、現在の現地での働きにもつながっています。

On March 18,I was invited to the meeting of the relief task force which was established by East District Council members. We made three years budget of 100 million yen to support for the disaster area. At that time, according to the budget, we fixed approximately 5 million yen for supporting supplies. After the discussion, we decided to make purchase of 5000kg of rice, 10000 meals of instant noodles (Udon noodles) and canned foods then transport to the disaster area by trucks. On the next day, I placed an order for those foods with the Supermarket AEON through the person whom I know very well for many years for the fair trade. Also, we appealed to the churches all over Japan for contribution of food such as rice, ramen noodles and canned foods to deliver to the disaster area by trucks on March 28th and April 11th.

Next problem was where we should have delivered the supplies. Usually supplies are delivered to the prefectural and city governments. But I remembered the delivering system of LWF office in Nairobi when I participated in the relief activity in Somalia in 1992. As I adopted the same system as they did, I thought the way of delivering materials through NGO.

I called for the Japan Platform, Japan NGO Center for International Cooperation and National Christian Council in Japan for having the briefing session on March 22 in Tokyo, Ichigaya. At that time, we expected large sums of offering from overseas. So we were trying to provide all possible assistance to the disaster area. Already we had connections with the carriers which acquire a license to go into the disaster area and the warehouse company.

As a result, we could build the relations with NGO such as Shanti Volunteer Association(SVA) in Kesennuma-city, The Institute of Cultural Affairs (Watari-gun), The Campaign for the Children of Palestine (Otsuchi-cho Iwake-prefecture), International Volunteer Center of Yamagata (Ishinomaki-city),those had already worked based in the disaster area. All of these efforts lead to our present activity.



輸送物資を積んだトラック(Truck transporting supplies)

ボランティア派遣について

ボランティア派遣担当　本郷教会牧師・安井宣生
Volunteer Coordinator
Rev. Nobuo Yashui, Hongo Lutheran Church

「私が切望するのは、寄付をする人が実際に姿を見せてくれることです。与える人たちに、ふれたり、笑いかけたり、思いやりをもって接することです。」とはマザーテレサの言葉です。被災地において専門家の支援が必要とされることも多々ありますが、特別な人でなくても、被災された方のところへ出かけていくことで紡がれるつながりがあります。

ある人は津波と共に家屋に押し寄せた泥をかきだす作業に伺ったお宅で。ある人はボランティアへの要望や苦情も受けるボランティアセンターの受付で。ある人は ２ヶ月の避難生活をブルーシートの上で送って来た方々にと畳を運び入れた避難所で。ある人は施設が使用できなくなり移動を余儀なくされた介護を必要とする方々と、共に被災しつつそのお世話をしている職員さんが働く、間借りしている病院で。ある人は早朝作業現場へ出かけていく車の中でボランティアがかじりつくおにぎりを握る台所で。

これまでにのべ 106 名のボランティアがそんなつながりを与えられてきました。そしてその一人一人が、被災地を後にした日常で、自分の経験や出会いを語ることを通して、新たなつながりを生んでいます。

５ 月 31 日現在で、参加者の内訳は JELC より 61 名（内牧師 16 名）、WJELC より 12 名（同 8 名）、KELC より 8 名（同 4 名）、NRK より 3 名、デンマーク牧場福祉会より 2 名、ルーテル学院・神学校より 11 名（同 1 名）、他教派より 3 名、一般 6 名です。
礼拝堂と集会室、駐車場を開放してくださり、惜しみない協力をくださる仙台教会とのつながりにも感謝しています。

Quoting Mother Teresa “What I really expect is that the care givers should be closer to the affected people providing aids with the human touch which will heal their wounds. At the disaster area, there are the things which can be done by the experts, but if you visit there you develop ties with people.

Volunteers try to be closer to the people at the houses which affected by Tsunami while clearing up mud, at the reception counters for accepting requests and complaints, in the evacutation centers a volunteer brought tamami straw-mats for the people who had to sleep blue plastic sheets on the floor for two months, at the hospital the disaster affected elders who needed care had to move out the facilities, also the people who looked after those elders, at the kitchen making rice balls as an early morning breakfast for volunteers in the car.

106 volunteers have been given the connection with people in many places. When they came back home, each one of them talked about their experiences and encounters of people and those activities created a new bond with disaster affected people.

As of May 31st,The total number Volunteers who participated so far were as follows. 61 from JELC (16 pastors included), 12 from WJELC (8 pastors included), 8 from KELC (4 pastors included), 3 from NRK, 2 from Denmark Ranch Social Welfare Association,11 from Japan Lutheran College and Japan Lutheran Theological Seminary (1 pastor included), 3 from other churches, 6 from the public.

I appreciate very much the support from Sendai Church who is hosting the volunteers program by allowing the Chapel and its premises including, Assembly room and car parking space.

支援物資・輸送プロジェクトへの感謝の言葉

今回の生活物資の援助、誠にありがとうございます。震災から早２か月が経とうとしております。　震災直後よりは市内もかなり復興し、スーパー等も再始動（開店）し始めましたが、未だ安定した収入が無く、今回のような御支援は誠にありがたく、又、感謝しています。みなさまの活動に感謝しつつ、一日も早く復興するように、何かしらの努力をし、生活の糧とさせていただきます。本当に、ありがとうございます。（但野、南相馬市）

Thanks to the support goods transportation projects

I appreciate very much that you provided relief goods for us this time.
It has been two months since the earthquake disaster. The city area has been recovering significantly so the situation is much better than immediately after the earthquake. Supermarkets and other shops have started opening the doors. However, I don’ t have stable income now, so I am grateful for your support. Aiming for the recovery at the earliest possible date, I will be making a reconstruction effort. Thank you very much. (Tadano, Minamisoma-shi)



気仙沼への支援物資(Food Relief Kesennuma)

現地からの報告

スタッフ　佐藤敬文

Local Report

Mr. Fumitaka Sato, Staff

震災が発生してから1か月後の4月11日から仙台に常駐しています。5月後半までは主に支援物資を担当し、必要としている人たちに必要なものを届ける活動をしています。

ルーテル教会救援の活動の特徴は、被災者が必要としているものを柔軟に提供できることです。この4～5月の活動でいえば、食料から自動車まで、さらには介護ボランティアや災害ボランティアセンター支援のためのスタッフ派遣など、物資に限らず幅広い支援を展開してきました。そのどれもが被災地からの声を直接聞いて行ったものです。4月当初は声をかける相手もいなかったですが、今では顔も覚えてもらい、ふらふらと会いに行けるような関係を築けている相手もいます。そうした顔の見える関係を大事にしながら、ちっちゃなことだからと見過ごすのではなく、丁寧に被災者と同じ目線で一緒に歩いていきたいと思っています。

被災地支援をしている団体はたくさんありますが、長期的に取り組む覚悟がある団体は全部ではありません。そうした中でルーテル教会救援としては、最低1年間は救援活動をすると決めて活動しています。1年間はここにいるという私たちの態度は被災した人たちには歓迎されており、安心感を与えてもいるようです。

しかし、私たちだけでなんとかできる事態ではありません。被災地の人やほかの支援団体、それから皆さんと協力しながら、息の長い支援をしていきたいと思っています。

I have been stationed in Sendai since 11th April one month after a disaster occurred. By late May, mainly I was in charge of relief supplies. We have been doing the activities of delivering supplies for the people who need the support.

A feature of the Lutheran Churches relief activities is that we can provide service flexibly. In April and May, we have provided a wide range of assistance not only supplies materials such as food, cars but also working as a volunteer for elders who need care and sending staff for the Disaster Volunteer Center. Those supports were due to the request which I heard directly from the people who are living in the disaster area. In early April, I did not have anyone to talk in a familiar way but now people know my face, so there are some people I can meet casually. I would like to keep good relations that we could recognize our faces each other, try not to overlook the problem even though small things, seeing the things through affected people's eyes carefully.

Many groups are supporting people the disaster area. However, not all of them are prepared to support for the long term. Among them, Japan Lutheran Emergency Relief has decided to support at least one year. We are welcomed by affected people because of this attitude



and that seems to offer a secure feeling for them.

The situation is difficult to overcome only by our support. Cooperating with people in the disaster area and other support groups and all of you, we would like to do long-standing support.





現地からの報告

スタッフ　遠藤優子

Local Report

Ms Yuko Endo, Staff

ルーテル教会は被災地区の方々との関係作りからスタートし、最初の一歩として県災害ボランティアセンター（以下、災ボラ）を通して各地の災ボラの後方支援をすることから始め、災ボラで受け入れた団体ボランティアと一緒に地域内清掃を行ってきました。その活動を通して見えてきたより被害が深刻でボランティアの必要性が高い必要な気仙沼、石巻、東松島を中心に支援することになりました。現在は各地域の半島にある避難所や個人宅を中心に物資をお届けしながら、生活の困りごとを聞いて回りつつ、各地で求められる支援を行っています。

あまりの被害の甚大さ、そして被災者の方々の複雑で深刻なニーズの状況を前に、一体私達に何が出来るのか途方にくれ、被災していない自分のほうが落ち込んでしまうことがあります。漁業再生のために漁港を回って漁師さんのお話を伺った時「なんもかんもなくなってしまった・・・」と涙目になりながらつぶやく姿に返す言葉も見つかりませんでした。この広域な震災の前に、自分の無力さを感じずにはおれません。しかし、地元の方々が、「あなた達が元気でがんばってくれるのがなによりだから」と野菜不足の私達のために青菜のおひたしを差し入れてくださったり、「とにかく長期戦だから、ぼちぼち行きましょうね、体に気をつけてね」と私達のことを気遣ってくださったりと、こちらのほうが励まされる毎日です。被災者の方々は自分たちが世の中から忘れられていくのではないかと恐怖を抱いていらっしゃいます。そんな中、ルーテル教会員が皆さんのそばにいますよ、というメッセージを一人でも多くの方々に届けたいと思っています。

The Lutheran Churches had to start its disaster response activities from by building contact with the local people.As the first step,we began to provide backup logistic support through the prefectures' Disaster Volunteer Centers. We have been cleaning up in the area together with the volunteer groups which we accepted at the Volunteer Centers. Through those activities, we realized the damage and decided to support mainly for worst-hit area such as Kesennuma, Ishinomaki, and Higashimatsushima where there was a substantial need of volunteer's assistance. Now we have been delivering the relief materials mainly for the evacuation centers and homes in the peninsula areas, as well as asking for the problems for their daily lives and assisting the required support for all around the affected area. Sometimes I am at a loss what to do for this devastating disaster and facing the serious and complicated requests by victims, so I get depressed even though I was not visited by an earthquake.For the fishing industry reconstruction, I visited the fishing ports to hear the stories from the fisherman. He murmured to me with tearful eyes, "I lost everything..."I couldn't say a thing for him. In front of this widespread disaster area, I cannot help but feel powerless of myself. However, we have been encouraged by the local people every day. They said, "It is the best that you are doing well."so they treated boiled green leaves vegetables for us as not eating enough vegetables. They concerned for us and said, "It is going to be very long so doing bit by bit. Please take care of yourself." Many affected people have a fear of falling into neglect. Against this background, I would like to send the message for as many affected people as possible that Lutheran church members are around you all.



アメリカの教会からのキルト(Quilt Blanket from ELCA)

ボランティアセンター　石巻 (Volunteer Centers Ishinomaki)



「ルーテル救援」　救援募金予算報告

Japan Lutheran Emergency Relief-Report　　2011/6/1

収入(Income)	実績額(Actual) 日本円 (Japanese Yen)
アメリカ福音ﾙｰﾃﾙ教会(ELCA)	40,726,000
ドイツ(Diakonie Katastrophenhilfe)	39,818,012
ノルウエー(Kirkens Nodhjelp Norway Lutheran)	9,039,352
チャーチワールドサービス(CWS・ACT)	4,054,000
サウスキャロライナ教区(South Carolina Synod)	2,192,182
シンガポール教会(Singapore　Lutheran Church)	1,254,528
香港教会(Lutheran Church in Hongkong)	1,948,620
中国人ライン教会(Chinese Rhenish Church)	6,013,896
台湾ルーテル教会(Taiwan Lutheran Church)	2,000,000
オーストラリア(Australia Lutheran World Service)	424,950
ﾄﾞｲﾂ・ﾙｰﾃﾙ福音教会(EKD ・Hannover, Germany)	226,220
ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ・ﾙｰﾃﾙ福音協会(LEAF)	113,850
オランダ・ﾙｰﾃﾙ教会(Netherlands Lutheran church)	592,300
ﾌﾞﾗｼﾞﾙ福音ﾙｰﾃﾙ教会(IECLB)	840,000
アイスランドﾙｰﾃﾙ教会(Iceland Lutheran church)	398,704
中国人教会(Chinese Life Lutheran Church)	276,886
その他(Others)	767,061
海外教会・協会　合計(Sub – total)	110,686,561
国内ルーテル献金（Japan Lutheran）	
日本福音ルーテル教会(JELC)	10,000,000
日本ルーテル教団(JLC)	5,000,000
近畿福音ルーテ教会(KLC)	500,000
西日本福音ルーテル教会(WLC)	1,500,000
国内ルーテル献金合計(Sub-total)	17,000,000
収入合計 (Total Income)	127,686,561

支　出 (Expenditure)	
直接的な食糧援助(Food Relief)	15,463,550
食料品以外の援助物資(Non Food Relief)	20,391,336
輸送関係(Logistics)	3,408,844
精神的・社会的:計画((Psycho-Social Program)	213,795
ボランティア派遣(Volunteer Support)	463,529
復興・生活支援(Cash for Work)	3,000,000
日本のアジア学院(Asian Rural Institute)	5,000,000
スタッフ人件費(Staff costs)	1,360,630
関係する費用(Visibility)	1,399,070
支出合計(Expenditure Total)	50,700,754

救援ボランティア体験!!

保谷教会・木村　猛

My experience as a relief volunteer!!

Mr Takeshi Kimura

Houya　Lutheran Church

４月１８日に仙台に入り、２２日に帰りました。ルーテルとなりびと支援センター（仙台教会）に泊まり、石巻市ボランティアセンター（石巻ボラセン）に出向き、復旧支援の家の片付け（泥出し、清掃）でした。早く、片づけをしないと気温が上がり、衛生環境が悪くなってしまいした。石巻市は犠牲者、行方不明者が５千人以上の激甚災害の地で、被災家屋が沢山あって、徐々に片付いてはいますが、惨状が残っています。

家の片付けは手作業でボランティアの協力が重要です。体力が必要ですが、グループになった青年達が配慮してくれて６６歳の私でも働くことができました。　ボランティアには若い人が多く、「今の若い者は」と思っていたのが変わりました。一所懸命の彼らの無償の奉仕を褒めたいものです。

I arrived in Sendai on 18th April and came back on 22nd.I stayed at Lutheran Tonaribito Support Center in Sendai church. I headed for the Ishinomaki-city Volunteer Center then went to the disaster affected houses for removing mud and cleaning as restoration assistance. We should have been done quickly, so the temperature was getting higher then hygienic condition became worse. Ishinomaki is the disaster-stricken area of more than 5,000 people were left dead or missing. Many disaster affected houses are still there. Although they are getting cleared,there are devastated sights. Volunteers hand work is necessary and important for cleaning the houses. Physical strength is needed for those works so young people in my group were helpful. They made careful consideration for me as a 66-year-old so I could work there. Many young people participate in as volunteers so I changed my thoughts for 'the young people today'. I would like to praise for their hard work of voluntary service.

募金振込口座 (Bank Account)

三井住友銀行　新宿西口支店
普通　259-09727395
(宗)日本福音ルーテル教会
東北関東大震災ルーテル教会連合救援募金
東京都新宿区市谷砂土原町1-1-1

Bank : Sumitomo Mitsui Banking Corporation
Branch : Shinjuku Nishiguchi Branch
Adress: 1-7-1 Nishiguchi Shinjuku-ku　Tokyo Japan
Branch No: 259　Swift Code: SMBCJPJT
Name: Japan Lutheran Joint Emergency Relife
Bank Account No: 9727395

となりびとのホームページ
http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/

英文ホームページ English Home Page
http://www.jler.org/

東日本大震災「ルーテル教会救援」(JLER)
ニュースレター 第2号 Newsletter, No. 2

発行: JLER救援対策本部 September 8, 2011

Japan Lutheran Emergency Relief(JLER)

C/o Japan Evangelical Lutheran Church
1-1 Ichigaya Sadohara-cho, Shinjuku-ku,Tokyo, 162-0842 Japan Tel. +81-3-3260-8631 Fax. +81-3-3260-8641

ルーテル教会救援活動報告

JLER救援対策本部 本部長 青田 勇



The Activities for the Lutheran Emergency Relief

JLER Executive Director Rev. Isamu Aota

神の恵みと導きにより、ＪＬＥＲの救援活動が多くの方々の支援により、実りある働きができていることを主イエス・キリストに感謝いたします。８月の対策本部会議では、以下の「ルーテル教会救援活動計画」を作成しました。そこでは救援事業の長期化が予想される中で、救援活動の最大期間を 2011 年 3 月から 2014 年３月と定めました。さらに、JLER の組織に関しては、発足の趣旨を尊重し、日本のルーテル４教会の共同事業として、今後も JLER の活動が存続する限り、組織的継続を一致して図っていくことを４議長会で相互に確認しました。

「ルーテル教会救援活動計画」

●目的

1.「キリストにおける愛の奉仕」の業に基づき、東日本大震災で被害を受けた被災者の復旧・復興のために可能な限りの多角的な救援活動をルーテル４教会の共同事業として取り組む。

2.霊的にも、心理的にも、身体的にも苦しんでいる被災された人々に深く関わり、その生命の声を聞き取り、「希望と喜び」の内に共に生きる道を見出すための必要な支援を行うことは神の憐れみの宣教そのものであり、これに参画する召しが神の民に呼び求められている。

3.日本のルーテル教会の宣教力を結集した支援事業である「ルーテル教会救援」活動は、日本国内だけでなく、LWF を中心に世界のルーテル教会・団体と強く結びつき、知恵と支援を得つつ、開かれた救援活動として可能な限り長期的に取り組むこととする。

●期間・予算

事業期間：2011 年 3 月から 2014 年３月の３年間
活動予算(募金目標): 当初予算 2億4千万円(実績 2億円 2011年８月)
補正予算3億円(補正2011年10月～2012年12月)

●活動地域・内容

主な救援対象地域:宮城県東松島市、石巻市、気仙沼市
第一期 2011年３月から9月
主な活動:
1.緊急支援物資(食糧・物資・人材関係等)の支援と配布
2.多角的なボランティア派遣プログラムの展開
3.被災地域との信頼性・協同性の形成と展開

第二期 2011年9月から2012年12月
予想される主な活動:
1.中心的拠点となる仮設住宅団地での必要な支援活動
2.地域社会の要請に基づく「コミュニティセンター」形成への支援
3.定期的なボランティア派遣プログラムの多角的な展開
4.第２次災害に備えての防災教育プログラム

We would like to express gratitude to our Lord Jesus Christ for God's grace in guiding us and for bearing fruit through JLER relief operations.
At the Task Force meeting in August, the following "Lutheran Church Relief Operation Plan" was made. The length of the term is to be from March 2011 to March, 2014, while continued efforts of the Relief work is expected. In addition, the importance of the work of the organization of JLER has been experienced, and it will continue as a joint undertaking of the four Lutheran Churches in Japan. The presidents of the four churches mutually confirmed that the continuance of this important system is vital and they will cooperate to maintain this work.

"Lutheran Church Relief Operation Plan"

●Purpose

1. Based on the Mission of "Service of love in the Christ", JLER works as a joint undertaking of Four Lutheran Churches through various relief projects for the restoration and reconstruction of the lives of victims who received damage due to the East Japan Earthquake and Tsunami.
2. We will relate to people who suffer spiritually, psychologically,and physically because of the devastating effects of this disaster. We will work hard to support these people and find ways so they can live in "Hope and Joy" while understanding the meaning of life. In this way we participate in and experience God's compassion and the calling of God's people.
3. "Lutheran Church Relief Operation " of JLER is a support project that concentrates the energy and mission power of not only the Lutheran churches in Japan, but also closely relates to the Lutheran churches and it's Associations in the world. It is assumed that this cooperation will continue for as long as possible.

●Time Period and budget

Project period: Three years from March, 2011 to March, 2014
Activity budget (fund-raising target):
Initial Budget:240 million yen(Results: As of August, 2011. 200 million yen,)
Supplementary Budget: 300 million yen(Revised budget for October, 2011 to December, 2012)

●Areas of Operation and Content
Main Regions for Relief Project:
Miyagi Prefecture: Higashi-Masushima City, Ishinomaki City, and Kesennuma City
First Stage: From March to September, 2011.

Main activities: 1. Support and Distribution of urgent support goods (food, material, and Human Resource relationships, etc.)
2. Development of Various Volunteer Sending program
3. Formation and Development of reliability and cooperation with disaster areas
Second Stage: From September 2011 to December, 2012.

Expected activities:
1.Necessary support for Temporary Housing locations
2.Assistance to "Community Centers" that will be formed in regional areas
3.Development of a multiple purpose Volunteer Sending program
4.Disaster Prevention Education Program in preparation for the secondary disasters

現地からの報告

スタッフ　佐藤文敬

３月 11 日から５ヶ月、私が仙台に常駐し始めて ４ ヶ月が過ぎました。一時の反射運動のような支援活動はほぼ落ち着き、仮設住宅への入居も ９ 月中には完了しそうです。それは同時に、被災者が「被災者」としてまとまっていた緊急時が過ぎ、いよいよ難しい段階に入ってきたことを意味します。

いったい何が難しいのか？１ つには被災状況が多様であることがあります。被災者と一口に言っても被災状況はさまざまです。家も家族も仕事場も流された人 もいれば、家と家族を失ったけども仕事はあるという人がいます。また家も家族も無事だったけど仕事場を流されたという人がいます。被災しても財力がある人は既に新しい家を建てたという話がある一方で、仮設住宅になかなか当選せず、避難所暮らしが ６ヶ月目に突入した人もいます。仮設住宅に入居できたものの収入の目処が立たないため生活費を切り詰めざるを得ず、物資の面では避難所にいる時よりもきつい状況で暮らしている人もいます。さらには家の形は残ったものの自宅の１ 階が津波に破壊され、２階で卓上用コンロで煮炊きをしながら暮らしている人もいます。

難しさの ２ つ目には震災被害によって生み出された問題だけでなく、震災以前からそれぞれが抱えていた問題も一緒に対応していかなければならないことがあります。たとえば人口の減少と高齢化の進行は前々から各地で進んでいましたが、今回の震災でそれに拍車がかかりました。新聞報道によれば、私たちが活動している石巻市では 7,844 人減、気仙沼市では 3,406 人減となっています。地元の人に聞くと、転出している人たちの多くは若い世代だそうです。これからの支援ではこうした問題にも配慮が必要になってきます。

先が見えない中、それぞれの人がそれぞれの問題を抱えながらもなんとか



生き延びている。震災 ６ヶ月目に入っても尚そんな状況です。被災地の人々の「となりびと」「つなぎびと」になれるよう互いに模索しあえるといいですね。

Local Report

Fumitaka Sato, Staff

5 months have passed since March 11, and it has been four months since I was placed at Sendai for this work. The phase of ad-hoc support operation is about to end and many of the victims who have lost their homes should be settled intemporary housing by mid September. Moving to temporary housing could put them in a more difficult situation as they have to face their difficulties individually.

The degree of damage done by this disaster varies among victims. Some have lost their houses or jobs while others have lost their houses, jobs, family members, and everything else. Those who were financially well off have built a new house while there are some unfortunate victims who will not receive a spot in temporary housing and will remain at the evacuation center for as long as 6 months. The life in temporary housing for the jobless is not all that much better, especially from a financial aspect, because the necessities supplied at the evacuation center are no longer provided once they move out. Some moved back to their half-wrecked houses which lack basic functionality and therefore live with difficulties. On top of what has been mentioned, there are other issues that have existed since before the disaster, such as aging and decreasing population of those affected area.

According to the newspapers, the population of Ishinomaki-city has decreased by 7,844 people and Kesennuma-city by 3,406 people. The locals said many of those who have left the area are the younger people. This fact should be recognized as an issue that we need to be concerned with.

Now that it is about 6 months after the disaster, the victims are somehow hanging on, under the uncertainty about what the future holds. Therefore I would like to be there to bond with these people.

現地からの報告

スタッフ　遠藤優子

私たち現地のスタッフにとって、心強い存在は日本内外から駆けつけてくださるボランティアの皆さんです。海外からは台湾、フィンランド、スウェーデン、オーストリア、イギリス、アメリカからいらしてくださいました。焼きつけるような太陽の下、田んぼの瓦礫を拾い、個人宅の除草をし、住宅地等の側溝の清掃をしてくださっています。

JLER のボランティア活動の柱の一つに石巻市災害ボランティアセンター（石巻災ボラ）の支援があげられます。主に石巻災ボラの受付にボランティアスタッフを派遣し、毎日100～1,000名のボランティアの対応を行っています。全国から集まってくださったルーテル教会の牧師先生、信徒の皆様のご協力の下、石巻災ボラの受付業務を継続し、今ではチーフとして受付を任されるまでになっています。黒子的な目立たない役割ではありますが、より多くのボランティアの皆さんを石巻で助け手を必要としていらっしゃる方々に派遣するために石巻災ボラを支えていくことはとても重要な働きであると考えています。

また、震災当初はまったくつながりのなかった石巻の地でも、受付での働きを通してたくさんの地元の方々、ボランティアの皆さんと出会うことができ、1つひとつの出会いが今の私たちの活動につながっています。ルーテル長期ボランティアの長谷川響さん（写真右）は石巻災ボラの資材班のリーダーとして 4 ヶ月ご奉仕してくださいました。1 日も休むことなく活動してくださった長谷川さんの献身的な働きに大変感謝しております。

活動を始めてからの 3 ヶ月間は、被災地に JLER のボランティア宿泊施設がなかったため、毎日仙台教会から車で各ボランティア活動場所まで何時間もかけて移動する日々が続きました。しかし、地元の方々のご好意により、ついに気仙沼と石巻に宿泊施設を確保することが出来ました。石巻では地元の方のご協力の下、北上町の本地生活センターという公民館をお借りしております。こちらをボランティアベースとして利用させていただけるようになって、石巻での活動に幅が出てまいりました。

河北地区にある避難所“ビッグバン”でご奉仕してくださっていた伊藤牧師は、現在は避難所から仮設住宅に移られた方々の家庭訪問を通して、全国の方々からお送りいただいた「おすそわけプロジェクト」の食料品・生活用品をお届けくださっています。また、河北地区と北上町内で地元の方々と関係作りを進めてくださっています。

また、石巻市北上支所の依頼を受け、田んぼに入った瓦礫の分類作業や側溝清掃を他支援団体と協力しながら行っていくことになりました。さらに、石巻市北上町・十三浜漁協のわかめ漁の再興に向けて JLER でどんなお手伝いをさせていただけるか協議を行っております。

Local Report

Yuko Endo, Staff

What encourages local JLER staff is numbers of our Lutheran volunteers coming from not only Japan, but also from outside of Japan, such as Taiwan, Finland, Sweden, Austria, England, and US. Under the burning sun, they are working so hard to remove debris from paddy fields, weeding grass in individual houses, cleaning ditches in residential districts and so on.

One of our main volunteer activities is to support Ishinomaki volunteer center (IVC). We mainly help the reception desk and accept 100-1000 volunteers everyday. JLER continued to fill this position through the help from many pastors and layman of Lutheran churches from all over Japan. Nowadays JLER is serving as one of chief positions at the reception desk of IVC. We regard this work as an important task for JLER because supporting the reception desk enables IVC to send more volunteers to those who need help, thought this is unremarkable work. This work also becomes important initial point for JLER, which did not have any local contacts in the beginning to make rapport with a lot of local people. One of Lutheran volunteer, Mr. Hibiku Hasegawa played very important role in IVC. He served as a manager of the storage center of IVC and without taking any time off or holidays, he continued his volunteer work for 4 months. We are very thankful his dedicated service.

In the first 3 months, we did not have any local site for any of the disaster-stricken areas. Therefore, Lutheran volunteers had to commute from JELC Sendai church to each working place by car everyday and spend for many hours just making round trips.

But finally, we were able to have our local bases, one in Ishinomaki and the other in Kesennuma. In the case of Ishinomaki, we were able to lend a community center as Lutheran volunteers' accommodation through the help of local people. This new base expanded our activities in various ways. First, Rev. Ito, who first served as a volunteer to support an evacuation center called "Big Bang," is assisting the people who moved from the evacuation centers to temporary houses. He is acquainted with many local people and started to build a strong network in Kahoku/Kitakami town.

Secondly, we cooperate with Kitakami branch office of Ishinomaki city and are organizing volunteer work in order to pick up debris in the paddy fields.

Thirdly, we have started our discussion with a local fishermen's association in Zyuusan-hama about how JLER can support the restoration of wakame sea-weed culture which was completely destroyed by the tsunami.



Mr. Hibiku Hasegawa



ボランティア派遣プログラム

現地派遣牧師　立野泰博

Volunteer Sending Program

Field Sending Pastor　Yasuhiro Tateno

ボランティア支援センター「となりびと」が仙台教会に設置され、４ヶ月になりました。これまでに 200 名以上のボランティアが訪れました。センターから派遣された活動はのべ 800 箇所になります。リピーターも多く、海外からは、アメリカ、フィンランド、台湾、オーストリアからの参加もありました。

ボランティア活動は、朝 5 時の起床からはじまります。出発は 6 時。牧師の祝福と祈りに送られて現場に向かいます。石巻、東松島、気仙沼等を活動拠点とするルーテル支援は、仙台から 3 時間以上をかけて現場に向かいます。4 月の頃は、ボランティア渋滞と呼ばれる現象がおき、行き帰りに 6 時間を費やしていました。私たちの教会拠点が仙台であったこともあり、ボランティアは毎日過酷な道を通いつづけました。

働きとしては、石巻市災害ボランティアセンターの受付を石巻市社協から任されて続けてきました。また、石巻市の被災住居の泥出し、家具移動、庭清掃に参加。ヘドロにまみれながら、異臭漂う所で昼食をとる作業を地道に行いました。東松島ではデイケアセンター「すみちゃんの家」を支援、再開まであらゆる作業を行いました。特に花壇作り、食器洗い、大工仕事を行いました。6 月には復興祭がおこなわれ、これまでの活動に感謝されました。また同市の宮戸島では漁協海苔工場の清掃等を行うことができました。

ルーテルボラの特徴は「なんでもする」です。石巻市では鮎川地区に花植え、河北地区におすそわけ、避難所に人を派遣、仮設訪問、３回のボランティアバスパックなど。必要とされるところに、必要な物資と人を届けてきました。専従スタッフの細かな訪問と配慮もあり、いつしか「ルーテルさん」と呼ばれるまでになりました。「ルーテルさんはきっと来てくれる」「ルーテルさんは一緒にいてくれる」「ルーテルさんは約束をまもってくれる」。この被災者からの声が、これまでの活動の証しです。

Four months have passed since volunteers have been sent to the “Tonaribito” Support Center set up at Sendai Church. Over 200 volunteers have visited so far. The center’s activity has sent volunteers to a total of 800 locations. In addition to many repeat volunteers, we have also had volunteers from the United States, Finland, Taiwan, and Austria. The volunteer work starts from getting up at 5 AM. The departure is at 6 AM. Volunteers are sent with the pastor's blessing and prayer before heading to the field.

The main activity bases of the JLER are in Ishinomaki, East Matsushima, and Kesennuma. It has taken up to three hours or more from Sendai to reach these locations by car. In April, it took six hours to get to and from the sites because there was a large increase in traffic due to the so-called “volunteer’ s congestion”. Since our church-center was based in Sendai, our volunteers had to continue commuting under such severe schedules every day. Our volunteer activity includes volunteer registration at the Ishinomaki disaster volunteer center consigned to us through the Social Welfare Council. In addition, we participated in mud-clearing from tsunami-stricken houses, moving furniture and yard cleaning in the disaster areas of Ishinomaki City. We served and even had to eat lunch in places surrounded by sludge and strong odors. We supported the day-care center "Sumichan's house" in East Matsushima, and did any and all work needed to restart the center. We especially helped in flowerbed-making, cleaning and washing dishes, and carpentry. There was a revival festival in June, and the local community expressed their gratitude for our activity. We cleaned a seaweed factory of the fishery cooperative in Miyatojima.

The motto of the volunteer work of JLER is “to do anything that is needed”. As far as support for the temporary housing sites, we performed the following services: Flower-planting in the Ayukawa district; sharing-of-goods project in Kahoku district; sending volunteer staff to evacuations sites; visiting people at temporary housing sites; and organizing three volunteer bus tours. Where there was a need, we delivered the necessary goods and persons. Thanks to repeated visits and the fine work of our full-time staff, we are now fondly referred to as "Luther-san"(Mr. Lutheran). "Luther-san will surely come." "Luther-san will always be with us". "Luther-san keeps their promise". These voices from the disaster victims become the proof of our current activity.



現地からの報告

スタッフ　伊藤文雄

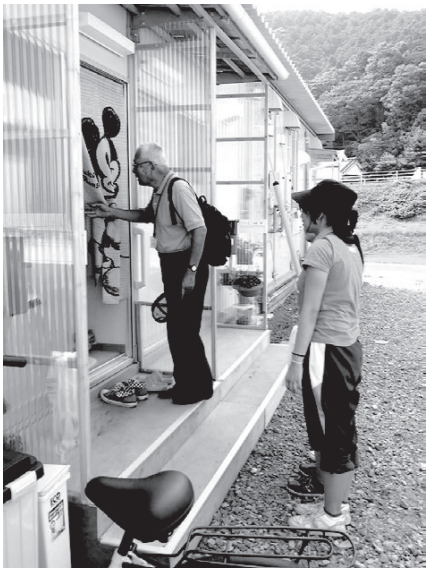
「これっ限りにしないで…」4 ヶ月避難所で生活を共にしてきた人達が、別れ際に交わす挨拶です。今、被害を受けた人々が避難所から、仮設住宅に移って行きつつある段階にあります。9 月中にはほぼ完了すると思われます。

私がボランティアとして共にいさせていただいた避難所には、かつては 700 人近い人達が所狭しとおられましたが、今では 50 人ぐらいの人になっています。1 階が壊れた家に息子さんが一人残って改修をされた家に戻っていかれた夫妻がいます。仮設住宅では仕事をすることができないために友人の協力を得てプレハブの住宅を建てられた方もいます。

仮設住宅に移って行かれた方々を訪問して行くうちに、女性会の人達が全国から寄せてくださった「おすそ分け」の物資が仙台教会内の「ルーテル支援センター となりびと」に山積みになっているのを発見して、これまで二箇所の仮設住宅に 4 回届けさせていただきました。つい先日には、女性会連盟の谷口会長をはじめ執行部の方々が自ら「おすそ分け」の実施に加わっていただき、感激、大いに励まされました。顔と顔との繋がりが今、もっとも大切な時期にあると思っています。

Local Report

Fumio Ito,Staff



“Don’ t let this be the last time (we meet)…” These are the parting words of the people who have lived together for four months in the evacuation center at the time of separation. Currently, people who were displaced by the disaster are gradually moving from the evacuation centers to temporary shelters. This movement is scheduled to be completed by the end of September. Initially, there were nearly 700 people crowded into the evacuation center where I served as a volunteer, but now there only about 50. There was a married couple who had the first floor of their home damaged by the tsunami, but who were able to return after their one son remained to make repairs. There was also a person who received his friend's help because it was not possible to work in the temporary shelter and had a prefabricated house built with his friend's cooperation. While visiting the people who moved to the temporary shelter,

I discovered the large pile of goods that were sent from churches by the Women’ s Association of the JELC to the “Lutheran Support Center Tonaribito” in the Sendai Lutheran Church. Up to now, we had delivered these goods to the temporary shelters in two places on four occasions. I wish to express my gratitude for the service of the members of the Women’s Association headed by chief officer Taniguchi, who cooperated in a recent distribution. Now is a most important period for face to face communication with the people.

導きの糸

スタッフ　千葉　一

この数ヶ月「震災でコミュニティ全体がバラバラにならないためには、どうしたらよいのか」、「災害対応・問題解決能力を持ったコミュニティの姿とは如何なるものか」を自分に問い続けて来た。しかし復旧・復興というものに対する被災者間の微妙な温度差に戸惑い、支援の身動きができない事もあった。しかし、導きの糸を示してくれたのは彼らだった。

前浜に支援に来てくれた方々に、住民達は伝統の「大漁唄い込み」を歌ってお礼した。その歌声と力強い響きに、涙があふれる思いだった。大謀網の海で育った誇りを、彼らは今も共有している。

生活再建の目処も立たない中でも、自分達の足元にある伝統文化を見止め、回帰するその姿。目には見えないが「地域の力の復元」に繋がる何かを、人々は微かにでも感じているのか。願わくは、それが確信となり、復興を支える「心の開発」へと至らんことを・・・。

Return to the tradition

Hajime Chiba, Staff

In the last several months, I have asked myself that “what shall we do in order that a community may not disjoint after the earthquake disaster?” and “what sort of community is having the abilities of disaster management and solving problem?”. But sometimes, we were perplexed a subtle difference in feeling on restoration and reconstruction among the victims, then could not stir an inch for a support activity. However, a guiding thread was indicated by them.

They sang the traditional “TAIRYO UTAIKOMI(the song of big catch)” in token of their gratitude to the volunteer supporters. Listening to their voices and beats, tears stood in my eyes. They have jointly the pride bred in the sea of DAIBOAMI(the fishing by wholesale trap nets) even now. I saw surely their picture which senses and returns to own traditional culture, though they have not have hopes or prospects for own life reconstructions. Do they feel faintly invisible something bound up with a restoration of community power? I hope that it is a conviction, then reaches to “inner development” as the



「ご支援とお祈りを Thank you for your

学校法人アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校校長
大津健一

アジア学院は、1973 年より今日まで毎年栃木県那須塩原市で、アジア、アフリカより草の根農村リーダーを招き、農村指導者養成プログラムを実施してきました。卒業生はこれまでに 1,195 人、世界 55 ヵ国に散らばっています。

３月 11 日の東日本大震災では、アジア学院は大きな建物被害を受けました。幸いけが人はありませんでした。すぐに専門家による建物診断を受けたところ、本館及び食堂・チャペルなどがあるコイノニアハウスが構造上危険だとの診断がなされ、建物緊急補修と建替えについては 5 億 3 千万円の費用が必要だということになりました。この災害復旧のためアジア学院は、東日本大震災「ルーテル教会救援」に 2,000 万円のご支援をお願いしたところ、その全額についてご支援を頂くことができました。ここに皆様のご支援とお祈りに対して、この場をお借りして心より感謝申し上げます。





Asian Rural Institute　Director
Kenichi Otsu

ARI (Asian Rural Institute) has been inviting grass root level rural leaders from Asia and Africa every year, and conducting the Rural Leaders Training Program in Nasushiobara City, Tochigi Prefecture since 1973 until today. So far we have 1195 graduates from 55 countries.

Our buildings were damaged by the East Japan Earthquake, but fortunately nobody was injured. After the earthquake we asked a building inspector to check our buildings. He said that the Main Building and the KOINONIA House were not in a suitable situation for further use and recommended to rebuild new buildings, put at a cost of 530 million yen for construction.

For this purpose when we requested the Japan Lutheran Emergency Relief (JLER) for 20 million yen in support for the rebuilding of ARI, we received a quick response in the affirmative. On this occasion, on behalf of ARI, I would like to express our deep appreciation to JLER for your support and prayers.





仙台市長　奥山恵美子

このたびは、仙台市に心温まるご支援をいただき、誠にありがとうございました。皆様のご厚意によりまして、私たちは、地域を超えて支え合う強い「絆」を実感し、震災後の厳しい現況を乗り越え、復興に向けて歩みを進めることができました。心から感謝いたします。これからの道のりは、決して平坦なものではなく、長く険しいものになろうかと存じますが、多くの「絆」を支えとして、皆様に一日も早く復興した「杜の都・仙台」をご覧いただくことを願い、未来への希望につながる歩みを一歩一歩着実に進めてまいりたいと考えています。どうぞ、今後とも、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。





Mayor of Sendai　Emiko Okuyama

Thank you for your warm support to the city of Sendai. By the kindness of everyone, The “KIZUNA” of the strong support beyond community is born. We can proceed to step toward strict rehabilitation to overcome the severe current situation after the Earthquake disaster. The future road is not never flat, but rather becomes a long and step. Even then, a number of the "KIZUNA" (bond) as a force to support, I would like to do Reconstruction of “ Sendai City of Trees” as soon as possible. Through it, we would like to walk steadily leading to the hope for the future. We will specifically ask the continued support in future.



感謝申し上げます」
support and prayers

















南相馬市仮設住宅　匿名の方

いつも支援物資を送っていただき感謝しております。南相馬市も仮設住宅ができましたが、町から遠いところばかりです。住んでいる方々もお年寄りの方が多く買い物が大変です。私たちは昨日、教会より送っていただいた野菜を軽トラックに積んで届けて頂きました。

Minamisoma Temporary house Anonymity

We thank you for always sending the Relief Supplies. Minamisoma city had built Temporary houses, but these are just far away for the city center. Therefore, it is difficult to buy for elder people who are live in Temporary house. Yesterday, we got many vegetables from your church supplies through light trucks.

介護老人保健施設
リバーサイド春圃
　主任　吉田真一郎

これまで、多くのご支援をいただきました、ルーテル教会の皆様に心より感謝いたします。リバーサイド春圃に介護ボランティアのご支援をいただきましたのは、まだ気仙沼市内に山積みとなった瓦礫が残る５月12日からでした。これまで介護ボランティアの派遣や受け入れ実績のない私たちにとって、手探り状態の受け入れでした。ご支援をいただく中で、当時10名ほどの利用者には久し振りの交流の機会となっていることを感じました。それは静岡、長野、大阪、東京出身の介護ボランティアの皆様と気仙沼弁（訛り）の交流は利用者の被災前の笑顔を生むこととなりました。利用者の楽しむ表情、交代時や支援終了後の惜しむ表情は今でも忘れません。利用者にとって触れ合うことが一番の支援であることを感じました。

Nursing Old People Health Service
Ribaside-syunho
Chief Shinichiro Yoshida

I wish sincerely to express my gratitude to the Lutheran church that has gotten a lot of support up to now. It was from May 12th to get the nursing volunteer's support for our Ribaside-syunho when small stones and splinters of destroyed building remained in the Kesennuma city. At that time, we did not have the program of the nursing volunteer's sending and the acceptance. We were puzzled over. Fortunately, it became the chance of valuable fellowship to about ten people through the support . The exchange of the Kesennuma dialect (spoke with a local accent) with the nursing volunteers from Shizuoka, Nagano, Osaka, and Tokyo, especially, became a chance to give the smile to people. We have the deep impression that the people enjoyed and regretted the separation after the support had temporarily ended. I feel that the best support for people is to have close relationship.

３月～８月までの主な支援活動
JLER Relief Support from March to August

市 City	対象者 Object	主な支援内容 Main Support
気仙沼市 Kesennuma	光ヶ丘保養園（精神病院） Hikarigaoka Rest home(Mental Hospital)	レンタカー貸与（３台、３ヶ月） Rent-a-car loan support(3 Car three months) 物資支援 Goods support
	リバーサイド春圃（老人保健施設）Riverside Shunpo（Health services for the elderly）	長期介護ボラ派遣（７名、７ヶ月） Long-term nursing Volunteers sending (seven) 入所高齢者用食料支援 Food support for Old People 自動車購入支援、物資支援 Car and goods support
	本吉町前浜地区 Motoyoshi-cho Maehama District	コミュニティセンター建設支援（予定） Community Center construction support (Not yet) ボランティア宿泊用プレハブ移築 Prefab constructing for volunteer staying 物資支援 Goods support
石巻市 Ishinomaki	社協災害ボランティア活動 Social welfare council Disaster volunteer work	受付用スタッフの派遣 Sending staff's for volunteer acceptance
	石巻市ビッグバン避難所 Ishinomaki Evacuation site	ボランティアの派遣（長期） Volunteer's Sending (long term) 専門家の支援体制の構築（予定） Specialist's supporting attitude making (Not yet)
	障がい者家族サポート Handicapped person and Family support	知的障害を持つ子どもの家族２世帯の買い物・移動支援を実施 Shopping and the movement support of the two families.
東松島市 Higashimatsushima	介護系 NPO 法人スミちゃんの家 Nonprofit Activities for Nursing in Sumichanno-ie	ボランティアの派遣 Volunteer's Sending 物資の支援 Goods support 建物の改修支援（未決） Repair support in building (Not yet)
	漁協宮戸西部支所支援 Miyato West Fishery cooperation union	のり加工所清掃ボランティア派遣 Paste processing place cleaning Volunteer's Sending 物資支援 Goods support
	小野市民センター、浅井地区センター避難所、宮戸島対策本部 Ono and Asai Evacuation site、Miytogima Task Force	食料支援、物資支援（５月～７月末まで） Foods and Goods support(from May to July)
登米市 Tome	NPO法人 さくらんぼくらぶ Sakuranbo-kurabu(NPO)	エアコン設置、イベント支援 Air conditioner installation , Event support
南相馬市 Minamisouma	原発 20～30 ㎞圏内生活者の支援 The nuclear power plant 20km～30km range dweller's support	食糧支援（みちのく応援隊を介して） Foods support through Michinoku（NPO）
日本社会福祉士会 Social welfare Association	石巻市渡波・稲井地域包括支援センター、宮城県社会福祉士会 Ishinomaki Watanoha-Inai, area Miyagi Prefecutre	レンタカー支援（５月から ４ヶ月、３台） Rent-a-car loan Support（3 Cars four months）



ブログ「るうてるとなりびと」画面（8月27日現在）

ルーテル教会救援活動会計報告　JLER -Fiscal Report

2011.8.10

RECEIPTS Fund received from Abroad	収 入 海外教会・団体献金	Actual USD	実績額 日本円	Supplemnt USD	補正予算 円
ELCA, USA	アメリカ福音ルーテル教会	500,000	40,790,194		
CLWR	カナダ・LWS	50,000	4,083,000		
Diakonie Katastrophenhilfe of Germany	ドイツ・LWS	499,960	79,739,778		
NCA	ノルウェー・LWS	114,148	10,438,235		
ALWS	オーストラリア・LWS	13,311	1,082,480		
Others	その他、諸教会	371,194	30,185,494		
Sub - total	計	1,548,612	166,319,181	3,321,177	255,000,000
Japan Lutheran Churches	国内ルーテル教会献金				
JELC	日本福音ルーテル教会	184,456	15,000,000		
NRK	日本ルーテル教団	122,971	10,000,000		
KELC	近畿福音ルーテル教会	73,783	6,000,000		
WJELC	西日本福音ルーテル教会	24,594	2,000,000		
Others	その他	2,034	165,400		
Sub-total	計	407,838	33,165,400	586,090	45,000,000
RECEIPTS TOTAL	収入合計	1,956,451	199,484,581	3,907,268	300,000,000
Expenditure	支 出				
Direct Food Relief Assistance	直接的・食糧支援	210,644	17,129,606	260,485	20,000,000
Non Food Relief Assistance	物資支援	206,242	16,771,573	260,485	20,000,000
Logistics	輸送関係	99,232	8,069,542	156,291	12,000,000
psycho-social programs	精神的・社会的ケア	32,559	2,647,691	130,242	10,000,000
volunteer support program	ボランティア派遣	27,131	2,131,261	130,242	10,000,000
Disaster Risk Reduction/Preparedness	災害復興費	341,599	27,778,841	1,107,059	85,000,000
Regional cost of reconstruction activities	地域復興活動費			976,817	75,000,000
Direct Programme Related Costs	諸関係費用	65,111	5,294,815	586,090	45,000,000
INDIRECT COSTS	間接経費	38,730	2,650,140	153,686	11,800,000
DIASTERA PREVENTION	防災教育			130,242	10,000,000
AUDIT & MONITORING	会計監査（業績評価）			15,629	1,200,000
Expenditure TOTAL	支出合計	1,021,248	82,473,469	3,907,268	300,000,000

募金振込口座 (Bank Account)

三井住友銀行　新宿西口支店
普通　259-09727395
(宗)日本福音ルーテル教会
東北関東大震災ルーテル教会連合救援募金
東京都新宿区市谷砂土原町1-1-1

Bank : Sumitomo Mitsui Banking Corporation
Branch : Shinjuku Nishiguchi Branch
Adress: 1-7-1 Nishiguchi Shinjuku-ku Tokyo Japan
Branch No: 259　Swift Code: SMBCJPJT
Name: Japan Lutheran Joint Emergency Relife
Bank Account No: 9727395

となりびとのホームページ
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

英文ホームページ English Home Page
http://www.jler.org/

特集　東日本大震災救援活動報告（「ルーテル教会救援」JLER）

1年間の感謝を覚えて

本部長　青田　勇

東日本大震災の発生以来、はや1年を経過しようとしています。震災と津波の被害により、愛する人を失い、苦しみと悲しみの中にいる方々、また厳しい寒さが続いている被災地で日々の生活に苦闘している方々のことを祈りの内に覚えます。

神の恵みと導きにより、昨年の3月14日の救援対策本部設置より、被災地の石巻市、気仙沼市、南相馬市においてJLER（ルーテル教会救援）の緊急支援（食糧・物資・人材関係等）の配布・提供、多角的なボランティア派遣プログラムの展開などを通して、被災地との信頼性・協同性が多くの方の支援と協力により、実現できたことを主イエス・キリストに感謝いたします。

ことに、1年間、日々のつらい救援活動に精力的に取り組んでくれた現地スタッフの方々、全国からボランティア活動に参加してくださった多くの教職・信徒の方々、キリストの体なる教会である日本および海外のルーテル教会・施設・牧師・会員の方々の祈りと支援、さらにJLERの支援活動を心から受け止め、共に歩み、協力してくださった被災地域の多くの人々に心より感謝いたします。

昨年の秋に、JLERの本部会議は本救援活動を日本のルーテル4教会の共同事業として、最大限2014年3月まで存続していくことを4ルーテル議長会で確認しました。今後、2年間の予想される主な活動は、石巻市を中心とした仮設住宅等での必要な精神的・物質的支援活動、気仙沼市本吉町前浜地区での地元地域住民の方々に応えた形での「コミュニティセンター」の形成、それに定期的で必要なボランティア派遣プログラムの継続性であります。

2011年度のJLERの連帯献金（本紙8頁記載）、各ルーテル教団からの献金、それに海外のルーテル教会・協会からの多額の支援金を活動資金として有効に用いて、JLERの救援活動が「キリストにおける愛の奉仕」の業に沿ったふさわしい事業活動を実現していくためにも、今後ともご協力とお祈りをよろしくお願いいたします。


4ルーテル議長会　2011年3月

JLER（ルーテル教会救援）活動の歩み　2011年3月11日～12月31日（本部作成）

月	日	
3月	11日	東日本大震災発生
	14日	日本福音ルーテル教会は東教区と共に救援対策本部を設置
	18日	第1回救援対策本部会議（市ヶ谷）
	23日	23日～30日　仙台地区に調査の先遣隊の牧師派遣（4名）
	23日	物資支援の第1回輸送プロジェクト開始
	24日	ルーテル4教団の救援活動組織「東日本大震災ルーテル教会救援」（英語表記"Japan Lutheran Emergency Relief"）を設置し、JELCに救援対策本部を置く
	25日	輸送プロジェクトのためのNPO拡大連絡会（市ヶ谷）開催
	28日	LWFより特別アドバイザー、マタイ氏（K.G. Mathaikutty）がインドから派遣
	28日	第2回輸送プロジェクト。4トントラック3台
	31日	9ヶ月の救援事業の第一次予算（Preliminary Budget）承認
4月	4日	専従スタッフの面接・採用
	4日	第3回輸送プロジェクト。気仙沼市、石巻市、いわき市と伊達市へ。
	11日	仙台教会に「ルーテル支援センターとなりびと」を開設、ボランティア受け入れ開始
	15日	宮城県社会福祉協議会の災害ボランティアセンターへスタッフ派遣
	20日	南相馬市の「みちのく応援隊」に野菜等の物資支援開始
	26日	気仙沼市・光ヶ丘保養園に、軽自動車3台（レンタル）緊急援助
	28日	東松島市東名地区消防団に胴付長靴（胴長）の支援
5月	1日	気仙沼市国際ボランティアセンター「山形のIキャッシュ・フォー・ワーク」事業支援実施
	7日	畳を約85畳ほど東松島市小野市民センター2階の60人部屋に搬入
	8日	南三陸町へ洗濯機・乾燥機を搬入
	9日	全国各地のJELC女性会より雑巾が仙台支援センターに届く
	11日	東松島市東名地区消防団に遺体捜索用の腕カバー付手袋15個を配送
	12日	気仙沼市リバーサイド春圃（老健）に長期ボランティア派遣とプリンター1台支援
	14日	アメリカELCA教会より、手造りのキルトが仙台ルーテル支援センターに届く
	18日	レトルト食品・缶詰・カップラーメン・野菜等を石巻市水押地区、東松島市浅井地区に届ける
	20日	バナナを女川町の避難所に届ける
	22日	石巻市で活動中の日本社会福祉士会にボランティア用車両3台（レンタル）提供
	24日	東松島市鳴瀬二中学校の男子バレーボール部員にシューズとジャージを提供
	24日	東松島市宮戸島の牧浜地区センター避難所に洗濯機と乾燥機を各1台提供
6月	28日	東松島市新東名地区NPO法人のんびーりすみちゃんの家でのボランティア奉仕活動
	3日	石巻市牡鹿地区・仮設鮎川小学校団地に出来る仮設住宅に生活用品を届ける
	5日	石巻市牡鹿半島仮設入居者用支援物資と石巻バザー用自転車配送手配
	6日	気仙沼市リバーサイド春圃にボラ派遣、清浜院避難所にガステーブル3台、大工派遣
	10日	JELC全国女性会連盟から雑巾（15,000枚）届く
	10日	宮城県漁協宮戸西部支所に支援物資としてノートパソコン1台支援
	15日	気仙沼市惣菜スマイル館に、調味料、ドレッシング等の支援物資を届ける
	16日	石巻市「三浜にバナナ運搬
	16日	気仙沼市リバーサイド春圃にパソコン2台を支援
	17日	石巻市雄勝にバナナを運搬
	19日	3ヶ月の活動報告（日本語、英文併記）「ニュースレター」1号、1,500部発行
	20日	石巻市ビックバン避難所の派遣調査
	20日	万石浦橋仮設住宅に住む方にミシンを届ける
	23日	全国教会からの物資支援の「おすそわけプロジェクト」を開始
	28日	JLER支援でルーテル学院大学「セルフケアカード」を被災者に配布
7月	1日	石巻市鮎川小仮設住宅（58世帯）、牡鹿中仮設住宅（23世帯）花と物資を届ける
	10日	東松島市の仮設住宅に花苗・野菜苗等を配布
	11日	11～12日、第3回バスボランティアを実施。初日は2回目の海苔工場清掃、畳の入れ替え、
	12日	障子張替の奉仕。2日目は東松島市「すみちゃんの家」にて奉仕。
	14日	聖公会との共同事務所開設準備、事務所開設
	14日	アジア学院のために復興支援を実行
	15日	エアコンを登米市介護系NPOのさくらんぼクラブに支援
	17日	JELC女性会が寄付した雑巾を仮設、避難所、漁協等に配布
	26日	「おすそわけプロジェクト」を石巻市仮設追波川多目的団地集会所にて展開
	29日	宮城県漁協十三浜支所仮事務所にクーラー支援
8月	1日	8月1日～7日まで、台湾ルーテル教会ボランティアチーム12名が来日
	5日	2ヶ所の仮設住宅団地で仮設カフェ「サロンさくら」を開催
	7日	石鹸を気仙沼市本吉町大谷中学校仮設住宅で配布
	9日	おすそわけプロジェクトを三反走にて展開
	10日	気仙沼市前浜地区にプレハブ移転の支援を実施
	16日	気仙沼市前浜地区に食事ボランティア2名派遣
	20日	気仙沼市震災復興のための福祉祭りに参加、サッカーボール配布
	20日	気仙沼市唐桑にある介護事業所の土筆の里での夕涼み会にバザーを出店
	22日	石巻市の被災したグループホームに届けるオムツを佐川倉庫から出庫
	22日	聖公会の支援物資のために仙台の倉庫の一画を提供
	22日	石巻市介護事業所におむつ段ボール10箱分届ける
	27日	宮城県漁協宮戸西部支所の書類の乾燥作業にボランティア10名派遣
	29日	気仙沼市本吉町仮設ラーメン屋「やじろべえ」にテーブル・椅子を支援
	31日	香蘭女学院学生と共に、石巻市仮設追波川多目的団地集会所でおすそわけ会を実施
9月	7日	「絵本」を石巻市北上町の保育園に提供
	7日	チェコのチェロ奏者ウラダン・コチ氏のコンサートを仙台教会で開催
	8日	「ニュースレター」2号発行し、海外ドナー教会・協会及び関係教会等に送付
	14日	石巻市仮設にっこりサンパーク団地集会所用の座布団を30枚提供
	14日	石巻市北上町相川保育園にサッカーボールを提供
	14日	おすそわけプロジェクトを石巻市北上町相川地区にて展開
	15日	おすそわけプロジェクトを石巻市北上町大指地区、仮設にっこりサンパーク団地にて展開
	17日	東松島市ひびき工業団地集会所にてサッカーボールと衣類等のおすそ分け会を開催
	19日	東松島市ひびき工業団地おすそわけプロジェクト展開
	25日	気仙沼市本吉町大ケ沢仮設での「NICOTTO主催」の仮設カフェに参加
10月	4日	白浜海岸にて京成バスボランティアグループとともに奉仕作業
	4日	石巻市北上町のミサンガ販売支援開始
	5日	東松島市すみちゃんの家の写真清掃作業奉仕を各教会の女性会に依頼・発送
	14日	気仙沼市本吉町前浜大ケ沢地区仮設住宅における棚プロジェクト開始
	27日	気仙沼市本吉町大ケ沢仮設住宅での屋内の手すりを設置する作業
	30日	石巻市北上町大須地区で布団を配布
11月	14日	特養おながわに長期ボランティア派遣を開始
	15日	箱めがねを十三浜漁協に提供。十三浜支所に箱めがね用の杉板を支援
	22日	みやぎ宅老連絡会と共に、支援物資を石巻市須江仮設住宅に届ける
	23日	「カフェ・デ・モンク」と共ににっこり団地でお茶会を実施
12月	3日	スワン国際協力の会とバルシックの協力でキャロリングコンサート開催
	4日	石巻市北上町大須地区の在宅被災者へ毛布配布
	6日	南相馬市小池第3仮設住宅（127戸）で物資配布
	9日	南相馬市の仮設住宅にオレンジジュース等を配布
	16日	石巻市追波川河川団地（午前）、多目的団地（午後）にてサロン活動開催
	17日	石巻サッカー協会にサッカーボールとタオルを届ける
	19日	ルーテル学院大学介画ハーブ演奏、石巻市の仮設等の3ヶ所で開催
	21日	三反走、追波川、河川団地、にっこりサンパークの団地でサロン活動開催
	22日	前浜地区のコミュニティセンター再建についての覚書を「前浜地域振興会」と交わす

※　国内外の会議等を除いた、JLERの救援活動の日常的な働きを可能な限り、ここに記しました。

今後のJLERの主な活動

- **仮設支援プロジェクト**
  石巻市北上町・河北地区の仮設住宅での体操＆お茶っこ会等の精神的ケア活動
- **物資支援プロジェクト**
  南相馬市仮設住宅への物資支援事業
- **気仙沼市本吉町前浜地域振興会館（コミュニティセンター）建設**
  被災された前浜地域社会の再生のためのコミュニティー建設支援
- **石巻市宮城県漁協十三浜支所・作業所建設支援**
  ワカメ作業所復興のための支援事業

特集　東日本大震災救援活動報告（「ルーテル教会救援」JLER)

現地牧師・スタッフの声

「となりびと」でありたい

伊藤文雄（現地派遣牧師）

全国の皆さんから大きな支援をいただいてきました。目に見えなくても、祈りながら支援をたゆまず続けてくださったことは、現地の人たちにとってかけがえのない大きな励みでありました。

今年は例年になく寒い。吹雪いていて広い川さえ霞んで見えるほど厳しい。今年の冬こそ暖かくあってほしいのに、こんなに厳しいとは。どう受け止めるべきでしょうか。そんな中で、わたしたちは何もできないけれども、一緒にいさせていただきたいとここにいます。

「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう」と言ったペトロの心境を想わずにいれません。わたしたちにも資金はない。外国から多額の支援の申し出があるからと言って、それに甘えていることはできない。それならば、わたしたちは何を持っていると言い切れるのでしょうか。

年が改まって、状況も一変している。自らの被災経験を語り始めている人々が少なくありません。かつての避難所へ新年の挨拶に行って、「明けましておめでとうございます」と申し上げると「お目出度くもなんともない」と言われた。驚いていると、「実は、23歳の息子が津波に流され命を失った」と打ち明けてくださった。私たちが避難所に生活していた時には、しょっちゅう話し合っていたけれども、まったく語らなかった。「とにかく、被災者たちが無事に仮設住宅へ移っていくまでは、頑張らなければと一生懸命だった」と語ってくれた。これから家族のことをじっくりと思い起こしていくとのこと。

今、わたしたちは石巻市河北町、北上町の仮設住宅団地の集会所で「お茶っこ会」を通して、住民の方々につながっていたいと願いつつ活動している。ここでも、被災経験を語り始めている人たちは増えています。こうした方々に、皆さんと共に、しっかりとこころに寄り添わせていただくことが実現していくためにはどうあったらよいのだろうかと考えています。

3月末には、多くのグループが被災現場から撤退することが予想される。「ルーテル教会救援」の本部は、２０１４年の春まで活動を継続していくことを決定した。しかし、どう具体的に活動していくのかその方策の開示が切望されています。


仮設住宅での『おすそわけ』

現地からの報告

チーフスタッフ　佐藤文敬

「まさか、またこうして海苔をやることができるとはな」。この言葉は、私たちが昨年6月から継続的に支援している東松島市宮戸の一人のおじさん（漁業者）が言った言葉です。笑顔でした。

家も船も、倉庫も、人によっては家族までが流され、海の仕事を一時はあきらめることも考えたであろう人たちが、再び立ち上がっています。右記のとおり東松島市の宮城県漁協宮戸西部支所では海苔の収穫・出荷作業が再開しました。また、漁業者のための共同作業所の建設支援をした石巻市北上町十三浜ではわかめの収穫作業が始まりました。

気仙沼でも一歩ずつ進んでいます。「震災後の地域の将来のことをみんなで話そうにも集まれる場所がない」。そんな状況をなんとかしようと始めた気仙沼市本吉町前浜地区におけるコミュニティセンター再建支援は、昨年10月から本格的に動きだし、20代から70代までの男女19人の地区住民からなる建設委員会を中心に、建設に向けた段取りが着々と進んでいます。復興に向けた生産活動やコミュニティ活動などが、目に見える形で動き出したせいか「ほんとに、みなさんのお陰でここまでできるようになったんだ。ありがとね。」と感謝の言葉をいただくことが多くなった気がします。

しかし、一方でそんなことを言える状態にない人も少なからずいます。例えば、流通が止まり、食料の入手ができない時期（4月）から支援を始めた福島県南相馬市では、地域の将来さえも見通しが立たない中で、津波で農地を失った方々が、仮設住宅で何もすることがなく、急速に身体が衰えていくという状況が出てきています。初期の生活物資の緊急支援の後、これまで放射能不検出の野菜の支援等を継続して行ってきていますが、これからはまた違った支援が必要になってきています。

何ができるかわからない中で動き出した現地（宮城県）での支援活動でしたが、これからがいよいよ本番です。被災地の人たちの声を聴きながら一緒に支えていきましょう。


佐藤氏　仮設での支援活動


前浜コミュニティセンター建設委員会


石巻サッカー協会にサッカーボール寄付

特集　東日本大震災救援活動報告（「ルーテル教会救援」JLER）

現地教会の声

3月11日の特別礼拝に向けて

鶴ヶ谷教会・仙台教会牧師
藤井邦昭

昨年3月11日、東日本地域で起こった地震、津波による大惨事、加えて未だに東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故による避難による困難な生活を強いられている人々がいます。被災地の復旧・復興はまだ緒についたばかりですし、ことにもかけがえのない大切なものを失い、癒されないままでいる被災者の心の復興は、これからの最大の問題です。

被災者は現在各地の仮設住宅で暮らしていますが、孤独死などの深刻な問題が発生しています。仮設入居者への支援は緊急の課題となっています。

さて震災直後、被災地の状況を把握し、救援活動開始のための情報収集、また仙台・鶴ヶ谷教会の信徒問安などのために、3月下旬先遣隊が鶴ヶ谷教会に遣わされました。その結果を受けて、4月より仙台教会を拠点としてルーテル教会救援「となりびと」の活動が発足しました。以来、10ケ月が過ぎ、その間現地スタッフを始め、国内外から延べ300人を超えるボランティアが仙台教会に集結し、宮城県を中心に救援活動を展開しました。


仙台教会・支援センター

仙台教会は毎週日曜日9時20分より礼拝を行っており、これまでスタッフや多くのボランティアの方々が礼拝に参加しました。

仙台教会としては、ルーテル教会の救援活動の原点は「礼拝」にあると考え、スタッフやボランティアの方々の心の拠り所となるよう、礼拝を大切に守り続けました。

礼拝では毎週聖餐式を行い、国内外の信徒との交わりが与えられ、また多数のノンクリスチャン・ボランティアの方々には心から神様の祝福を祈らせていただきました。

今年の3月11日は日曜日に当たり、大震災から1年となります。この節目の日に、犠牲になられた方々を追悼し、地域と人々の再生を祈る礼拝を仙台地区で開催し、大震災に心を寄せる人々と思いを同じくすることができれば幸いです。そしてこれからの「となりびと」の働きが神様に祝福され、ルーテル教会が被災した人々の「となりびと」として立てるように祈り続けたいと思います。

しかし、お名前を挙げた方々に加えて、お名前は存じ上げませんが、祈りをもって関わってくださった多くの方々にこそ感謝します。

被災地を支えたのは、社会的立場や名声や労力ではなく御霊の働きによる心からの共感であったと思うからです。あらためて一人一人が自らの十字架を負い、互いに喜び、泣く恵みを共にしたいものです。



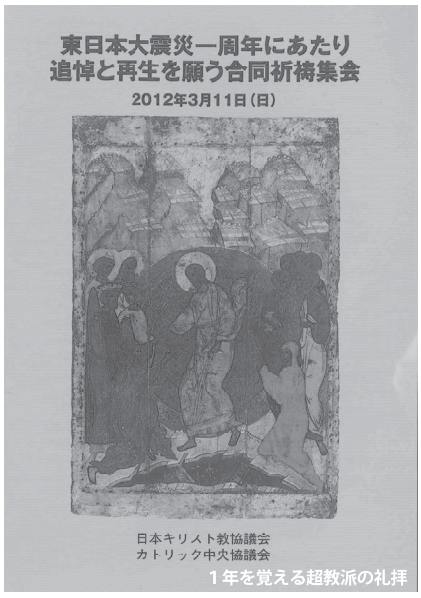
石巻ボランティアセンター

「共に泣いた恵み」

仙台教会　長島慎二

20年前に息子を亡くした際、深い慰めとなってくださった方のひとりは近くの店の総菜コーナー担当の婦人でした。顔見知りではあっても名前も知らない方でしたが、わたしの話を聞いて静かに流した涙は真実でした。その方もお子様を亡くされたことを知りました。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」（日本聖書協会『新共同訳 新約聖書』ローマの信徒への手紙十二章十五節）という聖句は律法ではなく苦難を体験した者が持つ共感であり神の恵みです。その意味で、想像を絶する大震災を経て、直接的な被災者をはじめ、日本中の人々、世界中の多くの人が其々の人生の体験をも背景として互いに共感し、泣き、喜んだのです。

大震災直後の1ヶ月間は余震が続き、日常生活にも困窮しました。被災地の中でも仙台は流通や交通が長く滞った都市でした。ガソリンが欠乏し新幹線も開通していない中で、3月23日から24日にかけて、安井、小泉、立野、杉本牧師が仙台に救援物資を運び入れました。続いて近畿福音ルーテル教会より末岡、杉岡、岨ノ下牧師が、また渡邉議長、青田本部長、松木牧師、マタイ氏が来仙し仙台教会を拠点とした救援活動が本格的に始まりました。その後、1年を通して伊藤文雄牧師、立野泰博牧師が救援派遣牧師として救援活動の中心的役割を果たし、スタッフの佐藤文敬氏、遠藤優子氏を始め300人近いボランティアが仙台教会内に設置された「ルーテルとなりびと」を拠点として活動しました。深く感謝します。



ボランティア総人数（2011年4月～2012年1月）

ルーテル教会救援が直接、石巻市の社会福祉協議会および宮城県内に入っている支援団体からの要請で派遣したボランティア人数です。

合計　374人（のべ人数）

＜教会＞
JELC　142（うち牧師・宣教師延べ31）
（教区別内訳）北海道　2／東　106／東海　6／西　12／九州　7／神学生　9
KELC　18（うち牧師7）／NRK　24（うち牧師3）
WJELC　51（うち牧師・宣教師・伝道師26）

＜JELC関係学校・施設＞
ルーテル学院　26（うち牧師1）／ディアコニア　2／るうてるホーム　1／東京老人ホーム　4／本郷学生センター　1／ルーテル学院高校　5

＜その他＞
他教会　11／海外教会　15（台湾12/オーストリア2/ELCA1）横浜英和小学校　5／香蘭女学校　36
一般（スタッフ紹介、教会員紹介含む）　33

感謝とお礼

東日本大震災と十三浜の今

宮城県漁業協同組合北上町十三浜支所
運営委員長　佐藤清吾


佐藤清吾氏

あの忌まわしい大津波から10ヶ月、石巻市北上町十三浜は厳しい寒さの中で暖かい春の巡りを待っています。

膨大な国家予算を使うも地震予知は無く、揚句には津波予想高は実際の3分の1にもならない予報が、これほどの人的被害を拡大させたとしか言いようがない。あの日の揺れの大きさと長さは尋常でなく、大きな津波は誰もが予想でき、その備えの避難も当然それに準じたレベルでの退避中に流れたラジオでは岩手、福島は3メートル、宮城6メートルである。だったら15メートルなら充分凌げる高さと考えたとして不思議ではなく、沿岸域の人々は殆どその判断に従ったのが、これほどの犠牲者数の最大の原因だと言わざるを得ない。

直後の十三浜の惨状と光景は例えようもなく、夢と現実の判断がつかず、生きた身の処し方さえ判らないありさまでした。

追波湾の北岸の十三浜は、13の集落に600余の家が建ち、2000余人が暮らしていた漁村地域だったが、その内500戸が流失全壊で370人の死者行方不明、未だ組合員の家族50人の行方が分からぬまま年を越した。漁民は2ヶ月以上、唯一人海に出る者はなく呆然自失で、支援の食糧を食べ、時を流す生活に喝を入れたのは全国からの声援でした。

388隻の船は80隻のみ、住居も作業所倉庫も総て流失、生活の手段の無い事の辛さ不自由さが身に沁みる月日を送るも、世界中の国々、日本中の支援、声援は確実に私共の再生の大きな糧となり、十三浜は此のままでは駄目だ、支援に応えて復興をせねば将来は無いと自覚、復興のスタートを切ることが出来た。

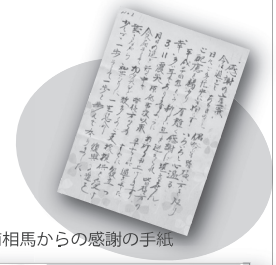
漁業資材の発注と漁民が心をひとつにした共同化が前提で、血が滲む作業の連続はやがて当初目標の災害前8割を完全に達成し、いま春の収穫を待っている。収穫したワカメが世に流通する日は近い。その為の総ての過程で必要な作業所、資金・器材の調達、そして何より一番温かい心情を寄せて頂いた全国の支援は、末永く十三浜の子々孫々に伝え語り継ぐべき話だと強く思うのである。

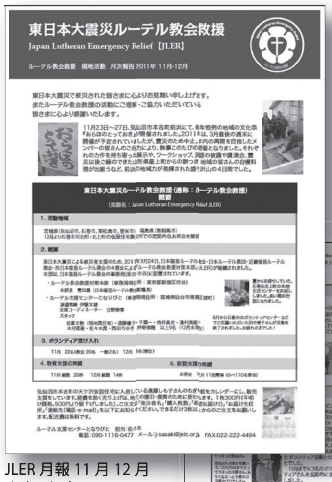
最後に、昨年の3月11日の震災直後よりルーテル教会には大変な御支援を賜り、あの寒く飢餓の季節を乗り切ることが出来ました事を改めて深く感謝申し上げます。今、ようやく復興の気力が湧き上がり、今春のワカメの刈り取りに期待を寄せて待つ日々であります。


十三浜漁業・ワカメ作業所建設中

ルーテル教会救援活動決算
(2011 年 3 月～2012 年 1 月)

収　入	実質額
海外教会・協会納入額	日本円
ELCA(アメリカ)	40,840,194
CLWR(カナダ)	4,834,042
Diakonie Katastrophenhilfe (ドイツ)	79,739,778
NCA(ノルウェー)	10,438,235
ALWS(オーストラリア)	1,082,480
その他	35,752,253
計	**172,686,982**
国内献金	
日本福音ルーテル教会	20,029,175
日本ルーテル教団	10,000,000
近畿福音ルーテ教会	6,000,000
西日本福音ルーテル教会	2,000,000
その他	309,435
計	**38,338,610**
収入合計	**211,025,592**
支　出	
物資支援活動	
食糧支援	21,242,201
食料品以外の支援物資・倉庫	29,645,303
物資支援関係　合計	**50,887,504**
復旧支援活動	
仮設支援	
石巻・気仙沼	
生活改善支援	7,824,917
精神ケア支援プログラム	3,513,401
コミュニティセンター	0
気仙沼市本吉町（前浜）	2,547,187
地域復興活動経費	2,983,614
アジア学院支援	20,668,693
計	**37,537,812**
ボランティア活動関係費	
食事代ー事務所経費ー保険ーその他	5,957,108
計	**5,957,108**
スタッフ関係費	
スタッフ人件費	15,218,640
住宅費	1,397,800
計	**16,616,440**
間接経費	
広報活動、「ニュースレター」作成	1,720,425
インターネット関係	84,375
報告書作成	0
国内外交通費	3,827,222
事務人件費・諸経費	4,236,566
計	**9,868,588**
防災	
防災教育・訓練	0
計	0
会計監査	
監査経費	0
計	0
支出合計	**120,867,452**
仮支出	
収支残高	**90,158,140**


南相馬からの感謝の手紙



JLER 月報 11 月 12 月
▲表・▶裏



ブログ　「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/





東日本大震災ルーテル教会救援の
ホームページ (開設予定)
http://jler.sakura.ne.jp/
英文ホームページ English Home Page
http://www.jler.org/

1948年10月5日 第三種郵便物認可（毎月1回15日発行）

るうてる 特集

ルーテル教会救援 JLER 活動報告

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631
■振替口座■00190-7-71734
■ウェブサイト■http://www.jelc.or.jp
■E-mail■jelc@jelc.or.jp
■発行人■鎌野吉博 m-tokuno@jelc.or.jp
■印刷人■精文堂印刷株式会社
■定価■1部40円（郵税を含む）

キリストにおける愛の奉仕の業として

本部長 青田 勇

2011年3月11日の東日本大震災の発生後、ルーテル4教団の議長の下に設置した「東日本大震災ルーテル教会救援」（JLER）の働きも1年半を過ぎましたが、神の恵みと導きにより、各個教会・施設、ルーテル4教団、それに世界の教会からの協力と支援も得て、実りある支援活動が継続できていることを心より感謝いたします。

震災と津波の被害から2年目を迎えても、愛する人を失い、いまだに将来の生活のめどが立たず、苦しみと悲しみの中にいる方々の心の痛みはいまだ癒えていないと思います。キリストの愛と奉仕に基づく、私たちのJLERの支援活動が少しでも被災地域の人々の助けとなり、将来に向けての新たなる希望の道を開くための働きとなることができるように祈ります。

JLERの救援の最終期限である2014年3月までの、当面の主な支援活動は以下の通りです。

①石巻市での仮設支援活動
②気仙沼市本吉町前浜地区のコミュニティセンター再建プロジェクト
③石巻市漁業倉庫支援プロジェクト
④仮設住宅でのボランティア派遣活動の展開
⑤被災地の物品販売支援

JLERの支援活動が現地において「キリストにおける愛の奉仕」の業に沿ったふさわしい事業活動を実現していくためにも、各個教会・諸施設のご協力と一層のお祈りを今後ともよろしくお願いいたします。

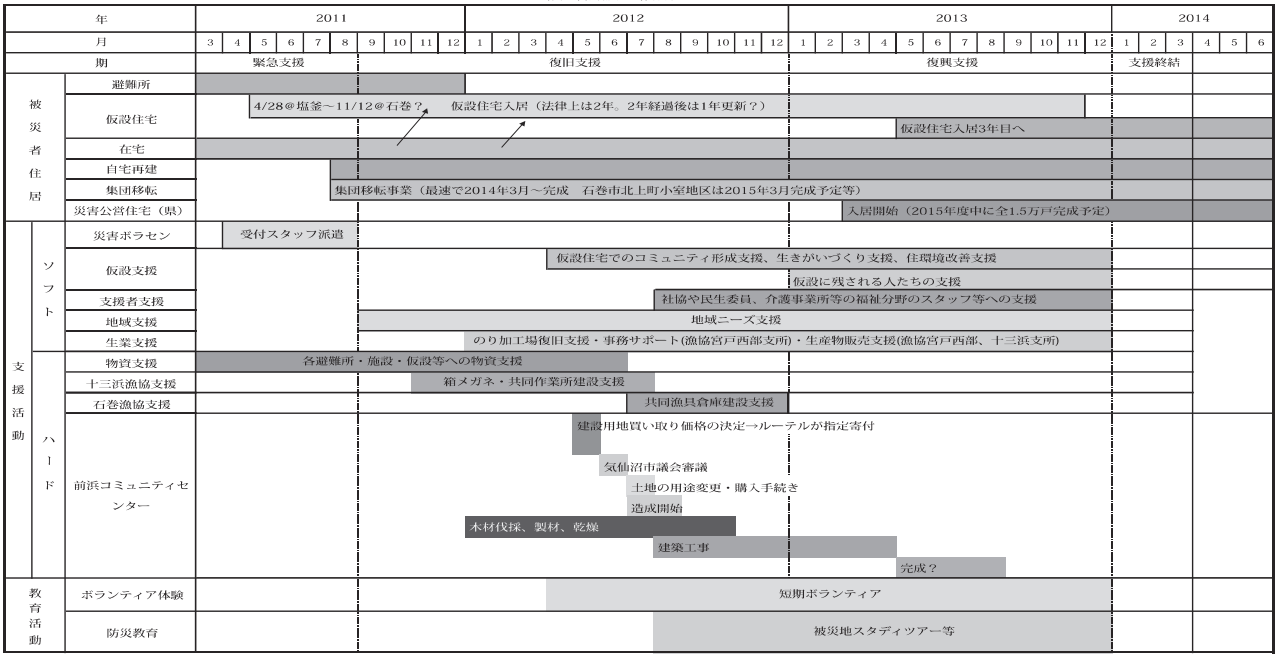

仮設住宅でのベンチ作り


前浜コミュニティセンター建設のための材木乾燥作業


石巻市仮設大森団地・夏祭り


真夏の被災地風景

ルーテル教会救援・活動スケジュール



「となりびと」として

派遣牧師　野口勝彦

震災発生から1年半が経過しました。この間、皆様のお祈りとお支えにより行われている「ルーテル教会救援」の働きも、被災された方々の「となりびと」として、仙台教会を拠点に継続しています。

現在、被災地では「三つの兆し」が見られます。その第一は「復旧から復興の兆し」です。私たちが被災地で支援活動を行っていると、様々な所で、これまでの支援への感謝の言葉を耳にします。先日も、ある漁協関係者の方から「これまでの支援へのお礼は、私たちがその支援に応えて復興することだ」と言われていました。

第二の兆しは、「地域力回復の兆し」です。私たちは現在、6ヶ所の仮設団地で支援活動を行っていますが、最近、その仮設団地の地域の方々が、震災によって引き裂かれた地域の絆の回復のための働きを始められています。私たちが、現在、支援している「吊るし雛」プロジェクトもその一つです。

そして、第三の兆しは「被災者の自立の兆し」です。多くの仮設団地では自治会が結成され、自治会の活動も活発になってきています。私たちも今夏、自治会結成記念の夏祭り支援を行いました。

このように被災地は、着実に復興への歩みを始めています。私たちルーテル教会救援も、この歩みに寄り添いながら「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」のみ言葉に従い、2014年3月の支援終結まで被災者お一人おひとりの「となりびと」として支援活動を続けていきますので、お祈りください。



前浜コミュニティセンター建設のための材木乾燥作業

現地スタッフ・レポート

佐藤文敬

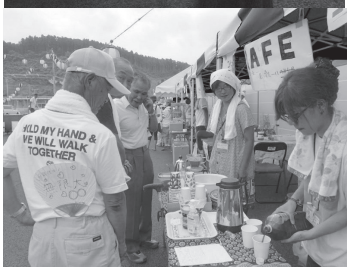
震災から1年半以上がたちました。人が暮らしていた場所から瓦礫が消え、三陸自動車道からボランティアや工事関係者が乗った車が消え、そしてテレビなどから震災のことが消え、非日常的な状況にまだあるはずなのに、ある種の馴染んだ日常になってしまっている。言い換えれば忘れられやすいものになってしまっている。最近、そういうふうに感じます。

そうした中でルーテル教会救援では、コミュニティづくりに焦点を当てた支援を続けています。具体的には、気仙沼市本吉町前浜地区では、昨年から話を進めていたコミュニティセンター再建プロジェクトが工事段階に入り、2013年4月頃の完成を目指し、9月には造成工事が行われる予定です。また石巻市の牡鹿半島等の10ヶ所の浜では、漁業者が共同で使える倉庫兼作業所の建設プロジェクトを進めています。さらには昨年から始めた石巻市北上町・河北町の仮設住宅でのサロン活動は、すっかりお馴染みとなり毎月定期的に開催し続けています。

被災者の目下の課題は、相変わらず住む場所をどうするかです。仮設生活が1年を過ぎ、人によっては自宅を再建し仮設住宅から出た人もわずかながらいます。しかし、ほとんどの人たちが次の住処をどうするかの決断を迫られ続けています。「どうしたらいいんだべねぇ」という言葉も時折聞きます。そうした人たちの声を丁寧に聴きながら、これからも必要とされる支援を続けていきたいと思っています。



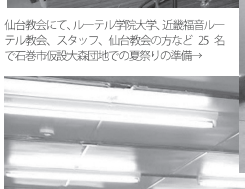
石巻市仮設大森団地での夏祭り　ボランティアも踊りの輪に



石巻市仮設大森団地での夏祭りに参加するルーテル学院大学のボランティア



←吊るし雛を作る市ヶ谷教会の青年たち



仙台教会にて、ルーテル学院大学、近畿福音ルーテル教会、スタッフ、仙台教会の方など 25 名で石巻市仮設大森団地での夏祭りの準備→



↑ルーテル学院高校ハンドベル部の皆さんが石巻市の仮設大森第三団地集会所でハンドベル・コンサートを開催

野菜供給プロジェクトのお礼

2011年6月から2012年3月まで、ほぼ毎週採れたての新鮮な野菜が南相馬市の仮設住宅や借り上げ住宅へ送り届けられました。この活動は、内部被ばくから人々を守ること、そして放射能不検出の野菜を作っているにも関わらず風評被害に直面する農家さんを守ること、これら両立を実現するものでした。JLERからのご支援なくして本プロジェクトを実施することはできませんでした。この場をお借りして、ご支援者の皆様に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2012年8月27日

みちのく応援隊　野菜供給プロジェクト担当　桑原



前浜地区コミュニティ再建支援に感謝

気仙沼市本吉総合支所
総務企画課長　齋藤英晴

２０１２年７月20日に東日本大震災ルーテル教会救援様から本市に対しまして、本吉町前浜地域集会施設用地取得費用をご寄附していただきました。

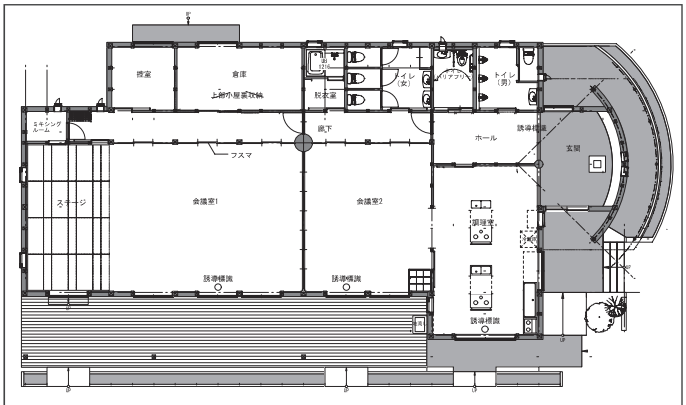
また、これまでも被災地支援として様々なご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

東日本大震災で本市が受けた被害は甚大なものでしたが、世界中の方々からのご支援により、一歩ずつ復興に向け歩み始めたところです。

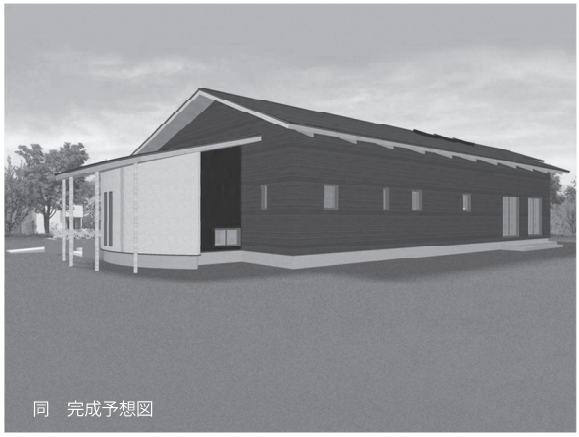
本吉町前浜地域の集会施設につきましては、長年、コミュニティ活動の拠点として地域住民に利用されてきた施設で、津波により流失し、コミュニティまでも失われかけていたところですが、東日本大震災ルーテル教会救援様のご支援により、再建のめどが立ったところです。

地元の自治会である「前浜地域振興会」が早期の再建を目指し主体的に事業を行っており、市といたしましても、一日も早い復興と地域コミュニティの推進に向け取り組んでまいりますので、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。



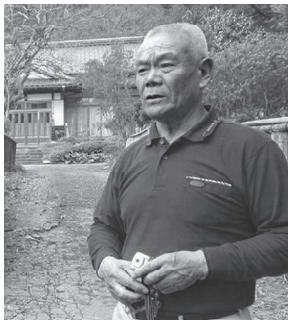


前浜コミュニティセンター平面図


同　完成予想図

助ける神はあった

宮城県漁協石巻市北上町十三浜支所運営委員会
委員長　佐藤清吾



十三浜地区の仮設作業場の建設は、昨年の東日本大震災で喪失した加工場、倉庫の代替施設として、当地域の総ての漁家が必要不可欠な建物として求められていますが、国・県がそこまで手が回らずに、悉く後回しにされていた分野でありました。

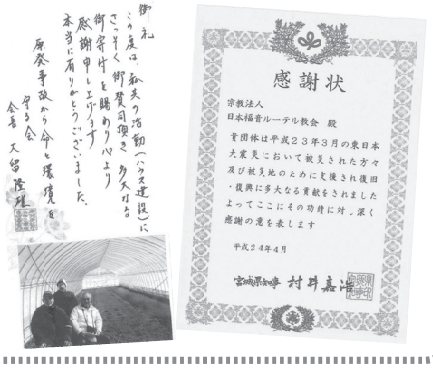
昨年は水産物の水揚げが全く無い事で、漁家の焦りは極限であり、翌年は意気込みで、漁場のガレキ撤去から施設の復興を急ぎましたが、収穫物の加工保管の場が無くては、ブランドを自認する十三浜若布の評価を維持する事は無理な話であります。


石巻漁協共同作業所・倉庫

そこに地獄に仏の如く、当地にその施設の設置の申し入れをして頂いたのがパルシックさんやルーテル教会さんであり、中の備品を支援下さった生活クラブさんでした。

私たちは此の深く大きな大恩に報いるべき物は何も有りませんが、此の支援の人々の温かい心を、是からの人生の師として、喪失した地域コミュニティの復活と、地域経済の担い手としての自覚を忘れる事が無い様に、心して生きて行かねばと日々思いながら暮らして居ります。

いただいた感謝のことば



ドイツ福音教会（EKD）からの海外支援

LWFの世界奉仕部のシュロット氏の来日視察（6月7日から13日）と元信徒宣教師グリーテベック氏の協力もあり、6月29日付で前浜コミュニティセンター建設と石巻漁業支援（共同作業所・倉庫）の支援金の申請書をプロジェクト計画書と共にドイツ福音教会（EKD）の災害支援奉仕部（DKH,Diakonie Katastrophenhilfe）に申請、7月末に受理され、プロジェクト支援の契約書も8月5日に交わしました。なお、EKD-DKHは震災の発生以来、LWFを通してJLERに支援金を送金してくれている団体です。

ボランティアレポート　津田沼教会

今年の6月にボランティアに参加してくださった日本福音ルーテル津田沼教会の7名の方々の声。

■（仙台市若林区）荒浜地区、名取市閖上地区訪問

この地区の建物は、ほぼ全壊。地盤沈下もあり、前日の台風の雨が溜まっており、荒涼とした風景でした。

■石巻市大川小学校跡地、石巻、女川、東松島付近訪問

多くの子供が犠牲になった大川小学校の跡地には、破壊された校舎がひっそりとたたずみ、津波に流された子供たちのことを考えると胸が痛みました。

■お茶っこサロン参加

（午前）参加者女性3名＋男性1名。参加したある女性は大震災後の津波の話を堰を切ったように話し始められました。外部の他人だからこそ話し合い易かった面があったのかなと思いました。傾聴のボランティアの役目は大きいと感じました。

（午後）参加者女性12名。夏見母子ホームから託された千羽鶴でできたタペストリーを持参しました。参加している方々は非常に喜んでおられました。今後、ボランティアの人数は減ると思われますが、一方、被災者の方々には傾聴等精神的なケアの重要性が増すものと思われます。





JLER　会計（2011年３月～2012年８月）

収　入	
海外教会・協会献金	**日本円**
ELCA（アメリカ）	10,958,489
CLWR（カナダ）	4,083,000
Diakonie Katastrophenhilfe（ドイツ）	39,268,558
NCA（ノルウェー）	10,438,235
ALWS（オーストラリア）	1,461,530
ブラウンシュバイク教区（ドイツ）	14,461,203
その他	36,518,085
計	**147,189,100**
国内献金	
日本福音ルーテル教会	35,830,737
日本ルーテル教団	10,000,000
近畿福音ルーテル教会	7,000,000
西日本福音ルーテル教会	2,000,000
その他	639,461
計	**55,479,198**
収入合計	**202,659,298**
支　出	
食糧支援	22,886,745
食料品以外の援助物資・倉庫	31,410,162
物資支援関係 合計	**4,296,907**
石巻・気仙沼	
生活改善支援	7,867,917
精神的ケア支援プログラム	3,847,709
漁業支援	8,571,500
気仙沼（前浜）支援	2,764,184
前浜コミュニティセンター建設	10,581,800
地域復興活動経費	4,792,699
アジア学院支援	20,668,693
計	**59,094,502**
ボランティア活動関係費	
食事代、事務所経費、保険、その他	9,730,729
計	**9,730,729**
スタッフ関係費	
スタッフ人件費	23,313,071
住宅費	3,359,204
計	**26,672,275**
広報活動、「ニュースレター」作成	1,939,566
インターネット関係	150,150
報告書作成	0
国内外交通費	5,430,807
事務人件費・諸経費	5,765,088
計	**13,285,611**
防災教育・訓練	93,785
計	**93,785**
会計監査	228,480
計	**228,480**
支出合計	**163,402,289**
収支残高	**39,257,009**

JLERの主な支援内容（2011年3月から2012年7月）

no.	開始日	支援対象	支援内容	支援の概要	支援額
1	2011/4/25	医療法人くさの実会　光が丘保養園	職員用レンタカーの支援	津波で職員の車50台と施設の車を3台失った光が丘保養園に通勤用レンタカーを支援。	200万円
2	2011/4/28	旧荒砥小学校避難所ほか	全自動洗濯機・衣類乾燥機を支援	福島県内や宮城県内の複数の避難所に、共同利用する洗濯機・乾燥機を各20台ずつ支援。	150万円
3	2011/4/28～2012/6/30	南相馬　みちのく応援隊	2011年4月から2012年3月まで、みちのく応援隊を介して放射能不検出の野菜を支援	みちのく応援隊からの依頼でスーパー等が閉鎖していた原発20～30km圏内に位置する南相馬市民へ野菜等の食料を支援。	600万円
4	2011/5/6	NPO法人国際ボランティアセンター山形（ＩＶＹ）	自立支援プロジェクト	被災した人たちを雇用し、瓦礫を片づけるCash For Work事業のための資金を事業主体のIVYからの依頼で支援。	200万円
5	2011/5/13	アジア学院へ支援	建替支援、地盤調査等費用の支援	地震で被害を受けたアジア学院の再建支援。	2,067万円
6	2011/5/20	日本社会福祉士会	石巻市渡波・稲井地域包括支援センターにレンタカー3台を4カ月間支援	被災地に派遣していた社会福祉士の移動手段として、レンタカー3台を4ヶ月間支援。	106万円
7	2011/5/25	老人保健施設リバーサイド春圃	自動車購入支援（3台）	59名の死亡者が出た老人保健施設リバーサイド春圃に自動車購入費として資金を支援。	100万円
8	2011/6/20	ルーテル学院大学の活動支援	「震災後のセルフケアカード」(5,000枚)配布支援	精神的ケアを目的としたカードの配布支援。	137万円
9	2011/8/16	気仙沼市本吉町前浜地区自治会	プレハブ工事移転費・設備・工事代支援	避難所の対策本部の事務所、ボランティアの宿泊所としてプレハブ支援。	254万円
10	2011/8/30	ルーテル学院大学の活動支援	ボランティスタッフのための研修会開催支援	子供のグリーフ・サポートグループのボランティアスタッフ養成研修に係る経費を支援。	27万円
11	2011.8～11月	気仙沼市　天ヶ沢仮設住宅	収納棚設置支援	仮設住宅37戸に収納用棚を設置。	71万円
12	2011/11/14	石巻市北上町十三浜の漁業者	箱メガネ100個相当の杉板支援	アワビ漁を再開するため箱メガネの材料を漁協の運営委員長からの依頼で支援。	30万円
13	2011/11/28	宮城県漁協宮戸西部支所	船底洗浄用にケルヒャー高圧洗浄機を支援	津波のヘドロ等で汚れた船を洗浄するための洗浄機を漁協支所からの依頼で支援。	46万円
14	2011/11/28	気仙沼市本吉町前浜地域	FRP資材（ガラスクロス・マット等）船修理プロジェクト	船の早期復旧のため津波で壊れた20隻相当ぶんの修理材料を支援。	49万円
15	2011/12/5	"石巻市北上町小学女子バスケチーム"	ゲームシャツ・パンツ・マーク代・バスケットボールを支援	子どもたち及び親からの依頼で試合用のユニフォームやボール等を支援。被災によりユニフォーム代を工面することが難しくなっていたため、支援依頼があった。	41万円
16	2011/12/29	気仙沼本吉町前浜地区自治会	椿油搾機支援	津波で流失した椿油絞り機を支援。	97万円
17	2012/3/28	"南相馬市　原発事故から命と環境を守る会"	ビニールハウス建設支援	原発事故で避難している仮設住宅の高齢者による野菜栽培を目的としたビニールハウス建設支援。	80万円
18	2012/3/28	"石巻市北上町親の会"	北上小・中学生ディズニーランドツアー（4/13～15）開催支援	北上町内で被災した小・中学生40～80人をディズニーランドに連れて行く際の交通費の支援。	10万円
19	2012/4/18	宮城県漁協十三浜支所	水産物保管施設（共同利用施設）の再建支援（NPO法人PARCICとの共同事業）	漁業を再開するための保管施設（テント倉庫）6棟分の建設費用のうち漁業者負担分を支援。	293万円
20	2012/7/13	宮城県漁協十三浜支所	水産物保管施設（共同利用施設）再建支援	漁業を再開するための大型保管施設の建設費用のうち漁業者負担分を支援。	564万円
21	2012/7/30	気仙沼市役所・同市本吉町前浜地域	本吉町前浜地域集会施設用地購入費支援	津波で喪失された前浜地域コミュニティーセンター施設再建支援。	995万円

●JLER ルーテル教会救援対策本部　住所：162-0842　　東京都新宿区市谷砂土原町 1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
●ルーテル支援センターとなりびと　住所：仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内 電話番号：090-1116-0595 E-MAIL : f-sato@jelc.or.jp
●ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org
●となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/
●となりびとツイッター：@jler_tonaribito

JLER(ルーテル教会救援)対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

今月号よりお届けするレポート、初回の今月は、私と三浦スタッフから現地報告をいたします。

現在、仙台教会に拠点を置く「ルーテル支援センターとなりびと」は、パートも含めスタッフ7名体制で、北は宮城県気仙沼市から南は福島県南相馬市までを活動地域として、漁協・仮設・コミュニティーセンター建設支援など幅広い支援活動を展開しています。震災から1年4ケ月が経過し、現地では被災者自らが立ち上がり、本格的な復旧・復興活動に携わり始められています。

「となりびと」にも地元のボランティア団体からの支援協力の申し出をいただいています。また、先日、石巻市内の被災された方の敷地の一部をお借りして、やはり被災された方が中心となってお花畑にするプロジェクトを地元のNPOと共に行いました。

JLERが目指すのは、最終的に私たちの支援が現地で不必要になることです。そのために、今後も現地の人たちのための自立支援活動を展開していきますので、どうぞ引き続きお支えとお祈りをお願いいたします。

「食材王国宮城より」

三浦孝子

私は今年4月より「となりびと」スタッフとして活動をしております。宮城県塩釜市に住んでおり、郷土愛と、支援にご恩返しをする気持ちで参加いたしました。

宮城県は、豊富な食材を産出していて「食材王国宮城」と呼ばれています。沿岸部では、カツオ、サンマ、マグロ、ワカメ、カキ、ふかひれ、ホヤなどの特産品があります。仮設住宅の皆様は、このような故郷を誇りに思いながら力強く暮らしていて、励まされることが沢山あります。

集会所では「お茶っこ会」という、ボランティアや外国の方も参加される交流活動をしています。交流では「絆」を大切にしています。お年寄りから子どもまで、力をあわせて震災を生きのび、多くの方々の支援によって生きる力をいただいていることに感謝します。

仮設住宅の皆様が、やがて石巻市の木である黒松のように、大地にしっかりと根をおろし、太陽に向って伸びていくことを願っています。

るうてる2012年8月号より

JLER(ルーテル教会救援)対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

今回はスタッフ2名のレポートをお届けします。

震災からもうすぐ1年半。昨年の今頃は仮設住宅への入居が進み、避難所が徐々に解散していく時期でした。それから1年たった今の被災地の話題は、次の家をどうするかです。未だ先の見通しが立たない人たちがほとんどと言っていいでしょう。

そうした中でルーテルとなりびとの支援活動は、仮設住宅支援とコミュニティセンター再建支援が大きな2本柱となっています。コミュニティセンター再建支援は気仙沼市本吉町前浜地区の人たちと昨年から話を進めており、今年7月には用地を取得、いよいよ建設作業に入るところです。

このコミュニティセンター再建支援は、ただ建物をたてるのではなく、その設計の段階から地域の人たちが口も手も出しながら進めてきました。みんなでコミュニティセンターを作り上げていくことで、もう一度コミュニティの絆が強くなればと願っています。

チーフ・スタッフ

佐藤文敬

7月末時点での被災地は、これから各所で開かれる「祭り」の話題が多く、各支援団体は祭りの調整と準備で忙しくなってきています。仮設住宅でも同様にお祭りが企画され、各自治会長さんが仕事をしながら、支援団体と祭りの調整や準備をしています。

現時点では、ルーテル教会救援も8月25日に予定されている、大森仮設住宅における夏祭りに出店する予定で、その準備を着々と進めている毎日です。9月頃には、夏祭りも一段落し、各支援団体は新たな展開を模索している頃です。

仮設住宅の毎日は日々変化し、自治会が設立し住民のコミュニティが形成される一方で、これからの長い仮設生活に不安を深める方も多いと思います。長期化する避難生活が、少しでも恵み豊かなものとなるように、各支援団体は知恵を絞って努力しています。

スタッフ　抱井昌史

JLERブログ
「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/



被災地である石巻市では、治水で石巻の街を救った川村孫兵衛重吉扇に対する報恩感謝の祭りとしてはじめられた「川開き祭り」が今年は、鎮魂と復興への思いを込めて、7月31日、8月1日の2日間、開催されました。「となりびと」ではそのお祭りのパレードに参加する石巻身体障害者「歩む会」の車いすダンスの支援を行いました。
左端が佐藤スタッフ、後ろの右から二番目が抱井スタッフ

るうてる2012年9月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

今年の夏は多くの方が、「となりびと」で貴重な体験をされました。今月号では、その中からお二人の方の体験をご紹介します。

「ボランティア体験を通して」

聖望学園高等学校2年　江口　夏子



→お茶っこサロンでのプログラム風景（地元の方言を使用して仮設の方と合唱）

今回となりびとさんにお世話になって、お茶っこサロンや語り部のお話や被災地を回らさせてもらって、今まで感じたことのない大切な思いを経験させていただくことが出来て本当に感謝しています。私はテレビや新聞を通して被災地の現状を見てきましたが、実際に目の当たりにすると、頭が真っ白になって言葉が出ないというのはこういうことなんだと思いました。この体験を通してもっと多くの人に被災地や被災者の現状をしっかり心に留めてほしいと思いました。だから私は今自分にできると思うこと、現状を見て感じたことを友達や家族に話すことから始めようと思いました。そしてみんなにも私が感じたことを少しでも感じてもらえたらと思いました。4日間となりびとさんにお世話になって、その場の状況に素早く対応できる判断力の優れる人間になりたいという目標を持つことができました。この体験ができたこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

「祈りが与えられて」

大岡山教会員　大岡山幼稚園教諭　熊谷　梓

お茶っこサロンで、ある方が、震災当日の出来事や亡くなられた旦那様と一緒に逝きたかったと胸の内を話してくださいました。被災された方々が失ったものは、家や仕事、家族だけでなく生きる意味さえ失われてしまったのだと感じました。辛さを一人で抱えて生きる現実を仮設住宅の方々との出会いを通して知り、そのような環境の中で生活しておられるのに、仮設住宅の方々は「ありがとう」「御陰さまで」「支えられています」と感謝を言葉にされ、私たちの手伝いを進んでしてくださる姿がとても心に残りました。語り部の方がお話してくださった「人間は屋根や食料があっても生きられるものではない。人と人とのつながりの中で初めて生きることができる」という言葉が今も心に響いています。自分にとって、被災地で働かれている方がいる事、神様から祈る事を与えられていることを心強く感じます。これからも被災地に思いを寄せながら祈り続けていきたいと思います。



←熊谷さんと聖望高校生が横浜英和小学校が用意したリボンレイを仮設の皆さんに配布のために仮設集会所で封入作業をしている様子

JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2012年10月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

今年の8月から始まった「つるしびな」プロジェクトについて、現地の方の声をお届けします。

河北ボランティア友の会　高橋　よしみ

言葉では言い表せない程の災害、不安な日々、身内の安否がわからない中、河北ボランティア友の会の会員は、炊き出しなどの活動に追われました。それだけに全国から駆け付けて下さったボランティアの皆さんの献身的な働きには頭が下がる思いでした。

ボランティアの皆さんと一緒に活動する中で「私達はいつか地元に帰らなければなりません。その時、地域の人達は本当の意味で互いに助け合っていかなければならないんですよ」と話して下さった方がおみえでした。こんな精神的にボロボロの私達に何ができるのだろう。そう、ずっと考え続けてきました。

そんな時、仮設団地での手芸依頼があり、その集会所にお邪魔しました。そして、そこで、『つるしびな』も作ってみたいけど、材料がない」と遠慮気味な相談を受けたのです。

私達は布集めなど早速行動に移したのですが、三か所の仮設団地とボランティア会員全員への準備は思っていた以上の費用がかかり、行き詰ってしまいました。

そんな時、相談にのっていただき、手を差し伸べて下さったのがルーテル教会救援の皆様でした。経費の援助、会場の準備、おやつの手配まで、寡黙に、そして、温かく応援して下さりました。

おかげさまで少しずつ「つるしびな」が出来つつあります。「つるしびな」の素朴で優美なその姿に、供養と癒しを感じながら前へ進むきっかけになれたらと望みます。

ご協力のお願い

「つるしびな作製」ボランティア

内容　仮設団地・地域の方と一緒に「つるしびな」を作製していただきます。

条件　裁縫等ができる方であれば、性別、年齢を問いません。

予定日　11月8日・15日、12月6日・13日・20日（1月以降は未定です）

定員　各日若干名

「つるしびな」材料

「つるしびな」の材料を次の通り募集します。

①綿②江戸組ひも（細めの糸は多く必要です）③洋裁用の接着剤付きの薄い芯地④布、ちりめん（白、ピンク、薄橙、緑、黄、青、柄物）⑤フクロウの目（ぬいぐるみなどで使われる直径8ミリのもの）

上記にご協力いただける方は、野口までメールでお問い合わせください。

(k-noguchi@jelc.or.jp)





JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2012年11月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

待降節に入りました。今月号では、クリスマスプレゼントやお正月のお土産としてもお使いいただける支援物品を生産者の言葉と共にご紹介します。

『KEPPAPPE』（けっぱっぺ）

畠山　友美子

2011年3月11日の2週間前、6年間いた東京から故郷気仙沼へもどったところでした。自宅はあと3mというところで浸水は逃れ被害は少なくすみましたが、両親の仕事関係先が被災し、収入も大きく減りました。もともと地域の直売所で手芸品や木工品を販売し、他に海藻や山菜等も販売していましたが、直売所は津波で流失（現在は仮設で営業中）。

そうした中、何かしようと動き出したのがきっかけで『KEPPAPPE』（けっぱっぺ）という手づくりグループを始めました。KEPPAPPEとしてはクリスマスカードからはじまり、地域の椿を使ったブローチやバック等商品を増やして販売もしています。

5人程度の少人数ですが、ルーテル教会救援さんをはじめ多くの方の繋がりで支援して頂いています。被災地ではいつまでも支援をして頂くわけにはいかないと、前向きな人たちがたくさんいます。多くの問題に向き合いながら復興したと言えるようみんなでがんばっていきたいと思います。

支援物品担当スタッフ

佐々木　潤

支援物品をご購入頂いた皆様に、深くお礼申し上げます。物品を製作されている方々から、感謝と喜びの声を聞く事が出来ました。また、物品作成の意欲が高まり、新たな物品が生まれるきっかけにも繋がっています。今後も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。今回は、ご存知の物品や新たな物品も含めて、ご紹介させて頂きます。詳しくは担当者（TEL090-1116-0477 e-mail: jssasak@elc.or.jp）までお問い合わせください。

○石巻身体障害者「歩む会」
・幸せくるみ（ハート型の天然姫くるみのストラップ）・和紙で作った箸置
○石巻市北上町十三浜「西條金一さんグループの海産物」
・塩蔵こんぶ・塩蔵わかめ・とろろ昆布
○石巻市・北上町の手しごとグループ「にっこり手しごと村」
・ミサンガ（トンボ玉使用）・リサイクルサリーミサンガ（バングラデシュ産サリーのリサイクル品）・にっこりブレスレットほか
○気仙沼の女性グループ「KEPPAPPE」
・ポストカード・クリスマスカード・お針子セット・大漁歌い込み人形ほか



JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

【お知らせ】
となりびとのブログのデザインを変更しました。ご覧いただけない方はブラウザーのバージョンアップをお願いします。

るうてる2012年12月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

被災地も震災後二度目の新年を迎えました。皆様のお支えとお祈りによりルーテル教会救援の支援活動も今年、三年目を迎えます。今年も引き続きご支援いただければ幸いです。

さて、今月号では昨年の被災地でのクリスマス風景を二つご紹介します。

『こころに沁みるクリスマス・ハープコンサート』

昨年に引き続き、ルーテル学院大学と日本ルーテル教団・Lutheran Church Missouri Synodのご協力により石巻市の相川保育所、ディサービスセンターはまぎく、仮設追波川多目的団地集会所でレベッカ・フラナリーさんによるクリスマス・ハープコンサートが開催されました。（写真）

コンサートはルーテル学院の学生の方によるアイスブレークではじまり、レベッカさんの素敵なハープ演奏、武蔵野教会員の方の指導による「ふるさと」などの合唱。そして、最後は、ピーター・リースさん扮するサンタクロースからのプレゼントで思い出深いクリスマスのひと時を終えました。

仮設団地のコンサートは、被災児支援の地元NPO子育て支援アシスト・エフワンさんとの共催により開催しました。



『こころのこもったクリスマスプレゼント！』

現在、「となりびと」では、石巻市内6ヶ所（約1000世帯2300人）の仮設団地でお茶っこサロン活動を展開しています。昨年の12月には、そのサロンに参加されている方々に北海道特別教区女性の会からのクリスマカードと雪ケ谷教会からのお菓子袋、そして、東教区女性会の方のクリスマスオーナメントをクリスマプレゼントとして差し上げました。生まれてはじめてクリスマスカードを受け取った方もおられ、どの方も喜んでクリスマスカードとプレゼントを受け取ってくださいました。



JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年１月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

「となりびと」では震災発生時からこれまで、様々な救援・支援プロジェクトを展開してきました。今月号では、その中で現在、進行中の二つのプロジェクトの経過報告をいたします。

「前浜コミニュティセンター再建プロジェクト」
チーフスタッフ
佐藤文敬

気仙沼市本吉町前浜地区で、2011年7月から進めてきたコミュニティセンター再建支援が、ようやく本体工事にまでたどり着きました。

2011年10月に地元の人たちによる建設委員会が立ち上がり、これまで20回以上の話し合いを重ねてきました。その過程では、気仙沼市役所とも頻繁に話し合い、気仙沼市長に協力をお願いすることもありました。また、JLER以外にもシャンティ国際ボランティア会や天然住宅といった団体も支援を表明し、その他にも多くの人たちの協力を得て、ここまで進んできました。

2012年7月には建設用地を取得。9月から始まった造成工事は11月に完了し、年末の12月19日から本体工事が始まりました。

完成目標は2013年7月。「コンクリートの確保が難しい」、「職人さんが足りない」など様々な問題をクリアしながらの建設工事になります。どうか無事に建設工事が進むよう、みなさんも一緒にお祈り頂ければと思います。



『つるしびな』プロジェクト」
派遣牧師
野口勝彦

仮設・地域支援として昨年8月より始まった「つるしびな」プロジェクトも震災から二年目に当たる来月11日の完成を目指し、最終段階に入っています。

このプロジェクトは、震災によって引き裂かれた地域の絆と仮設団地に住む方々の生きがいづくりを目的として、石巻市内、三ケ所の仮設団地集会所でそれぞれ月1回、地元ボランティア団体の指導により行われています。毎回20名前後の方が午前10時30分から午後3時30分まで、全国から送っていただいた銘菓をいただきながら「つるしびな」づくりに励んでいます。

先日、ある方が、「『つるしびな』づくりがあって本当に良かった。狭い仮設で一日中、やることもなくずっと籠っていたら」と感謝の言葉を述べられていました。また、先月、地元の社会福祉協議会の機関紙にもこの活動が紹介されるなど地域に密着した活動となっています。これまでの皆様のお支えとお祈りにあらためて感謝いたします。尚、完成した「つるしびな」の展示会を行う予定です。詳細が決まりましたらご案内いたします。

【予定】「となりびと」では今年、防災・減災教育の一環として、被災地訪問プログラムを予定しています。どなでもご参加いただけますので、ご予定ください。詳細は後日ご案内します。

JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年２月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

まもなく、被災地は震災から二年を迎えます。「となりびと」では、今月より、これまでの支援活動に加え、近い将来、発生する確率の高い、南海トラフ巨大地震への備えとしての防災・減災教育活動を開始します。今月号では、今回の震災を体験し、「お花畑・花壇プロジェクト」として「となりびと」が支援を続けている石巻市のNPO団体、スワン国際協力の会代表の千葉直美氏から、震災に対する心構えと教訓について投稿していただきました。尚、同氏のパートナーは、震災後から現在まで、「となりとびと」現地スタッフとして支援活動をされている千葉一氏です。



左が千葉直美さん



「お花畑プロジェクト

震災発生に対する心構えや教訓～女性の視点から

スワン国際協力の会代表
千葉直美

2011年3月11日、私の住む宮城県石巻市を東日本大震災が襲いました。

あまりにも突然で、自分がほとんど防災準備や心構えがなかったことを反省しています。

被災後、食料や水といった生活必需品の確保は、もちろんですが、女性達の多くは、どうやって家族に、栄養のバランスがとれた温かい食事を提供できるかに心をくだいていました。電気やガスが止まり、卓上カセットコンロや、昔ながらの石油ストーブで料理したり、または庭や広場で火を焚いて共同で炊き出しをしていました。オール電化で便利な中、このように調理法の選択肢があった方がいいかもしれません。三月という寒い時期、一杯の温かいお茶がどんなに嬉しかったか。

台所が女性にとって、非常に大切な場所であることは、この震災であらためて実感しました。私の出会った女性たちは、一階にあった台所が破壊され調理器具を失っていました。ルーテル教会救援が提供してくださった、まな板と包丁は、とても喜ばれました。与えられたものだけを、そのまま口に入れるだけでなく、自ら「調理する」という行為が、被災当時、生きる証であり、励みになった気がします。

生け花、茶席、花壇作り、キャンドル作り、コンサートといった女性の心の癒しの時間にも、ルーテル教会救援のご支援をいただき、ここに感謝申し上げます。

【スワン国際協力の会ブログ】
http://ameblo.jp/swan20110311/

JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年３月号より

JLER(ルーテル教会救援)対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

震災によって引き裂かれた被災地の方々の絆の再生を目標に、震災二年にあたる今年3月11日完成を目指して進めてきた「つるしびな」プロジェクトも、予定通り終了しました。今月号では、このプロジェクトでの中心的役割を果たしました地元ボランティア団体代表の方から感謝と喜びの声をいただきましたのでご紹介します。(このプロジェクトは、地元の石巻日日新聞、石巻市社会福祉協議会機関紙等で紹介されました。)

また、「となりびと」にも「つるしびな」を一組いただきましたので、今後、全国での巡回展示会等も予定していますのでご期待ください。

ルーテル教会の皆様、ありがとうございました。

河北ボランティア友の会
今野　淑子

昨年8月より始めました「つるしびな」作りも、今年2月で無事終了することができました。これもひとえにルーテル教会の皆様の温かいご支援があったからこそできたことです。ご丁寧に励ましのお手紙まで添えていただき、全国から沢山の材料も提供していただきました。

また、遠方より多くの方々が「つるしびな」作りの会場にまで応援に駆けつけて下さいました。様々な支援をいただきボランティア会員一同、深く感謝申し上げます。

最初の1ケ月はとても不安でしたが、日が経つにつれ、「つるしびな」も一つ二つと増え、仮設団地の皆様も不安げな顔から喜びの笑顔になり、集会所に通うことも楽しくなってきたようです。仮設団地の皆様が作り上げた「つるしびな」は1500ぐらいになり、いつも、とても良い雰囲気で楽しい会でした。

今年1月より少しずつ飾り付けに入り、2月に完成しました。3月1日に完成感謝交流会が開かれました。(写真)仮設団地、ルーテル教会、ボランティア会員の方々が50名近く集まり、完成した「つるしびな」を前に、皆様、感激一杯の様子でした。殆どの方が最後まで頑張ってやれたことがとても嬉しかったと涙を流しながら言われていました。

3月2日、3日には、多くの方々に立派に出来上がった「つるしびな」を見て頂こうと、ビックバンと言う大きな会場で展示会を開催しました。そして、展示会翌日、完成しました「つるしびな」を各集会所に飾りました。この「つるしびな」は一針一針思いがこもった「つるしびな」だと思います。「つるしびな」を皆さんと共に作ったことが大きな絆となりました。仮設団地の方々の心がこの「つるしびな」によって、少しでも癒されますようお祈りしています。

ルーテル教会の皆様、長い間、本当にありがとうございました。



JLERブログ
「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年4月号より

JLER(ルーテル教会救援)対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

「となりびと」では、近い将来、発生が予測されている南海トラフ巨大地震等へ対応するため、今回の震災救援・支援活動を生かした防災・減災教育プログラムを行っています。3月には、ルーテル学院大学と聖望学園高校ハイスクールYMCA部の学生の皆さんが、このプログラムを体験されました。(プログラムの様子は「となりびとブログ」でご覧下さい)

今月号では今回の震災を体験し、ルーテル教会救援等への支援先情報の提供や、震災支援のボランティア・コーディネート活動もされている地元の方から、災害発生に対する備えについてアドバイスをいただきましたのでご紹介します。



「災害発生に対する備え」

齋藤みや子
(石巻ボランティア・コーディネーター、日本キリスト教団石巻栄光教会員)

我家は、石巻市中央の北上川が太平洋に注ぐ河口から3km上流の所にあります。震災のとき町内は約2mの津波に襲われました。震災当日、大津波警報が出されて近くの避難所に避難するよう声がけされましたが96歳の父は歩けず、道路向かいの妹一家には、寝たきりの母親がいるので、妹一家の二階に私たち家族は避難しました。幸い避難先は倒壊などの大きな被害はなく無事でしたがこの判断が適切であったのか考えさせられました。

あの震災を体験し今後の災害に対する備えとして次のように考えています。

【1、避難場所の確認】

町内には小高い所に避難場所が指定されています。災害はいつも自宅にいるときに起こるとは限らないのでいざ災害が発生したら自分のいる場所からどこに避難すべきか、いつも念頭において生活しています。

【2、防災バックの備え】

避難時に携帯する物とし、懐中電灯・手袋・携帯用の飲料水・乾パンなどをいれて用意しています。

【3、近所の要支援者への避難体制づくり】

「津波てんでんこ」といってもそれができない高齢者や体の不自由な人たちを町内としてどのように支えあうのか今後の課題です。


左から3人目が齋藤みや子さん

編集者註
「津波てんでんこ」とは、「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自てんでんばらばらに一人で高台へと逃げろ」という意味です。

JLERブログ
「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年5月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

ルーテル教会救援最大の支援プロジェクトである気仙沼市本吉町前浜のコミュニティセンター再建プロジェクトもいよいよ終盤に差しかかってきました。先月3日には、このプロジェクト支援に関わる40近い団体・個人の代表や気仙沼市長をはじめ地元住民の方々が集まり、上棟式が盛大に執り行われました。ルーテル教会救援からは、青田本部長をはじめ「となりびと」のスタッフ全員が参加し、青田本部長が祝辞を述べました。



また、上棟式後の直会（なおらい）では、ルーテル教会救援の支援による絆纏を纏い、大漁唄い込みも披露されました。今月号では、このプロジェクトのこれまでの経緯を現地スタッフから報告いたします。

現地（前浜）スタッフ　畠山友美子

「できるだけ早い再建を」というのが、震災の年の夏に行ったコミュニティセンター再建に関する2回の住民アンケートの結果でした。同年9月には全員地域住民である建設委員会を立ち上げ、ルーテル教会救援をはじめとする多くの支援者と地域住民、そして気仙沼市の三者が協力して建設を進めてきました。

「住民参加型の再建」をテーマに、住民参加による住民参加のための作業小屋づくりやセンターの外壁となる焼き杉作業などのワークショップ（以下WS）を行ってきました。

WSには地域住民以外に、ボランティアさんや他地域の方も参加するなど、こういったWSがまたコミュニティを生んでいることは確かで、本当にありがたく思っています。

5月3日には盛大に上棟式が行われました。これからも壁塗り作業や家具づくりなどのWSも予定されています。その様子は以下のブログを通して皆様にお伝えしていきたいと思いますので是非ご覧ください。

【前浜建設委員会ブログ】
http://ameblo.jp/maeham acommunitycenter/entrylist.html



JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年6月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

ルーテル教会救援も活動最終年度を迎え、現在、①「直接（前方）支援活動から間接（後方）支援活動へ」②「被災者と支援者（教会・個人）を直接つなげる活動へ」③「支援活動と共に、教育活動（防災・減災教育）、報告活動へ」の活動方針で諸活動を展開しています。

今月号では、特に今回の震災体験と活動成果を分かち合う教育・報告活動について紹介します。

【定例スタディツアー】

被災者（語り部）の方からの被災体験を聴き、被災地・支援先訪問などを通じて、今回の震災体験を学び、今後の震災等に備えます。今月から来年1月にかけて、原則、月1回実施します。詳しくは、担当者（佐藤：f-sato@jelc.or.jp）までお問い合わせください。



【現地見学会（復興ツアー）】

被災地では、現在、多くの方の訪問を待ち望んでいます。現地見学会（復興ツアー）は、これまでの支援先を見学すると共に、被災地各地の仮設商店街での飲食、買い物等を通じて、復興支援を行います。

日程は随時です。詳しくは、担当者（野口：k-noguchi@jelc.or.jp）までお問い合わせください。

【「つるしびな」全国巡回展＆報告会＆支援品販売】

「被災地を忘れない、忘れていない」をテーマに、現在、全国で「つるしびな」巡回展を開催しています。6月初めには、112年前に日本に初めて宣教師を送って下さったアメリカ・サウスカロライナ州で開かれたシノッドの教会年次総会でも日本コーナーに展示されました。（写真左）



また、巡回展と同時にこれまでの活動報告会及び支援品販売を行っています。巡回展及び支援品販売をご希望される教会・教育機関・福祉施設等がありましたら担当者（野口：k-noguchi@jelc.or.jp）までお問い合わせください。なお、活動報告会については教区・地区の集まり、研修会等で実施することが可能です。

JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年7月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

間もなく、東日本大震災から2年5ケ月が経とうとしています。被災地は皆様のお支えとお祈りにより一日一日、着実に復興に向かっています。

今月号では、震災直後から支援を続けている老人介護施設等の現状について担当スタッフより報告させていただきます。

チーフスタッフ　佐藤文敬

ルーテル教会救援では、震災直後から被災した介護施設の支援をしてきました。

そのうちの1つである気仙沼市にある老人保健施設リバーサイド春圃は、施設の建物だけでなく津波とその後の避難所生活のために59人の利用者の方が亡くなるなど大きな被害がありました。この甚大な被害を聞き、ルーテル教会救援では、物資支援とともに介護ボランティアの派遣なども行いました。この介護ボランティアの派遣は、自ら被災し家を失い避難所生活をしながらも高齢者の介護を続けている職員の方たちが、疲れきってしまわないように少しでも支えようということで取り組んだ支援でした。



派遣した介護ボランティアは、ルーテル教会関連の介護施設の職員の方を中心に合計7名。食事は避難所用の弁当のお裾分け、お風呂は自衛隊風呂という状態だった5月からファミリーレストランが再開し始めた8月にかけて、7名の方がそれぞれの役割を果たし、次のステージに移る小さなお手伝いができました。その後、リバーサイド春圃は別の医療施設に間借りをし、さらにプレハブ式の仮設事業所に移るなどして介護事業を続けてきました。

そしてこの6月、ようやく新しい場所に新しい建物が完成し、新しい門出のお手伝いということで、スタッフとボランティア計10数名で、6月4～5日と19～20日の2回に分けて引っ越しのお手伝いをしました。引っ越し作業には、介護ボランティアとしてリバーサイド春圃にかかわった人も参加してくれ、2年ぶりの再会を喜ぶ場面もありました。職員の方からは「あの頃にはまったく想像できなかったけど、2年たってなんとかここまできました」といった言葉が聞かれました。完全な復興までにはまだまだ時間がかかるようですが、これから事業が順調に進むことを祈るばかりです。一方で、被災地各地で介護職員が疲弊しているという話を聞くことから去年に引き続き介護職向けのケア講座などにも取り組む予定です。



JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年８月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

間もなく、東日本大震災から2年6ケ月が経とうとしています。ルーテル教会救援の活動も残り7ケ月となり、活動終結に向けて様々な準備が始まっています。

今月号では、現在、ルーテル教会救援が展開している活動の中で、仮設支援活動の現状及び終結方法について報告させていただきたいと思います。

これまでルーテル教会救援では、宮城県石巻市河北町の五ケ所の仮設団地と同北上町の一ケ所の仮設団地において定期的な支援活動を行ってきました。



その主な支援内容は、大きく分け、生きがい支援、居場所支援、自立支援の三つの支援活動です。

具体的には、生きがい支援として地元ボランティア団体との「つるしびな」製作など手仕事的なモノづくり活動、居場所支援として「お茶っこサロン」やDVD「おしん」鑑賞（写真）など、自立支援として仮設団地自治会サポート活動などです。

現在、各仮設団地は、全体的に落ち着きを見せており、災害公営住宅への入居も始まっています。しかし、一方で未だに様々な問題を抱えている仮設団地が存在するのも事実です。

ルーテル教会救援では、このように状況の異なる各仮設団地に合わせた支援活動を現在、展開しています。

また、来年3月の支援終結に向け、来年4月以降も被災地で支援活動を継続するNPOやボランティア団体、そして、地元の社会福祉協議会など行政関連機関との連携も強めています。

具体的には、仙台市や石巻市に活動拠点を置く子育て支援NPOや青少年教育NPOが仮設団地で行っている子ども支援プログラムの支援や、毎日、仮設団地において見守り活動を行っている社会福祉協議会所属の生活支援員との連携活動などがあります。

仮設団地の方々の災害公営住宅への転居は、来年度から本格化しますが、全員が新たな住居に移るまでには、まだかなりの時間を要することが懸念されています。

ルーテル教会救援としては、残された時間を使って、来年4月以降も仮設支援が継続的に行われるような体制づくりを支援していきます。

皆様も引き続き、被災地の早期復興とルーテル教会救援活動のためにお祈り、お支えいただければ幸いです。

JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年９月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

東日本大震災から2年半が経過し、ルーテル教会救援の活動内容も活動当初から大きく変化しています。今月号では、女性連盟主催の現地見学会（復興ツアー）と仮設団地自治会夏祭り支援について報告させていただきます。

【現地見学会（復興ツアー）】

9月6・7日、札幌教会3名、八王子教会2名の計5名の参加者により実施しました。

一日目は、仮設追波川河川団地集会所で「つるしびな」関係者との交流会。地元ボランティア団体と仮設団地の住民の方との交わりでは、実際の被災場面のお話をお聞きし、被災された方々の痛みを共に分かち合う機会となりました。

二日目は、先月15日に落成式を迎えた前浜コミュニティセンターへの訪問。現地スタッフから完成までの経緯についての話に耳を傾けました。その後、9月9日から解体作業が始まっている気仙沼市鹿折唐桑に打ち上げられた大型漁船を見学し、今回の震災の大きさを改めて実感しました。次回は11月9～11日に開催します。

また8月に行われた旭ヶ丘母子ホームのスタディツアーの様子が毎日新聞のネット版http://mainichi.jp/area/miyagi/news/20130825ddlk04040112000c.html に掲載されました。

【仮設団地夏祭り支援】

チーフスタッフ　佐藤文敬

7月から8月にかけては、被災地の各所で夏祭りが開催されました。となりびとでは、昨年に引き続き石巻市河北町にある仮設大森団地の夏祭りのお手伝いをしました。この夏祭りは、仮設団地に住む子どもたちに夏の思い出を一つでも多く作ってほしいと考えた仮設自治会の人々が中心になって始めたものです。



今年は夏祭り用のポスター・チラシ作りやTシャツ作りなどの事前準備から当日の屋台の出店まで、昨年以上に様々なお手伝いをしました。夏祭り開催3日前からは、近畿福音ルーテル鈴鹿教会の方やルーテル学院大の学生ボランティア9人がシャボン玉作りやイモ餅作り、会場設営などの準備にフル回転し、当日の開催に備えました。

お祭り当日は、昨年同様お天気に恵まれ、ルーテル学院大の学生が担当したシャボン玉などの子どもコーナーは、切れることなく子どもも大人も遊びに来て、おおいに楽しんでいました。イモ餅などの屋台もお昼時は時々人が並ぶなど盛況でした。

JLERブログ
「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年10月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

ルーテル教会救援の諸活動も残り5ケ月となり、これまでの支援活動の成果が具体的な形となって表れています。

今月号では、その中から二つの支援成果について各担当者から報告させていただきます。

【コミュニティセンター再建支援】

現地（前浜）スタッフ　畠山友美子

ルーテル教会救援の皆様を始め、多くの方のご支援を頂き、気仙沼市本吉町前浜地区のコミュニティセンター「東日本大震災復興記念　前浜マリンセンター」の落成式が9月15日に行われました。天候が不安定な中、落成式には支援者の方や地域の方等約200名が集まりました。



落成式の中では、経過報告や祝辞等の他に祝宴がありましたが、祝宴では地域でお馴染みの方々の踊りが披露されました。お越し頂いた支援者の方々にも盛り上がって頂いたようでしたが、地域の人たちからすると、〝また この踊りをこのマリンセンターでみることができた〟というような想いで、前浜住人の司会者は「これをするためにセンターを建てました！」と、やっとやりたいことをまたできたという言葉にとても感動的な時間でした。

前浜マリンセンターですが、世界中のたくさんの想いが詰まった宝箱です。その想いを伝えられるように、たくさんの方にお越し頂ければと思います。本当にありがとうございました。

【共同利用倉庫再建支援】

チーフ・スタッフ　佐藤文敬

ルーテル教会救援では、2012年9月から石巻市の牡鹿半島の付け根近く、宮城県漁協石巻地区支所管轄の10か所の浜で共同利用倉庫の再建支援を進めてきました。震災前には共同作業をする際に使う道具や資材などを保管する倉庫が各浜にあったのですが、津波ですべて流されたため、震災後に新しく買い揃えた道具や資器材も野ざらしにしておくしかない状況になっていました。

そうした状況をなんとかしようとドイツ・ルーテル教会のDKH（ディアコニア災害救援部）からの支援を受けて再建を進めてきたのですが、漁港の修繕工事の遅れに伴い、なかなか進みませんでした。

しかし、ようやく予定している10棟のうちの8棟が完成し、9月15日にはドイツDKH担当者のミヒャエル氏も完成した倉庫の見学に来石されました。その日は漁協の代表者の方から震災当日のお話や復興の現状などをお聞きした後、倉庫に設置するネームプレートの贈呈式を行いました。



JLERブログ
「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年11月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

教会の暦も待降節に入り、ルーテル教会救援の活動も残り4ケ月となりました。これまでの皆様のお支えとお祈りに改めて感謝いたします。

さて、ルーテル教会救援では来年3月の活動終結に向けて、現在、様々な調整・引き継ぎ活動等を行っています。

今月号では、その中から二つの支援活動の調整・引き継ぎ状況等についてご報告いたします。

【応急仮設住宅団地支援（仮設支援）】

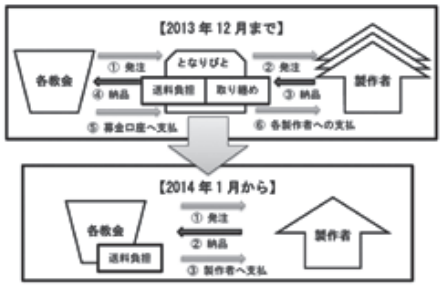
ルーテル教会救援では現在、主に石巻市河北地区において仮設支援を行っていますが、同時に、この地区の仮設では、地元の社会福祉協議会所属の訪問支援員の方が毎日、見回りによる訪問支援活動も行っています。ルーテル教会救援では、現在、仮設で行っているサロン活動等を、来年4月以降も継続できるよう、この訪問支援員の方への引き継ぎ活動を始めています。



その一環として、10月9日には仮設追波川多目的団地で共同プログラムを実施し、11月から来年2月までは、訪問支援員の方を対象としたカラーセラピー講習会も地元の指導者に依頼し実施中です。

また、仮設での地元NPO等による子ども支援プログラム支援も継続的に行っており、来年4月以降も地元主体で継続的に仮設支援が行える体制づくりを目指しています。

支援品販売ルートが変更になります



【支援品販売】

これまで、ルーテル教会救援が各支援先と各教会等との間を仲介して行ってきた支援品販売については、来年1月から、右図の通り各支援先と各教会等との直接販売に切り替わります。これは、ルーテル教会救援の活動終了後も長期的に支援ができる体制づくりの一環として行うものです。詳しくは担当者（佐々木 j-sasaki@jelc.or.jp）までお問い合わせください。

JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2013年12月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

新年あけましておめでとうございます。ルーテル教会救援の活動もいよいよ残り3ケ月となりました。これまでの皆様のお支えとお祈りに改めて感謝いたします。

さて、ルーテル教会救援では、活動終結後も地元団体等が継続的な支援ができるよう支援者支援活動を行っています。今月号では、昨年の11月から始まった支援者支援活動と長期的な支援が可能な新たな支援品販売（仮設支援）についてご報告いたします。



【支援者支援】

先月号でご報告しました、石巻市社会福祉協議会所属の仮設住宅の見守り活動を行っている訪問支援員の方を対象としたカラーセラピー講習会の第1回目が、昨年の11月28日に石巻市社会福祉協議会河北支所会議室で行われました。

当日は、仙台市の色彩心理カウンセラーお二人の指導により、12名の訪問支援員と2名の地域福祉コーディネーター・地域福祉アドバイザーの合計14名の方が受講されました。最初は緊張気味であった皆さんも講習が進むにつれリラックスした雰囲気となり、講習の最後には個性あふれる作品ができあがりました。（写真上）講習会は今年2月まで計5回行われます。



【支援品販売（仮設支援）】

先月号でご報告しました通り、これまで、ルーテル教会救援が各支援先と各教会等との間を仲介して行ってきた支援品販売については、今月から、各支援先と各教会等との直接販売に切り替わります。それに伴い、新たに二つの仮設団地で製作されている支援品の販売を開始します。

その一つは現在、女性会連盟を通じて、材料支援を行っている「布草履」（写真右）とその隣の仮設団地で製作している「つるしびな」です。仮設団地の方が新たな住居である災害公営住宅（復興住宅）等に全員入るまでにはまだ5年近くの時間が必要と言われています。

各種支援品販売を通じて、ルーテル教会救援の活動終了後も長期的な支援をよろしくお願いいたします。詳しくは、担当者（野口 k-noguchi@jelc.or.jp）までお問い合わせください。

JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

るうてる2014年１月号より

JLER（ルーテル教会救援）対策本部 現地からのレポート

JLER派遣牧師　野口勝彦

JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

これまで、毎月、この紙面をお借りして「現地からのレポート」を皆様にお届けしてきましたが、今月号で最後となりました。これまでお読みいただいた皆様に感謝いたします。

その最後は、記念礼拝・感謝会と実務研修会のご案内（詳しくは左欄をごらん下さい）およびコミニュティセンター再建後の利用状況についてご報告いたします。

【コミニュティセンター再建後の利用状況】

チーフ・スタッフ　佐藤　文敬

２０１３年９月15日に落成式をして無事に完了した気仙沼市本吉町の前浜コミュニティセンター再建支援。建物完成後、このセンターは気仙沼市に寄贈され、同年11月から前浜地域振興会（自治会）が指定管理者になり施設を運営しています。

前浜地域では、震災前からセンターを使った地域活動が１年間に50回以上行われていたのですが、新しく再建されたセンターも完成後、頻繁に使われています。敬老会などの自治会行事以外にも防潮堤問題の勉強会など復興に向けた取組や子ども向けのお楽しみ会など様々に活用されています。

ルーテル教会救援でも12月21日に、日本福音ルーテル社団のボランティア青年たちが地元の女性グループと一緒に、センターを使って子どもたちのためのクリスマス会を開催しました。

子どもたちは、大きな声で歌ったりゲームをしたりと楽しい時間を過ごしていました。今後も地域復興の拠点としてたくさん使ってもらえればと思っています。



東日本大震災ルーテル教会救援
記念礼拝・感謝会

1. 日時：2014年３月11日（火）
　14時46分18秒～17時
2. 会場：日本福音ルーテル仙台教会
3. 内容：14時46分18秒～
　15時30分　記念礼拝
　15時30分～17時
　感謝会（お茶会）
4. 対象者：どなたでもご出席いただけます。
5. 申込：2014年２月28日（金）までにメールにて担当者（野口 :k-noguchi@jelc.or.jp）までお知らせ下さい。

南海トラフ大震災対応実務研修会

1. 日時：3月11日（火）
　14時46分18秒～13日（木）16時頃
2. 会場：仙台教会及び支援先、被災地 他
3. 対象者：ルーテル教会救援構成四教団所属牧師

るうてる2014年２月号より

「東日本大震災ルーテル教会救援」（JLER）への支援に感謝して

JLER救援対策本部長　青田　勇

JLERブログ「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribito.blogspot.jp/

２０１１年３月11日に発生した東日本大震災の被災地での救援・支援活動のために、日本福音ルーテル教会は３月14日、本教会に東教区の協力を得て救援対策本部を設置し、各個教会・関係施設及び多くの海外教会からの支援に応えるために、日本における４つのルーテル教会及び関連施設（社団・大学等）の協力・協同の救援組織「東日本大震災ルーテル教会救援」（英語表記Japan Lutheran Emergency Relief）をルーテル４教団の議長の下に２０１１年３月24日に発足させました。

同時に現地活動事務所として「ルーテルとなりびと」を仙台教会に置き、宮城県を中心に被災された多くの人々への多角的な救援活動を、現地スタッフの働き、各教会からの支援とボランティアの人々の奉仕活動、世界の教会からの多額の援助により、３年間にわたるルーテル教会としての救援活動を滞らせずに継続できたことを心から感謝いたします。



これまでJLERの支援活動を支えて来た基本指針は以下の通りです。

①「キリストにおける愛の奉仕」の業に基づき、東日本大震災で被害を受けた被災者の復旧・復興のために可能な限りの多角的な救援活動をルーテル４教会の共同事業として取り組む。

②霊的にも、心理的にも、身体的にも苦しんでいる被災された人々に深く関わり、その生命の声を聞き取り、「希望と喜び」の内に共に生きる道を見出すための必要な支援を行うことは神の憐れみの宣教そのもので あり、これに参画する召しが神の民に呼び求められている。

③日本のルーテル教会の宣教力を結集した支援事業である「ルーテル教会救援」活動は、日本国内だけでなく、LWFを中心に世界のルーテル教会・団体と強く結びつき、知恵と支援を得つつ、開かれた救援活動として可能な限り長期的に取り組むこととする。

２０１４年３月末をもってJLERの活動は終結しますが、神の恵みと導きにより、この支援活動が被災地域の人々の将来に向けての新たなる希望の道を開くための一助となったことをキリストにおいて信じるものです。それと共に、３年間、この支援活動を日々支えくださった、本部の４教団議長、委員、全国の牧師、現地スタッフの方々、数多くのボランティアの方々、ルーテル教会である諸教会・施設、信徒の方々、教会関係者、それに世界の教会・団体の方々に心より感謝いたします。

るうてる2014年３月号より

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告 2011年10月

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**



発行にあたって

新年を迎え、今月から月報を発行することにしました。震災から半年を数えた10月からの活動を、私たちの 活動を支えてくださっている全国の方々、またこの活動の中で出会った被災地の方々に私たちがどのような活動をしているのか、簡単ですが定期的にお伝えしたいと思います。

これからもルーテル教会救援をどうぞよろしくお願い致します。

東日本大震災ルーテル教会救援（通称：ルーテル教会救援）概要

（英語名：Japan Lutheran Emergency Relief : JLER）

1. これまでの主な支援地域

宮城県（石巻市、気仙沼市、登米市、東松島市）
福島県（南相馬市）

2.10月の活動地域

宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、仙台市、栗原市）

3. 組織、人員（2011年10月末現在）

東日本大震災による被災者支援のため、日本福音ルーテル教会・ 日本ルーテル教団・近畿福音ルーテル教会・西日本福音ルーテル教会の４教団による「ルーテル教会救援対策本部」（JLER）が組織されました。世界ルーテル連盟（LWF）に連なる世界中のルーテル教会の支援を受けながら、救援活動が進められています。

・**ルーテル教会救援対策本部（事務局現住所：東京都新宿区市谷）**
本部長　青田　勇（日本福音ルーテル教会副議長）

・**ルーテル支援センターとなりびと（事務局現住所：宮城県仙台市青葉区宮町）**
派遣牧師　伊藤文雄
支援活動コーディネーター　立野泰博
専従スタッフ
佐藤文敬（現地責任者）・遠藤優子・千葉　一・抱井昌史・濱村美鹿子
木村理恵・田中愛子　　以上７名



伊藤牧師が３月末まで救援活動牧師として再派遣されました。立野事務局長がルーテル支援活動コーディネーターに任命されました。



7月から河北ビックバンでボランティアをしていた竹前悟くんが活動を終了しました。いままでありがとうございました!

4.10 月のボランティア受け入れ

11 名 (教会10 名、一般 1 名)

5. 物資支援の実績

総数 30 件（直接支援 14 件／間接支援 16 件）

気仙沼市



気仙沼市本吉町にて、仮設住宅支援やカード作りプロジェクト"KEPPAPPE"のお手伝いなどをしています。

今月は、天ケ沢仮設住宅40軒の棚付け作業、遠藤しも子さんのちぎり絵でカレンダーを製作しました。カレンダーは仮設にお住まいの皆さんなどに配布した後、ルーテル教会救援でも販売をはじめる予定です。



石巻北上



北上町では、社会福祉協議会の支援として、在宅者への物資配布（10月は布団・毛布など）、訪問支援員のお手伝い、施設掃除などを行っています。また北上ミサンガの会・トンボ玉倶楽部の材料・器具の支援と販売をお手伝いしています。





京成バスにご協力いただいている瓦礫撤去ボランティア。撤去も進み、11月はおやすみでした。

石巻市街



石巻スワン国際協力の会のみなさんと、女性プロジェクトを進めています。10月はリメイク・キャンドルワークショップをしました。

4月から、石巻災害ボランティアセンターに受付スタッフを派遣しておりましたが、10月末をもって、ボランティア派遣を終了しました。ボラセンからは泥出し作業等のニーズもあり、お手伝いをしました。



そのほか



栗原市の障がい者をサポートしている「ころんぶす」にて、バザーを開催しました。食器など生活用品が人気。



東松島市の宮戸島の宮戸西部支所に行き、海苔の養殖に使う　ロープを切る作業をしました。全6日間の作業。海の仕事の大変さ・楽しさを知るひとときでした。

各地でのご協力



全国の皆さまからご協力いただいたおすそわけプロジェクト。11月末で終了いたしました。たくさんの方に笑顔をお届けすることができましたこと、感謝致します。



北上ミサンガ及び気仙沼"KEPPAPPE"作製のクリスマスカードとも合わせ、日本福音ルーテル本郷教会／蒲田教会、日本ルーテル教団・札幌中央ルーテル教会／杉並聖真ルーテル教会など、たくさんの方に販売ご協力いただきました。

また東京渋谷にあるフェアトレードショップ「ぐらするーつ」さんが、北上ミサンガの販売にご協力くださいました。



東松島市のグループホーム「すみちゃんの家」の被災した写真を洗う「思い出洗い隊」プロジェクト。

25の教会と学校の方々がご協力くださいました。

ご協力ありがとうございました！

10月18日〜20日、スタッフ遠藤が、LCMS（ルーテル教会ミズーリ派）が開催した第1回ルーテル国際災害救援会議に参加してきました。参加者の多くが日本の発表に高い関心を寄せてくださり、「日本を支援したいのだが、どうしたらいいか？」といった温かい申し出をたくさんいただいたとのことです。

また、10月29•30日には、スタッフ佐藤が札幌教会・帯広教会にて報告会に参加してきました。



発行：JLER ルーテル教会救援
住所：162-0842　東京都新宿区市谷砂土原町 1-1　日本福音ルーテル教会事務局内　　電話番号：090-1115-9832
E-MAIL：y-endo@jelc.or.jp　　となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　　となりびとツイッター：@jler_tonaribito

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告 2011年 11月･12月

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。





11月23日～26日、気仙沼市本吉町前浜にて、毎年恒例の地域の文化祭『おらほのとっておき』が開催されました。2011年は、3月最後の週末に開催が予定されていましたが、震災のため中止。年内の再開を目指したメンバーの皆さんのご尽力により、無事このたびの開催となりました。それぞれの力作を持ち寄った展示や、ワークショップ、民謡の披露や講演会、震災以後ご縁のできた山形県最上町からの餅つき、地域の皆さんの自慢料理が出揃うなど、前浜の地域力が発揮された盛り沢山の４日間でした。

東日本大震災ルーテル教会救援（通称：ルーテル教会救援）概要

（英語名：Japan Lutheran Emergency Relief : JLER）

1. 活動地域

宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）、福島県（南相馬市）
12月より石巻市河北地区・北上町の仮設住宅集会所での定期的なお茶会を開始

2. 概要

東日本大震災による被災者支援のため、2011年3月24日、日本福音ルーテル教会・日本ルーテル教団・近畿福音ルーテル教会・西日本福音ルーテル教会の４教団による「ルーテル教会救援対策本部」（JLER）が組織されました。
本部は、日本福音ルーテル教会の事務局(東京・市ヶ谷)に設置されています。

・**ルーテル教会救援対策本部（事務局現住所：東京都新宿区市谷）**
　本部長　青田　勇（日本福音ルーテル教会副議長）
・**ルーテル支援センターとなりびと（事務局現住所：宮城県仙台市青葉区宮町）**
　派遣牧師 伊藤文雄
　支援活動コーディネーター　立野泰博
　スタッフ
　佐藤文敬（現地責任者）・遠藤優子・千葉　一・抱井昌史・濱村美鹿子
　木村理恵・佐々木潤・西田ちゆき・押野美穂　以上9名（12月末現在）



夏からお借りしていた、石巻市北上町の本地生活センターをお返ししました。長い間お世話になりました。

6月から石巻市のボランティアセンターなどでご活躍いただいた田中愛子さんが活動を終了されました。お疲れさまでした！

3. ボランティア受け入れ

11月　22名（教会 20名　一般2名）、12月　3名（教会）

4. 物資支援の実績

11月 総数　24件　　12月 総数　14件

5. 仮設支援の実績

お茶会　12月 11回開催 (のべ110名参加)

気仙沼市本吉町の天ケ沢仮設住宅に入居している遠藤しも子さんのちぎり絵をカレンダーにし、販売支援をしています。経費を除く売り上げは、地元の復旧・復興のために使われます。１枚300円（年明け価格。500円より値下げしました）。ご注文は「発注者名」「購入枚数」「希望お届け日」「お届け先住所」「連絡先（電話・e-mail）」を以下にお知らせください。できるだけ3枚以上からのご注文をお願いします。配送費は無料です。



ルーテル支援センターとなりびと　担当：佐々木
電話：090-1116-0477　メール：j-sasaki@jelc.or.jp　FAX:022-222-4494

石巻市河北町・北上町【仮設支援】



12月より、石巻市北上町・河北町の仮設住宅団地の集会所にて、伊藤牧師が中心になり、定期的に、お茶会を開催しています。軽い体操やお話をしてます。

定期的に顔を合わせることで、信頼関係を築き、より深い心のケアにつながっていけばと思っております。また仮設住宅への個別訪問も行い、集会所に来られない方ともコミュニケーションをとっています。



石巻市北上町【漁協支援など】



石巻市北上町の宮城県漁協十三浜支所の支援として、アワビをとるための"箱メガネ"を作るための杉板を登米市の材木屋さんに注文し、十三浜の建具屋さんにお届けしました。　節なしで幅が広く乾燥した杉板を選ぶことは、なかなか大変な作業でした。津波で500個もの箱メガネが流されてしまい、建具屋さんは本業をお休みし、箱メガネ製作で大忙しとのことです。



北上町本地では大豆の収穫を行いました！　⇒

女川町【ボランティア派遣】



↑11月14日から入って下さった黒田さん

黒田さんのあとを継いで、12月25日まで入って下さった中野さん。るうてるホームで長年ご活躍のプロでした⇒

11月14日より女川町にあるデイサービスセンターおながわへボランティア派遣をはじめました。現在おながわの利用者は23名。9時から15時の間で、お風呂やお茶、リハビリ、体操、お昼ご飯に、ゲームやおやつなど、慌ただしく時間が過ぎていくそうです。方言など困ることもあったようですが、泊まり込みならではの充実したボランティア活動とのことでした。



12月までに3名のボランティアさんを長期的に派遣しました。

その他の地域【物資支援】



11月16日、登米市にあるさくらんぼくらぶ（通所介護事業所）におむつや石けんなど、施設で使われる消耗品をお届けしました。久しぶりの訪問でしたが、施設の方々の笑顔に触れられて感謝です。

4月から「みちのく応援隊」を通して野菜を届けていた南相馬市に、12月６日、ルーテルスタッフが物資をお届けに伺いました。

宮城県とはまた違う側面のある福島支援。これからどのように支援を続けていったらよいのか、現地の方の声を聞きながら、考えていきます。



各地からのご協力



11月11日、フィンランドルーテル教会（SLEY）から、被災地へ歌声と福音の調べを届けに、３名の方がいらしてくださいました。東北学院大学の寮や仙台教会で、美しい調べを奏でて下さり、シベリウスの曲やスピーチはとても喜ばれ、涙を流される方もいらっしゃいました。



遠くからのご来訪に、心から感謝です。



12月19日、ルーテル学院大学からハーピストのフラナリー先生がハープ演奏に訪れ石巻市北上町の３ヶ所で演奏会が行われました。大学生による余興やサンタクロースやトナカイの登場に子ども達も大喜び。ルーテル教会女性会から届いたプレゼントも配られました。

12月20日には、仙台キリスト教連合や曹洞宗等超宗教が集まって結成された支援団体「心の相談室」主催のクリスマスランチコンサートが行われました。



石巻市開成団地にお住まいの方をお招きし、ランチの後に、ジャズシンガーの沢知恵さんのコンサート。ルーテル教会救援からは藤井牧師と伊藤牧師がご奉仕くださり、藤井牧師が開会祈祷を行なって下さいました。

震災から９ヶ月経った12月11日、東京・ルーテル東京教会にて報告会が開催されました。今回の報告会では、現地スタッフの佐藤と共に、石巻在住で女性プロジェクトのカウンターパートナーであるスワン国際協力の会の千葉直美さんが上京し、お話くださいました。まずはスタッフ佐藤から、９ヶ月の歩みをご報告。緊急物資支援から、さまざまなボランティア・ボランティアコーディネート、女性会連盟との協働、コミュニティ支援などへ活動が移ってきた様子がわかりました。千葉さんからは、震災当時のご苦労や、女性の視点を活かした女性ならではの細やかな支援のありがたさ、自然の力に励まされていることなど、お話いただきました。改めて、震災の大きさと、支援活動の意義を感じる時間でした。



発行：JLER ルーテル教会救援
住所：162−0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　電話番号：090-1116-0595　E-MAIL：f-sato@jelc.or.jp
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告 2012年 1月

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。





新年の活動が始まりました。年初には、ルーテル教会救援が支援させていただいた被災地の皆さまからあたたかいご挨拶をいただきました。大変な日々のなか、こうしたお心遣いをくださる被災地の皆さまのお気持ちに感激すると共に、ますます現地の皆さまに寄り添った支援活動ができるよう、スタッフ一同気持ちを新たにいたしました。

本年もルーテル教会救援をどうぞよろしくお願い致します。

東日本大震災ルーテル教会救援（通称：ルーテル教会救援）
概要
（英語名：Japan Lutheran Emergency Relief : JLER）

1. 活動地域

宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）
福島県（南相馬市）

2. 概要

東日本大震災による被災者支援のため、2011年3月24日、日本福音ルーテル教会・日本ルーテル教団・近畿福音ルーテル教会・西日本福音ルーテル教会の4教団による「ルーテル教会救援対策本部」（JLER）が組織されました。
本部は、日本福音ルーテル教会の事務局(東京・市ヶ谷)に設置されています。

・**ルーテル教会救援対策本部（事務局現住所：東京都新宿区市谷）**
　本部長　青田　勇（日本福音ルーテル教会副議長）

・**ルーテル支援センターとなりびと（事務局現住所：宮城県仙台市青葉区宮町）**
　派遣牧師 伊藤文雄
　支援活動コーディネーター　立野泰博
　スタッフ
　佐藤文敬（現地責任者）・千葉　一・抱井昌史・濱村美鹿子・佐々木潤
　木村理恵・西田ちゆき・鶴見正和・押野美穂　以上11名（1月末現在）

JLER立ち上げ当初から活動していた遠藤優子さんが活動を終了されました。ありがとうございました。そしてお疲れさまでした！

3. ボランティア受け入れ

1月 5名（教会5名）

4. 物資支援の実績

1月 総数 7件

5. 仮設支援の実績

お茶会　1月 5回開催 (のべ59名参加)

気仙沼市本吉町の天ケ沢仮設住宅に入居している遠藤しも子さんのちぎり絵をカレンダーにし、販売支援をしています。経費を除く売り上げは、地元の復旧・復興のために使われます。１枚300円（年明け価格。500円より値下げしました）。ご注文は「発注者名」「購入枚数」「希望お届け日」「お届け先住所」「連絡先（電話・e-mail）」を以下にお知らせください。できるだけ3枚以上からのご注文をお願いします。配送費は無料です。



ルーテル支援センターとなりびと　担当：佐々木
電話：090-1116-0477　メール：j-sasaki@jelc.or.jp　FAX:022-222-4494

石巻市河北町・北上町【子ども支援】



1月25日は石巻相川保育所でNPO表現教育研究所によるわらべ歌NPOアートイン『Ashibina』さんによるお芝居がありました。

すべて手作りされた舞台や衣装にはぬくもりがあり、とても暖かいお芝居でした。子供たちが部屋に入るときに自分で鈴を鳴らし舞台の雰囲気に引き込む演出があったり、表現教育研究所によるわらべ歌の声には癒しの響きがあり、私たち大人も真剣に見入ってしまいました。

石巻市北上町【漁協支援】

北上町十三浜にて、別のNPOと一緒に漁業者のための作業所兼倉庫を建設する支援を実施予定です。津波で漁業に使う道具や機械を保管したり、一緒に作業する場が流失しました。それを再建する支援です。わかめの収穫作業が2月後半から始まるため、完成すればすぐにわかめ生産者の方々に使われる予定です。





東松島市【漁協支援】



ルーテルのボランティアの皆さまに、泥かきや海苔加工機械の内部でカビてしまった海苔の取り出し作業などをお手伝いした海苔の加工場。その加工場が12月の頭に復活し、また海苔の生産が始まりました。

この冬の海苔は味も品質もよく、いい出来だそうです。漁協では、経理などの書類の作成・整理に追われており、そのパソコン入力などをお手伝いしています。



気仙沼【コミュニティ復興支援】

コミュニティセンターの再建支援を予定している前浜地域の新年会に、スタッフ千葉とスタッフ佐藤が招待されて参加してきました。会場は、お隣の県の山形県最上町。最上町と前浜地域は、震災をきっかけにつながりができ、相互交流を続けています。

この日は、最上町の幼稚園生から、津波で流失した虎舞の虎頭と反物が前浜地域の人たちにプレゼントされました。幼稚園生らの手作りです。前浜の人たちも感激していました。



お茶っこ会の風景



お茶っこサロンを開始してから約3ヶ月が経過しました。12月は少ないスタッフでどのようなプログラムにしたら集まってくれるのか、どのようなニーズがあるのか、など手探り状態でした。しかし、1月からはお茶っこサロンに従事できるスタッフも増え、時間も延長し、安定的に運営できています。



プログラム運営上、心がけていることは、会話の仲間に入れない方を作らないことです。河北・北上地域は集落単位の結束が強く、住民同士の交流も出身地域別にグループ化されてしまう傾向にあります。ウォーミングアップに「最近嬉しかったこと」「好きな食べ物」などのテーマで全員が皆の前で発言できる機会を設けたり、ゲームを取り入れたり、交流促進を意識しつつプログラムを進行してきました。

最近では、スタッフが話題を提供しなくても、参加者全員が楽しく談話する様子も目立ってきました。これもルーテルを含む複数のボランティア団体がお茶っこサロンを仮設団地に定着させた効果の一つではないかと思います。（西田ちゆき）



2011年4月より9ヶ月間現地スタッフとしてとなりびとの活動に参加させていただきました。

心に残っていることの一つに、避難所にいらしたお母様と知的障害をもった娘さんのことがあります。娘さんは震災のストレスで過食になったり、物を壊したりと精神的に安定しない日々が続いていました。私はその母子の車での送迎のお手伝いをさせていただいておりました。ある日、仮設住宅に引越しされたお母様からお電話いただきました。「仮設住宅にきてやっと安定した生活が送れるようになりました。娘も新しい生活になれ、落ち着いて来ました。遠藤さんは一番大変な時に支えてくださっていました。だから、娘が元気になったところを見に遊びに来てください」と私を招待してくださったのです。

ささやかなお手伝いでありましたが、神様が働いてくださって被災者の方の心に寄り添ってくださったと感じる出来事でした。これもルーテル教会の方々のお祈りがあればこそなされたものだと感じています。本当にありがとうございました。（遠藤優子）



発行：JLER ルーテル教会救援　住所：162−0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　電話番号：090-1116-0595　E-MAIL：f-sato@jelc.or.jp
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.4
2012年2月度 活動報告　(2012年4月7日発行)

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**





震災から１年を迎えました。「もう1年」と「まだ１年」が入り交じる、あっという間のような、とても長かったような１年でした。仮設住宅や借り上げ住宅での日々は落ち着いたもののようにも思えますが、失ったものへの想い・これからの暮らしへの不安など、目に見えない心の中には、さまざまな想いがあるように思います。これからまた１年被災地の皆さまに寄り添い、活動を続けて参ります。
2012年2月の活動をご報告いたします。

東日本大震災ルーテル教会救援（通称：ルーテル教会救援）概要

（英語名：Japan Lutheran Emergency Relief : JLER）

1. 活動地域

宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）
福島県（南相馬市）

2. 概要

東日本大震災による被災者支援のため、2011年3月24日、日本福音ルーテル教会・日本ルーテル教団・近畿福音ルーテル教会・西日本福音ルーテル教会の４教団による「ルーテル教会救援対策本部」（JLER）が組織されました。
本部は、日本福音ルーテル教会の事務局(東京・市ヶ谷)に設置されています。

・**ルーテル教会救援対策本部（事務局現住所：東京都新宿区市谷）**
本部長　青田　勇（日本福音ルーテル教会副議長）

・**ルーテル支援センターとなりびと（事務局現住所：宮城県仙台市青葉区宮町）**
派遣牧師 伊藤文雄　（4月から野口勝彦）
支援活動コーディネーター　立野泰博
スタッフ
佐藤文敬（現地責任者）・千葉　一・抱井昌史・濱村美鹿子・佐々木潤
西田ちゆき・鶴見正和・押野美穂　以上10名（2月末現在）

気仙沼支援に関わって下さっていた木村理恵さんが、活動を終了されました。ありがとうございました。

3. ボランティア受け入れ

2月　17名（教会16名[うちアメリカ1名、バスボランティア8名含む／一般1名]）

4. 物資支援の実績

2月 総数 8件 (直接支援 3件／間接支援 5件)

5. 仮設支援の実績

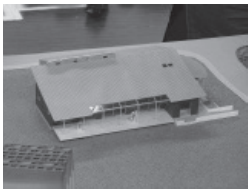
お茶会　2月 14回開催　(のべ124名参加)

お茶っこ会に向けて、全国からご支援を頂いています。



お茶っこ会では、毎回お茶とお茶菓子をお出しします。「今日は名古屋から」「今日は静岡から」と、各地の特色あるお菓子に、全国の方が見守って下さっていることを改めて感じ、被災地の皆さまが感謝してくださいます。静岡・袋井からは「男はつらいよ」のビデオセットを頂きました。お茶っこ会の午後、手芸をやる傍らでビデオを流しています。ふと手を止めたおりや、手芸をなさらない方は、ビデオに見入っています。皆さまのご協力に、心より感謝申し上げます。

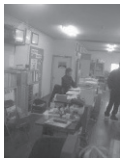
【コミュニティ支援】気仙沼市





本吉町前浜地区でのコミュニティセンター再建支援は、少しずつ具体化してきています。2月に行われた建設委員会では、設計をしてくれる団体から住民の希望を踏まえた上で設計案が示され、模型も出来上がっていました。この設計案に対してまたいろんな意見が出たので、次回以降それを受けた再提案と議論が進む予定です。

【漁協支援】東松島市・石巻市



東松島市の宮戸では、引き続き漁協宮戸西部支所の事務仕事のお手伝いをしています。漁協の職員さんたちは震災後、スタッフが減った中で平常業務に加え、復旧・復興のための申請書作成等の事務仕事に忙殺されています。頻繁に漁協に通っていますが、事務仕事は次から次へとやってきて、なかなか落ち着く気配はありません。できる限りのお手伝いを今後もしていく予定です。



石巻市北上町十三浜ではわかめの収穫作業が始まりました。昨年の10月頃に種付けをした早生種のわかめが育ちました。十三浜のわかめは肉厚でおいしいことで有名です。⇒

【仮設支援】石巻市





２月は、あらたに三反走・飯野川校の２ヶ所の仮設住宅でお茶会がはじまり、計５ヶ所週３回のペースで開催されました。アメリカからボランティアにやってきたブライアンも言葉がわからないながらも、積極的にお手伝いをしてくれました。おじいちゃんから「アメリカさん」と呼ばれたり、おばあちゃんたちからバレンタインチョコをもらったり、子どもたちにも大人気でした。



また、支援の届きにくい小さな仮設団地でのお茶会も開催しました。

こちらでは名古屋から来てくれた大学生ボランティアの方が大活躍。仮設のおばあちゃんと、心温まる交流をして帰られました。

⇒ 仮設では折り紙や刺し子などの手しごとが大人気です。





【女性プロジェクト】石巻市



ミサンガ作りからはじまった、石巻市北上町での女性プロジェクト。ミサンガは石巻駅前の観光協会物産館で大人気商品となり、現在生産が追いつかないほどです。

ルーテル教会の皆さまにも随時ご注文いただいておりますが、お届けまでお時間をいただいております。それでも皆さま、「被災地の方の無理のないように」とあたたかいお声かけをくださり、大変感謝しております。作り手も増え、かぎ針編みのストラップやヘアゴム、エコバックやエコたわしなどアイテム数も増えてきました。バザーシーズンに向けて、いろいろご紹介できますので、ぜひお気軽に"となりびと"までお問い合わせ下さい。

仙台教会のご協力



ボランティア支援センター"となりびと"のある仙台教会からも、共にお茶っこ会に出向いていただくなど、ご協力をいただいています。２月末にはお琴の演奏が行なわれました。

日本福音ルーテル宇部教会の礼拝堂で続けられている珈琲コンサートは、1988年に、教会の青年有志によって始められ、年間10回開かれています。

20年以上も以前、アフガニスタンからの難民の、国連難民高等弁務官事務所を通じて、カンパを捧げてきましたが、昨年の3月以降、10回のコンサートに寄せられたカンパは被災者救援のために捧げられ、今後も被災者のみなさんと一緒に歩いていこうとしていらっしゃいます。

『2011年の3月も、コンサートの準備を進めているおり、東日本震災が起こりました。ゲスト奏者の桑永暁宏さん（オーボエ）も、大震災のことを思い、最後のプログラムは鎮魂のため、拍手を遠慮されました。2012年2月25日に開かれた第235回珈琲コンサートは、オルガン奏楽「G線上のアリア」に続いて、佐々木牧師の追悼の祈りで始まった。プログラムは、奏楽者阿部さんのオルガン独奏、そして、この日のゲスト奏者、郷土出身の真野謡子さん（ヴァイオリン）と続きました。』　（宇部教会阿部様よりコメント）



発行:JLERルーテル教会救援　住所：162−0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　電話番号： 090-1116-0595　E-MAIL：f-sato@jelc.or.jp　ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：　@jler_tonaribito

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.5
2012年3月度 活動報告（2012年4月27日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**



4月になり、新年度がはじまりました。今季の冬は、地元の方も驚かれるほど、雪の多い冬でした。桜の開花も例年より遅く、4月下旬になって、ようやく開花しはじめました。長かった冬も終わり、日に日に春が近づいています。スタッフそれぞれ、季節の移り変わりを感じながら、日々活動を続けています。
2012年3月の活動をご報告いたします。



【となりびと】4月を迎え、新体制になりました

ルーテル支援センター「となりびと」は、４月１日の礼拝から新しい体制で歩き出しました。JLERルーテル教会救援派遣牧師として伊藤文雄牧師にかわり、野口勝彦牧師が着任しました。また支援活動コーディネーターであった立野泰博牧師、スタッフの濱村美鹿子さん・西田ちゆきさんが活動を終了しました。
４月１日現在の「となりびと」のスタッフは下記のとおりです。

・ルーテル支援センターとなりびと（事務所現住所：宮城県仙台市青葉区宮町）
派遣牧師　野口勝彦
スタッフ　佐藤文敬（チーフスタッフ）・佐々木潤・千葉　一・鶴見政和・三浦孝子・押野美穂（以上７名）

3月で活動を終えた派遣牧師・現地スタッフからご挨拶



この１年間、全国の諸教会の皆さん、殊に女性会の方々から、石巻市の河北地区、北上町の仮設住宅での「おすそわけ」「お茶っこ会」のために賜りましたご支援に心から感謝申し上げます。皆様の力強い応援、また立野泰博牧師（支援コーディネーター）の現地での弛まぬ指導無しにはとても続けることはできませんでした。西田さん、鶴見さんへの伴走も楽しかった。
「派遣牧師」としての任期は終了しますが、出会わせていただいた現地の大切な方々とは今後も、いのち許される限りは、関わり続けさせていただきます。現に、この４月からはじまった東北大学での「臨床宗教師」養成講座の起ち上げのために他宗教の方々と共に、新たな課題に取り組ませていただいています。感謝。（派遣牧師 伊藤文雄）



私が活動に参加したのは震災から半年近く経ち、避難所から仮設支援へと移り変わる時期でした。全国から届けられる大量の物資を、自立を促す仮設支援でどう配布するのか。とても複雑な支援体制の中、活動に関わらせて頂きました。人が人を支援する難しさを感じる時間でもありましたが、『となりびと』として少しだけ寄り添うことは出来たように思います。今後１日も早い復興を祈っています。（濱村美鹿子）





昨年12月から延べ40回を超えるお茶っこ会を開催してきました。「いつも集まるメンバーは同じだけど来ておしゃべりしたり、手芸をしたりするだけで気持ちが落ち着く」とおっしゃった方がおられました。このような感想に励まされ続けてこられたのだと思います。スタッフとしては３月で役割を終えますが、またボランティアとして来たいと思います。（西田ちゆき）

気仙沼市【コミュニティセンター再建支援】



３月10日の地元紙『三陸新報』に支援を予定している気仙沼市本吉町前浜のコミュニティセンター再建に関連する記事が掲載されました。センターの再建に向け、地元の皆さんの気持ちも高まっています。



また３月11日には、関わりのある仮設住宅では夕方から手作りのアロマキャンドルに火が灯されました。火の周りに集い、昨年起こったことを想いながら静かにときを過ごしました。

東松島市【介護施設支援】



「すみちゃんの家」の「思い出洗い隊」での写真の洗浄が全て終わりました。協力してくださった教会、女性会、個人の皆様、ありがとうございました。

３月10日は、壽美子さんが中心に企画された「走れ!仙石線」が開催され、雨の中、たくさんの方が参加されました。



石巻市【女性プロジェクト】

「女性の視点」を活かした支援活動を続けているスワン国際協力の会の皆さんは、３月10日、石巻駅前で開催された「鎮魂の夕べ」に参加され、来場者の皆さんにチューリップの球根を配布されていました。「ぜひ皆で楽しめるところに植えて下さい」とお一人お一人に声をかけ『石巻が緑溢れる街になりますように』との願いを込めていました。



石巻市【仮設支援】

２月の仮設のお茶会では、刺し子が大人気でした。ルーテル教会救援が用意した支援物資の白い布袋が用いられています。手芸を楽しんで下さるのは女性だけかと思っていましたが、男性で参加してくださる方も。いつのまにか伊藤牧師も針を手にされていました。







2012年3月の被災地での風景



⇦NRK（日本ルーテル教団）のご協力で、チェンバロコンサートが３月２日南方仮設住宅（登米市）と４日仙台教会で行われました。豊かな音色に、皆の心が癒されました。

３月11日の地元紙『河北新報』の震災特集の一画に、仮設のお茶会の様子が取り上げられました。



東日本大震災ルーテル教会救援　2012年3月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）
福島県（南相馬市）

2. ボランティア受け入れ　3月　16名（教会 16名／ 一般 0名）

3. 物資支援の実績　3月 総数 8件 (直接 3件／間接 5件)

4. 仮設支援の実績　お茶会　3月 16 回開催　(のべ約200名参加)





発行:JLERルーテル教会救援　住所：162−0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　電話番号： 090-1116-0595　E-MAIL：f-sato@jelc.or.jp　ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：　@jler_tonaribito

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.6
2012年4月度 活動報告（2012年5月28日発行）

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。





東北にも、遅い春がやってきました。伊藤牧師が「こぶしが咲くと桜も咲く」と現地の方から教えて頂いたと言っていましたが、たしかにこぶし・桜・木蓮・レンギョウなどが、同じ時期に花開き、風景に色を添えていました。
被災地各地では、津波到来を記憶に残す碑や、慰霊碑が整えられはじめています。震災から２回目の春です。

2012年４月の活動をご報告いたします。

【となりびと】4月からのスタッフ体制

３月末に続き、４月中もスタッフの入れ替えがありました。2011年から活動を続けて下さっていた鶴見政和さんが活動を終了。３月中旬に１度ご自宅に戻り、活動を休止されていた抱井さんが、またとなりびとに戻って来て下さいました。また仮設のお茶会担当として塩竈市在住の三浦孝子さんが、７月までの毎週火曜日にお手伝いくださることになりました。顔ぶれも新たに、となりびと一同がんばっています。

・ルーテル支援センターとなりびと（事務所現住所：宮城県仙台市青葉区宮町）

派遣牧師　野口勝彦
スタッフ　佐藤文敬（チーフスタッフ）・佐々木潤・千葉　一・抱井昌史・三浦孝子・押野美穂（以上７名）



⇦去年の６月から８月、今年１月から４月までとなりびとで活動させていただき感謝しています。仮設住宅の方々に顔を覚えて頂き「あら、ルーテルさん！」「いつもありがとね～」などと声をかけて頂くようになり、続けて支援していくことの大切さを知りました。離れていても常に気にかけています。今後も出来るだけ携わっていけたらと思います。関わった人たちとの絆を忘れずに。(鶴見政和)



⇨お茶っこサロンの楽しい茶話を通じて、石巻の皆様からは、郷土料理の作り方や民謡、生活の話など生きる力を学ぶ機会を頂いております。微力ながら皆様に寄り添い、共に歩んでいきたいと思っています。(三浦孝子)

【となりびと】介護施設への長期ボランティア派遣



2011年11月中旬より、女川町のデイサービスセンターおながわへボランティアを派遣しています。前任の中野さんのあと、2月半ばから活動してくださっていたボランティアの市川さんが活動を終えられました。
市川さんは昨年も気仙沼の介護施設で約１ヶ月半の間、介護ボランティアをされました。今回も約１ヶ月半という長期にわたって人手不足になっている介護施設で活動してくださいました。日々刻々と施設の状況が変わる中でご苦労もあったようですが、活動中のお休みの日には、となりびとの他の活動場所にも顔を出して、となりびとの活動をあたたかく見守り、応援くださっていました。本当にお疲れさまでした！

気仙沼市【コミュニティセンター再建支援】



津波で流失したコミュニティセンターの再建支援を進めている気仙沼市本吉町前浜地区では、4月１日、コミュニティセンターに使う材木の伐採が行われました。再建予定のコミュニティセンターは、地元の方々が無償提供してくれた木を使って建設します。

この日は、１人の提供主の山の木をみんなで切り出す作業が行われ、総勢30人以上が参加。

チェーンソーで木を切る作業も建設委員会（地元の人19名で構成）のメンバーがしていらっしゃいました。昼食も地元の女性の方々が準備してくれ、またチェーンソーを持参してきた人の中には80歳を超えている方もいて、この地域の元気ぶりを改めて感じました。（佐藤）



石巻市【仮設支援】



４月から全スタッフが何らかの関わりを持つ体制により、５つの仮設団地でお茶っこサロンを開催しています。内容は、午前中が簡単な体操など、そして各地のお菓子をいただきながら、参加者のお話をお聞きします。午後からはおしんのDVD鑑賞をしています。先日、帰り際に「おしんも頑張っているから」とドラマに勇気づけられて帰って行かれる姿に出会いました。そのような姿に出会う度に、私たちも勇気づけられています。（野口）







４月もたくさんのボランティアの皆さんに、お茶っこに同行していただきました。仙台教会の信徒さんによる手話教室・神戸の音楽療法士さんによるリズム体操など、さまざまなプログラムを提供していただきました。またアメリカやフィンランド、ノルウェー、ブラジルなど世界各地の皆さまに、参加していただきました。



東松島市【漁協支援】



宮戸西部支所では、引き続き事務のお手伝いをしています。ただでさえ忙しい４月の決算期、震災復興の関連書類の提出も続いて、毎日大忙しです。パソコンに詳しいスタッフがお伺いし、細かい数字合わせに奮闘しました。これからも引き続きお手伝いにお伺いしていきます。

登米市【介護事業所支援】



４月23日には介護事業と仮設支援をしている登米市のＮＰＯさくらんぼくらぶのお手伝いとして、神奈川県のプロの方を仮設住宅でのフラワーアレンジメント講座の講師ボランティアとして派遣しました。講座には20名の方が講座に参加し、それぞれの草花の特徴を活かした作品を作って楽しんでいました。

東日本大震災ルーテル教会救援　2012年4月活動概要

1. 活動地域	宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市） 福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ	4月 11名（教会　10名／ 一般　1名）
3. 物資支援の実績	4月 総数 3件
4. 仮設支援の実績	お茶会　4月 9 回開催　(のべ 100名 参加)



発行:JLERルーテル教会救援　住所：162−0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　電話番号： 090-1116-0595　E-MAIL：f-sato@jelc.or.jp　ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：　@jler_tonaribito

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.7
2012年5月度 活動報告（2012年6月30日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







左の写真は、登米市の南方仮設の方が作られたマスコット「立ちあガレイ」です。復興に向かう被災地の方の想いが、強く込められているのを感じます。瓦礫が片付き、更地になった風景。まだ傷跡の残る風景。そんな景色を見ながら暮らす被災地では、震災ストレスのケアが課題になりつつあります。少しでもお力添えできるよう、ルーテル教会救援のスタッフ一同、日々の活動を着実に続けています。
2012年５月の活動をご報告いたします。

【全国からのご協力】被災地関連商品の販売





５月のバザーシーズン、近畿福音桔梗が丘ルーテル教会（三重県）・日本福音ルーテルなごや希望教会が被災地関連商品の販売をしてくださいました。また、日本福音ルーテル東京教会で開催されたJELC総会でも販売、たくさんのご協力をいただきました。



← ５月13日。桔梗が丘ルーテル教会バザーでの販売の様子。東日本大震災の支援コーナーをつくり、義援金箱の設置や、ボランティアに参加された方々の報告も。となりびとの活動の報告もしてくださったそうです。

→なごや希望教会・鈴木さんから報告のメッセージを頂きました。「５月27日、好天に恵まれた中なごや希望教会でバザーが行われました。例年の品と共に今年は東北支援コーナーができました。可愛い手作りブローチやストラップが訪れた人の目を引きました」

【秋のバザーシーズンに向けて】　石巻市・十三浜のワカメや昆布、北上女性プロジェクトのミサンガやエコバック・エコたわし、気仙沼市・前浜の女性グループの手しごと品など、ご用意いたします。

【となりびと】海外からのお客様



５月はドイツ・ブラウンシュバイク教区のBodo Walther氏とアメリカ福音ルーテル教会の石田順孝牧師が「となりびと」を訪問されました。お２人は、震災支援報告と今後の支援活動調査のために来仙されました。お２人とも、これまで「となりびと」で行ってきた支援先を精力的に訪問され、それぞれの献金が、被災地のために有効に使われていることを実感されると同時に、今後も息の長い支援が必要であることを痛感されたようです。
また、５月に仙台でコンサートを開催されたブラザーズ・フォアの方からアメリカでのチャリティーコンサートの収益金を被災地支援のためにという申し出もいただきました。





石巻市【漁協支援】




ルーテル教会救援では石巻市北上町十三浜で合計6基の漁業用テント倉庫の建設支援を他団体と共に行っています。5月24日には、完成したテント倉庫にルーテル教会救援のシールを貼らせていただきました。そのテントの中で、5月の連休中に、十三浜支所のわかめサポーター制度に賛同してくれた方々に贈るわかめの袋詰め・発送作業が行なわれました。となりびとからも5名が参加。２日間で6000袋も袋詰め・発送しました。ボランティアみんなのがんばりに、地元の方も驚いていました。無事わかめ漁が再開できたことの喜びを皆でわかちあいました。




石巻市【仮設支援】




新体制でのお茶っこも板についてきて、体操だけでなく手話や大人の塗り絵など、さまざまなプログラムも行なわれるようになりました。5月16日は、スタッフ・ボランティア全て男性という体制でのお茶っこ開催でした。参加者の男性も入れると、男女比がちょうど半々になり、楽しいひとときだったようです。

５月１日には医療ソーシャルワーカーの方も参加され、生活面や身体のことなど、専門的にお話いただきました。５月９日には、にっこり仮設団地のお茶っこ会で、琴教室を開催しました。琴の音色に聞き入り、初めて触れる琴を楽しみました。毎回のことですが、帰り際に「今度はいつ来るの？また来てね」と言われるのが、となりびとのパワーの源になっています。



石巻市【草取りボランティア】



石巻市北上町にある特別養護老人ホームきたかみからご依頼を受けて、施設内の草取りをはじめました。津波で被害を受けた施設は現在も一部利用出来ない状況が続いており、施設の周りは暖かくになるにつれ、草が生え放題になっていました。広い敷地を数回に分けて、綺麗にしました。

【2週間のボランティアをして】ルーテル学院大



となりびとでは仮設でのお茶っこ会や漁協組合でのお手伝いなど、様々な事を経験させて貰いました。まだまだ大学生の自分ができる事は少ないと感じましたが、できる事を一つづつ気持ちをこめてする事の大切さを学びました。今後も継続的に東北での活動をしたいと思います。(鵜沢大地)



東日本大震災ルーテル教会救援　2012年 5月活動概要

1. 活動地域	宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市） 福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ	5月 13 名（教会 10名／ルーテル学院大学 2 名／ 一般　1名）
3. 物資支援の実績	5月 総数 4件 （[内訳] パイン缶、タオル等 ： 気仙沼市の保育所、登米市の介護事業施設、仙台市の被災地区、南相馬市）
4. 仮設支援の実績	お茶会　5月 10 回開催 （のべ 134 名 参加）

発行:JLERルーテル教会救援　住所：162−0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　電話番号： 090-1116-0595　E-MAIL：f-sato@jelc.or.jp　ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：　@jler_tonaribito

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.８

2012年６月度 活動報告（2012年７月27日発行）

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。







日本各地が台風の被害に見舞われた6月19日、石巻市街地でも避難警報が出ました。たくさんの方が避難し、不安な夜を過ごされました。震災による地盤沈下のため、普段から冠水している地域もたくさんあります。となりびと一同も、何事もないようにと祈る一夜でした。幸いJLERにご縁のある皆さまには被害はありませんでしたが、同じ石巻市内では被害が出たところもありました。最近続いている豪雨による被害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げます。これから台風シーズン本番。どうか被害がありませんように。6月の活動を報告いたします。

【となりびと】2011年の活動と今　～救援活動開始から1年を過ぎて







2011年4/11から始まったルーテルとなりびとの現地活動。１年前と今年の様子を比べ、改めて「あの日あったこと」に想いを馳せ、これからの支援について考えたいと思います。

昨年の支援活動と今年の支援活動は「静」と「動」で表現できると思います。

昨年の４月は泥かき作業などが主で、多くのボランティアさんが、多くの時間をかけて石巻に通いました。５月には、東松島市の小野市民センター避難所に畳の搬入などの作業をしました。６月には、仮設住宅に







生活用品セットを用意したり、プランターに花を植える作業をしました。

一方、今年の同じ時期には、仮設住宅でのお茶会が主な活動となりました。全国から寄せられる様々な物資は、仮設住宅にお住まいの皆さんを大いに励まし、とても感謝されました。

仮設住宅にお住まいの方はこれからが難しい時期。支援の仕方も日々刻々と変化していきます。

「見える」支援から「見えない」支援へ、となりびとの支援の在り方も変化していきます。

（となりびとスタッフ 抱井）

【全国からのご協力】

お茶っこ会のためのお菓子やお茶のご提供、バザーでの被災地関連商品の販売など、全国の皆さまのご協力に、改めて感謝申し上げます。６月は、日本福音ルーテル三鷹教会から、メッセージをいただきました。

6/24(日)の恒例の教会バザーに際して、女性会から「宮城の海産物の販売をしたい」という声が上がり、焼き海苔・塩蔵わかめ各20袋を取り寄せ販売することができました。バザーに足を運んで下さった地域の方々にも、微力ながら被災地の復興支援をアピールすることが出来たことが何よりも喜びでした。

（三鷹教会牧師　李　明生）



お茶っこ会のお菓子は、地域の特産品や人気のお菓子が、話題作りにもなり、喜ばれています。送付をご検討の際は、まずはとなりびとまでご相談ください。

バザー販売品問い合わせ先：j-sasaki@jelc.or.jp





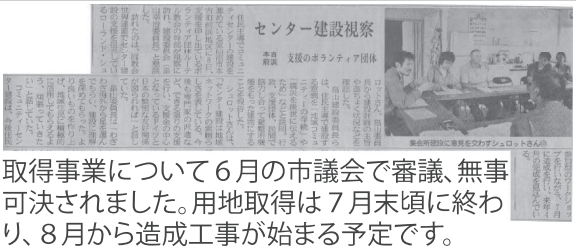
もうすぐ秋のバザーシーズン。ご注文は、早めにお願いいたします。

登米市の南方仮設で作成している『立ちあガレイ』のマスコット、石巻身体障害者"歩む会"の『幸せくるみ（ストラップ）』が人気です。

気仙沼市【コミュニティセンター再建支援】



ルーテル教会救援では、2013年４月の完成を目指し気仙沼市本吉町前浜地区の津波で流失したコミュニティセンターの再建支援を進めています。再建にあたっては、前浜地区の自治会や気仙沼市役所と協力しながら進めています。６月初旬には、気仙沼市役所にコミュニティセンター再建のための指定寄付をする旨を書いた書類を提出しました。これを受けて市役所では、前浜コミュニティセンター再建のための用地取得事業について６月の市議会で審議、無事可決されました。用地取得は７月末頃に終わり、８月から造成工事が始まる予定です。



一方で、6/7-9日には、ルーテル世界連盟災害支援部門のローランド氏が被災地を訪問しました。となりびとスタッフと一緒に伺った前浜地区では、地元紙の『三陸新報』から取材を受けました。

石巻市【仮設支援】





仮設のお茶っこサロンには、さまざまなボランティアの方からのご支援をいただいています。6/12（火）は、教会のボランティアの方の伝手でプロの鼻笛演奏家の方が来て下さり、鼻笛演奏会を実施しました。午前は石巻市河北地区にある仮設住宅で、午後は気仙沼の高齢者施設でそれぞれコンサートをしてもらいました。初めて聴く鼻笛は想像以上のすばらしい音色でした。仮設では、コンサートの後に鼻笛講座も実施。みなさんちょっと恥ずかしがりながらも鼻息で音を奏でることにチャレンジしていました。6/7にはリフレクソロジーの有資格者がボランティアでご参加くださり、大人気。いつもの倍以上の参加者がいらっしゃいました。



おしんの鑑賞会やとなりびとスタッフによる軽い体操も定着してきたようです。仮設に住む皆さんにとってお茶っこ会が、安心してくつろげる場になっています。

石巻市【花壇作り】



6/23、本格的な夏の到来を思わせるような日差しの中、石巻市内の被災地で、心の癒しのために、被災者の方と共に花畑を作るプロジェクトが行われました。主催は石巻のスワン国際協力の会。ルーテル教会救援は、花苗240ポットと花の土などを支援し、総勢12名で被災したお宅の土地をお借りしてお花畑を作りました。



石巻市【支援者支援】



となりびとでは、様々な支援活動をされている地元の団体等を支援する活動も行っています。6/17(日)には東松島市にある介護事業所で「対人援助職のためのサポート研修会」をルーテル学院大学大学院付属包括的臨床死生学研究所と共催で実施しました。若い介護士の方が、生き生きと研修を受けていました。（野口）

東日本大震災ルーテル教会救援　2012年 6月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）

2. ボランティア受け入れ　6月 9名（教会 8名／一般 1名）

3. 物資支援の実績　6月 総数 10件（[内訳]パイナップル缶、タオル、サッカーボール、マスク、花壇用品）

4. 仮設支援の実績　お茶会　6月 12回開催（のべ 141名 参加）

5. 被災地関連商品の販売実績　6月 4,500円（教会 2件）



発行:JLERルーテル教会救援　住所：162−0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　電話番号：090-1116-0595　E-MAIL：f-sato@jelc.or.jp　ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.9
2012年7月度 活動報告（2012年8月28日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







８月のルーテル教会救援は、石巻の川開き祭りからスタートしました。詳しくは次号でお伝えしますが、となりびとスタッフも石巻身体障害者"歩む会"の皆さまと共にパレードに参加させていただきました。震災から２度目の夏を迎える被災地では、週末ごとにどこかでお祭りが開かれています。鎮魂の祈りと、あの日から一歩ずつ前に進んで来たことの証しとしての笑顔が、被災地の夏に溢れています。
７月の活動を報告いたします。

南相馬市【ビニールハウス建設支援】





7/26に南相馬市を訪問しました。ルーテル教会救援では南相馬市の地元の団体「六角支援隊」の相談を受け、仮設住宅の人たちのためのビニールハウスを２棟支援しました。仮設生活では体を動かす機会が減ったため、だんだんと体が弱ってしまう人も出てきていました。そこで、仮設の皆さんが自家菜園をすることで元気を取り戻せるようハウスを建てたのでした。六角支援隊では他団体や地主さんの協力も得て、現在５ヶ所の農地にハウスを５棟建て、ハウスと露地で100人以上の方が自家菜園をやっているそうです。毎日畑に行くのを楽しみにしている方も多いとのことで、帰りには支援のお礼にと皆さんが育てた新鮮な野菜を頂きました。（佐藤）





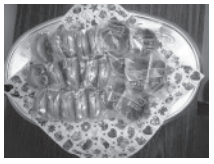
【となりびと】2011年の活動と今　～救援活動開始から1年を過ぎて



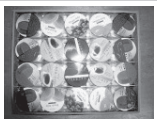


昨年の７月頃は、４月から続いていた石巻ボランティアセンターの受付や、２回目のボランティアバスパック、全国の皆さんの協力によって実現した「おすそわけプロジェクト」など、泥出し以外にも支援の幅を広げている時期でした。５月の雑巾1000枚プロジェクトに続き実施された、おすそわけプロジェクトでは、調味料・缶詰・麺類・生活雑貨など多くの物資が集まりました。ひとつひとつ袋に詰め、皆さんにお配りしました。
今年に入り、全国から集まる「おすそわけ」は仮設に住まわれる皆さんに、憩いを提供する"お茶菓子"に姿を変えました。様々な産地から茶葉も届き、昨年末から実施されている「お茶っこサロン」を盛り上げています。（抱井）





【全国からのご協力 & バザー向け商品ご紹介】





７月もお茶っこサロンにたくさんのご支援をありがとうございました。夏にぴったりの品々、感謝でした。引き続き、送付前にはご連絡をお願いいたします。







左）登米市・南方仮設『立ちあガレイ』
大1800円・中1200円・小500円
中）石巻・身体障害者"歩む会"の
『幸せくるみ』（ストラップ）500円
右）石巻市北上町"にっこり手しごと村"
にっこり北上ミサンガ 600円
ご注文はお早めに！バザー販売品問い合わせ先：j-sasaki@jelc.or.jp

石巻市【仮設支援】





7/4のお茶っこサロンは、午前は神戸から来られた近畿福音ルーテル教会牧師夫妻の狂言風お芝居とお茶っこ、午後からはDVD鑑賞(おしん)でした。「狂言は初めて」という方のために、狂言について簡単な説明をしてくださり、その後、実際に披露してくださいました。いつもの風景に、新しい風を吹き込んでくださるボランティアの皆さんに感謝です。





また、7/14には、河北地区最大の仮設大森団地の第３集会所で団地の周りで使うベンチを住民の方々と作りました。２時間で20脚が完成。今回のベンチづくりのために試作された２つのベンチはすでに集会所で活用されていました。私たちのベンチづくりが終わると、自治会創立記念イベントととして石巻市指定文化財の獅子舞が披露されました。

【全国からのご協力】







7/10のお茶っこサロンは、なごや希望教会からお２人の指導者を迎えて、簡単なキルトづくりに挑戦しました。皆さん一心不乱にキルトづくりに集中され、仕上がり品は喜んで家に持ちかえられました。また、近畿福音ルーテル教会の牧師の皆さんがキルトのなべ敷きを仮設住宅の方々にお配りしました。

石巻市【花壇作り支援】







地元NPO・スワン国際協力の会主催のお花畑プロジェクト第２弾のお手伝いを石巻市内で行いました。一日は草取り。後日、被災されたお花屋さんの指導のもと、地元英会話クラブの方々と共にお花を植えました。こうした場所が石巻では次々に出来、花を見かける機会が増え、私たちの心も和らいでいます。

【となりびと近況】



倉庫返却のため物資をすべて引き上げました。

公用車デリカが、車検切れのため役目を終えました。





石巻市北上町十三浜の大型作業所兼倉庫の建設費の一部を支援しました。

石巻市【女性プロジェクト】



"にっこり手しごと村" という名称で活動を続けている、北上の女性プロジェクト。エコバッグやエコたわしに続き、今年５月からは、布のお地蔵さん作りに尽力されていました。この日はイベントに向けて注文があったお地蔵さん250体が勢揃い。それぞれ個性的で素晴らしい仕上がりでした。

石巻市【地域支援】



つるしびな作りを通して、コミュニティの絆の再生を願い活動を検討されている地元・河北地区のボランティア団体の皆さんとの協働のための準備がはじまりました。



東日本大震災ルーテル教会救援　2012年 7月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）

2. ボランティア受け入れ　7月 9名（教会　7 名／ 一般　2名）

3. 物資支援の実績　7月　総数　5件　（[内訳] タオル、雑巾、パイナップル缶、子ども服）

4. 仮設支援の実績　お茶会　7月　5回開催　(のべ　45名 参加)

5. 被災地関連商品の販売実績　7月　47,500円　（教会 1件）



発行:JLERルーテル教会救援　住所：162−0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　電話番号：090-1116-0595　E-MAIL：f-sato@jelc.or.jp　ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：　@jler_tonaribito

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.10
2012年8月度 活動報告（2012年9月27日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







震災から２度目の夏。東北三大祭りである「仙台七夕まつり」も無事開催されました。今年のテーマは「願い・希望・感謝」。このお祭りに限らず、東北で開催されるお祭りには、東日本大震災で全国各地から寄せられた支援への感謝や復興への願いが込められていました。津波を被った土地にも、ひまわりなどの花が咲き、復興元年の夏を迎えました。
８月の活動を報告いたします。

石巻市【身体障害者“歩む会”　～石巻川開き祭り・アクアパレード】








石巻では7/31・8/1に、治水で石巻の街を救った川村孫兵衛重吉翁に対する報恩感謝の祭りとしてはじめられた「川開き祭り」が開催されました。この日に向けて、活動を再開してきた石巻身体障害者「歩む会」。２年ぶりのアクアパレードでの車いすダンスは、沿道から多くの方の声援を受けて、大成功をおさめました。メンバーの皆さんの輝くような笑顔に、「〝復興〟とはこういうことなのだ」と胸に迫るものを感じました。スタッフ佐藤も、メンバーの一員としてダンスを披露。普段とは全く違う装いに、一同驚愕でした。

【となりびと】2011年の活動と今　～救援活動開始から1年を過ぎて




８月は夏休みということもあって高校生や大学生など、学校関係者が、ボランティアに訪れる時期です。昨年同様、今年も埼玉や東京、遠くは熊本の学校からボランティア活動に来て下さいました。
昨年の８月は、主におすそわけプロジェクトに関わりました。東京の女学生達が活躍し、仮設住宅の集会所は熱気に包まれていました。そして今年の８月は、仮設支援が主でした。高校生は自分達でプログラムを用意し、どうしたら喜ばれるかを考えました。大学生も被災地を感じ、その思いを支援の現場で体現していました。
１年半ほど経過した被災地は、ボランティアの地と併せて、学びの地へともその役割を変化させつつあります。(抱井)




【となりびと】活動を終了しました。



震災直後から被災地に入られ、2011年５月からとなりびとスタッフとして、活動を続けてこられた抱井昌史さんが、活動を終えられました。時折見せる笑顔が素敵な抱井さんの、地道な働きに感謝です。

抱井さんから → 今まで多くのボランティアの方々に支えられ、活動を続けてくることができました。私が一番印象に残っていることは、雨の日も、風の日も、決して投げやりになることなく、地道に生活をしている東北の方々の姿です。ありがとうございました。






石巻市【地域支援】





同じ被災地にありながら居住形態（自宅と仮設）や被災の度合いの違いによって〝目に見えない壁〟が出来てしまった地域社会。「つるしびな」を作り上げる共同作業の中で、その壁を取り払い、地域の絆の回復を目標にする地元ボランティア団体の支援が８月から始まりました。となりびとが、〝つなぎびと〟として協力しています。（野口）

石巻市【仮設支援】





仮設大森第４団地で２回目のベンチづくりプロジェクトを行いました。今回は女性中心のベンチづくりとなり、慣れない手つきでしたが、一生懸命取り組んでくださいました。またお盆時期には、元スタッフの西田さんが仮設のお茶っこ会を担当して下さいました。懐かしい顔の訪れに、仮設の方も喜んでくださいました。

【夏のボランティア】





夏のボランティアの先陣を切ったのは、埼玉県にある聖望学園ハイスクールYMCAの生徒６名と引率教員２名。３泊４日、仮設でのお茶っこ会やベンチ作りに若い力を尽くして下さいました。





続いて、熊本市にあるルーテル学院高校ハンドベル部が、鶴ケ谷教会の主日礼拝、石巻市の仮設大森第３団地集会所でハンドベルを披露して下さいました。被災地に美しい音色が響きました。

8/25に仮設大森団地で行なわれた夏祭りでは、ルーテル学院大学の学生10名と先生が大活躍でした。事前の出店準備には、近畿福音ルーテル教会から２名、そして元スタッフ濱村さん、仙台教会の３名も参加。当日は、学生さんはシャボン玉・いも餅・コーヒーブース、それぞれに貴重な体験をしていました。事前準備から片付けまでの協力に、地元の方も大変喜んでくださいました。









夜行バスで往復という、まさに若さの特権を活かして〝となりびと〟にやってきたのは市ヶ谷教会青年会の皆さん。その日からはじまった仮設飯野川校団地集会所での「つるしびなプロジェクト」に自然体で加わっていました。



気仙沼市【コミュニティセンター再建プロジェクト】





津波で流失したコミュニティセンターの再建支援の工事がいよいよ始まります。建設予定地の購入が完了し、埋蔵文化財の調査等も無事終え、これから造成工事に入ります。前浜地区住民による建設ワークショップも始まりました。連日暑い中、地域の人たちが屋根となるパネル作りに汗を流しています。文字通りのみんなで作る、みんなのコミュニティセンターです。ぜひ一緒に作業をしに来て下さい。（佐藤）



東日本大震災ルーテル教会救援　2012年 8月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）

2. ボランティア受け入れ　8月 30名（教会　6名／ 一般　2名／学生 22名）

3. 物資支援の実績　8月　総数　2件（[内訳] パイナップル缶、Tシャツ）

4. 仮設支援の実績　お茶会　8月 5回開催　(のべ　90名 参加)

5. 被災地関連商品の販売実績　8月 25,000円（教会バザー 1件／となりびと訪問者 1件）



発行：JLERルーテル教会救援　住所：162−0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所： 980-0004　宮城県仙台市青葉区宮町4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター： @jler_tonaribito　E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.11
2012年 9月度 活動報告（2012年10月28日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







暑い日が続いたものの、田の稲穂は日に日に黄金色に輝きを増し、かつて"日高見の国"と呼ばれた石巻では、毎日、すばらしい夕暮れ空を見ることができました。夏の喧噪が過ぎ被災地にもまた落ち着いた日常が戻ってきました。その分、夏の間に芽吹きつつあった諸々の問題も顕在化し、被災地では心が沈みがちな冬に向けて、対策が必要とされています。

となりびと、９月の活動を報告いたします。

気仙沼市【コミュニティセンター再建プロジェクト】





前浜地区で進めているコミュニティセンターの再建支援が、本格的に動き出しました。

８月後半にあった埋蔵文化財の調査では何も出土せず無事に終わり、9/1から建物の屋根兼天井となるパネルの製作が始まり、大工さんらに教えてもらいながら前浜地域の人たちも材木の乾燥やカンナがけなどの作業をしました。ルーテルからも木工経験者がボランティアに来たので、その経験を活かして活動してもらいました。





9/10からは建設予定地の造成工事が始まり、夏には草が生い茂っていた土地が削られ、敷地全体が平らに均されました。本体工事の着工（基礎工事）は11月後半くらいになる予定です。（佐藤）

【となりびと】2011年の活動と今　～救援活動開始から1年を過ぎて





震災から１年半が経ちました。「あれは去年のことなんだよね。」と石巻の方は最近言っていました。なんだかずいぶん時間がたったように感じますが、それだけこの１年半が濃密だったということなのでしょう。

振り返れば昨年の９月はまだ瓦礫の片付けや災害ボランティアセンターの運営支援、また避難所へのスタッフの派遣をしていました。仮設住宅への入居が落ち着いた頃で、新しい生活に必要な物資を届けたりもしていました。



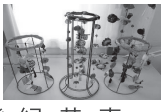


今年は、そうした活動はほぼすべて終え、仮設住宅での定期的なサロン活動（手芸など）や流失したコミュニティセンターの再建など、落ち着いた暮らしを取り戻す活動に取り組んでいます。（佐藤）

【となりびと】募集中

「つるしびな」プロジェクトからお願いです。
詳しくは、担当:野口(k-noguchi@jelc.or.jp)まで。

【材料提供】



①綿 ②江戸組ひも(細めの糸は多く必要) ③洋裁用の接着剤付きの薄い芯地 ④布、ちりめん(白、ピンク、薄橙、緑、黄、青、柄物) ⑤フクロウの目(直径8mmのもの)

【作製ボランティア】
≪内容≫仮設団地・地域の方と一緒に「つるしびな」を作製していただきます。
≪条件・定員≫裁縫等ができる方若干名、性別、年齢を問いません。
≪予定日≫11月8日・15日。以降、2013年3月まで原則第1～3木曜日。



石巻市【漁協支援】

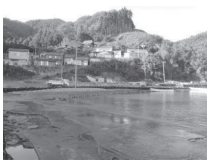




今年の６月から着々と準備を進めていた宮城県漁協石巻地区支所の支援活動が本格的に始まりました。各浜では、震災前にはあった漁具倉庫が津波で流されてしまい、共同で使う道具や資材の置き場所がない状態が続いています。そこでとなりびとでは、石巻地区支所管内の各浜に合計10棟の共同利用倉庫の再建支援をする予定です。9/13には、石巻地区支所管内の各浜の代表者が集まる運営委員会に出席し、今後の支援活動の内容に関する説明会を行いました。

沈下した漁港のかさ上げ工事など漁港全体の修繕工事が遅れている中での支援になりますが、できるだけ早く完成すればと願っています。（佐藤）





石巻市【仮設支援】











９月の仮設支援は、さまざまな団体・ボランティアの皆さんとの協働が多くなりました。9/5は神戸女学院YMCAの女子大生の皆さんとのジョイントお茶っこサロンとなりました。「となりびと」に来ている関西からの男子３人組も、ぶっつけ本番で一緒に歌や踊りを披露しました。

9/25は連携団体の一つ、山の音楽舎による「お茶っこ・うたっこ」。お月見セットの中でのお手玉や棒遊びに、皆さん子ども時代を懐かしく思い出されていたようです。夕方になると待ちに待った子どもたちもやってきました。続く9/26は和太鼓公演。当日、仮設の集会所に到着すると手書きの「歓迎　和太鼓公演　仮設住宅一同」の貼り紙があり、集会所には入りきれないほどの方が集まってくださいました。

また同じ9/26、別の仮設では、札幌中央ルーテル教会の皆さんが用意してくださった手芸キットを用いての「手芸お茶会」を開催。巾着・エプロン・ミニバッグ・エコバックなど、仮設の皆さんは作ってみたいキットをそれぞれ選んで作業されました。翌日27日には、リフレクソロジーの腕を披露して下さいました。

石巻市【地域支援】



9/6は、予定していたボランティア作業が前日に中止となったため、急きょ石巻で畑作業の手伝いをすることになりました。１年以上の活動の中で出来たご縁を通じて、こうしてときおり被災地での暮らしを身近に感じる活動もさせていただいています。

気仙沼市【介護施設支援】



9/28は、東京のたまっ子座と表現教育研究所の方が気仙沼市のリバーサイド春圃で太鼓とわらべ歌のプログラムをしてくれました。現在は仮設の施設で事業をしていますが、被災した建物は現在解体工事が進められ、今月初めにはようやく新しい施設の建設が始まりました。

東日本大震災ルーテル教会救援　2012年 9月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）

2. ボランティア受け入れ　9月 8名（教会 8名／ 一般 0名）

3. 物資支援の実績　9月 総数 0 件

4. 仮設支援の実績　お茶会 9月 9回開催 (のべ 150名 参加)

5. 被災地関連商品の販売実績　9月 47,500円（教会バザー 1件／学校関係 1件）



発行：JLERルーテル教会救援　住所：162-0862 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所： 980-0004　宮城県仙台市青葉区宮町4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター： @jler_tonaribito　E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.12
2012年 10月度 活動報告（2012年11月22日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







宮城県漁協石巻地区支所の支援開始を受けて、牡鹿半島や田代島の港の視察に出向きました。石巻市北上町の町花であるハマギクに出会ったり、茶色く色づきはじめた木々と美しい海の色のコントラスト、浜で淡々と働く人たちの静かな息づかいなど、石巻の風土と暮らしの豊さに触れるひとときでした。

一方で、港周辺では震災の傷跡がいまだ生々しく、水没した道路には大量の貝がくっつき、海の一部のようになっていました。自然のたくましさを感じると共に、改めて震災の日のことに思いを馳せました。10月の活動を報告いたします。

【となりびと】2011年の活動と今　～救援活動開始から1年を過ぎて





「みんなの楽しみだった、トンボ玉を作る器具が全部流されてしまいました」そんな一言からはじまった北上トンボ玉倶楽部とのご縁。津波の犠牲となったメンバーの方がトンボ玉を編みこんでミサンガを作っておられました。そのミサンガ作りを残った人たちの心の支えとして行なうため、2011年10月１日に仮設にっこりサンパーク団地の集会所で講習会が開催されました。以後、定期的に手しごとの時を持つようになり、作品の質も向上し、「にっこり手しごと村」という名称で、作品作りを行なっています。日々元気に過ごしていくために、継続的に手を動かすことや仲間と集う時間・販売によって多くの方とつながる喜びが必要とされています。（押野）





http://www.facebook.com/nikkoriteshigoto

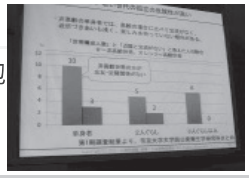




【となりびと】石巻健康生活復興フォーラムに参加しました

となりびとのスタッフは、現状を把握するために、現地で行われる震災関連のフォーラムや講演会などにも時々参加しています。10月29日には、医師らが中心になって支援活動をしている石巻医療圏 健康・生活復興協議会が主催する石巻健康生活復興フォーラムに出席してきました。テーマは被災者の現状と課題といったもので、市や県の行政機関、在宅被災者やみなし仮設で暮らしている被災者、仮設住宅で暮らす被災者をそれぞれサポートしている団体等から報告がありました。

被災者間での復興格差や先が見えない不安などによる精神的なストレス、生活環境の変化に伴う身体機能の低下などなど、被災者の中にはさまざまな問題・困難を抱えている方がいるとのことでした。様々な支援団体等と連携しながら被災者を支えつつ、その力を引き出しながら自立を促していくことがこれからも必要です。（佐藤）



【ご注文受付中】クリスマスカード





昨年、大好評いただいた気仙沼の女性の手作りプロジェクト "KEPPAPPE（けっぱっぺ）" のクリスマスカードが、デザインも一新して再登場です。お早めにご注文ください。

【各地でのご協力】文化祭・バザーシーズン



↑あいにくのお天気の中でも、ほぼ完売とのこと。

日本福音ルーテル東京池袋教会で、気仙沼・石巻の製品を販売してくださいました。また聖望学園高校の皆さんは文化祭の売り上げでお菓子を送ってくれました。

夏のボランティアに続いてのご協力、感謝です。↓



石巻市【仮設支援 ～つるしびな】



↑早速全国から、たくさんのご協力をいただき、感謝しております。





引き続き、材料提供・作成ボランティアを募集しています。詳しくは、担当: 野口 (k-noguchi@jelc.or.jp) へご連絡ください。
【材料提供】①綿 ②江戸組ひも(細めの糸は多く必要) ③洋裁用の接着剤付きの薄い芯地　④布、ちりめん(白、ピンク、薄橙、緑、黄、青柄物) ⑤フクロウの目(直径8mmのもの)

石巻市【仮設支援　～お茶っこ】



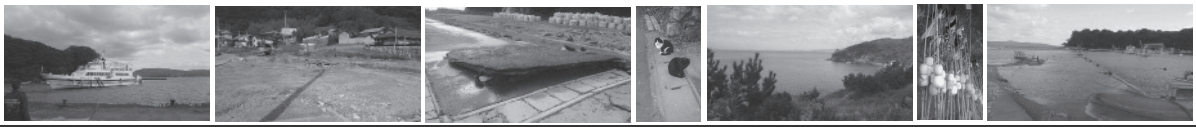


短い秋のうららかな陽射しを存分に味わうように、各仮設でのお茶っこサロン（DVD上映）には、たくさんの方がカートを杖代わりにお散歩がてら集まって下さいました。河北地区最大の仮設(450世帯)である仮設大森第２団地集会所でもお茶っこサロンを開始し、たくさんの方にお集まりいただきました。７世帯しかない仮設赤羽根団地では、駐車場にテントを立て、煎りたてのコーヒーを提供しました。

石巻市【漁協支援】



10月は３回に分けて宮城県漁協石巻地区支所管内の漁港の工事状況を見て回りました。ルーテルとなりびとでは、同管内の10か所にそれぞれ１棟ずつ漁業者のための倉庫兼作業所を建設する予定ですが、震災で沈下するなど壊れた漁港の修繕がまだ終わっていません。そのため私たちの支援も始められないでいます。各浜を見て回りましたが、漁港の修繕にはまだまだ時間がかかりそうです。（佐藤）



気仙沼市【コミュニティセンター再建支援】




９月に始まった造成工事は、10月も引き続き行われました。造成工事を担当している会社も震災関連の仕事がいくつもあるため、忙しい中、職人さんをやりくりしての仕事です。側溝などが入り、それらしい土地になってきましたが、造成が完了するのは11月後半のようです。一方で、住民参加型のワークショップをする際に必要な仮作業所作りが、前浜地域の人たちの手で始まりました。土日に集まり、それぞれの人の特技を生かして建て始めました。




←前浜ブログトップ画面

前浜コミュニティセンター建設委員会のブログも始まりました。インターネットで随時進行状況を見ることができますので、ぜひご覧ください。
⇒ http://ameblo.jp/maehamacommunitycenter/

東日本大震災ルーテル教会救援　2012年 10月活動概要



1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ　10月　4名（教会　3名／一般　1名）
3. 物資支援の実績　10月 総数 1件
4. 仮設支援の実績　お茶会 10月 5回開催（のべ 67名 参加）
つるしびな　10月　3回開催（のべ 72名 参加）
5. 被災地関連商品の販売実績　10月 30,100円（教会バザー　2件）

発行：JLERルーテル教会救援　住所：162-0862 東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：980-0004　宮城県仙台市青葉区宮町4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

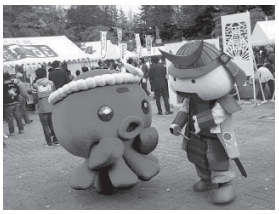
東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.13
2012年 11月度 活動報告（2013年1月15日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







2012年12月７日、再び大きな揺れが東北を襲い、日が落ちて暗くなった被災各地に津波警報が出され不安な夜を迎えました。さいわいなことに、大きな被害はありませんでしたが、まだ2011年３月11日の傷が癒えない中で、当日を彷彿させるさまざまな状況に再び精神的なダメージやそれに伴う身体症状を訴える方もいらっしゃいます。改めて支援の重要性を感じました。11月の活動を報告いたします。

【東松島】走れ!仙石線





震災による津波によって、宮城県第一の都市、仙台と第二の都市、石巻を結ぶJR仙石線も大きな被害を受けました。現在でも一部区間は復旧したものの、全通までにはまだまだ時間がかかりそうです。

その不通区間にある東松島市の東名(とうな)駅周辺で一日も早い仙石線全通を願い、地域イベント「第２回『走れ！仙石線』」が開催されました。







となりびともイベント支援として北海道名物の「いも餅」の模擬店を出店しましたが、用意した200食はあっという間に完売。お店の前には常に行列ができていました。「ボランティアさんと話す機会も少なくなってきたから、今日は久しぶりに楽しい」などお声をかけていただきました。いまなお一階が津波を被ったままのお宅で暮らす方など、さまざまな状況の方が来場されていました。

【となりびと】2011年の活動と今　～救援活動開始から1年を過ぎて







2011年の11月は、毎週５～６名のボランティアさんがとなりびとに来て、瓦礫拾いや物資運搬、汚れた写真の洗浄などの支援活動に取り組んでいました。

介護の仕事ができるボランティアの方には、人手不足で困っていた女川町の介護施設に泊まり込み介護ボランティアをして頂きました。スタッフも入れれば毎日10人近くがとなりびとで活発に活動を展開していました。







それから１年たった今は、現地のニーズの変化に伴い、となりびとで活動するボランティアも１ヶ月で５人程度となりました。物資の支援等は終わり、大きくは仮設支援とコミュニティセンターの再建支援など地元の人たちとともに展開するプロジェクトに絞られています。

ただ、被災地の風景は１年たってもそれほど変わっていないのが実感です。（佐藤）

【各地でのご協力】報告会





11/3-4、東京・三鷹市にあるルーテル学院大学で恒例の愛(めぐみ)祭が行われました。その中で、今年の8月に「となりびと」でボランティア活動を行った学生の方々の報告会が行われました。また被災地支援商品も販売してくださいました。



11/23、日本福音ルーテル松本教会にて「東日本大震災被災者(地)を忘れない～傍観者とならないために」をテーマに甲信地区「信徒の集い」が開催され、となりびとの活動報告もさせていただきました。



【となりびと】外国人被災者報告会参加

23日、石巻市が行った外国人被災者調査の報告会に参加してきました。阪神淡路大震災の時はこのような調査は行われなかったそうで、この調査は画期的なものだと調査に携わった大学の研究者は言っていました。報告として強調していたのは、震災後、避難所などで外国人ということで嫌な思いをしたという人は割合としては少なかったが、1割程度は嫌な思いをしているといった点でした。

また現在、被災外国人が必要としているのは、相談相手や相談する機会とのこと。ほかにも実際に石巻で被災した中国籍や韓国籍の人たちが、ご自身の体験を話されました。（佐藤）

【気仙沼市】コミュニティセンター再建支援



気仙沼市本吉町前浜地区で進めているコミュニティセンター再建支援は、ようやく本体工事に入れる段階にまで進みました。建築確認申請の審査が11月上旬に無事完了し、本体工事に入るための法的な手続きは終わりました。9月から進んでいた造成工事も下旬には完了。住民ワークショップをするための作業小屋も住民の皆さんの力で建ち、いよいよ本体工事に入ります。（佐藤）



石巻市【仮設支援 ～つるしびな】





全国の皆さまに材料支援にご協力いただいている”つるしびな”作り。開始から4ヶ月が過ぎましたが、毎回大好評で、仮設の皆さんと地元ボランティアの方が、心を合わせて、和気あいあいと時間を過ごしていらっしゃいます。

また外からのボランティアの新しい顔ぶれの訪問も、皆さんとても喜んで下さいます。

石巻市【仮設支援　～お茶っこ会】





仮設大森第2団地集会所では2回目、仮設追波川河川団地では9回目とそれぞれのペースで、お茶っこサロンDVD鑑賞会を続けています。登場人物の台詞一つひとつに泣いたり笑ったり、鑑賞時間2時間30分があっという間に過ぎていきます。全国からお届けいただく銘菓も、となりびとお茶っこ会の大事な顔になっています。

石巻市【地域支援】













石巻市の団体・スワン国際協力の会と協働して夏に仕上げた花壇の花が咲き誇り、被災地に心温まる空間が出来上がりました（写真左下）。新たな花壇作りのため、ボランティアの皆様に草取りをしていただき、後日地元の皆様が花を植えられました（写真右）。

石巻市【物資支援】





少なくなってきた物資支援ですが、11月は何件かお届けがありました。仙台で今季の初雪が降る中、東京から布団の物資提供をいただき、支援先の宅老所にお届けしました。また、仮設で子どもの支援をしている団体に絵本や文房具など、使えそうなものをお届けしました。

仮設にっこりサンパーク団地集会所には、登米市の製材所から端材を提供いただき、それを使って台所のサイズに合う棚などを作り設置しました。





東日本大震災ルーテル教会救援　2012年 11月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）

2. ボランティア受け入れ　11月　6名（教会　5名／一般　1名）

3. 物資支援の実績　11月 総数　3件

4. 仮設支援の実績　お茶会 11月　4回開催（のべ 66名 参加）
つるしびな　11月　3回開催（のべ 54名 参加）

5. 被災地関連商品の販売実績　11月 210,900円（教会バザー　4件 / 学校関係 2件）



発行：JLERルーテル教会救援　住所：162-0862 東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：980-0004　宮城県仙台市青葉区宮町4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.14
2012年 12月度 活動報告（2013年1月28日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**





震災から２回目のクリスマスシーズン。「となりびと」の支援センターを置かせて頂いている日本福音ルーテル仙台教会にも、素敵なクリスマスツリーやアドヴェントクランツが飾られました。昨年はクリスマスを味わう余裕がなかったとなりびとスタッフも、今年はそれぞれにクリスマスを過ごすことができました。被災地は被災地なりの”日常”が育まれはじめているのを感じます。2012年12月の活動を報告いたします。





【となりびと】被災地のクリスマス



被災地にも、クリスマスがやってきました。12/4、ルーテル学院大学・日本ルーテル教団　アメリカルーテル教会ミズーリ・シノッドの協力により、クリスマス・ハープコンサートが相川保育所、デイサービスセンターはまぎく、仮設追波川多目的団地集会所で行われました。仮設住宅で行われたコンサートは、被災児の支援活動を行っている地元NPOとの共催で行われました。







12/22には、東松島市の仮設ひびき工業団地に、近畿福音ルーテル鈴鹿教会の皆さんがご用意してくださった子ども用のクリスマスプレゼントを届けてきました。今回のクリスマス会は、企画から準備まですべて住民の方がされたものだそうです。ようやくクリスマスを楽しめるくらい元気になってきたようです。

【気仙沼市】コミュニティセンター再建支援







12/8は専任スタッフ総出で登米市の製材所に前浜コミニュティセンター用の建築資材の運び出しに出かけました。

12/9に行われた建設委員会で、建築の内容や地鎮祭などの日程が決定。12/13、無事地鎮祭が執り行われました。同日、ルーテル教会救援と公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の担当者立ち会いの下、前浜地域振興会と建設業者の間で契約書が取り交わされ、12/19から本体工事が始まりました。現在は、基礎工事をする前の土工事が進められています。建物の位置や大きさを示す杭が設置され建物のイメージがしやすくなってきました。３月末上棟で、７月完成を目指し工事が進められます。







被災地全体に及ぶコンクリートなどの資材不足等々、いろいろ大変な状況の中での建設工事です。無事に工事が進むことを祈るばかりです。

【となりびと】2011年の活動と今　～救援活動開始から1年を過ぎて



2011年10月号から始まったこの月次報告も、14号を数えるようになりました。昨年12月の２号では、”しも子さんのカレンダー” の販売のご案内をさせていただいておりました。津波の中を生き抜いたこのちぎり絵は、地域の方に多くの励ましを与えてくれました。今年の12月には少しずつ前に進んでいる皆さんの気持ちの表れとして、被災地の方からとなりびとへ贈り物を頂くこともありました。





復興の進む中、震災の記憶が薄れることのないよう、となりびとでは、被災地訪問プログラム(防災・減災教育等)を2013年に実施予定 です。

石巻市【仮設支援】つるしびな





12/6、となりびとを訪問されていたJELC東教区女性会の２名の方が、仮設三反走団地でのつるしびなに参加してくださいました。

12/20は今年最後のつるしびな製作を仮設飯野川校団地で行いました。この日は、地元の社会福祉協議会の社協だよりに掲載する写真撮影をするため、社会福祉協議会職員の方が訪問されました。

石巻市【地域支援】にっこり手しごと村



北上町の仮設にっこりサンパーク団地を中心に活動を続けている”にっこり手しごと村”では、新たに布ぞうり作りの講習会が開催され、皆さん意欲的に製作に取り組んでいらっしゃいました。腕前が上がると、支援団体「ふんばろう東日本」を通じて販売もされる予定です。生地は使い古しのTシャツです。現在Tシャツのご支援をお願いしています。





福島県南相馬市【仮設支援】







12/19、福島県南相馬市の仮設団地小池第３集会所でカレーの炊き出しを行いました。元カレー屋さんの日本ルーテル教団杉並聖真ルーテル教会の牧師夫妻と信徒の皆さん、同教団大宮シオンルーテル教会の牧師と信徒の皆さん計15名と、これまで「となりびと」が支援を続けてきた地元団体六角支援隊のご協力により300食のカレーを、クリスマスカードと共に仮設住宅の方々に配布し、300食があっという間になくなりました。







炊き出し後、六角支援隊が仮設住宅の住人の方の生きがいづくりのために、仮設住宅近くで運営しているビニールハウスを含めた農園や、福島第一原発20km圏内警戒区域内を案内してくださいました。

20km圏内は、震災が経過した１年９ケ月たった今も、人が住むことができない夜間出入禁止区域となっており今年７月に訪れたときとあまり変わらない光景が広がっていました。

石巻市北上町【地域支援】神楽衣装







12/15、東京からの洋裁のプロのボランティアの方と共に、北上町十三浜の「大室南部神楽保存会」を訪問しました。保存会の皆さんは、来年５月の神楽復活公演に向けて、衣装や道具の手配、神楽の練習に邁進されています。メンバーの引っ越しなどのために衣装チームの手が足りないとのことで、このたび袴作りのお手伝いをすることになり、その打ち合わせをしてきました。

http://www3.hpez.com/hp/omurokagura/

【となりびと】視察







12/4-5にかけてアメリカルーテル教会ミズーリ・シノッドの災害支援部門のメリットさんが、NRKの安藤牧師とともに被災地を訪れました。メリットさんは４度目の被災地の訪問で、現地の変化を実感しつつも復興が遅れていることについては、アメリカのハリケーン被害の時と同じだと感じたそうです。また仮設住宅や高齢者施設でのハープコンサートも見学し、精神的なケアはまだまだ必要だとおしゃっていました。（佐藤）

東日本大震災ルーテル教会救援　2012年 12月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）

2. ボランティア受け入れ　12月　17名（教会　17名／ 一般　0名）

3. 物資支援の実績　12月 総数　4件

4. 仮設支援の実績　お茶会 12月　1回開催（のべ 18名 参加）
つるしびな　12月　3回開催（のべ 59名 参加）

5. 被災地関連商品の販売実績　12月　129,650円（教会バザー　1件 / 学校関係 3件）



発行：JLERルーテル教会救援　住所：162-0862 東京都新宿区市谷砂土原町1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所： 980-0004　宮城県仙台市青葉区宮町4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター： @jler_tonaribito　E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.15
2013年 1月度 活動報告（2013年2月26日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







今年のとなりびとの活動は1月8日より開始いたしました。開始からほどなく、14～15日には大雪となり、石巻から仙台までの移動に久しぶりに長い時間がかかりました。そんな雪の中にも関わらず、開催したお茶会にはたくさんの方が足を運んでくださり、被災地の皆さんがお茶会を楽しみにしてくださっていること、その向こう側にある仮設暮らしの寂しさや、日々の単調さを感じました。2013年1月の活動を報告いたします。

【となりびと】被災地のお正月





昨年のお正月は「静かに過ごします」とおっしゃられていた方が多かったですが、今年は年末に「お正月飾りを飾ろうかな」「鏡餅を用意しました」という声も聞こえていました。毎年恒例のどんと祭にも参加された方も多かったようです。横浜英和小学校の子どもたちが作ったへびの置物も、喜んで受け取って下さいました。

【となりびと】雪の日の風景

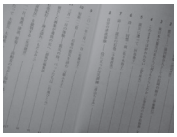




例年に比べ、雪の多い冬になっています。仮設ひびき工業団地でお伺いしたお話では、雪が降ると住民の男性が張り切って、朝早くから雪かきに出てこられるそうです。仕事が充分でない中「何かをしたい」という気持ちが溢れている人が多いのではないかとおっしゃっていました。仕事や家など基本的な復旧も道半ばです。

【となりびと】書籍紹介







"スワン国際協力の会" の代表として、また震災後に全国から寄せられる花を被災者に届けたり、町に花畑を作るなど、積極的に活動を続ける千葉直美さん。そんな直美さんは、文才にも恵まれ、震災後に出版された市民の記録、『震災の石巻ーそこから』『震災の石巻ー再生への道』で詩を披露、また絵本『井戸水とお父さん』（いづれも創風社）に、お父さんを震災で亡くした女の子を励ますようなお話を綴られています。

【となりびと】１年前を振り返って：2012年1月







あっという間のような、長かったような・・・の１年。スタッフ同士で振り返ると、「そんなことがあったね」と思い出すことも多くなってきました。

昨年の１月には、アメリカの青年が長期ボランティアに来てくれていました。そして震災から初めての海苔やわかめのシーズン。どのくらい復旧・復興できるのか不安の中での再スタートでしたが、海苔もわかめも順調に成長し、浜の皆さんに笑顔を運んで来てくれていました。

【お知らせ】被災地関連商品



気仙沼市本吉町を訪れた折、KEPPAPPEの方が支援している仮設天ヶ沢団地のおばあちゃんが作っている五円玉の入った亀のストラップを紹介いただきました。



材料費程度で販売できれば・・・とのことでしたので、ご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。また、今年も美味しいわかめのシーズンが始まりました。
問い合せ先：佐々木（j-sasaki@jelc.or.jp）

石巻市【仮設支援】つるしびな




3 月 2・3 日とビッグバンに展示されることになったつるしびな作りは、完成を目指して進められています。31 日には教会ボランティアに加え、YMCA メンバーも加わり、まさに老若男女と一体となってつるしびな作りに取り組みました。全国から送っていただいたお茶とお菓子も、集まる皆さんの毎回の楽しみになっています。

石巻市【仮設支援】お茶っこサロン




ルーテル教会救援主催のお茶っこサロンでは、「おしん」の鑑賞に加え、最近は集会所に設置されているノートパソコンを利用してパソコン教室を開催しています。ニーズ調査の予定で開催した仮設にっこり団地での初日には「再就職のために身につけたい」という方が訪れて下さり、スタッフの教え方にも力が入っていました。

石巻市【仮設支援 】各地からの応援





22 日、徳島と大阪から西日本ルーテル教会阿波踊り三人組が雪の残る石巻に来られました。午前中は仮設大森第四団地、午後は仮設追波川河川団地にて、阿波踊りの実演と体験をしました。本場徳島からのボランティアさんの指導の下、あっという間に、集 会所は阿波踊り会場に一変。 用意された法被を着て、本場の阿波踊りを楽しまれていました。最後は徳島土産争奪じゃんけん大会や写真撮影で楽しい時間を終えました。





活動開始当初から何度もボランテ ィアにきてくださっている NRK 札幌中央ルーテル教会の方が、また応援に 来てくださいました。一日目は仮設多目的団地でのリフレクソロジー、二日目は仮設にっこり団地での手芸お茶会、三日目は仮設飯野川校団地でのつるしびなに参加です。二日目の手芸は、NRK 札幌中央ルーテル教会の皆さんが作ってくださった手芸キットで 行わせていただきました。定期的なご支援に心より感謝いたします。

気仙沼市【地域支援】コミュニティセンター再建支援





コンクリートなどの資材不足問題が深刻な被災地ですが、コンクリートが確保でき、18 日、基礎となる生コンクリートを流し込む作業が行われました。3 日にはボランティアとスタッフ２名で建設現場の視察に訪れました。天気のよい日でしたが、高台の現場は風がよく吹き抜け、気温の低いこの日は外で話をするには少し厳しい気候でした。「センターが出来上がったら、風対策も考えないと」と地元の方はおっしゃっていました。

【となりびと】防災・減災教育





今年、3 月から本格始動するとなりびとの防災・減災教育ですが、1 月ボランティアに来てくださった方にも、石 巻から気仙沼までの被災地を訪れていただきました。現在の復旧・復興状況を見ていただくとともに、これまでのとなりびとの支援先をご案内しています。あの日のことを忘れないためにも、東日本大震災の教訓をこれから先に起こる震災に活かしていただくためにも、多くの方に参加していただければと思います。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013 年 1 月活動概要

1. 活動地域　　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ　1 月 5 名（教会 5 名／一般 0 名）
3. 物資支援の実績　　1 月 総数 0 件
4. 仮設支援の実績　　お茶会 1 月 5 回開催（のべ 76 名 参加）
   つるしびな 1 月 4 回開催（のべ 50 名 参加）
5. 被災地関連商品の販売実績　　1 月 10,000 円（教会 1 件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：162-0862 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：980-0004 宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://luteran-tonabirito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.16

2013年 2月度 活動報告（2013年３月25日発行）

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。







震災から2回目の3月11日を迎えました。ご家族を亡くされた方々の上に神さまの特別の癒しのみ手が差し伸べられますように、また、行方不明の方々が１日も早くみつかりますよう心からお祈りいたします。

被災地の方々は、復興の明るいニュースと、明日の生活の見えない不安の両面の間で揺れ動く日々を送られているように思います。その心に、これからも静かに寄り添い続けていきたいと思います。

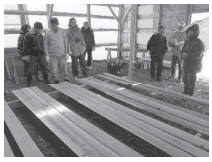
2月の活動を報告いたします。

気仙沼市【地域支援】コミュニティセンター再建





コミュニティセンター再建にあたっては、地域の人たちも建設過程にかかわるワークショップをたくさん開催しています。16日は作業所の壁はりワークショップに参加しました。ドイツ人ボランティアのDavidさんはこの日、生まれて初めての建築作業。板を切る人のサポートや材料を運んだり後片付けをしたり、良く働いてくれました。その次の日





からは、コミュニティセンターの外壁となる杉板を焼くワークショップが始まりました。昔から民家などでは焼き杉板を外壁に使っていましたが、宮城県では珍しいようです。24日は15人くらいの地域の人と建物の設計者や施工会社も参加して、みんなで焼杉をやってみました。ワークショップは3月も続きます。

【となりびと】被災地 2月の風景





間もなく震災から２年を迎える被災地では、今回の被災体験を将来の災害に活かすためのプログラムが増えつつあります。2月９・16・23日は、仙台で復興大学公開講座が開講され、となりびとスタッフも参加してきました。

また、仙台中心部では、復興のための被災地商品の販売が積極的に行われています。

【となりびと】1年前を振り返って：2012年 2月





2011年4月から始まった「となりびと」の活動。この2年の間に、たくさんのスタッフが入れ替わりそれぞれの役割を果たしていきました。以前の写真を見ていると「どうしているかな」と思うこともあります。昨年2月には、宮戸島を訪れるバスツアーも開催されていました。今年から、ツアーは「減災・防災」がメインになります。

【となりびと】ワカメの季節がやってきました



震災１年目からおなじみの西條さんのわかめ。今年もおいしいわかめが出来ました。現在、わかめ・茎わかめ・トロロ昆布（各500円）を販売中です。

西條さんは、お仕事の合間に少しずつパソコンを覚えるなどの勉強もされています。

販売品問い合わせ先：j-sasaki@jelc.or.jp





【となりびと】ドイツ人ボランティア





10日から2週間の予定で、ドイツ・ブランシュバイクのルーテル教会からDavidさんがボランティアのため来仙しました。

仙台に入る前には、被災地を自分の目で見るということで、少し不安があったそうです。それまではテレビでしか見たことがなかったそうですが、やはり実際の被災地はそれとはまったく違ったと言っていました。2年もたつのに、まだまだやらなければならないことがいっぱいあるような被災地の光景に驚いたようでした。気仙沼のコミュニティーセンターの再建ワークショップで、初めての建築作業を体験。仮設でのプログラムでは、つるしびな作りや牡蛎焼きを体験しました。その他、ファミリーホームの訪問や、石巻市内の学童保育所訪問など、初めてづくしの２週間でした。日本語上手な訪問者は、どこに行っても人気者でした。本人も「とても貴重な経験になりました。少しでも何かの役に立てたとしたら嬉しいです」と言っていました。





今回の支援活動においては、ドイツからも多額の支援金が寄せられていますので、ドイツに戻り、ぜひこの被災地での体験を広く伝えて欲しいです。

石巻市【仮設支援】つるしびな




3月の展示会に向けて、つるしびな作りはラストスパートの時期を迎えました。14日は仮設追波川河川団地で21日は仮設飯野川団地で、つるしびな作りが行なわれました。「せっかく顔なじみになったので、このまま終ってしまうのは寂しい」という声が上っていました。18日には地元公民館に、三つの仮設団地と地域のボランティアの方が集い、仕上げをしました。

石巻市【仮設支援】みやぎ宅老連絡会




となりびとでは、みやぎ宅老連絡会が取り組んでいる石巻市河南地区の２ヶ所の仮設での支援活動のサポートをしています。6日、その2カ所の仮設で直面しているそれぞれの課題について、対策ミーティングが行なわれました。その日にボランティアとして来ていた（日福）湯河原教会の牧師にも同行して頂いたところ、フラットな立場から的確なアドバイスを頂き、今後につながる良い会合となりました。

石巻市【漁協支援】倉庫建設





石巻市の半島部で予定している倉庫再建支援の建設工事が始まりました。

21日に折浜・荻浜という２か所の建設現場を見に行きました。どちらも漁港の復旧はまだまだという状況です。荻浜では、沈下した船着き場を取り壊して新しい船着き場を作る作業が進んでいました。港には新しい船が泊まっていました。かさ上げ工事等、漁港の復旧をしながらの工事のため、だいぶ予定から遅れましたが、着工してひとまず安心しました。他の8カ所の建設も、早く着工するよう祈っています。

石巻市【地域支援】にっこり手しごと村




石巻市北上町の仮設にっこりサンパーク団地で行なわれている"にっこり手しごと村"では、布ぞうりのわらじ作りの練習が進んでいます。まだ作り方を覚えていない人に伝授したり、ちょっとしたコツを教え合って、綺麗な仕上がりになるように、がんばっています。仮設の近くにある商店では、中学校の畑で仮設の方々が栽培している野菜が販売されています。安価で新鮮なので喜ばれているようです。



東日本大震災ルーテル教会救援　2013 年 2 月活動概要

1．活動地域	宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2．ボランティア受け入れ	2月 2名（教会 2名／一般０ 名）
3．物資支援の実績	2月　総数 3件
4．仮設支援への実績	お茶会　2月 2回開催（のべ 18名） つるしびな　2月　3回開催（のべ 59名）
5.被災地関連商品の販売実績	2月　０円（０件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：162-0862 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと 住所：980-0004 宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://luteran-tonabirito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.17

2013 年 3 月度 活動報告（2013 年 4 月 23 日発行）

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。





震災から丸2年の11日を越え、新年度が始まりました。ルーテル教会救援の活動は、2014年3月に終了予定です。最後の1年をスタッフ一同、改めて身を引き締めて活動に当たって参ります。残りの時間、ルーテル教会救援の力を、被災地の皆さまに最大限活用していただければと思います。3月の活動をお知らせします。

石巻市【地域支援】つるしびな作り



完成感謝交流会



仮設三反走団地













仮設飯野川校団地



仮設追波川河川団地

昨年8月から始まった「つるしびな」作り。３仮設でそれぞれのつるしびなが完成しました。1日には仮設の方、河北ボランティア友の会、石巻市社会福祉協議会河北支所、ルーテル教会関係者、約50人が一堂に集い、完成感謝交流会が仮設三反走団地集会所で行なわれました。2日は「大川ふるさと祭り」が河北総合センタービッグバンで開催。そのロビーにつるしびなが飾られ、たくさんの方に観て頂きました。4日には各仮設団地で贈呈式を行い、「つるしびな」作りが終了しました。

【となりびと】報告会





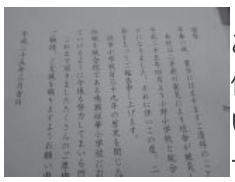


震災から2年の11日、日本福音ルーテル東京教会にて「東日本大震災より２年を数えて 礼拝と報告会」が開催されました。平日にも関わらず、80名を超える方が集まって、礼拝とこれまでの活動についての報告を行いました。会場には「つるしびな」が展示され、支援物品の販売も併せて行いました。

16日にはルーテル学院東北地区同窓の皆さまに活動の報告をさせていただきました。

【となりびと】被災地の風景





震災１年目の冬にサッカーボールを支援した東松島市の浜市小学校から閉校のお知らせが届きました。となりびとが支援している石巻市北上町十三浜にある相川小学校も22日に最後の修了式が行なわれました。寂しいニュースが届く一方、北上町十三浜の大室地区では、となりびとで袴作りをお手伝いした南部神楽の復活祭が5月4日に行なわれ、たくさんの支援と練習の成果が披露される予定です。



【防災・減災教育】ルーテル学院大学スタディーツアー







となりびとではこれまでの支援活動に加え、今回の震災体験を元に、近い将来に予想される震災等に備えた防災・減災教育プログラムを開始します。その第１弾として16日から、ルーテル学院大学の皆さんが３泊４日でこのプログラムを体験しました。

1日目：午前・オリエンテーション、午後・石巻社会福祉協議会訪問。ささえあい総括センター北川進所長の話、夜・わかちあい

2日目：午前・被災地見学（野蒜・宮戸）→介護事業所「のんび～りすみちゃんの家」@東松島市訪問。伊藤寿美子氏の話、午後・石巻身体障害者歩む会の及川会長宅（仮設住宅）石巻市河南町訪問、お話→被災地見学（大川小、雄勝、女川）夜・わかちあい

3 日目：仙台教会主日礼拝出席

以上のプログラムを無事終了し、多くを学んで下さいました。

【防災・減災教育】聖望学園スタディツアー







27日より聖望学園ハイスクールYMCAの皆さんがスタディーツアーにやってきました。

１日目：オリエンテーション

２日目：午前・講義「震災でおきたこと・おきていること―この震災から何を学ぶのか？」午後・被災地見学（東松島市大曲／石巻市門脇・南浜・佐須浜・女川・雄勝・大川小・長面）→十三浜西條きく子さん訪問・お話→被災地見学（南三陸町・防災庁舎、復興商店街等）

３日目：午前・被災地見学（野蒜・宮戸）→石巻身体障害者歩む会の及川会長宅（仮設住宅）石巻市河南町訪問・お話、午後・仮設追波川河川団地集会所でのボランティア活動　夜・ふりかえり

盛り沢山の３日間、若い皆さんは心と体をフル稼働して、たくさんのことを感じ、知り、吸収していってくださいました。

【物資支援】布団お届け




7 日、名古屋などから送られた寝具類を、石巻市で小規模住居型児童養育事業等を営むNPO 法人みやぎ子ども養育支援の会に届けました。

東松島市【漁協支援】事務作業




JF みやぎ宮戸西部支所でのお手伝いが続いています。年度末を迎え、震災直後から取り組んできた助成金処理や決算作業で大忙しです。

石巻市【仮設支援】花器作り




みやぎ宅老連絡会との仮設関ノ入団地のお茶会で、チラシ紙を丸めた棒を使って花器作りをしています。子ども達も一緒に楽しんでいます。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013 年 3 月活動概要

1.	活動地域	宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2.	ボランティア受け入れ	3月　10名（教会　10名／一般　0名）
3.	減災・防災教育	3月　スタディーツアー（2件：21名）
4.	物資支援の実績	3月　総数　2件
5.	仮設支援の実績	お茶会　3月　2回開催(20名参加) 交流会1回(23名) 贈呈式3回(13名) *参加者数は仮設住居者のみ
6.	被災地関連商品の販売実績	3月　169,650円（教会4件／その他1件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：162-0862 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：980-0004 宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://luteran-tonabirito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.18

2013 年 4 月度 活動報告（2013 年 5 月 28 日発行）

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。







しばらく寒さが続きましたが、４月の中旬にはソメイヨシノが咲き始め、下旬には山桜が柔らかな春の到来を告げていた被災地です。一方で、とても風が強い日も多く、仮設住宅が大きく揺れて怖い想いをされたり、工事現場の近くでは砂塵が舞い、目が開けられないほどのところもありました。さまざまな風景が重なり合う被災地での、４月の活動をご報告いたします。

【となりびと】「つるしびな」全国巡回展



石巻市河北地区の仮設住宅に住む皆さんが手作りされた「つるしびな」の全国巡回展が始まりました。４月13日には広島県東広島市の西条教会、20日には愛知県豊田市の挙母（ころも）教会で、24日にはルーテル学院大学、25日には議長会及びルーテル教会救援対策本部会議、29・30日には国立オリンピック記念青少年総合センターでの日本ルーテル教団伝道フォーラム全国大会にて披露されました。







【となりびと】クヌーテン講演会







４月24日、東京都三鷹市にあるルーテル学院大学で行なわれたクヌーテン講演会に、となりびとスタッフ佐藤と、石巻市在住でとなりびとの活動を多方面と繋げてくださった齋藤みや子さんが登壇しました。時折涙を浮かべながらも、震災当時の様子を力強くお話くださった齋藤さんの想いは深く学生の心に届いたことと思います。終了後、同校の礼拝に出席しました。

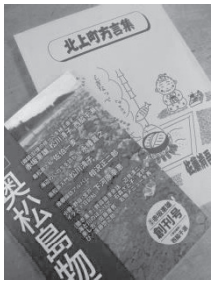
【となりびと】報告会





４月6日、石巻市北上町で支援活動を行っている団体等が仙台に集まり開催したシンポジウムで、となりびとスタッフもこれまでの支援活動について報告しました。また、3月に防災・減災教育プログラムに参加した聖望学園高校ハイスクールYMCA の皆さんが、4月22日～24日、同校での礼拝の中で、プログラムの報告をしてくださったそうです。

【となりびと】被災地の風景



近頃、被災を題材にした書籍だけでなく、地域の文化を伝えようとする内容のものが、地元の方の著作によって出版されるようになりました。『奥松島物語』は、すみちゃんの家の近くである“野蒜”(のびる)や、“宮戸島”　周辺の歴史や文化について書かれています。『北上方言集』は北上町十三浜の佐藤清吾さんの長年の成果が詰まった、素晴らしい内容です。仙台教会に置いてあるので、お越しの際はぜひご覧下さい。

【となりびと】ライアー演奏＆コーラス・ツアー



2011年8月にも被災地各地で演奏してくださったライアー奏者のジョン・ビリングさんとコーラス隊の皆さんがまた宮城に来てくれました。１日目は、気仙沼市・リバーサイド春圃⇒石巻市・めだかの楽校⇒登米市・さくらんぼくらぶ→手のひらに太陽の家 というハードスケジュール。２日目は東松島市・すみちゃんの家⇒石巻市・仮設赤羽根団地（ライアーのジョンさんは、その後もう一公演）、3日目は利府市・ねっこぼっこ園と、それぞれゆったりとした演奏が行なわれました。前回の経験を活かし、日本の歌も演奏してくださったビリングさん。それに合わせて皆さんも歌を口ずさむなど良い時間が流れていました。

気仙沼市【コミュニティセンター再建】

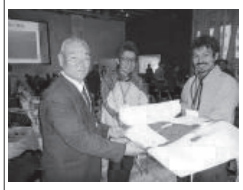






慌ただしく変わるお天気の中、5月3日の上棟式に向けて急ピッチで、建て方作業が進められました。4月の上旬にはまだ基礎工事が終わったところでしたが、15日には、だいぶ建物の構造がわかるようになっており、下旬の27日には上棟式のための机やテントを運搬する作業をしました。このコミュニティセンターは無垢の木をふんだんに使う工法のため、建物に近づくと木の良い香りがします。

石巻市【地域支援】神楽衣装の縫製ボランティア







2012年の年末から始まった大室南部神楽衣装縫製ボランティア。その中でも縫製が難しい袴の製作が、札幌・名古屋・熊本の教会の方々のご協力のおかげで無事に完了しました。出来上がった袴を、4月6日の北上シンポジウムの会場と18日の定例練習会にお邪魔し、お届けしました。18日の練習には、ちょうどテレビとラジオの取材が来ており、お届けした新しい衣装の撮影もされていました。

【となりびと】視察



アメリカから来訪されたLutheran Church Missouri Synod 及び日本ルーテル教団から計5名の方が被災地各地を視察されました。

石巻市【仮設支援】コーラス隊



全員が昭和12年生まれという「ぴよぴよコーラス隊」の皆さんが、石巻市の仮設大森団地・登米市の仮設南方団地にて、笑いあり涙ありの公演を行い、盛り上がりました。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013年4月活動概要

1. 活動地域	宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）	福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ	4月	0名（教会 0名／一般 0名）
3. 減災・防災教育	4月	スタディツアー（0件：0名）
4. 物資支援の実績	4月	総数 7 件
5. 仮設支援の実績	4月	お茶会6回（のべ52名）
6. 被災地関連商品の販売実績	4月	89,350円（教会3件／その他0件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：162-0862 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：980-0004 宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://luteran-tonabirito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.19

2013 年 5 月度 活動報告（2013 年 6 月 27 日発行）

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。







新緑と、どこまでも広がる青い空が気持ちよい日々がまた被災地にやってきました。ツバメが元気に飛び回っていたかと思うと、田植えの終わった田んぼには凛とした鷺の姿が見られるようになりました。自然の歩みと共に人の暮らしも前に進み始めています。5月の活動をご報告いたします。

気仙沼市【コミュニティセンター再建支援】上棟式を迎えました













一桁の気温と強風ではありましたが、澄み渡る青空の5月3日、2011年の7月から始まった前浜地域のコミュニティセンターの再建支援が、ようやく上棟式を迎えました。会場には大漁旗が飾られ、大工さんと設計者・ルーテルのスタッフも屋根に上がり、矢車と五色の旗を設置しました。会場の準備も整い、地域の住民の皆さまや参列者が揃った頃、建物の中で上棟式が始まりました。厳かに進む式を前に、建物の外で待つ地元の皆さんがなんだかソワソワされているな…と思っていると、お待ちかねの餅まきが始まりました。皆さん笑顔で、撒かれる餅を拾っていらっしゃいました。会場に集まった全員での記念撮影の後、祝辞などの式典が始まりました。気仙沼市長のあとにルーテル教会救援の本部長も祝辞を述べ、その後、他の支援者や建設に尽力された皆さまが紹介されました。山形県最上町の皆さんによる餅つきや、新しい長半纏の披露も兼ねた大谷大漁唄い込みなどのお楽しみが続き、無事上棟式が終了しました。建物の完成は、8 月上旬の予定です。

石巻市【地域支援】大室南部神楽復活祭、開催！





5 月 4 日、石巻市北上町十三浜で大室南部神楽の復活公演が行なわれました。会場はルーテル教会救援が建設費の一部を支援した大きな漁業倉庫です。ルーテル教会救援では、この復活祭に向けて、神楽衣装の袴の縫製ボランティアに取り組んできましたが、こちらも無事披露されました。会場には地元の方や支援関係者などたくさんの方が集まり、盛大な復活祭となりました。埼玉や北海道、名古屋、熊本の人たちが縫ってくださった袴について、保存会の方から「長さなどもぴったりで本当に助かった」と感謝の言葉を頂きました。



石巻市【仮設支援】各地からのボランティア





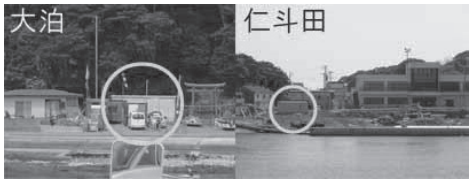
5 月はゴールデンウィークやお仕事の合間を利用して、各所からのボランティアの方が仮設で得意のプログラムを披露してくださいました。5 月 6 日は、仮設雄勝森林団地で言語聴覚士の資格を持った方による口腔ケア体操、8 日は仮設追波川多目的団地でリフレクソロジーのセルフケア講習会、9 日は仮設にっこりサンパーク団地で札幌の教会員の皆さまがご用意くださった手芸キットを用いた手芸お茶会が開催されました。口腔ケアやセルフケアなど健康に関するプログラムは「病院が近くにない立地の仮設では、介護予防の観点からも、とても重要なのでありがたいです」と、石巻社協の方からお声をいただきました。30 日には仮設大森第３団地で再び口腔ケア体操。恒例のおしんの上映会も、5 月中で 4 カ所 6 回開催いたしました。






みやぎ宅老連絡会と協働している仮設関の入団地では住民の方と散歩をして、共に春を楽しみました。

石巻市【漁協支援】倉庫完成

5 月 10 日、スタッフ 2 名が大泊(おおどまり)・仁斗田(にとだ)の各港に 1 棟ずつ完成した倉庫を撮影するために、田代島を訪れました。大泊は神社の横、仁斗田は田代島開発総合センターの近くに建っていました。石巻地区支所の管轄内には計 10 棟の倉庫が建設される予定です。

【となりびと】スタディツアー ＆ 現地見学会のご案内

【スタディツアー】7 月 12 日（金）～13 日（土）：東松島市・石巻市で学びます。東松島市で語り部を始めた女性の方から体験を聞く時間が土曜午前のためそれを中心に構成予定です。日程及び内容等に関するご質問は、 スタッフ佐藤（f-sato@jelc.or.jp）にお寄せ下さい。
【現地見学会】問い合わせ先：野口 k-noguchi@jelc.or.jp

「つるしびな」全国巡回展・各地でのご協力






東京・三鷹で日本福音ルーテル教会東教区 50 周年記念大会が行われ、東教区女性会のご協力により被災地の支援品販売及び「つるしびな」の展示を行いました。また近畿福音ルーテル教会の桔梗が丘ルーテル教会の皆さんが、昨年に続いてバザーで支援品を販売してくださいました。日本ルーテル教団小樽オリーブルーテル教会での女性の集い・兵庫県加古川市の西日本福音ルーテル教会牧師会会場で「つるしびな」の展示をしていただきました。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013 年 5 月活動概要

1. 活動地域	宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）福島県（南相馬市）	
2. ボランティア受け入れ	5 月	7 名（教会　3 名／一般　4 名）
3. 減災・防災教育	5 月	スタディツアー（0 件：0 名）　現地見学会（1 件：2 名）
4. 物資支援の実績	5 月	総数　1 件
5. 仮設支援の実績	5 月	お茶会 11 回（のべ 94 名）
6. 被災地関連商品の販売実績	5 月	192,350 円（教会 4 件／その他 0 件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：162-0862 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1 日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：980-0004 宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://luteran-tonabirito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito E-MAIL：tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.20
2013年6月度 活動報告（2013年7月23日発行）





**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**



被災地でも、４月から始まった新しい生活が一段落し、６月に入り、体の不調や心身の落ち込みを口にされる方が増えてきたように思います。震災から２年３ヶ月。震災以降ずっと地域の方のために働いて来られた地元の支援者の方、行政の方、介護スタッフの皆さまなど、「ケアワーカー」や「支援者」の皆さまの疲れがピークに達しているようです。一度皆さまが心と体の緊張を緩められ、心身の調子を整えられてから、夏を迎えられるよう、心よりお祈りしています。６月の活動を報告いたします。

気仙沼市【支援者支援】リバーサイド春圃の引越手伝い







6/4・5と6/19・20の２回、１泊２日で、気仙沼市にある老人保健施設リバーサイド春圃での引っ越しを手伝いに伺いました。初回は、東京・埼玉・千葉からのボランティアとスタッフを合わせて９名、２回目はボランティア10名とスタッフ４名の全14名の大所帯でした。今回来てくださったボランティアの中には、震災１年目にこの介護施設に介護ボランティアとして寝泊まりしながらお手伝いをした方も複数おり、職員の方との２年ぶりの再会を喜んでいらっしゃいました。







物資を整理したり、利用者の方と利用者の方が使っていたベッドなどを、新築された新しい建物の方に移動させたり。ある者はベッド等を運び、ある者は利用者さんに付き添うなどそれぞれがそれぞれの働きをしました。

震災から、避難所→お知り合いの提供してくださったビルの一角→関連施設の一角→仮設の施設と引っ越しを繰り返されてきた皆さんですが、ようやく内陸に建てられた立派な建物に落ち着かれました。新しい施設での日々の平安をお祈りしています。

となりびと【つるしびな全国巡回展 & 報告会】











6/2～4はアメリカ・サウスカロライナで開催された2013年サウスカロライナ・ルーテル教会総会、6/8は神戸の青谷福音ルーテル教会で行われた西日本ルーテル教会阪神地区女性会、6/16は日本福音ルーテル博多教会、6/17～21は日本福音ルーテル箱崎教会(恵泉幼稚園)、そして6/22には九州教区女性会修養会で「つるしびな」全国巡回展が行われました。九州教区女性会修養会では、九州一円から140名の方が参加され、その中で、となりびと派遣牧師・野口が、これまでの活動報告をさせていただきました。会場入口では支援品販売も行われました。また、6/23は日本福音ルーテル二日市教会にて礼拝奉仕と報告をいたしました。6/30には防災講演会に併せ、日本ルーテル教団鵠沼めぐみルーテル教会で展示が行なわれました。

となりびと【防災・減災教育】文教大学スタディツアー





6/28・29にスタディツアーが行なわれ、文教大学の学生７名と先生１名の計８名が参加されました。

6/28の夜はスタッフのレクチャーを受け、となりびとの活動概要と現在の被災地の様子を学びました。

6/29の午前中は同行された先生が種から育てられた花の苗を、被災されたお宅の土地にスワン国際協力の会の皆さんと共に植えました。その後スワン国際協力の会の代表の方と被災された方々のお話をお聴きしました。午後は、石巻市内の被災地訪問と





訪問先に関連した被災者の方のお話です。まずは、石巻市内最大の被災地の南浜へ。その後、大川小学校のある大川地区で被災された方のお話を仮設住宅の集会所でお聴きし、大川小学校を訪問しました。

定例のスタディツアーの第２回目は9/21~23に予定されています。内容等に関するご質問は、スタッフ佐藤（f-sato@jelc.or.jp）まで。

現地見学会は随時受付・開催しております。問い合わせは、野口（k-noguchi@jelc.or.jp）まで。

となりびと【防災・減災教育】防災講演会 @ 神奈川県藤沢市






6/30は、日本ルーテル教団・鵠沼めぐみルーテル教会（神奈川県藤沢市）の礼拝堂にて、東松島市から２組のご夫妻を招いて、「今、東北に学ぶ～防災・減災」というタイトルで講演会が開催されました。となりびとスタッフが同行し、日本ルーテル教団・支援対策責任者の安藤牧師のお話の後、となりびとの活動について簡単な報告も行いました。

海に近い立地ということもあり、講演会後の質疑応答も具体的な内容で白熱しました。海苔や手仕事品も、多くの方に手に取っていただきました。

気仙沼市【コミュニティセンター再建】




着々と進む工事に、住民もときおりワークショップで参加しています。6/2は柱磨きと、外では子どもたちが外壁の釘頭塗り作業。6/29は外壁の漆喰塗り。だんだん完成に近づいています。

南相馬市【地域支援】




6/18に、六角支援隊の方々にお会いして近況を聞かせて頂いたり、ビニールハウスの利用状況を見せていただいたりしました。六角支援隊では試験的に今年から田植えを始めており、田植えには近隣の仮設の方も参加されたそうです。

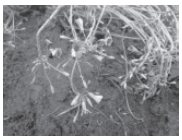
石巻市【仮設支援】手芸のお手伝い





6/25は、仮設大森第３団地集会所の手芸グループに大阪のるうてるホーム手芸クラブから提供された毛糸などをお届けしました。早速その毛糸を利用して、アクリルたわし作りから始めました。今後時間をかけてショールなどを作る予定です。

石巻市【支援者支援】花壇作り

6/26は、石巻市北上社協・はまぎくの敷地の周囲にある花壇にスタッフ４名で花を移植しました。作業の後は４月から北上社協に赴任してきた支所長にご挨拶し、震災当時の市役所の様子などのお話をお伺いしました。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013年6月活動概要

1. 活動地域　　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ　6月　17 名　（教会　12 名／一般　5 名）
3. 防災・減災教育　　6 月　スタディツアー（1 件：　8 名）　現地見学会（0 件：0 名）
4. 物資支援の実績　　6 月　総数　0 回
5. 仮設支援の実績　　6 月　お茶会　7 回（のべ　46 名）
6. 被災地関連商品の販売実績　6 月　61,500 円（教会　4 件／その他　0 件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.21
2013年7月度 活動報告（2013年8月28日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







上旬には少し夏らしい青空が垣間見えましたが、梅雨の明けない７月の大半は涼しく、夏休みに入った中旬もまだ夏とは思えない陽気でした。大雨の被害に悩まされた地域もありましたが、ひまわりの花が咲き、仙台では七夕祭りの準備が整い、夏まつりも週末ごとに開催され、少しずつ家族親戚一同が集う夏を迎える準備が進んでいます。となりびとも８月の夏まつりのお手伝いなどに向けて慌ただしくなってきました。７月の活動を報告いたします。

石巻市【地域支援】「歩む会」@川開き祭り







7/31、恒例の石巻川開き祭り・アクアカーニバルが開催され石巻身体障害者「歩む会」の皆さまが車椅子ダンスを披露されました。となりびとスタッフも昨年に引き続き、ダンサーとして・記録係として、お手伝いしました。あいにくの空模様で、雨降りが心配されましたが、「歩む会」のメンバーが路上にいる間は雨もなく、無事に、華麗な踊りが披露されました。助成金を受けて揃った新しい衣装が華やかに、石巻の町に彩りを添えていました。「歩む会」の活動が末永く続きますように。

登米市【支援者支援】「手のひらに太陽の家」







7/10、となりびとで福島市から現地までの送迎バス費用の支援を行った「手のひらに太陽の家」を訪問しました。今回となりびとが支援した送迎バスを利用して、「手のひらに太陽の家」まで来た親子の皆さんの森林ディキャンプを見学させていただきました。福島では保育園でお散歩ができない、園庭で遊ぶ時間も限られているなど、子どもを取り巻く環境はいまだ厳しく、「手のひらに太陽の家」を訪れた子どもたちは、思う存分に土いじりや草木とのふれあいを体験しています。

東松島市【仮設支援】仮設団地の夏祭り





7/21に、昨年花火をお届けした東松島市の仮設響工業団地の夏祭りに、今年はペットボトルの飲料５箱（24本入り）と飲料販売用のポリバケツ２つを支援しました。自治会のメンバーが変わり、お祭りの様子も昨年とは変わっていましたが、この夏祭りを目当てに仮設に住むおばあちゃん・おじいちゃん宅に遊びに来たお孫さんたちもいて、一家そろってお祭りを楽しむ様子が見られました。

となりびと【つるしびな全国巡回展】







7/14・15に霧島温泉にて日本福音ルーテル教会南九州群修養会(宮崎・鹿児島・阿久根教会)が行われました。その中で、ルーテル教会救援の報告会及びつるしびな展示、支援品販売をさせていただきました。被災地から遠く離れた鹿児島で、被災地を覚えて多くの支援品を購入していただきました。ありがとうございました。「つるしびな」及び支援品は、7/21まで宮崎教会で展示・販売していただきました。

【報告活動】現地見学会




7/5から7/7まで、日本福音ルーテル教会女性会連盟及び東教区女性会の役員の方々が現地見学会に参加されました。1 日目は、仮設追波川河川団地集会所でのお茶っこサロンを見学後、仮設住宅での「つるしびな」づくりの指導を行った「河北ボランティア友の会」の方々と交流会を行いました。2 日目は南三陸町・気仙沼市本吉町・石巻市北上町十三浜を訪れました。3 日目の日曜日には、仙台教会と鶴ヶ谷教会の礼拝に出席されたあと、帰路に着きました。このような現地見学会は随時受付しています。

【防災・減災教育】第 1 回定例スタディツアー

7/12・13に、第 1 回目の定例スタディツアーを開催しました。東京や埼玉、北海道から参加者があり、震災と今の現状についてお話を聞きました。2 日目の午前中は東松島市・すみちゃんの家の伊藤壽美子さんより、震災の時のこと、震災を経験して伝えたいことなどをお話し頂きました。東松島市の仮設の食堂で昼食後、石巻市に移動し、齋藤さんご夫妻の案内で日和山や南浜町を訪れました。午後は、牡鹿半島の蛤浜を訪問。カフェはまぐり堂で店主の亀山さんよりお話を伺いました。




第 2 回目の定例スタディツアーは、9/21-23で参加者募集中です。お問い合わせは、スタッフ佐藤（f-sato@jelc.or.jp）まで。

【防災・減災教育】聖望学園スタディツアー





7/28から7/31まで、埼玉県の聖望学園ハイスクールYMCA部の 1 年生 6 名と先生・チャプレン、エジプトから帰国したNRKの信徒の方 1 名の計 9 名が、「となりびと」のスタディツアーに参加されました。7/29の午前中は鶴ケ谷教会の集会所をお借りして、スタッフの講義に、午後からは仮設追波川河川団地集会所でのお茶っこサロンのボランティア活動にのぞみました。その後、仮設住宅の方々が被災前に住まわれていた大川地区を訪問し、震災の爪痕を体感しました。





7/30は、東松島市の被災地を訪問した後、石巻市北上町でわかめ養殖をされている方を訪問し、お話を伺いました。午後は、南三陸町で語り部をしている同じ高校 1 年生の方から、震災当日の様子や避難所での想像を超えた生活についてお話を聞き、同年代の体験に、強い印象を受けられたようです。その後、南三陸町の防災庁舎や石巻市の日和山、南浜町などの代表的な被災地を訪問しました。聖望学園からは 8 月にもスタディツアーの申し込みがきています。

石巻市【支援者支援】古武術介護講座




7/24は、みやぎ宅老連絡会と共同で石巻市の介護事業所で、介護職員のための古武術介護講座を開催しました。「古武術介護」は聞き慣れない言葉ですが、体の上手な使い方を身に付けることを通して、少しでも身体的・精神的な負担を軽減させたいというのが、今回の講座の目的でした。講師の岡田慎一郎氏から古武術的な体の使い方を基本から学んだ介護職の皆さんは、実際にその動きを試してみて体への負担が全然違うことに驚きの声を上げていました。

気仙沼市【コミュニティセンター再建支援】ワークショップ




7/27にスタッフ2名が、気仙沼の前浜コミュニティセンターのワークショップに参加しました。雨の中、床張り作業を進めました。大工さんが、基本的な位置をまず決め、それに続いて住民の人たちが床板を順々に張っていきます。地元から10名以上の方が参加しました。雨が上がったタイミングを見計らい、屋外では山形から送られてきた杉の大木の飾り柱の設置作業が始まり、無事設置されました。床張り作業もどんどん進み、最後の端は大工さんが仕上げてくれました。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013 年 7 月活動概要

1. 活動地域　　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ　7 月 0 名　（教会 0 名／一般 0 名）
3. 防災・減災教育　　7 月　スタディツアー（2 件：14 名）
4. 報告活動　　7 月　現地見学会（1 件：5 名）、報告会（1 ヶ所）、つるしびな全国巡回展（2 ヶ所）
5. 仮設支援の実績　　7 月　お茶会 7 回（のべ 64 名）、パソコン教室 2 回（のべ 10 名）
6. 被災地関連商品の販売実績　7 月 43,700 円（教会 3 件／その他 1 件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.22
2013年8月度 活動報告（2013年9月26日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**





「青空は海からやってくる」と浜の方が教えて下さいました。その通り、海辺で真っ青な空を望むことができた次の日から、仙台をはじめ、被災地各地に夏がやってきました。夏祭り、サマーキャンプ、そしてお盆と慌ただしい日々が続きました。「震災前の夏祭りはこうだった」「昔のお盆はこうやって過ごした」と、震災前の様子を話して下さる方がいらっしゃいました。震災から３回目の夏。ようやく震災前を振り返るところまで、気持ちが回復されてこられたのだと感じる出来事でした。８月の活動を報告いたします。



石巻市【仮設支援】大森団地夏祭り








仮設大森団地の夏祭りが8/24に無事開催されました。昨年同様、事前の会議から、ポスター作り・お祭り当日に着るＴシャツ作りなど、準備期間もずっと住民の方と関わりを持ち、夏祭り直前には、こちらも昨年に引き続き、ルーテル学院大学の皆さんがボランティアに来て下さいました。今年の「となりびと」の出店は、いも餅・水出しアイスコーヒー・ひやしあめ、そして子ども向けにシャボン玉とストラックアウトの４ブース。昨年の経験も活かしながら、より住民の皆さんに楽しんで頂けるように工夫を凝らしました。当日は夏の最後を惜しむような陽射しの強いお天気で、子どもたちは汗をかきながら、夏の終わりを楽しんでいました。








となりびと【つるしびな全国巡回展 & 報告会】








8/4、日本福音ルーテル熊本教会にて、午前は主日礼拝の説教で、午後は報告会で被災地の現状と「となりびと」の働きについて報告いたしました。8/5は、阿蘇山荘で行われた日本福音ルーテル九州教区中高生キャンプの中で、被災地の現状などを学びました。8/6には、熊本市内で日本福音ルーテル幼稚園・保育園連合研修会が行われ、報告会と「つるしびな」展示をいたしました。8/11は、午前中は西日本福音ルーテル吉野川教会にて、午後からは西日本福音ルーテル東徳島教会にて報告会を行いました。8/15・16、京都でのカトリック/ルーテル国際会議にて「つるしびな」展示が行われ、被災者の思いが世界の人々に伝えられました。8/28、日本福音ルーテル東京教会にて行われた「るうてる法人連合会総会」にて東日本大震災被災地の現状報告とつるしびな展示、支援品販売をいたしました。




【支援者支援】北上子どもキャンプ





8/3-4にかけて石巻市北上町の女性グループが子どもキャンプを実施し、となりびとは地元からキャンプ場までの移動費を支援しました。子どもたちからの「キャンプに行きたい」という声に応えての開催です。

宮城県の内陸にある栗駒高原のキャンプ場で、牛乳パックを使ったホットドッグ作りをしたり、馬にえさをやったり、川遊びをしたり、アーチェリーをしたりと盛りだくさんの２日間でした。引率した大人も「久しぶりにこんなに楽しい時間を過ごせた」と満足されたようでした。

【防災・減災教育】旭ヶ丘母子ホームスタディツアー




8/24に、千葉県から旭ヶ丘母子ホームの中高生がスタディツアーに参加しました。まず南三陸町に向かい、千羽鶴を防災センターに捧げました。その後、仮設商店街でお土産を買い、石巻市へ。大川小学校で、折り鶴を学校関係者の方に手渡し、その後、大川小学校のある地域で被災され、現在は仮設団地に住まわれている方から、震災直後のお話などをお聞きしました。

第３回目の定例スタディツアーは、10/29（福島県南相馬市編）、第４回目は11/2-4（名取市・石巻市編）で参加者募集中です。お問い合わせは、スタッフ佐藤（f-sato@jelc.or.jp）まで。

【防災・減災教育】聖望学園スタディツアー





8/19-22、埼玉県の聖望学園ハイスクールYMCA部の５名と先生・チャプレンの計７名が、「となりびと」のスタディツアーに参加されました。8/19に仙台入りした生徒たちは、8/20午前中、南三陸町を訪問し、地元の中高生たちの語り部グループ「まずもって」のメンバーから震災当日の話などを聞きました。テレビの取材が入ったため、生徒たちはぎこちない感じでした。お昼ご飯は南三陸町戸倉地区にあるラーメン屋さんへ。お店の方が震災のお話をしてくれて、その生々しい話は皆の心に強く響いたようでした。午後は、仮設住宅でのチラシ配りをした後、石巻市の花壇をつくっているスワン国際協力の会の方と一緒に草取りをしました。さらにその帰りには日和山や南浜町、東松島市の野蒜地区などをまわりました。





8/21の午前は鶴ヶ谷教会でスタッフから震災に関する講義を受け、午後は石巻市の仮設住宅にお邪魔しました。おらほのラジオ体操をして体をほぐし、その後、黒色の台紙と色のついたセロハンでステンドガラス作り。思い思いの色を使って作り上げました。

石巻市【漁協支援】漁具倉庫、完成しました








8/27-28、石巻の牡鹿半島のいくつかの浜で再建支援をした共同利用倉庫の引き渡し式を行ないました。早速漁船から養殖いかだの位置がわかるようにするための浮標灯などが保管されていました。野ざらしにすると、特にロープなどは傷むのが早くなるため、助かるとおっしゃっていました。

【となりびと】被災地での風景





8/2、仮設大森第３団地集会所で行われた、地元NPO団体主催の子ども支援プログラムの支援を行いました。

8/7・28、仮設大森団地集会所で住民の方向けのパソコン教室を開催、今後も定期的に行っていきます。

8/29、ほぼ完成した前浜マリンセンターで地域の自治会と建設委員会が行われました。落成式は9/15です。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013 年 8 月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ　8 月 10 名　（教会 1 名／学校 9 名）
3. 防災・減災教育　8 月　スタディツアー（ 2 件：21 名）
4. 報告活動　8 月　現地見学会（0 件）、報告会（6 ヶ所）、つるしびな全国巡回展（7 ヶ所）
5. 仮設支援の実績　8 月　お茶会 4 回（のべ 38 名）、パソコン教室 2 回（のべ 12 名）
6. 被災地関連商品の販売実績　8 月 0 円（教会 0 件／その他 0 件）

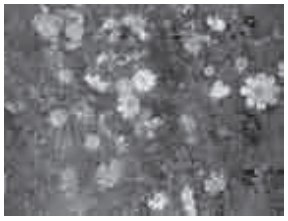
発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.23
2013年9月度 活動報告（2013年10月28日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







芋煮は山形が有名ですが、宮城の秋にも欠かせない行事です。スーパーではこの時期には鍋など貸し出したり、具材セットを売っています。芋煮といっても、豚肉と里芋と野菜などがメインの味噌仕立てで、豚汁に似たものです。今年も、各週末に各地で芋煮会が開催されていました。

お彼岸のおはぎ・お月見のお団子とススキなど、震災前は当たり前に行っていた行事を噛みしめるように行っている方、まだその余裕がない方、さまざまの暮らしが、いまの被災地にはあります。9月の活動を報告いたします。

気仙沼市【コミュニティセンター再建支援】前浜マリンセンター落成式



地元で再建の話が出てから2年半余り。建設に向けた具体的な動きが始まってからちょうど2年。宮城県気仙沼市本吉町前浜地区のコミュニティセンター「前浜マリンセンター」が、ようやく完成しました。落成式を翌日に控えた9/14は、横断幕や紅白幕の設置など落成式の準備作業を行いました。この日は夏日となり日中は30℃近くまであがり、雨も降らず、準備するには良い天気でした。落成式当日の9/15は台風が近づき、朝から雨が降るお天気でしたが、200人を超える人たちが落成式に列席しました。



ルーテル教会救援からは、青田本部長はじめ建設費を支援してくれたドイツDKHのミヒャエルさん、アメリカルーテル教会ミズーリシノッドのアジア地区の責任者のミシェルさん、また同広報のメーガンさん、NRKの安藤牧師、日本福音ルーテル社団の中川理事長ら総勢17名が参加しました。11時から開始された落成式はテープカットから始まり、挨拶や経過報告などがありました。続く祝宴は、ミシェルさんとミヒャエルさんが乾杯の音頭をとり、スライド上映・大漁唄い込み・胴上げと、閉会まで大盛会となりました。

となりびと【つるしびな全国巡回展 & 報告会】



野口派遣牧師が、9/22・23に日本福音ルーテル（以下JELC）大阪教会で開催されたJELC西教区女性会修養会および50周年大会に招かれ、活動の報告をしました。つるしびなの展示は、9/14・JELC東海教区伝道セミナー(みのり教会)9/21・日本ルーテル教団旭川パウロルーテル教会、9/28・神戸聖書学院防災講演会、9/29・西日本ルーテル西須磨教会と日本ルーテル教団札幌中央ルーテル教会で行われました。



【現地見学会】日本福音ルーテル教会女性会連盟





9/6・7に行われた日本福音ルーテル教会女性会連盟主催の現地見学会には、北海道と東京から計5名の方が参加されました。一日目は、仮設追波川河川団地集会所で、つるしびな製作に関わられた仮設団地の方々と地元ボランティア団体の方との交流会に臨みました。翌日は、解体が決定した南三陸町の防災庁舎・気仙沼市本吉町の前浜マリンセンター・気仙沼市鹿折を回り、二日間の見学会を終えました。

【現地見学会】日本福音ルーテル豊中教会





9/9～11の三日間、日本福音ルーテル豊中教会の現地見学会が行われました。初日は、南三陸町の防災庁舎・気仙沼市本吉町の前浜マリンセンター・気仙沼市鹿折を回り、二日目は石巻市南浜・門脇地区を訪問、仮設三反走団地集会所で、元小中学校長先生のお話をお伺いしました。最終日は仮設大森団地のパソコン教室を見学し、被災地の現状について聞いた後、お茶っこサロンのチラシを配布し、仙台に戻りました。

【防災・減災教育】防災講演会@神戸



9/28、神戸ルーテル聖書学院で防災講演会を開催しました。今回は宮城県石巻市北上町の佐藤清吾さんをお迎えしての講演会でした。震災当日の状況やその後の浜の復興の見通しがまだ立っていない話など、いろいろなお話をしていただきました。北上町十三浜とは、震災直後の4月頃からつながりができ生活物資の支援から、漁協支援・神楽の衣装の支援等、さまざまなお手伝いをさせていただいてきました。



【防災・減災教育】第二回定例スタディツアー






9/21～23、第二回目のスタディツアーを開催しました。九州から4名、近畿から1名、関東から2名、地元宮城から4名の参加者がありました。初日は仙台教会でスタッフから簡単な説明を受けたのち、石巻へ。自宅の一部をコミュニティカフェとして開放している方にお話を聞きました。二日目は、仙台教会の礼拝に出席したのち、南三陸町へ。復興商店街で昼食後、気仙沼市の前浜マリンセンターを訪問しました。その日は気仙沼湾に面するホテルに宿泊。三日目は、当初の予定に追加して、陸前高田や大船渡まで足を延ばしました。

【仮設支援】集会所での手仕事



9/14、仮設にっこりサンパーク団地で定期的に札幌から手芸キットを持参してくださる方の指導の下、お茶っこサロンを開催しました。

仮設大森団地では、夏は休んでいた手仕事を再開。毎週皆で手を動かしています。



【となりびと】被災地での風景





9/20、みやぎ宅老連絡会との共同で第３回古武術介護講座を開催し、今回も皆さんにご好評頂きました。

9/21、仮設大森団地で開催された芋煮会に参加させていただきました。体操教室なども行なわれました。

毎週水曜日・週1回ペースで、仮設大森団地でのパソコン教室がはじまりました。皆さん毎回真剣に取り組んでおられます。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013 年 9 月活動概要

1. 活動地域　　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ　9 月 1名　（教会 1名）
3. 防災・減災教育　　9 月　スタディツアー（ 1件:11名）
4. 報告活動　　9 月　現地見学会（2件:11名）、報告会（1カ所）、つるしびな全国巡回展（6カ所）
5. 仮設支援の実績　　9 月　お茶会 5 回（のべ 59名）、パソコン教室 4回（のべ22名）
6. 被災地関連商品の販売実績　9月150,050円（教会6件／その他3件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.24
2013年10月度 活動報告（2013年11月28日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







伊豆大島、そしてフィリピンと大きな災害が続きました。東日本大震災の被災者の皆さんも、あの震災を思い起こさせる光景に胸を痛め、そして現地の方を案じておられます。ご自身の体験を重ね、必要以上に気に病まれることがないよう祈るばかりです。となりびとスタッフも、現地に飛んでいきたい気持ちを抑えながら、東北の皆さんと、現地の１日も早い復旧・復興をお祈りしております。

10月の活動を報告いたします。

【防災・減災教育】防災講演会@米子





10/19午後、西日本福音ルーテル教会の米子教会（鳥取県）で防災講演会を開催しました。となりびとの活動の報告の後、兵庫県立大学准教授で防災の心理学や防災学習の専門家である木村玲欧先生に講演していただきました。これから起こると言われている南海トラフ大地震に対し、どういった備えをすべきかお話し頂き、参加者は「やっぱり事前に準備しておかないといけないな」と言っていました。

【仮設・支援者支援】被災地での活動



10/6、仮設大森第三団地集会所にて、横須賀から先生をお招きして布ぞうり講習会が開催されました。在宅の方も参加され、よい交流のきっかけになりました。



10/1・22・26、仮設大森第三団地集会所にて開催されている大森コスモス会の手仕事のお手伝いをしました。毎回アイデアを出し合い、楽しいときを過ごしています。



10/19、みやぎ宅老連絡会との共催で仙台市宮城野区市民センターにて「対人援助職のためのサポート講座」を開催し、好評いただきました。

【となりびと】つるしびな全国巡回展











10/5：日本福音ルーテル（JELC）千葉教会
10/6：JELC津田沼教会・札幌教会札幌礼拝堂
10/3～11：めばえ幼稚園
10/12：JELC栄光教会で行われた
　　JELC東海教区女性会修養会にて
10/14:北海道地区一日神学校
　　および日本ルーテル教団北海道地区総会にて
10/19・20：日本福音ルーテル帯広教会
　　帯広礼拝堂・池田礼拝堂・釧路礼拝堂
10/26・27：日本福音ルーテル函館教会





上記の日程で、「つるしびな」の展示を行っていただきました。各地の皆さまから、被災地へのメッセージもたくさんお寄せいただき、本当に感謝いたしております。

【現地見学会】日本ルーテル教団








10/22～24、日本ルーテル教団の現地見学会が行われました。初日は、仙台教会→荒浜→松島・円通院→東松島・すみちゃんの家→宮城県漁協宮戸西部支所→奥松島の民宿と、大移動です。





二日目は、仮設河北三反走団地集会所で被災された方のお話を聞いた後、にっこり・女川を見学。





最終日は、十三浜のわかめ生産者を訪問後、南三陸を通り、前浜マリンセンターを訪れました。

【となりびと】報告会








10/5は日本福音ルーテル（JELC）千葉教会での東教区女性会会長会、10/6はJELC津田沼教会、10/12はJELC札幌教会札幌北礼拝堂、10/13は主日礼拝前の札幌礼拝堂教会学校、午後は教会の皆様に報告しました。

【防災・減災教育】第３回定例スタディツアー：南相馬編





10/29、第3回の定例スタディツアーを開催。熊本や福岡、徳島、東京、北海道などから8名の方の参加がありました。仙台教会でとなりびとの活動や被災地の現状等について説明を受けた後、南相馬へ向け出発。最初に仙台市若林区の荒浜を見学しました。午後はとなりびとが支援してきた六角支援隊の方々に南相馬各所を、案内してもらいました。夜間の滞在が認められていない小高地区や仮設入居者のためのビニールハウスなどを見学しました。

【現地見学会】日本福音ルーテル甘木教会





10/29～31、福岡から来られた4名の方と共に、日本福音ルーテル甘木教会の現地見学会が行われました。初日は南相馬スタディツアーに同行（上記記事）、二日目は仙台教会を出発し、まずは南三陸へ。前浜マリンセンターでスタッフの説明を聞いたのち、仮設河北三反走団地集会所にて被災された方のお話をお伺いし、夜は松島観光をしました。





最終日は仮設追波川河川団地で、持参された手作りのティッシュ入れと、来週行われるお茶っこサロンのチラシ配りをしました。道の駅で買い物をしたのち、今回の震災で最も被害の大きかった石巻市南浜・門脇地区へ。南浜地区では津波の高さに驚き、次に訪れたJR野蒜駅ではその衝撃の強さを実感。最後は松島の絶景を目にし、いまだ傷の癒えない被災地と、復興の進む地域との落差を感じました。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013年10月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ　10月 0名　（教会 0名／学校 0名）
3. 防災・減災教育　10月　スタディツアー（ 1件：8名）
4. 報告活動　10月　現地見学会（2件:16名）、報告会（4カ所）、つるしびな全国巡回展（12カ所）
5. 仮設支援の実績　10月　お茶会 6回（のべ29名）、パソコン教室 4回（のべ25名）
6. 被災地関連商品の販売実績　10月 96,100円（教会6件／その他1件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：宮城県仙台市青葉区宮町4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1116-0477
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.25
2013年11月度 活動報告（2013年12月23日発行）

**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**







東北11月の大ニュースといえば、なんと言っても東北楽天ゴールデンイーグルスの優勝です。地元の皆さんの笑顔のために、ぜひとも優勝して欲しいものだと、となりびとスタッフもそれぞれの贔屓を超えて、楽天の応援に力を入れました。第4回の定例スタディツアーの参加者の皆さんは、その歴史的瞬間に立ち会われ、地元の方と喜びを分かち合いました。美しい紅葉の季節を過ぎ、一気に寒さが強まりました。被災地に、三度目の冬がやってきました。
11月の活動を報告いたします。

【支援者支援】石巻市社協、カラーセラピー講座







11/28、仮設支援を行っている訪問支援員の方々を対象にカラーセラピー講習会を開催しました。この講座は来年2月まで合計5回、石巻市社会福祉協議会河北支所会議室で行なわれる予定です。
前半はONとOFFの自分ということで、二種類の塗り絵が行なわれました。ONとOFFの切り替えがきちんとできている方が多いとのことでした。後半は20種類くらいの中から好きな絵を選び、塗り絵を完成させました。

【漁協支援】倉庫完成しました

ドイツDKHの支援で、宮城県漁協石巻地区支所の10ヶ所の浜に寄贈する倉庫のうち、残っていた最後、沢田と侍浜の2棟が完成しました。2ヶ所とも、かさ上げ工事や護岸工事のため工期がかかり、倉庫が建てられない状況でした。





沢田は、牡蠣処理場の向かいに建てられています。これから牡蠣のシーズンが始まり、ようやく出来た倉庫も活用されていくことと思います。

【となりびと】つるしびな全国巡回展







11/18～20、千葉の幕張で開催された日本福音ルーテル教会全国教師会においてルーテル教会救援の報告及びつるしびな展示、支援品販売を致しました。11/22は広島の谷の百合幼稚園で、まずは幼稚園の子どもたちの礼拝でお話しをさせていただき、その後、保護者の方に、つるしびなをご覧いただきながら、報告と支援品の販売を致しました。11/23は日本ルーテル教団新潟地区一日神学校にて、つるしびなの展示をしていただきました。その際、製作者の方のメッセージをご紹介いただきました。11/24、広島で主日礼拝奉仕及び広島地区報告会、つるしびな展示及び支援品販売を致しました。会のはじめと終わりには、広島教会の女性会の方々により、被災地を覚えて作られた歌の合唱が披露されました。11/25は広島のルーテル保育所で、11/29は静岡県袋井市にある特別養護老人ホームディアコニアでの防災講演会で、つるしびな展示が行われました。







【防災・減災教育】第 4 回定例スタディツアー：名取・石巻編





定例のスタディツアー第4弾は、11/2～4の3連休に開催しました。今回も熊本や神戸、名古屋、新潟など各地から参加者がありました。初日は仙台教会から名取市閖上に移動、お話を聞きました。





2日目、仙台教会の礼拝のあと、石巻へ。日和山→南浜町→門脇小学校を通って、この日再開館を迎えたサンファン館に寄りました。蛤浜のカフェで休憩後、萩浜の牡蛎記念碑や倉庫を見学しました。





3日目は、宿泊した女川のトレーラーハウスの宿を出発し、女川中心部から雄勝町を通って大川小学校へ立寄り、北上町十三浜で、漁協の運営委員長の方やわかめの生産者の方のお話を伺いました。

【現地見学会】第 3 回日本福音ルーテル教会女性会連盟





11/8･9、第3回日本福音ルーテル教会女性会連盟現地見学会(復興ツアー)が行なわれました。初日は、福岡･名古屋･静岡から6名の方が参加され、JR仙台駅から、気仙沼市本吉町前浜に完成したコミュニティセンターへ移動し、現地スタッフから完成までの説明を受け、夜は南三陸町を見学。2日目は仮設追波川河川団地集会所での交流会、大川小学校訪問、仮設大森団地でチラシ配りをしました。

【仮設支援・地域支援】創作コラージュ講座





月命日である11/11、千葉から講師をお招きして心理状態の把握と心のケアに効果的という「創作コラージュ」の講座を開催しました。午前は仮設にっこりサンパーク団地で高齢者を中心に参加があり、盛り上がりました。午後は石巻市街地の石巻地域若者サポートステーションにて講座を開催しました。

【地域支援】第 1 回目女性向け心のケア講座




11/24、石巻市の鹿妻南コミュニティハウスで被災した女性向けの創作コラージュ講座を開催しました。当日は石巻各所から親子連れを含め、10名ほどの方が参加してくれました。この女性向けの講座は、地元の方のお声を受けて、心の癒しと新たな縁づくりを目指して、3回連続で開催します。

【仮設支援】お茶っこサロン活動





となりびとの活動も残り少なくなってきましたが、お茶っこは定期的に続けています。恒例のおしんの上映会に加え、11/20は何度も来て下さっているKELCボランティアの方による体と頭の体操教室が開かれました。運動不足による生活不活発病が心配される冬にぴったりな、座って出来る体操や、歌に合わせて肩を叩くなど楽しいひとときでした。

東日本大震災ルーテル教会救援　2013 年 11 月活動概要

1. 活動地域　宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ　11 月 1 名　（教会 1 名／学校 0 名）
3. 防災・減災教育　11 月　スタディツアー（ 1 件：5 名）
4. 報告活動　11 月　現地見学会（1 件 :6 名）、報告会（3 カ所）、つるしびな全国巡回展（6 カ所）
5. 仮設支援の実績　11 月　お茶会 5 回（のべ 45 名）、パソコン教室 3 回（のべ 15 名）
6. 被災地関連商品の販売実績　11 月 232,400 円（教会 7 件／その他 1 件）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1990-8518
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.26
2013年12月度 活動報告（2014年1月20日発行）

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている皆さまに心より感謝いたします。



被災地で３回目のクリスマス、仮設住宅で風変わりなクリスマスツリーを見かけました。七夕の短冊のような、願い事を書いた紙がツリーに掛けてあるのです。「家族みんなで暮らしたい」、「普通の暮らしに戻りたい」。どんな神さまでもいいからこのささやかな願いを叶えてほしい・・・、そんな切なる祈りを感じました。12月の活動を報告いたします。

【となりびと】メリークリスマス!

▶12/10　クリスマスハープコンサート@石巻市



３年目となりましたルーテル学院大学主催「クリスマス・ハープコンサート」が石巻市内３ヶ所（相川保育所・デイサービスセンターはまぎく、仮設追波川多目的団地）で開催されました。ハープとハンドベルの共演の後、１人ひとりにクリスマスプレゼントが手渡され、子どもたちは大喜びでした。

▶12/19　歌のコンサート@石巻市・東松島市



この春ライア奏者のジョン・ビリングさんと来てくれた関西の歌のグループの方たちが、再び来てくれました。石巻身体障害者歩む会の会長さん宅と東松島のすみちゃんの家でコンサートをしました。古い歌からクリスマスの歌までいろんな歌を披露し、利用者の方々も一緒に唄ったりして楽しんでいらっしゃいました。

▶12/21　クリスマス会@気仙沼市



日本福音ルーテル社団（JELA）の青年たちが前浜コミュニティセンターを訪れ、地元の女性グループ「ゆる～く」の方たちと一緒にクリスマス会を開催しました。JELAとゆる～くが用意したのは、ゲームタイム・ハンドベル・合唱・サンタからのプレゼントと盛りだくさんの内容で、子どもたちはおおいにはじけていました。

▶12/24　クリスマスイブ礼拝@仙台市



仙台教会ではキャンドルで厳かな雰囲気が演出され、藤井牧師から、クリスマスキャロルのお芝居の話を導入に、心温まるクリスマスのお話がありました。

【となりびと】今までの活動、ほんとうにありがとうございました

2013年12月末で、３人のスタッフがとなりびとでの活動を終了しました。３名の方に心より感謝申し上げます。2014年１月からは、佐藤・野口・田中の３名で活動いたします。活動終了された方からのメッセージをご紹介します。

押野美穂さん



震災当日、テレビで津波の映像を見ながら「必ず支援に駆けつけたい」と願ったその思いが通じ、ご縁を得て、となりびとの一員として活動さていただくことができました。いままで活動の機会を与えていただいたこと、そして被災地の方々やルーテル教会の皆様との貴重な出会いの一つひとつに感謝しております。

畠山友美子さん



生まれ育った場所へルーテル教会救援よりご支援頂き、さらに現地スタッフとして活動させて頂いた中でたくさんの出逢い、繋がりができ、とても感謝しています。

皆様から頂いた力や行った活動を活かし、これからも地域が元気になるように、地域の方々と一緒に復興していきたいと思います。本当にありがとうございました。

【防災・減災】12/5・6　第5回スタディツアー:気仙沼編

12/5の夜に希望者のみを対象にスタッフからミニ報告会を行い、翌日は気仙沼に向かいました。



気仙沼に行く途中、南三陸町の志津川で防災庁舎や仮設商店街を訪問しました。2年ぶりくらいに来た方は、「いわゆる瓦礫はなくなったけど、あまり復興は進んでいないんだな」と感じたようでした。

それからJLERが再建支援をした気仙沼市本吉町の前浜コミュニティセンターへ。建設委員会の広報担当で、となりびとスタッフでもある畠山さんに、再建の経過などをお話してもらいました。



その後、気仙沼観光コンベンションセンターの「震災復興語り部」の方に同乗していただいて、被害の大きかった鹿折地区や10月に解体が終わり更地になった共徳丸があった地域、地盤沈下してしまった地域などを回りながら、語り部の方が実際に体験したことなどをお話いただきました。



【防災・減災】12/8　防災講演会@東京教会

今回の講師は、気仙沼市の介護施設リバーサイド春圃の施設長（当時）さんです。会場には30人以上の方がいらしてくださり、お話に聞き入っていました。

ルーテル教会にも福祉施設などがありますが、福祉施設として今回どのような震災体験をしたのかといった点を中心にお話いただきました。

リバーサイド春圃は、今回の津波などで多くの犠牲者を出しつつも、一方で多くの高齢者を守った施設でもあります。講師からは、震災当日の話、津波から高齢者を守った話、寒い夜をどう乗り切ったか、また避難所での話などをして頂きました。



また震災後にとったアンケート結果などを踏まえ、どのような備えが今後必要かといった話をして頂きました。

【支援者支援】12/10　対人援助職のためのサポート講座@岩沼市

第3回目となる今回は、岩沼市内などの介護事業所から20名を超える参加者がありました。講師はルーテル学院大の包括的臨床死生学研究所の福山和女教授をはじめ3人の方がつとめてくださりました。



今回も参加者に話してもらい、感じてもらい、考えてもらうような組み立てになっており、3時間という長丁場だったものの「あっという間だった」と言う参加者もおり、今回も参加者にとっては充実した時間となったようでした。

被災地の介護の現場も人手が足りず、お一人おひとりの負担が大きい現状が続いています。少しでもその負担を軽くするようなサポートになればと思って開催した今回の講座ですが、みなさんの最後の感想を聞いていると今回の企画は少しは役に立ったようで、ほっとしました。

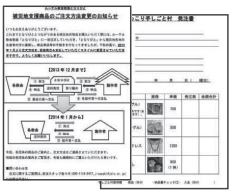
【支援者支援】12/26　カラーセラピー講座@石巻市社協河北支所

石巻市社協河北エリアの仮設訪問支援員の方たちを対象にした第2回目のカラーセラピー講座を開催しました。今回は、1回目を受けてカラーヒストリーについて講師の方からお話があり、その後、実際に塗り絵をしてみて、ある特定の色が自分のある気持ちや経験とつながっていることを体験しました。ある参加者の方は、講師の方からの指摘に驚きながらも関心していました。この講座はあと3回行われます。



【お知らせ】支援品の購入方法が変わりました

これまでとなりびとが仲介していた支援品販売の全てが、2014年1月より、生産者の方から直接購入という形になりました。今後も引き続きご購入いただけるように、購入方法や注文票をまとめたマニュアルを作成いたしました。



メール・FAX・郵送でお送りできます。ご希望の方は野口までご一報ください。
（090-1990-8518、又は、k-noguchi@jelc.or.jp）

東日本大震災ルーテル教会救援　2013年12月活動概要

1. 活動地域	宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）	福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ	12月	1名（教会1名／学校0名）
3. 防災・減災教育	12月	スタディツアー（1件：6名）
4. 報告活動	12月	現地見学会（0件:0名）、報告会（0ヶ所）、つるしびな全国巡回展（1ヶ所）
5. 仮設支援の実績	12月	お茶会8回（のべ67名）、パソコン教室3回（のべ16名）
6. 被災地関連商品の販売実績	12月	70,000円（教会2件／その他2件）

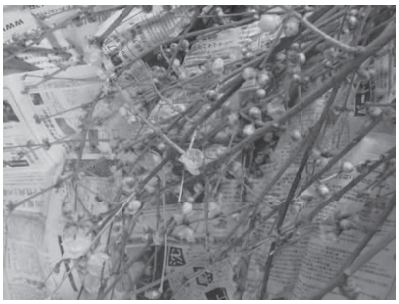
発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：宮城県仙台市青葉区宮町4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1990-8518
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.27
2014年１月度 活動報告（2014年２月20日発行）

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。



新しい年が始まり、JLERの活動も残りわずかとなりました。教会の方・被災地の方、皆様に支えられて続けてくることができました。最後まで見守りください。

家を建て直し、仮設住宅を離れた方が自宅に咲いた蠟梅（写真）を持ってきてくれました。再建を喜ぶ横で、まだ仮設住宅にお住まいの方は微笑みながらも少し悲しそうでした。早く春が来ますように。１月の活動を報告いたします。

【防災・減災教育】スタディツアーが終了しました

2013年７月からほぼ毎月開催してきた定例スタディツアーが、今月で最終回となりました。

▶ 第6回 南相馬・仙台・名取・石巻編

１日目は南相馬に向かい、六角支援隊の拠点であるホテル六角で、代表の大留さんより、震災当日の話やその後の支援隊の取組み、また南相馬の現状などについて話をいただきました。





大留さんによれば、南相馬では３～４か所に家族がバラバラになって暮らしているケースも多く、ここに残っているお年寄りのケアをどうしていくかが目下の課題だそうです。

お話を聞かせて頂いた後、2012年４月に警戒区域が解除された小高地区を中心に案内していただきましたが、だいぶ片づけが進んだとは言え、まだまだ津波で壊れたままの家や岸壁がそのまま残っており、田んぼなどにも車などが残っていました。

小高地区は、日中は入れるものの住むことは許されていない地域なので、中心街だったところには、倒壊した建物は片づけられたものの、ほとんど人影がありませんでした。

２日目は、仙台教会の礼拝に出席した後、仙台市若林区や名取市を見学しました。今回、案内してくれたのは、仙台市若林区で被災し、みなし仮設に住んでいらっしゃる方です。

車に同乗していただき、津波で流されたその方の家のあった場所や２階部分が流れ着いていた場所、





震災当日の避難した時の様子などをお話ししてもらいました。

それから名取市の閖上中学校と、その入り口にある「閖上の記憶」を訪問しました。閖上の記憶では、この場所ができるまでの経過などを紹介したビデオを見て、その後、スタッフの方から津波が来たときの映像などを見せてもらいながら、そのとき何があったのかをお話し頂きました。その後、閖上地区にある日和山にのぼりましたが、数か月前に来たときと変わらない風景でした。

地元の方と一緒にまわったことでスタッフも初めて知ることも多く、参加された方も多々得るものがあったようでした。

最終日は、凍えるような寒さの中、東松島から石巻の被災地を巡りました。

仮設河北三反走団地集会所では、大川小学校近くで被災された方からお話を伺い、仮設追波川河川団地では、布草履を製作されている方にお会いし、お茶っこサロンのチラシを配りました。



そして、スタディツアーの最後は震災当日と同じく、雪が降りしきる大川小学校を訪問し犠牲者の方を覚えて、スタディツアーを終えました。

▶ スタッフ佐藤よりメッセージ

となりびとでは、2013年３月からスタディツアーを開催してきました。ルーテル教会関連の高校・大学をはじめ、教会の方を対象としたスタディツアーを合計10回開催し、100名近い参加者がありました。

このツアーは、ボランティア作業はできないけど被災地を訪問したいという教会の方々と被災地の人の「見るだけでいいから来てほしい」という希望を結びつけるための取組でした。既に報道されている通り、大規模な災害が今後も各地で想定されています。被災地で見聞きしたことや「もう誰も同じ思いをしてほしくない」という被災者の気持ちを地元に持ち帰り、次に備える。そのような機会になればと思い、開催しました。３月で活動を終了しますが、他の団体や地元の旅行業者などもこうしたツアーをしているので、今後もぜひ被災地に足を運んでみてください。

【女性のケア】1/13 被災した女性のためのケア講座@石巻市



2013年12月にも行った被災した女性のためのケア講座の2回目を開催しました。今回は「女性の日常は・・・ー家族・子育て・自分ー」と題し、参加者は前回よりも増え、20名を超える方が参加してくれました。

神戸市にある人と防災未来センターの方に講師として来ていただき、子どもの頃の阪神・淡路大震災の経験の話もしてくださいました。

阪神・淡路大震災を経験した人が、震災から1年目、2年目、4年目、6年目、10年目などに書いたその時々の手記を紹介しながら、人によって違うけれども10年たっても15年たっても震災で経験したことは、さまざま変化しつつも、続いていくこともあるといった話をされました。

また話すという表現よりも書く方が合う方もいるので、無理に話す必要はなく、それぞれの人がそれぞれの人の気持ちを大事にして欲しいというような話もされました。参加者の方からは、神戸の方の経験を聞いて「なんだかほっとした」といった声も聞かれ、それぞれの方が得るものがあったようでした。

【支援者支援】1/16 古武術介護講座@気仙沼市



昨年も各地で3回ほど行った古武術介護講座。今回はルーテル教会救援が介護ボランティアの派遣などのお手伝いをした気仙沼の老健施設で開催しました。

20代の若い職員を中心に20〜30人くらいの職員さんが参加されました。

はじめはみなさんも「古武術介護」と聞いて「???」という感じでしたが、実際に体を動かしながら説明を聞きながら自分で試してみると、「おおっー」と驚きの声が出てました。

厚生労働省の方でも腰痛防止の施策を打ち出しているそうですが、今回の講座を通じて腰やひざなどに負担が集中しない体の使い方を知るきっかけになったように思います。

【仮設支援】ボランティアさんのおかげで盛り上がりました

1/21は、仙台教会の方が、仮設河北三反走団地集会所のお茶っこサロンに参加してくれました。



男性1名を含め11名の方が、バレンタインデーのためのフラワーアレンジメント作りを楽しまれました。フラワーアレンジメントが出来あがった後は、花の歌を一緒に歌い、一緒にお昼ご飯を食べ、いろいろなお話を聴かせていただきました。



1/29・30は、札幌から定期的にボランティアに来てくださる方が参加してくれました。

石巻市北上町の仮設にっこりサンパーク団地で手芸を、石巻市河北地区の仮設追波川河川団地では、折り紙を行いました。

ボランティアさん、いつもありがとうございます。

【ボランティア】1/25 チェンバロコンサート@気仙沼市

ルーテル教会救援で再建支援をした気仙沼市本吉町の前浜コミュニティセンター（前浜マリンセンター）で、チェンバロコンサートを開催しました。



2012年3月にも来ていただいた武久源蔵さんと山口眞理子さんに再び来ていただいてコンサートを開催し、地元の方を中心に20〜30人の方が聞きに来てくださいました。

バッハが使っていた楽器を正確に復元したという音を間近で聞いて、みなさん感動されてた様子でした。コンサート後には、花束贈呈も。その後の交流会では、地元の方とのお話に盛り上がりました。協力いただいたみなさんありがとうございました。

【お知らせ】支援品の購入方法のご案内

支援品は、1月より直接購入になっております。方法については野口までお気軽にお問い合わせください（090-1990-8518）。

東日本大震災ルーテル教会救援　2014 年1月活動概要

1. 活動地域	宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）	福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ	1月	2名（教会2名／学校0名）
3. 防災・減災教育	1月	スタディツアー（1件：2名）
4. 仮設支援の実績	1月	お茶会7回（のべ 76 名）、パソコン教室4回（のべ 27 名）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：宮城県仙台市青葉区宮町 4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1990-8518
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.28
2014年２月度 活動報告（2014年３月６日発行）

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解・ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。



今月は大雪で国内各地が大変なご苦労をされたことと思います。こちらでも、地域力によって除雪の度合いに大きな差ができていました。

となりびとの支援活動は、終結活動と並行して３月まで続きますが、仮設支援の取り組みは、２月でその大半が終了しました。お母さんたちに「また会おうね」と言っていただいて、仮設を後にしました。２月の活動を報告いたします。

【となりびと】LCMSが訪問してくれました

2/7、LCMS（Lutheran Church Missouri Synod）から災害支援担当の牧師３名が来仙されました。今回は、現在の担当者から新しい担当者への引継ぎのため、LCMSが支援した前浜コミュニティセンターを訪問しました。

前浜コミニュティセンターを訪問する途中、南三陸町の防災センターで被災状況を確認し、近くの仮設商店街で昼食をいただきました。



その後、前浜コミニュティセンターで現地の方々から実際の利用状況などの説明を受け、「となりびと」のスタッフとの夕食会の後、次の訪問地である福島に向かわれました。

NRKの安藤牧師、北澤スタッフを交えた夕食会では、初めて食べる日本の本当のお寿司に、LCMSの方々はおっかなびっくりの様子でした。メリット氏からとなりびとスタッフに対して「JLERの活動で良かったことは何か？」と質問され話し合ったり、彼らのフィリピンでの活動を聞くなど、有意義なものとなりました。



【支援者支援】カラーセラピー講座終了@石巻市社協河北支所

昨年11月から、仮設住宅の支援を行っている地元、社会福祉協議会所属の訪問支援員、地域福祉コーディネーター、地域福祉アドバイザーの方を対象として行っていたカラーセラピー講座が、2/27に終了しました。

講座１回目は緊張されていた参加者の皆さんも、最終回には講座をリラックスしながら楽しんで受講されている姿が印象的でした。

石巻市河北地区の仮設住宅に住んでおられる方々が新たな住宅に全員が移られるのに、まだ、５年かかると現地では言われています。

その間、この方々が中心となって、仮設住宅の支援を行うことになります。

今回のこの講座で得られたものを糧にして、全員が仮設住宅から新しい住宅に移られるまで継続的に支援ができることを願っています。

最終回は、これまでの皆さんの作品をハート型にコラージュした寄せ書きの紙を講師の先生が用意してくださいました。河北エリアのみんなを表す「パワフル河北」というキャッチフレーズを地域福祉アドバイザーの方が考えてくださり、そのタイトルや今の想いを皆で書き込み、ハートの周囲に色を塗りました（写真）。この寄せ書きは、支援員さんの事務所の目立つところに飾ってくれています。



支援員さんを束ねる主任さんは「思いつきで始まったこの企画だけど、叶えてくださって本当に良かった。支援員のためにもこの作業は続けた方がいいと思ったし、住民さんにも何気なく色を塗ってもらえるような機会を、今後つくっていきたいと思う」と、話してくださいました。

【仮設支援】パソコン教室@石巻市

雪の中、石巻市の仮設支援をしている別の団体「アシスト・エフワン」からの依頼で、アシストが支援している仮設の方を対象としたパソコン教室を、2/4と2/12の2回開催しました。



参加者は小さな子どもを持つお母さん方が中心に教室に参加されました。

スタッフSとTが、講師役になって石巻市のとある会場を借りて行ったのですが、これから仕事をするときに少しでもパソコンの事を知っておきたいと熱心に聞き行ってくれ、予想よりもだいぶ深い内容まで進むことができました。

【仮設支援】おしん上映会、終了@石巻市

一昨年より石巻市河北地区の仮設住宅で行っていたお茶っこサロン「おしん」鑑賞会も2月ですべて終了しました。

これまでお祈り、お支えいただきました皆様に心から感謝申し上げます。今後は地元社会福祉協議会所属の訪問支援員の方々がおしん鑑賞会を引継いでくださります。



【女性のケア】2/23 働く女性の講座@石巻市



第3回目の女性のためのケア講座を開催しました。前回は、阪神淡路大震災の手記を読むことをしましたが、今回は前半はヨガなどのリラックスするための時間をとり、後半はまた阪神淡路大震災の被災者の手記を読む時間にしました。

参加者は前回と比べると減少し、5～6名ほど。ヨガなどは共催者の伝手で、専門の先生に来ていただき、ゆっくりそれぞれの方の体をほぐす動きをしました。ヨガを楽しみにして来たという方は、自宅でもできる動きを学ぶことができ、有意義だったようでした。ヨガの他にもサウンドヒーリングなどの専門の方も来ていただき、参加者の体をほぐしてくれました。

後半は、また手記を読みました。今回は郵便局の仲間という震災から2年目くらいに書かれた文章を読み、それぞれの方の感想などをわかちあいました。手記を書いてみたいというような方も出てきており、今後も続くといいなと思っています。

【地域支援】2/27 つるしびな贈呈式@石巻市



ひな祭りに合わせて、昨年の3/11を目指し、仮設住宅入居者と地域ボランティア団体との協働で製作したつるしびなを、地元社会福祉協議会に贈呈しました。

このつるしびなは昨年の3/11に完成後、アメリカを含め全国50ケ所の教会・学校・幼稚園・保育所・社会福祉施設等で展示会を行い、皆様から被災地へのメッセージをいただいたものです。

これからは、被災者の方々を継続的に支援する役割を担う地元、社会福祉協議会で働く人々と地域の人々を結ぶ絆のしるしとしの新たな役割を果たします。改めて、つるしびな製作にご協力していただいた皆様に感謝いたします。

【お知らせ】支援品の購入方法のご案内

支援品は、1月より直接購入になっております。方法については野口までお気軽にお問い合わせください（090-1990-8518）。

東日本大震災ルーテル教会救援　2014年2月活動概要

1. 活動地域	宮城県（気仙沼市、石巻市、東松島市、登米市）　福島県（南相馬市）
2. ボランティア受け入れ	2月　0名（教会0名／学校0名）
3. 仮設支援の実績	2月　お茶会5回（のべ40名）、パソコン教室4回（のべ24名）

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
ルーテル支援センターとなりびと　住所：宮城県仙台市青葉区宮町4-4-39 日本福音ルーテル仙台教会内　電話番号：090-1990-8518
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　となりびとツイッター：@jler_tonaribito　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp
ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

東日本大震災ルーテル教会救援

Japan Lutheran Emergency Relief【JLER】

ルーテル教会救援　現地活動　月次報告　No.29（最終号）
2014年３月度 活動報告（2014年４月８日発行）



**東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
またルーテル教会救援の活動にご理解･ご協力いただいている
皆さまに心より感謝いたします。**

【となりびと】活動終了までのできごと & 仙台教会ありがとうございました

▶ 仙台･鶴ヶ谷教会スタディツアー　3/6･8

3/6･8に、仙台教会と鶴ヶ谷教会の方を対象に、お礼も込めて見学会を開催しました。3/6の見学先は南三陸と気仙沼で、はじめに南三陸町の防災庁舎を見学しました。その後、以前、船が打ち上げられていた地域で今は嵩上げ工事が進む鹿折地区などを見学しました。参加者の方は、工事が進む地域を目の当たりにし、復興はまだまだ時間がかかるなぁ、と感じられたようでした。その後、再建支援をした気仙沼市本吉町の前浜コミュニティセンターを訪問。建物内部で説明を受け、見学しました。3/8は石巻を訪問し、つるしびなに関わった方々と交流会を行いました。





▶ 3.11礼拝と活動報告会@仙台教会

仙台教会にて、3.11礼拝と、ルーテル教会救援活動報告会が行なわれました。仙台･鶴ヶ谷教会の方、これまで関わってくださったボランティアさん･スタッフさん･各教団の方など、35名を超える方々が各地から集まってくださり、中継で結ばれたNRKの東京ルーテルセンター教会にも、約60名の方が集まってくださったそうです。黙祷、礼拝の後、活動報告会では参加してくださった皆様にスライドで活動のまとめを報告し、皆様のご支援と交わりに感謝をお伝えしました。





▶ 南海トラフ実務者研修会　3/11～13

活動報告会終了後、近い将来発生すると言われている南海トラフ巨大地震に対応するための実務者研修会が行なわれました。今回は３教団から若手牧師を中心に７名の方が参加され、初日は、先遣隊として活動した牧師とルーテル教会救援本部長、スタッフの話に耳を傾けました。

翌日は、南海トラフ地震が発生した場合のシミュレーションを行った後、石巻市で共同漁具倉庫贈呈式に参列。その後、支援活動に協力いただいた地元の方に、当時の混乱した状況や支援状況などのお話を伺いました。一行は北上しながら大川小学校、南三陸町防災庁舎を訪問し、気仙沼市本吉町で前浜コミュニティセンター建設委員長から、再建までの経緯をお聴きしました。





研修最終日は、センターの再建プロジェクトで協働したシャンティ国際ボランティア会のスタッフの方から、今回の震災対応の方法などのお話をお伺いしました。そして最後に、研修会での学びのまとめと今後の備えについて議論し、提案のまとめを行いました。

▶ 対策本部会議･最終回@東京･市ヶ谷　3/14

最後となる東日本大震災ルーテル教会救援議長会及び対策本部会議が開催されました。派遣牧師及びチーフスタッフから最後の報告がなされ、この３年間のふりかえりを行いました。



▶ 礼拝堂片付け･大そうじ　3/3･4･29

3/3･4はスタッフが礼拝堂の片付けを行ない、3/29は、NRKの大宮シオンルーテル教会の方がボランティアで来てくださり、仙台教会の大そうじが行なわれました。

仙台教会には３年間お世話になりました。仙台のみなさまに心からお礼申し上げます。



【地域支援】獅子頭を寄贈しました@石巻市



石巻市北上町十三浜の白浜地区の人々から支援依頼があり、地域の文化活動支援を目的に、獅子頭と油単（ゆたん：獅子の胴体部分の布地）を支援しました。白浜地区は地区全体が壊滅的な被害を受け、現在、集団移転を進めていますが、各種の手続き等が遅れ、造成工事さえも着手できていない状況です。震災後、仮設住宅や色々な所に離ればなれになってしまった地域の人々が、再び集まる機会になればと獅子舞の復活を希望していましたが、太鼓をはじめ全てが流されたため復活できない状況がありました。

そこでルーテル教会救援に支援依頼があり、獅子頭の製作費等を支援しました。スタッフSの伝手で山形の製作者に依頼し、3/16に引き渡し式を行いました。獅子頭製作者の伝手で、山形の２ヶ所の獅子舞が仮設にっこりサンパーク団地を訪れ、それぞれの獅子舞を披露し、仮設の人たちを元気づけました。太鼓と笛の音に惹かれて100人近い人が見物に訪れ、地元の獅子舞とはまた違う獅子舞を見て、あれやこれやと語り合うなど楽しんでいらっしゃいました。



【スタディツアー】聖望学園高校・ハイスクールYMCA部

3/20～23には番外編として、聖望学園高校スタディツアーを行ないました。初日の3/20は、仙台市若林区の荒浜経由で名取市の閖上地区を訪問した後、オリエンテーションをし、震災に関するビデオを視聴しました。



２日目は、石巻市の大川小学校と南三陸町の志津川を訪問。解体か保存かがまだ決まっていない防災庁舎を訪問した後、さらに北上し、気仙沼市本吉町の前浜コミュニティセンターへ。



この日、地域の人々によるイベント「おらほのとっておき」が開催されており、その中で90歳と80歳くらいの話し手の方から、3年前の東日本大震災の時の津波の話だけでなく、昭和8年（1933）の津波や昭和35年（1960）のチリ地震津波の体験についても話を聞きました。

その後、さらに北上し、岩手県の陸前高田市へ。市街地は本当に何もなくなっており、嵩上げ工事を円滑に進めるためのベルトコンベアが建設中でした。夜は、石巻市の「NPOお茶っこケア　よってがいん（以下、よってがいん）」に泊めてもらいました。

３日目は、泊めてもらったよってがいんの月１回の恒例朝市のお手伝いをするため朝5時に起き、被災地最大の仮設住宅群がある南境・開成地域に向かい、会場準備やテント設営、朝ご飯づくりなどのお手伝いをしました。朝市が始まると高校生たちも売り子役をやりながら、お客さんとして来た地域の人々や被災している出店者の方たちと話をしました。



朝市終了後、出店者である雄勝のわかめ生産者の方から震災のお話を聞きました。苦しかった避難所生活のお話や小さな浜であるが故にボランティアがほとんど来なかったことなど、様々なお話をしてくださいました。

その後、南浜の慰霊所、牡鹿半島の蛤浜を訪問した後、高校生たちが文化祭などで販売支援をしている石巻市北上町十三浜のわかめ生産者の方を訪問しました。高校生たちにとっては久しぶりの再会で近況などを聞かせてもらい、仙台に戻りました。

最終日は、仙台教会でみんな礼拝に参加しました。これまで聖望学園のスタディツアーは、日程が日曜日にかかることがなかったので今回が初めての礼拝参加。仙台教会の方とも交流ができ、高校生は最後に礼拝に参加できてよかったと言っていました。

となりびとの活動は、2014年３月31日を以て、終了致しました。ボランティアさん・遠方から支援してくださった方・東京の事務局の方・４教団の皆様・今までのスタッフと牧師ご一同・世界中の支援者の皆様に感謝申し上げます。そして、今後も各地の被災地支援をご継続くださることを願っております。

尚、この3年間の活動内容については現在、活動記録としてまとめています。完成しましたら各教団事務局を通じ、各教会等に配布される予定ですのでご覧いただければ幸いです。

2014年4月以降の問い合わせ先

支援品販売関係: 野口牧師/長野教会・松本教会（JELC）▶ k-noguchi@jelc.or.jp
その他問い合わせ: 担当/安井▶ tonaribito@jelc.or.jp

発行：JLER ルーテル教会救援　住所：東京都新宿区市谷砂土原町1−1　日本福音ルーテル教会事務局内　電話番号：03-3260-8631
となりびとブログ：http://lutheran-tonaribito.blogspot.com/　E-MAIL:tonaribito@jelc.or.jp　ルーテル教会救援ホームページ：http://jler.org

主な支援活動（2011年４月から2014年３月：仮設支援等の人的な支援は除いている）

no.	開始日	支援対象	支援内容	支援の概要	支援額
1	2011/4/25	気仙沼市医療法人 くさの実会 光が丘保養園	職員用レンタカー３台４ヶ月、食器運搬車の支援	津波で職員の車50台と施設の車を３台失った光が丘保養園に通勤用レンタカーを支援。	200万円
2	2011/4/28	旧荒砥小学校避難所ほか	全自動洗濯機・衣類乾燥機を支援	福島県内や宮城県内の複数の避難所に、共同利用する洗濯機・乾燥機を各20台ずつ支援。	150万円
3	2011/4/28～ 2012/6/30	南相馬市 みちのく応援隊	2011年４月から2012年３月まで、みちのく応援隊を介して放射能不検出の野菜を支援	みちのく応援隊からの依頼でスーパー等が閉鎖していた原発20～30㎞圏内に位置する南相馬市民へ野菜等の食料を支援。	600万円
4	2011/5/6	NPO 法人国際ボランティアセンター山形（IVY）	自立支援プロジェクト	被災した人たちを雇用し、瓦礫を片づける Cash For Work 事業のための資金を事業主体の IVY からの依頼で支援。	200万円
5	2011/5/13	栃木県那須塩原市 学校法人アジア学院へ支援	建替支援、地盤調査等費用の支援	地震で被害を受けたアジア学院の再建支援。	2,067万円
6	2011/5/20	社団法人日本社会福祉士会	社会福祉士会の支援活動のための交通手段を支援	石巻市の避難所の支援をしていた社会福祉士の移動手段としてレンタカー３台を４ヶ月間支援。	106万円
7	2011/5/25	気仙沼市介護老人保健施設 リバーサイド春圃	自動車購入支援（３台）	59名の死亡者が出たリバーサイド春圃に、事業用の自動車購入費として資金を支援。	100万円
8	2011/6/20	ルーテル学院大学の 活動支援	「震災後のセルフケアカード」（5,000枚）配布支援	精神的ケアを目的としたカードの製作費用を支援。	137万円
9	2011/7/10	東松島市仮設 ひびき工業団地の入居者	仮設団地の住環境の改善支援	東松島市社協の依頼で仮設団地の方々へ花苗とプランター、土などを支援。	33万円
10	2011/7/30	登米市NPO法人さくらんぼくらぶ（介護事業所）	仮設プレハブの介護事業所へエアコン支援	地震で被害を受けプレハブで介護事業を継続せざるを得なくなったため、熱中症防止のためのエアコンを同事業所に支援。	30万円
11	2011/8/16	気仙沼市本吉町前浜地域	プレハブ工事移転費・設備・工事代支援	避難所の対策本部の事務所、ボランティアの宿泊所としてプレハブ支援。	254万円
12	2011/8/30	ルーテル学院大学の 活動支援	支援団体スタッフのための研修会開催支援	子供のグリーフ・サポートグループ゛の支援団体スタッフ養成研修に係る経費を支援。	27万円
13	2011/8～11月	気仙沼市天ヶ沢仮設住宅	収納棚設置支援	仮設住宅37戸に収納用棚を設置。	71万円
14	2011/10/4	気仙沼市 本吉町前浜地域振興会	祭りはっぴを支援	津波で流失した祭りはっぴを支援	18万円
15	2011/11/14	石巻市 北上町十三浜の漁業者	箱メガネ100個相当の杉板支援	アワビ漁を再開するため箱メガネの材料を漁協の運営委員長からの依頼で支援。	30万円
16	2011/11/28	東松島市 宮城県漁協宮戸西部支所	船底洗浄用にケルヒャー高圧洗浄機を支援	津波のヘドロ等で汚れた船を洗浄するための洗浄機を漁協支所からの依頼で支援。	46万円
17	2011/11/28	気仙沼市 本吉町前浜地域の漁業者	FRP 資材（ガラスクロス・マット等）船修理プロジェクト	船の早期復旧のため津波で壊れた20隻相当ぶんの修理材料を支援。	49万円
18	2011/12/5	石巻市北上町小学生女子 バスケットボールチーム	ゲームシャツ・パンツ・マーク代・バスケットボールを支援	津波で流失した試合用のユニフォームやボール等を、子どもたち及び親からの依頼で支援。	41万円

no.	開始日	支援対象	支援内容	支援の概要	支援額
19	2011/12/29	気仙沼市 本吉町前浜地域振興会	椿油搾機支援	津波で流失した椿油絞り機を支援。	97万円
20	2012/3/28	南相馬市 原発事故から命と環境を守る会	仮設入居者用ビニールハウス建設支援	原発事故で避難している仮設住宅の高齢者の生きがいづくりのために自家菜園用のビニールハウスの建設を支援。	80万円
21	2012/3/28	石巻市北上町 Dプロジェクト（親の会）	北上小・中学生ディズニーランドツアー（4/13～15）開催支援	北上町内で被災した小・中学生40～80人をディズニーランドに連れて行く際の交通費の支援。	10万円
22	2012/4/18	石巻市 北上町宮城県漁協十三浜支所	水産物保管施設（共同利用施設）の再建支援（NPO 法人 PARCIC との共同事業）	漁業を再開するための保管施設（テント倉庫）6棟分の建設費用のうち漁業者負担分を支援。	293万円
23	2012/7/13	石巻市 北上町宮城県漁協十三浜支所	水産物保管施設（共同利用施設）再建支援	漁業を再開するための大型保管施設の建設費用のうち漁業者負担分を支援。	564万円
24	2012/7/27	石巻市仮設大森団地	仮設住宅自治会にベンチを支援	仮設での生活改善支援としてのベンチを提供。	15万円
25	2012/7/30	気仙沼市役所及び 同市本吉町前浜地域	前浜コミュニティセンター用地購入費支援	津波で流失した前浜地域コミュニティーセンター施設再建支援のうち用地代を気仙沼市に指定寄付。	995万円
26	2012/11/26	放射能から子供たちを守る宗教者ネットワーク	北海道寺子屋合宿（夏休み）開催支援	2011年（266名）、2012年（189名）2年分の交通費・滞在費・スタッフ経費の一部補助。	50万円
27	2013/4/25	気仙沼市 大谷大漁唄い込み保存会	大漁唄い込み保存会の長袢纏支援	津波で流失した保存会の長袢纏の製作費用を支援	50万円
28	2013/5/31	宮城県漁協石巻地区支所	石巻漁業作業倉庫支援プロジェクト	津波で流失した10か所の浜の共同利用倉庫（計10棟）の再建費用を支援。	2,600万円
29	2013/8/1	気仙沼市 本吉町前浜地域振興会	前浜コミュニティセンター再建支援	津波で流失したコミュニティセンターの建設費用を支援。	6,400万円
30	2013/7/26	登米市手のひらに太陽の家	福島の子ども保養プログラム開催支援	福島県内在住の子ども保養のためのバスチャーター代（郡山⇔登米往復）を支援。	10万円
31	2013/9/20	みやぎ宅老連絡会	介護職員のための古武術介護講座（全3回）開催支援	介護職員のストレス軽減とスキルアップのための古武術介護講座の開催を支援（講師料等）。	30万円
32	2013/10/2	岩手県大船渡市保育園の保護者・保育士支援	ルーテル学院大学臨床心理センターの支援活動の支援	大船渡保育園の保護者・保育士の個別面談と保育士への研修実施費用を支援。	30万円
33	2014/1/14	みやぎ宅老連絡会	介護職員のためのサポート講座（全3回）開催支援	介護職員のケアとスキルアップのための講座をルーテル学院大学包括的臨床死生学研究所と協力して開催支援（講師料等）。	35万円
34	2014/1/24	気仙沼市介護老人保健施設 リバーサイド春圃	介護職員のための古武術介護講座の開催支援	リバーサイド春圃の介護職員のための古武術介護講座の開催を支援（講師料等）。	10万円
35	2014/2/28	石巻市 河北地区石巻社協河北支所	仮設支援員のためのカラーセラピー講座（全5回）開催支援	仮設支援員のケアとスキルアップを目的としたカラーセラピー講座の開催を支援（講師料等）。	15万円
36	2014/2/28	石巻市被災した女性	被災女性のためのケア講座（全3回）を開催（JLER 企画）	被災した女性を対象としたケア講座（全3回）を開催（講師交通費等）。	10万円
37	2014/3/16	石巻市北上町白浜自治会	白浜地区の獅子舞復活支援	津波で流失した獅子頭と油単を支援（製作・購入費用）。	50万円

東日本大震災 ルーテル教会救援 物資支援/輸送プロジェクト

物資支援（ルーテル教会救援で購入した物品のみ。現地まで輸送した支援も含む）

件数	日　時	支援先			間接支援依頼団体	物資提供団体
		県　名	市町村名	物資等届け先		
1	2011/3/28	宮城県	気仙沼市	気仙沼市　宝鏡寺避難所	シャンティ国際ボランティア会（SVA）	JLER
2	2011/3/28	宮城県	亘理町	亘理町災害対策本部	ICA 文化事業協会	JLER
3	2011/3/29	宮城県	山元町	山元町災害対策本部	ICA 文化事業協会	JLER
4	2011/3/28	宮城県	石巻市	石巻市災害対策本部	東北広域震災 NGO センター・ＪＶＣ山形	JLER
5	2011/3/28	岩手県	山田町	山田町立山田南小学校避難所	Ｃａｒｅ Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ	JLER
6	2011/4/2	福島県	いわき市	いわき市	NPO 法人　うつくしま NPO ネットワーク（UNN）	Korean Salvation Army
7	2011/4/2	岩手県	大槌町	大槌町災害対策本部	シャンティ国際ボランティア会（SVA）	Korean Salvation Army
8	2011/4/2	千葉県	習志野市	習志野市	NPO セカンドハーベスト・ジャパン	Korean Salvation Army
9	2011/4/4	宮城県	気仙沼市	気仙沼市災害対策本部	気仙沼市災害対策本部	JLER
10	2011/4/4	宮城県	石巻市	石巻市災害対策本部	東北広域震災 NGO センター	JLER
11	2011/4/4	福島県	いわき市	いわき市	NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク（UNN）	JLER
12	2011/4/4	福島県	伊達市	福島県伊達市　成林寺避難所	シャンティ国際ボランティア会（SVA）	JLER
13	2011/4/4	岩手県	山田町	山田町　龍泉寺避難所	シャンティ国際ボランティア会（SVA）	JLER
14	2011/4/4	宮城県	多賀城市	多賀城市対策本部	—	JLER
15	2011/4/4	岩手県	大槌町	大槌町災害対策本部	パレスチナ子どものキャンペーン	JLER
16	2011/4/4				JEN 様による倉庫ピックアップについて	JLER
17	2011/4/4	茨城県	つくば市	「NPO 法人ままとーん」（〒305-0067 茨城県つくば市館野604-3	公益財団法人オイスカ東京本部	JLER
18	2011/4/5	宮城県	石巻市	仙台市内⇒田代島、網地島　４トン車１台	難民を助ける会	難民を助ける会
19	2011/4/6	宮城県	石巻市	仙台市内→石巻市鮎川　特別養護老人ホームおしか清心苑　4トン車1台	難民を助ける会	難民を助ける会
20	2011/4/6	岩手県	大船渡市	大船渡市　日本キリスト教団大船渡教会	日本キリスト教団	NCC
21	2011/4/8	岩手県	大槌町	大槌町災害対策本部		
22	2011/4/8-9	福島県	新地町	新地町役場	難民を助ける会	難民を助ける会
23	2011/4/13	宮城県	南三陸町	南三陸町災害対策本部	東北広域震災 NGO センター	JLER
24	2011/4/14	宮城県	気仙沼市	気仙沼市災害対策本部	—	JLER
25	2011/4/16	福島県	南相馬市	南相馬市　原発20～30ｋｍ圏の市民	みちのく応援隊	みちのく応援隊
26	2011/4/19	岩手県	陸前高田市	陸前高田市災害対策本部	—	JLER
27	2011/4/22	福島県	南相馬市	南相馬市　原発20～30ｋｍ圏の市民	みちのく応援隊	JLER
28	2011/4/23	福島県	福島市	福島市の飯坂学習センター蓬莱学習センター、野田町集会所の各避難所と福島市役所、新地町、相馬市、亘理町、岩沼市の仮設入居の個人	ICA 文化事業協会	JLER
29	2011/4/23	福島県	南相馬市	南相馬市　原発20～30ｋｍ圏の市民 ※買取支援とは、風評被害で野菜が売れなくなった福島県須賀川市周辺農家の支援として行ったもの。	みちのく応援隊	JLER／みちのく応援隊
30	2011/4/23	宮城県	石巻市	石巻市災害ボランティアセンター	—	JLER
31	2011/4/24	宮城県	東松島市	東松島市災害ボランティアセンター	—	JLER
32	2011/4/26	宮城県	気仙沼市	気仙沼市　光ヶ丘保養園	—	JLER
33	2011/4/28	宮城県	東松島市	東松島市東名地区消防団	—	JLER
34	2011/4/29	福島県	南相馬市	南相馬市　原発20～30ｋｍ圏の市民※買取支援とは、風評被害で野菜が売れなくなった福島県須賀川市周辺農家の支援として行ったもの。	みちのく応援隊	JLER
35	2011/5/3	宮城県	東松島市	小野市民センター避難所	—	JLER
36	2011/5/3	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
37	2011/5/3	宮城県	石巻市	パルシック倉庫	パルシック	JLER

件数	日　時	支援先			間接支援依頼団体	物資提供団体
		県　名	市町村名	物資等届け先		
38	2011/5/5	宮城県	東松島市	関ノ内地区センター避難所	パルシック	JLER
39	2011/5/6	宮城県	石巻市	石巻市災害ボランティアセンター	—	JLER
40	2011/5/8	宮城県	南三陸町	旧荒砥小学校避難所	パルシック	JLER
41	2011/5/11	宮城県	東松島市	東名駅前　消防団テント	—	JLER
42	2011/5/11	宮城県	東松島市	小野市民センター避難所	—	JLER
43	2011/5/14	宮城県	石巻市	西條金一宅避難所	—	JLER
44	2011/5/18	宮城県	東松島市	浅井地区センター避難所	—	JLER
45	2011/5/18	宮城県	東松島市	宮戸島対策本部	—	JLER
46	2011/5/19	宮城県	東松島市	小野市民センター避難所	—	JLER
47	2011/5/20	岩手県	釜石市	西山家避難所	—	JLER
48	2011/5/20	宮城県	仙台市	若林区個人宅避難者	—	JLER
49	2011/5/20	宮城県	女川町	女川一小　避難所	—	JLER
50	2011/5/20	宮城県	女川町	ホテル華夕美避難所	—	JLER
51	2011/5/20	宮城県	南三陸町	南三陸町対策本部	—	JLER
52	2011/5/21	宮城県	石巻市	フェアトレード東北	フェアトレード東北	JLER
53	2011/5/21	宮城県	石巻市	西條金一宅避難所	—	JLER
54	2011/5/21	宮城県	石巻市	千葉直美と地域住民	—	JLER
55	2011/5/21	宮城県	石巻市	菊池さんと地域住民	—	JLER
56	2011/5/21	宮城県	石巻市	石巻栄光教会	—	JLER
57	2011/5/21	宮城県	石巻市	斉藤みやこさんと地域住民	—	JLER
58	2011/5/21	宮城県	東松島市	宮戸島対策本部	—	JLER
59	2011/5/21	宮城県	東松島市	小野市民センター避難所	—	JLER
60	2011/5/21	宮城県	東松島市	浅井地区センター避難所	—	JLER
61	2011/5/21	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
62	2011/5/21	宮城県	気仙沼市	清涼院避難所	—	JLER
63	2011/5/21	宮城県	気仙沼市	気仙沼市対策本部	—	JLER
64	2011/5/21	宮城県	南三陸町	歌津　個人宅避難者	—	JLER
65	2011/5/21	宮城県	仙台市	宮城県社会福祉士会	社会福祉士会	JLER
66	2011/5/21	宮城県	石巻市	稲井地域包括支援センター	—	JLER
67	2011/5/21	宮城県	石巻市	渡波地域包括支援センター	—	JLER
68	2011/5/22	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
69	2011/5/23	宮城県	南三陸町	歌津　高倉荘避難所	パルシック	JLER
70	2011/5/24	宮城県	東松島市	鳴瀬第一中学校	—	JLER
71	2011/5/24	宮城県	東松島市	室浜地区センター避難所	パルシック	JLER
72	2011/5/25	宮城県	気仙沼市	本吉町対策本部	パルシック	JLER
73	2011/5/25	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
74	2011/5/26	宮城県	石巻市	西條金一宅避難所	—	JLER
75	2011/5/26	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
76	2011/5/26	宮城県	石巻市	折浜峰耕寺避難所	—	JLER
77	2011/5/27	宮城県	石巻市	蛤浜集会所	—	JLER
78	2011/5/31	宮城県	東松島市	浅井地区センター避難所	—	JLER
79	2011/6/2	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
80	2011/6/3	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
81	2011/6/3	宮城県	石巻市	鮎川小学校　仮設住宅	—	JLER
82	2011/6/5	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
83	2011/6/6	宮城県	東松島市	室浜地区センター	—	JLER
84	2011/6/6	宮城県	東松島市	小野市民センター	—	JLER
85	2011/6/9	宮城県	石巻市	稲井地域包括支援センター	—	JLER
86	2011/6/10	宮城県	東松島市	宮戸島対策本部	—	JLER
87	2011/6/11	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
88	2011/6/15	宮城県	東松島市	宮戸島対策本部	—	JLER
89	2011/6/15	宮城県	東松島市	スミちゃんの家	—	JLER
90	2011/6/15	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
91	2011/6/15	宮城県	気仙沼市	スマイル館	—	JLER
92	2011/6/15	宮城県	岩沼市	岩沼市災害ボランティアセンター	—	JLER

件数	日　時	支援先			間接支援依頼団体	物資提供団体
		県　名	市町村名	物資等届け先		
93	2011/6/15	宮城県	名取市	名取市災害ボランティアセンター	—	JLER
94	2011/6/15	宮城県	山元町	山元町災害ボランティアセンター	—	JLER
95	2011/6/15	岩手県	大槌町	大槌町中学校ＶＦＰ テント	—	JLER
96	2011/6/15	岩手県	山田町	山田町災害ボランティアセンター	—	JLER
97	2011/6/16	宮城県	石巻市	鮎川小学校　仮設住宅	—	JLER
98	2011/6/16	宮城県	石巻市	鮎川集会所	—	JLER
99	2011/6/16	宮城県	石巻市	蛤浜集会所	—	JLER
100	2011/6/16	宮城県	石巻市	折浜　峰耕寺	—	JLER
101	2011/6/16	宮城県	石巻市	佐藤清吾さんと地域住民	—	JLER
102	2011/6/16	宮城県	石巻市	渡波・小金浜	—	JLER
103	2011/6/16	宮城県	石巻市	鹿妻保育所	—	JLER
104	2011/6/16	宮城県	石巻市	千葉直美さん	—	JLER
105	2011/6/16	岩手県	各地	岩手県対策本部	—	JLER
106	2011/6/17	宮城県	東松島市	宮戸島対策本部	—	JLER
107	2011/6/17	宮城県	東松島市	スミちゃんの家	—	JLER
108	2011/6/17	宮城県	東松島市	小野市民センター	—	JLER
109	2011/6/17	宮城県	東松島市	浅井地区センター	—	JLER
110	2011/6/17	宮城県	東松島市	関ノ内地区センター避難所	—	JLER
111	2011/6/17	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
112	2011/6/17	宮城県	気仙沼市	清涼院避難所	—	JLER
113	2011/6/17	宮城県	気仙沼市	畠山幸治宅避難所	—	JLER
114	2011/6/17	宮城県	気仙沼市	光が丘保養園	—	JLER
115	2011/6/17	宮城県	石巻市	雄勝町　明神避難所	—	JLER
116	2011/6/17	宮城県	石巻市	グループホームひかり	—	JLER
117	2011/6/18	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
118	2011/6/19	宮城県	石巻市	雄勝町　明神避難所	—	JLER
119	2011/6/19	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
120	2011/6/20	岩手県	各地	岩手県対策本部	—	JLER
121	2011/6/21	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
122	2011/6/21	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
123	2011/6/21	宮城県	仙台市	宮城県社会福祉士会	社会福祉士会	JLER
124	2011/6/21	宮城県	石巻市	稲井地域包括支援センター	—	JLER
125	2011/6/21	宮城県	石巻市	渡波地域包括支援センター	—	JLER
126	2011/6/23	岩手県	野田村	えぼし荘避難所	—	JLER
127	2011/6/24	宮城県	南三陸町	歌津中学校避難所	—	JLER
128	2011/6/25	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
129	2011/6/25	宮城県	東松島市	浅井地区センター	—	JLER
130	2011/6/27	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
131	2011/7/1	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
132	2011/7/2	宮城県	石巻市	鮎川小学校仮設住宅	—	JLER
133	2011/7/2	宮城県	石巻市	牡鹿中学校仮設	—	JLER
134	2011/7/2	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
135	2011/7/3	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃（中原クリニック）	—	JLER
136	2011/7/3	宮城県	石巻市	スワン国際協力の会（千葉直美さん）	—	JLER
137	2011/7/4	宮城県	東松島市	小野市民センター	—	JLER
138	2011/7/7	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
139	2011/7/8	宮城県	気仙沼市	大島災害対策本部	—	JLER
140	2011/7/8	宮城県	仙台市	仙台港背後地6号公園仮設	—	JLER
141	2011/7/9	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
142	2011/7/10	宮城県	東松島市	ひびき工業団地仮設住宅	東松島市社協、 地域包括支援センター	JLER
143	2011/7/11	宮城県	東松島市	宮城県漁協宮戸西部支所	—	JLER
144	2011/7/13	宮城県	南三陸町	歌津町　千葉さん	—	
145	2011/7/14	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
146	2011/7/16	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER

件数	日　時	支援先			間接支援依頼団体	物資提供団体
		県　名	市町村名	物資等届け先		
147	2011/7/20	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃（中原クリニック）	—	JLER
148	2011/7/21	宮城県	仙台市	宮城県社会福祉士会	社会福祉士会	JLER
149	2011/7/21	宮城県	石巻市	稲井地域包括支援センター	社会福祉士会	JLER
150	2011/7/21	宮城県	石巻市	渡波地域包括支援センター	社会福祉士会	JLER
151	2011/7/21	宮城県	東松島市	小野市民センター避難所	—	JLER
152	2011/7/21	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
153	2011/7/23	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
154	2011/7/26	宮城県	気仙沼市	光ヶ丘保養園	—	JLER
155	2011/7/27	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃（中原クリニック）	—	JLER
156	2011/7/27	宮城県	気仙沼市	シャンティ事務所	シャンティ	JLER
157	2011/7/30	宮城県	登米市	NPO 法人さくらんぼクラブ	—	JLER
158	2011/7/30	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
159	2011/7/30	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
160	2011/7/30	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
161	2011/8/1	宮城県	気仙沼市	畠山幸治さん	—	JLER
162	2011/8/1	宮城県	気仙沼市	聖敬会	—	JLER
163	2011/8/1	宮城県	気仙沼市	菊池敏男さん	—	JLER
164	2011/8/4	宮城県	石巻市	斎藤みやこさん	—	JLER
165	2011/8/5	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
166	2011/8/6	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
167	2011/8/6	宮城県	石巻市	千葉直美さん	—	JLER
168	2011/8/6	宮城県	登米市	さくらんぼくらぶ	—	JLER
169	2011/8/9	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
170	2011/8/12	宮城県	登米市	どんぐりの家	—	JLER
171	2011/8/13	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
172	2011/8/18	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
173	2011/8/20	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
174	2011/8/20	宮城県	気仙沼市	気仙沼市社協本吉支所	—	JLER
175	2011/8/21	宮城県	仙台市	宮城県社会福祉士会	社会福祉士会	JLER
176	2011/8/21	宮城県	石巻市	稲井地域包括支援センター	社会福祉士会	JLER
177	2011/8/21	宮城県	石巻市	渡波地域包括支援センター	社会福祉士会	JLER
178	2011/8/25	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
179	2011/8/26	宮城県	気仙沼市	光ヶ丘保養園	—	JLER
180	2011/8/27	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
181	2011/8/30	宮城県	石巻市	三反走地区応急仮設	—	JLER
182	2011/8/31	宮城県	石巻市	追波川河川運動公園多目的広場仮設住宅	—	JLER
183	2011/9/2	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
184	2011/9/3	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
185	2011/9/3	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
186	2011/9/9	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
187	2011/9/10	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
188	2011/9/10	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
189	2011/9/14	宮城県	石巻市	相川保育所	—	JLER
190	2011/9/14	宮城県	石巻市	相川仮設住宅	—	JLER
191	2011/9/14	宮城県	石巻市	大指仮設住宅	—	JLER
192	2011/9/15	宮城県	石巻市	にっこりサンパーク仮設住宅	—	JLER
193	2011/9/17	宮城県	東松島	ひびき工業団地	—	JLER
194	2011/9/17	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
195	2011/9/17	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
196	2011/9/17	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
197	2011/9/18	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	
198	2011/9/24	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
199	2011/9/25	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
200	2011/9/28	宮城県	石巻市	橋浦保育所	—	JLER
201	2011/9/28	宮城県	石巻市	相川保育所	—	JLER

件数	日　時	支援先			間接支援依頼団体	物資提供団体
		県　名	市町村名	物資等届け先		
202	2011/9/28	宮城県	石巻市	吉浜保育所	—	JLER
203	2011/9/28	宮城県	石巻市	北上高齢者生活福祉センターはまぎく	—	JLER
204	2011/9/29	宮城県	石巻市	北上中学校	—	JLER
205	2011/9/29	宮城県	石巻市	橋浦小学校	—	JLER
206	2011/10/1	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
207	2011/10/1	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
208	2011/10/2	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
209	2011/10/5	宮城県	仙台市	仙台港後背地仮設住宅	—	JLER
210	2011/10/5	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
211	2011/10/6	宮城県	石巻市	鮎川小学校	—	JLER
212	2011/10/7	宮城県	気仙沼市	前浜地域振興会	—	JLER
213	2011/10/8	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
214	2011/10/8	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
215	2011/10/11	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
216	2011/10/13	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
217	2011/10/14	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
218	2011/10/15	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
219	2011/10/15	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
220	2011/10/15	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
221	2011/10/21	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
222	2011/10/22	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
223	2011/10/22	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
224	2011/10/22	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
225	2011/10/22	宮城県	栗原市	障碍者サポートセンターコロンブス	—	JLER
226	2011/10/25	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
227	2011/10/26	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
228	2011/10/26	宮城県	東松島市	東松島市立鳴瀬第一中学校	宮城宅老連絡会	JLER
229	2011/10/26	宮城県	東松島市	東松島市立浜市小学校	宮城宅老連絡会	JLER
230	2011/10/29	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
231	2011/10/29	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
232	2011/11/2	宮城県	石巻市	北上高齢者生活福祉センターはまぎく経由で在宅の人々へ	—	JLER
233	2011/11/3	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
234	2011/11/5	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
235	2011/11/9	宮城県	石巻市	北上地区仮設住宅３か所（約250戸）	—	JLER
236	2011/11/10	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
237	2011/11/10	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
238	2011/11/11	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
239	2011/11/12	宮城県	石巻市	北上ウィナーズ（小学生女子バスケクラブ）	—	JLER
240	2011/11/12	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
241	2011/11/12	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
242	2011/11/15	宮城県	石巻市	十三浜漁協	—	JLER
243	2011/11/16	宮城県	登米市	NPO 法人さくらんぼクラブ	—	JLER
244	2011/11/18	宮城県	気仙沼市	リバーサイド春圃	—	JLER
245	2011/11/18	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
246	2011/11/19	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
247	2011/11/19	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
248	2011/11/20	宮城県	気仙沼市	前浜地域漁業者	—	JLER
249	2011/11/26	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
250	2011/11/26	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
251	2011/11/26	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
252	2011/12/3	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
253	2011/12/3	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
254	2011/12/3	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
255	2011/12/6	福島県	南相馬市	南相馬市小池第３仮設団地	—	JLER

件数	日　時	支援先			間接支援依頼団体	物資提供団体
		県　名	市町村名	物資等届け先		
256	2011/12/10	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
257	2011/12/10	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
258	2011/12/10	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
259	2011/12/15	福島県	相馬市	相馬キリスト福音協会	—	JLER
260	2011/12/17	宮城県	石巻市	石巻サッカー協会	—	JLER
261	2011/12/17	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
262	2011/12/17	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
263	2011/12/21	宮城県	東松島市	すみちゃんの家	—	JLER
264	2011/12/24	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
265	2011/12/24	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
266	2012/1/7	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
267	2012/1/11	宮城県	気仙沼	リバーサイド春圃	—	
268	2012/1/13	宮城県	東松島市	JF みやぎ宮戸西部支所	—	
269	2012/1/14	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
270	2012/1/16	宮城県	気仙沼	NPO 法人ネットワークオレンジ	—	JLER
271	2012/1/21	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
272	2012/1/28	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
273	2012/2/1	宮城県	気仙沼市	山田大名広場仮設住宅	—	
274	2012/2/1	宮城県	気仙沼	気仙沼復興協会	—	
275	2012/2/4	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
276	2012/2/11	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
277	2012/2/18	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
278	2012/3/3	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
279	2012/3/10	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
280	2012/3/17	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
281	2012/3/24	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
282	2012/3/31	福島県	南相馬市	ホテル六角	みちのく応援隊	JLER
283	2012/5/12	宮城県	気仙沼市	ピースウィンズ経由波路上保育園	—	JLER
284	2012/5/17	宮城県	登米市	さくらんぼくらぶ	—	JLER
285	2012/5/20	宮城県	仙台市	仙台市若林区種次地区の方々、赤羽仮設の方々	—	JLER
286	2012/6/4	宮城県	石巻市	石巻市介護施設　GHひかり	—	JLER
287	2012/6/6	宮城県	石巻市	にっこりホタル会（今野あきひこ氏）	—	JLER
288	2012/6/7	宮城県	東松島市	すみちゃんの家	—	JLER
289	2012/6/11	宮城県	東松島市	すみちゃんの家	—	JLER
290	2012/6/20	宮城県	石巻市	石巻スポーツ振興サポートセンター	—	JLER
291	2012/6/23	宮城県	石巻市	スワン国際協力の会	—	JLER
292	2012/6/26	宮城県	石巻市	フェアトレード東北	—	JLER
293	2012/6/27	宮城県	石巻市	大森第三仮設ぶんのみ（210戸）	—	JLER
294	2012/6/27	福島県	新地町ほか	新地町の仮設住宅入居者	聖公会	JLER
295	2012/6/27	宮城県	仙台市	仙台メール	—	JLER
296	2012/7/13	宮城県	登米市	手のひらに太陽の家	—	JLER
297	2012/7/13	宮城県	登米市	さくらんぼくらぶ	—	女性会
298	2012/7/26	宮城県	石巻市	石巻スポーツ振興サポートセンター	—	JLER
299	2012/8/11	宮城県	登米市	さくらんぼくらぶ	—	JLER
300	2012/8/21	宮城県	東松島市	すみちゃんの家	—	JLER
301	2012/10/27	宮城県	石巻市	サーティママ	—	JLER
302	2012/12/18	宮城県	仙台市	ロージーベル	—	JLER
303	2012/12/20	宮城県	石巻市	木村の家	—	JLER
304	2013/3/7	宮城県	石巻市	木村の家	—	JLER
305	2013/4/9	宮城県	登米市	手のひらに太陽の家	—	JLER
306	2013/4/27	宮城県	気仙沼市	前浜地域振興会	—	JLER
307	2013/8/24	宮城県	石巻市	大森仮設	—	JLER

河北支所

ともに一歩のあゆみを
～つるし飾りでひろがる輪～

河北ボランティア友の会では、昨年の８月からルーテル教会救援対策本部の皆様と、河北地区の仮設団地集会所３ヶ所でつるし飾りづくりを始めました。

地域の方なども参加し、会場はどこも和気あいあいと楽しい雰囲気で行われています。「針仕事は久しぶりでなかなか上手くできなくてね」、「ついつい夢中になってしまうね」と、思い思いに扇、柿、茄子、ほおずき、手まりなどを作りあげていました。



みんなで作ったつるし飾りが吊される日がとても楽しみですね。

※本年度の厚生労働大臣表彰の伝達式が11月９日（金）宮城県庁であり、岡部敦宮城県保健福祉部長より功績をたたえ表彰状が手渡されました。

石巻社協だより2013年１月16日

2013.3.5

つるしびなで絆深める

河北三反走団地集会所 お茶っこ飲みで交流

桃の節句に合わせ石巻市の河北ボランティア友の会（千葉ふく子会長）は１日、仮設住宅河北三反走団地の集会所でつるしびな会を開いた。作製に携わった地域住民やサポートしてきた東日本大震災ルーテル教会救援対策本部（青田勇本部長）のメンバーら約50人が集まり、楽しいひと時を過ごした。

つるしびな作りは、仮設住宅で生活している住民らに手作業を通して交流を深めてもらおうと昨年８月から実施。友の会にルーテル教会が協力する形で、同地区の仮設団地集会所などで行ってきた。

千葉会長は「住民の皆さんと教会の皆さんの力で、こんなに素晴らしいつるしびなができた。今日はゆっくりお茶っこ飲みをして、喜びを分かち合いましょう」とあいさつ。茶や菓子などをつまみながら、これまでの活動や思い出話に花を咲かせていた。

仮設飯野川校団地から訪れた小野寺州子さん（70）は「つるしびなの作りは、多くの人との出会いがあり心から安らげる時間だった。今日もとても楽しい」と笑顔で話していた。



つるしびなに囲まれながら、歓談する住民たち

石巻日日新聞2013年３月５日

三陸新報
2012年(平成24年)3月10日　土曜日

マリンセンター再建を

前浜振興会 市に支援、協力要望

気仙沼市前浜地域振興会（菊地敏男会長）は8日、市に対して東日本大震災による津波で被災した「本吉前浜マリンセンター」再建への支援、協力を要望した。

長年にわたり、地域コミュニティーの拠点として役割を果たしてきた同センターだが、津波で流出した。同振興会では、核となる施設を再建するため、建設委員会（畠山幸治委員長）を設置し、準備を進めている。

特に、震災以降、地域で支援活動を展開しているルーテル教会救援、シャンティ国際ボランティア会の両団体が資金面を含めた支援をすることにしており、施設の青写真も出来上がっている。

この日は、菊地会長はじめ、同振興会や両団体関係者が出席。菊地会長が「地域協働や復興シンボルとなる施設であり、地域住民の悲願。地域防災拠点機能を持った新センター建設への協力をお願いしたい」とする要望書を菅原茂市長に手渡した。

菅原市長は「高台で安全性も確保されている。両団体のご支援に感謝するとともに、市としてもコミュニティーセンターのモデルになるよう進めていきたい」と答えた。

同振興会の再建プロジェクトによると、地元産の木材を使用。7月中に着工し、12月の竣工を目指す考え。



菅原市長に要望書を手渡す菊地会長

三陸新報2012年 3 月10日

三陸新報
2012年(平成24年)5月3日　木曜日　(4)

民間交流のシンボルに

本吉前浜 最上町から集会所大黒柱

自分たちの手でコミュニティーセンターの再建を目指している気仙沼市本吉町前浜地区に、山形県最上町から杉の大黒柱が贈られることになり、このほど現地で切り出しが行われた。

震災の支援を通じ、両地区の交流が盛んになっているのがきっかけ。前浜地区では津波で集会所「前浜マリンセンター」を流失し、ボランティア団体の支援や、自分たちの手で材料調達を行うなど、センターの再建を進めている。

今回、最上町から支援、交流があったことを後世に残す手段の一つとして、センターの大黒柱の提供を前浜地区から申し出た。それに最上町側が快諾した。

最上町内の山林から樹齢100年以上、直径約90㌢の杉を探し、このほど町民の手で切り出された。伐採費用、搬送費用は町民から寄せられた支援金が充てられるなど、最上町挙げての支援となっている。

杉は一度、登米市津山町の製材所に搬送され、皮をはいだままの丸太で使用する予定。建設に協力した人たちの名前を刻む計画もある。

建設委員長の畠山幸治さんは「震災以来、支援をいただいている最上町の人たちの心意気は熱く、支えられている。今後も交流を続けていきたい」、最上町の石山登さんは「木を交流の象徴として、末永く付き合わせていただきたい」と話していた。

13日には最上町でのイベントに大谷大漁唄い込みのメンバーが参加し、歌を披露することにしている。

センターは年内の完成を目指し、準備が進められている。



最上町の山林から切り出された杉

三陸新報2012年 5 月 3 日

センター建設視察

本吉前浜　支援のボランティア団体

住民主導でコミュニティセンターの建設を進めている気仙沼市本吉町前浜地区に8日、支援を申し出ているボランティア団体ルーテル教会の幹部が視察に訪れ、建設委員会（畠山幸治委員長）と懇談した。

訪れたのは、同教会世界連盟でセンター建設の支援を担当しているローランド・シュロットさん。畠山委員長から建設計画の主旨や進ちょく状況などを確認した。

畠山建設委員長らは、住民主導で建設する意義を「地域コミュニティーの存続」や「震災を後世に伝えるため」などと説明。行政、支援団体、民間で協力し合って避難所機能をもった建物にすることを報告した。

シュロットさんは、「センター建設は地域ネットワークの素晴らしさを表している。今後も専門家の派遣など、できる限りの支援を行い、支援金の中心となっているドイツと日本の緊密な友好関係が図られれば」と話していた。

畠山委員長は「わざわざ海外から足を運んでもらい、建設に理解を深めてもらった。より良いものを作り上げ、地域住民に積極的に活用してもらえるよう、頑張っていきたい」と話していた。

コミュニティーセンター建設は、今後住民参加型のワークショップを行いながら、7月に造成を行い、来年4月の完成を見込んでいる。



集会所建設に意見を交わすシュロットさん㊥

三陸新報2012年 6 月10日

支援受け地域拠点

全壊集会施設初の復旧

本吉前浜

東日本大震災で全壊した気仙沼市本吉町前浜マリンセンターの上棟式が3日、現地で行われ、地域コミュニティーの拠点施設の一日も早い完成を祈った。全壊施設が復旧するのは初めて。

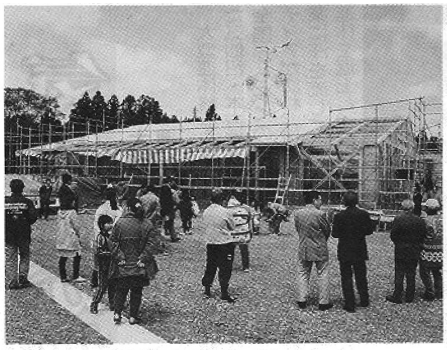
旧センターは海の近くにあったが、津波で流失。「これからの地域のためには集会所がほしい」という住民の願いに、JLERルーテル教会救援、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会が計8千万円を財政支援。前浜地区の復興に携わっている団体などから物的支援が加わった。

敷地面積は約2600平方㍍、建物は木造平屋建て約250平方㍍で、旧センター北西の高台に建設。用地は地元の地権者が協力し、木材は地元の12人が提供した杉を活用。柱には山形県最上町「震災復興に協力する町民の会」から贈られた樹齢100年のコブシ、杉の丸太が使われている。

上棟式では、前浜地域振興会の三浦昭市郎会長が「多くの方々からの温かい支援によって、新しい集会所が建設されることになり、とても感激している」とあいさつ。

菅原茂市長は「一致団結して復興に向かう前浜の姿が多くの支援を呼び込んだ。これからいろんな施設が建設されるが、この取り組みはモデルになる」と話した。

この後、最上町黒沢餅搗き保存会がもちつきを披露。大谷大漁唄い込みが祝いの演技を披露した。



上棟式を迎えた前浜マリンセンター

三陸新報2013年 5 月 5 日

「集会所 交流の核に」

気仙沼・前浜 住民主導で再建



住民主導で再建された「前浜マリンセンター」

東日本大震災で集会施設を失った気仙沼市本吉町の前浜地区で15日、住民主導で再建された「前浜マリンセンター」の落成式があった。

住民ら約100人が参加し、テープカットなどで完成を祝った。建設委員長の畠山幸治さん(67)は「地域の交流活動の核として活用していきたい」と話した。

センターは木造平屋、床面積約250平方㍍で、二つの会議室と調理室、浴室などを備える。停電時も使える木質ペレットのストーブがあり、災害時は避難所になる。

2本の大黒柱には、山形県最上町の住民らから寄贈を受けた、ともに樹齢約100年のコブシと杉を使った。

海岸近くにあった同名の集会施設は高さ10㍍を超す津波で全壊した。住民は半年後、建設委員会をつくり、再建に向けた活動を開始。事業費の7900万円は支援団体からの寄付で工面し、材料の木材は自ら伐採した。

落成式には最上町の関係者らも出席。高橋重美町長は「気仙沼と縁ができた。これからも復興に向けて交流を深めたい」と語った。支援者への感謝状贈呈も行われた。

河北新報2013年 9 月16日

地域復興の拠点完成

本吉 前浜 住民主導で集会施設復旧



関係者が記念撮影で完成を祝った

住民主導で建設を進めてきた気仙沼市本吉町前浜地区の集会施設「東日本大震災復興記念前浜マリンセンター」の落成式が15日、行われた。地域住民や山形県最上町の関係者など約100人がテープカットや感謝状の贈呈などで、地域間交流や復興の核となる拠点施設の完成を祝った。

式典では、前浜地域振興会の三浦昭市郎会長が「建設委員会やワークショップを幾度も重ね、多くの支援のもとで、完成したことを喜びたい。地域だけでなく、市内全体に笑顔が戻るようこれからも力を注いでいく」とあいさつした。

資金面で手を差し伸べたルーテル教会救援やジャパンプラットフォーム、シャンティ国際ボランティア会など、建設に携わった55の団体や個人に感謝状を贈呈した後、ルーテル教会救援の青田勇本部長は「地域の夢を語れる希望の家となることを祈る」と祝辞を述べた。

センター完成の記念碑もお披露目された。集会所では早速、祝宴が開かれ、地域住民のにぎやかな声が響き渡った。

津波で流失したセンターの代わりとなる新生マリンセンターは、床面積251平方㍍の木造平屋建て。バリアフリー構造で、地域の催しに活用できるようステージを設けた。市に寄贈されることになっており、災害時には避難所になり、停電時でも使える木質ペレットのストーブも備え付けられている。

柱には、山形県最上町から提供された樹齢100年以上の杉、コブシが使われ、高橋重美最上町長は「100歳の〝嫁〟を嫁がせたことでできた縁を大切にしたい」と語った。

三陸新報2013年 9 月17日

前浜の集会施設再建

気仙沼 関係者ら参加、落成式

東日本大震災の津波で流失した気仙沼市本吉町前浜地域の住民集会施設「前浜マリンセンター」が地区の高台に再建され15日、関係者約150人が参加して落成式を行った。

同地域120世帯の多くが津波で自宅を失い、10人以上が犠牲となった。住民交流の場だった以前のセンターもなくなった。仮設住宅暮らしとなり「みんなが顔を合わせる集会所がほしい」と再建意欲を強める住民に、全国から支援が集まった。

「東日本大震災ルーテル協会救援」「シャンティ国際ボランティア会」などから再建費支援の申し出があり、住民らは11年10月、第1回センター建設委員会を開き、昨年12月には用地を確保して着工にこぎつけた。新センターは地元の杉材をふんだんに使い、会議室を中心とした吹き抜け式の木造平屋建て25$1$平方㍍。総工費は7900万円。

再建中にも新たな支援が寄せられた。愛知県豊橋市立大崎小学校は昨年11月、児童らが栽培したもち米90㌔をプレゼント。今年11月にも贈られるという。山形県最上町の町民会などは大黒柱を寄贈。佐賀県有田町などからは有田焼陶板をはめ込んだセンター復興記念碑の製作支援があった。

建設委員の一人、畠山友美子さん(27)は「支援したかいがあったと言われるよう、きずなを育みたい」と話した。【小原博人】



再建された「前浜マリンセンター」＝気仙沼市本吉町で

毎日新聞2013年 9 月18日

3・11後 を生きる

住民集う場「手作り」再建

設計から全工程参加



用材にするため山の木を切り出す住民＝6月30日、宮城県気仙沼市で

「コミセン（コミュニティーセンター）がほしいね」。東日本大震災から三カ月後の二〇一一年六月、宮城県気仙沼市本吉町の前浜地域で住民から声が上がった。津波で九人が亡くなり、元のコミセンも流された。地域で集う場所はみんなでつくろう。住民が設計から作業まで建設の全工程にかかわって完成した建物は先月、市に寄贈された。（鈴木久美子）

前浜漁港を望む高台にある「前浜マリンセンター」。十二月初旬の日曜朝、自動車で女性らが集まってきた。

「これから婦人部の豆腐づくりの講習会。生きた活用をせねばね」とエプロン姿の女性(六〇)は笑った。

コミセンは、いわゆる公民館。周辺の百十五世帯が利用する。リアス式海岸の浜ごとに文化が異なるという気仙沼で、前浜地域は震災前からコミセンの利用頻度が市内でも高かった。住民が自慢の一品を紹介する祭り「おらほのとっておき」や、大漁を願う歌や踊りを披露する場にもなってきた。

「コミュニティーが強くて、楽しい大人がたくさんいる」と、住民によるコミセン建設委員会の広報担当畠山友美子さん(三七)は言う。

震災直後、市にすぐコミセンを再建する余裕はなかった。「指をくわえて待ってられない。住民参加でやろうと話し合った」と、建設委員長の畠山幸治さん(六七)は振り返る。住民にアンケートで意向を尋ね、一回目でほぼ全員が賛成した。建設委を二十～七十代の十九人でつくり、十月には仮設住宅にできた集会所などで話し合いを始めた。

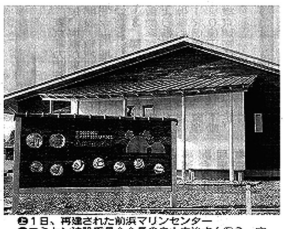
ルーテル教会など五十五組から支援がありお金は集まった。市も法的な手続きで協力してくれる。「住民は汗を流すしかない。そうでなければ、ただの建物になってしまう」（畠山委員長）

塩害に遭ったスギを伐採して運び出し、作業用の小屋も組み上げた。台所の設計に女性たちが知恵を出し、子どもたちも色塗りを手伝った。

山形県最上町からは大黒柱のコブシの大木を贈られ、愛知県豊橋市の小学校から贈られたもち米で、上棟式のふるまいもちをこしらえた。「住民が率先し、支援者や行政と協働した。新しい公共の形がある」と千葉一東北学院大学非常勤講師(六三)は話す。

コミセンが稼働を始めたこの秋、新たな課題が降りかかっている。国や県が計画する、高さ九・八㍍のコンクリート防潮堤建設だ。

「（造る）と）海がためになる」と反対の住民もいれば、賛成や計画をよく知らない人もいるという。前浜天ケ沢地区振興会長の菊地敏男さん(六六)は「住民が割れることだけはないようにしなくては」。コミセン再建で新たにした地域力。菊地さんらは地域の防災・減災の全体像をみんなで考え提案しようと、「どんな意見でも書いて」と用紙を全戸に配布することから始めた。





❷1日、再建された前浜マリンセンター
❸コミセン建設委員会会長の畠山幸治さん(右)ら。室内は木を使い手刻みや木栓など職人の手仕事が生かされた＝11月30日、いずれも宮城県気仙沼市で



東京新聞2013年12月20日